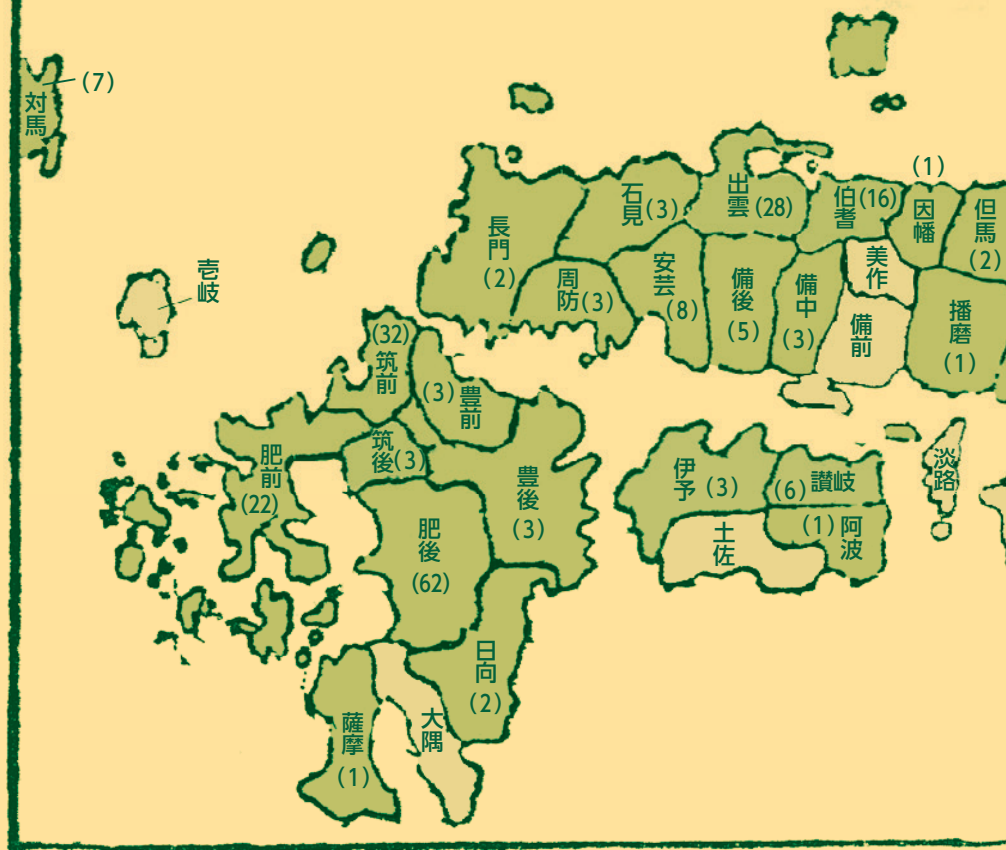


蒼虬成田翁肖像

蒼虬寫真



『花供養』
翻刻集成Ⅱ

— 蒼虬の時代(1) 寛政十一年—文化十三年 —

竹内千代子 編・著

『花供養』翻刻集成Ⅱ

——蒼虬の時代(1) 寛政十一年～文化十三年——

目次

凡例

翻刻本文

13	寛政十一年	蒼虬主催	『花供養』	1
14	享和元年	蒼虬主催	『花供養』	8
15	享和二年	蒼虬主催	『花供養』	14
16	享和三年	蒼虬主催	『花供養』	20
17	文化元年	蒼虬主催	『花供養』	25
18	文化二年	蒼虬主催	『花供養』	30
19	文化三年	蒼虬主催	『花供養』	38
20	文化四年	蒼虬主催	『花供養』	48
21	文化六年	蒼虬主催	『花供養』	58
22	文化九年	蒼虬主催	『花供養』	66
23	文化十三年	蒼虬主催	『花供養』	76
番号索引				86

付表一 各年本の編成

付表二 各年別・国別入集者数

改訂『花供養』所蔵翻刻一覧

付記

凡例

一、本翻刻集成は、京都東山芭蕉堂主催の『花供養』を収録したものである。天明六年の初刊から明治三年までの現存する総てを、四期に亘って翻刻する計画である。翻刻集成Ⅰは、天明六年(1)から寛政十年(12)、蘭更主催の十冊を翻刻している。本冊のⅡは、寛政十一年(13)から文化十三年(23)、蒼虬主催の十一冊を翻刻する。

二、各巻の翻刻に用いた底本・校異本の略称は次のとおりである。

○略称一覧(敬称略)

- (1) 白鹿 兵庫県西宮市笹部桜コレクション
——白鹿記念酒造博物館寄託——
- (2) 竹冷 東京大学附属図書館竹冷文庫
- (3) 櫻井 立命館大学アート・リサーチセンター櫻井文庫
- (4) 岩見 弘前市立弘前図書館岩見文庫
- (5) 小林 小林孔
- (6) 山崎 大阪府立大学学術情報センター山崎文庫
- (7) 綿屋 天理大学付属天理図書館綿屋文庫
- (8) 高井 高井悠子
- (9) 月明 石川県立図書館月明文庫
- (10) 糸井 京都府舞鶴市郷土資料館糸井文庫
- (11) 高岡 高岡市立高岡図書館
- (12) 石川歴博 石川県立歴史博物館大鋸コレクション
- (13) 武蔵 武蔵野大学図書館旧前田利治蔵
- (14) 竹内 竹内千代子

三、翻刻にあたっては、次の方針に従った。

- ① 丁移りは、丁の最後に、柱刻によって漢数字で示し、丁の表は「オ」裏は「ウ」で略記する。柱刻が無い時は、「見返し」「序」「跋」などと適宜補う。
- また、算用数字による丁数は、柱刻によらない通し番号である。柱刻と甚だずれる場合は、適宜下段に併記したことがある。
- ② 本文の改行は概ね原文のとおりとする。
- ③ 連句における短句は、一字下げとする。

④ 漢字の字体は、概ね常用漢字体に統一する。ただし、俳号、左のものは当時の習慣を尊重して、概ね原文の表記に従う。

左のものは原文の表記に従う。

選・撰 野・埜 村・邨 船・舟 袋・偕 縁・椽
掘・堀 食・喰 県・縣 淵・洿 鼓・皷 皐・皋

また、特に左の異体字は常用漢字体に統一する。

帀↓虎 𪛗↓婦 𦉳↓網 𠂔↓侯 艸↓中↓草

なお、左のものは概ね校訂する。

朝良↓朝顔 貌↓顔 𠂔↓鴈 𠂔↓摩・磨 𠂔↓殼 太良↓太郎
袷↓衿 挑灯↓提灯 蔭↓陰 坐↓座 暮↓暮る 盞↓盃

⑤ 濁点・半濁点は私に付し、原文にあるものは「(濁ママ)」などとする。なお、濁音が繰り返されない場合の踊り字は、左のように統一する。

親こ、ろ↓親ご、ろ

⑥ 原本にあるルビはそのまま記し、私にルビは振らない。

⑦ 踊り字については、原文の表記に従い、次のように統一する。

漢字一字(一音)

々

ひらがな一字・同濁点

ゝ・ゞ

カタカナ一字・同濁点

ゝ・ゞ

二音以上の繰り返し・同濁点

く・ぐ

⑧ 音訓記号は原文の表記に従う。

⑨ 底本の虫損などによる判読不能箇所については他本で校合するが、それが可能な場合は、□で示す。

⑩ 校異等の注記は、【注】で記し本文に該当箇所がある時は傍線を付す。

13 寛政十一年『花供養』

底本 白鹿本
校異 竹冷本
翻刻 福井県古俳書大観 七

花供養

(原題箋・表紙)
(表紙見返し)

序

みやこ東山のふもと、双林の
蘭若のあたりにとし久しき
花ありて、其にほひは大やしまの
くぬちことく行わたりつゝ、みち

奥のさとの名におもひしのぶ人、
しらぬ火のつくし方に心をつく
せるともがら、いとさはになん
ありける。ひと、せ此樹かれ

うせむとせしを、ねもごろに其
孫樹を養ひたて、再びかく
はしき色香をにほはせ、なほ

盛りの年の長からん事をねぎて
泰山府君の法を修せるは、
今の蒼虬うしにぞあなる

寛政未の春

瑞馬(花押)

守る甲斐は此あけぼの、山桜

手桶にすめる春雨の水

黄鳥の土もの籠を鳴越へて

(序ウ)

蒼虬
鹿古
亭

早苗のたけに里の静かさ
ほそく月さしかゝる膳の上
膝かきあはす秋のかたびら

白露の置あまりたる長堤
木を伐音のひゞく山端

あけくれを鳩に慰む椽の先
思ひがけなきけふの初雪
年を寄る布留の社の札配り

落せし銭の見ゆる流れ井
役しまふ駕をもて来る宿はづれ
引むすびたる帯の俤

夏草の穂にあらはるゝ恋をして
むかひ近ひの月ぞ涼しき
あら家に百万遍を申なり

かるき咳気のはやる衣更着
木の下や花をかざしの旅簞笥
あげる雲雀や小塩大原

朝心そよ／＼風の吹わたり
肩にかけたる山伏の珠数
杜若つゝじも残る庭のうち

二代の貧にひな作りゐる
後づれは茶を汲ほどに物馴て
夜番を逗る雨の降出し

秋の来て胡弓に習ふ小唱ぶし
上の鯖江の鯛もやむ
一とせの葎をむしる塚の月

飯焚ほどは松かさである
引汐になれば鳥のさはぐ也
どんみりしたる空に貝ふく

右一順

斗九賀

乙道

後楽

在貫

月峰

駟丹

芹水

五芳

杜隣

双南

春也

其白

羅城

百池

芦涯

葛年

其成

都雀

黒樹

南榮

如風

馬印

鬼荆

古光

破巾

斗雪

木貞

掉雪

執筆

(二オ)

(二ウ)

(二オ)

一重づ、桜咲けりひがし山 越後新潟 喜年

暮てや、鳥啼花の山家哉 越後目来田 里竹

梟の里へわたれる花の宵、梶屋敷 若水

曲江や風のよどみの花筏、左林

花の野や駒喰乱すわらつむり、佳青

花の雨薬より晴て日の匂ひ、与竹

ちる花や蛙の上る橋の杭、路釜

花の香を惜むか山の薄曇、古風

さゞれ江や花の香ひの横たはる、指翠

鳥さしの二重になるや花の下、厄万

猛かな獣は住ず花の山、萩里

古稀の春をむかへて、荒井 如蘭

越し方は忘れがちなり花の春、高田 几丈

寝るほどを寝て桜咲鞍馬哉、幾丁

曇るやと分別のつく花の暮、紫石

花曇人待寺の茶の匂ひ、芋園

花になき花にかくるゝ夕雀、巴丈

古川や花に心の置所、如竹

さくらかな花に明るき松の中、左琴

花に寝て風情を尽す嵐哉、

(三ウ)

越後にて

あら海や花の匂ひのおし渡る 車大

浪の朝日に乙鳥の飛 几丈

春惜としの、扉をさし捨て、

よき人来よと笛しらべけり 大

みおさめの月はしばらく雲の有、

猪とる穴に女郎花ちる 丈

箸鷹のみよりに寒き秋の声 大

煙草のみになりし空腹 丈

(四オ)

とき掛る紋りに窓の横明り

大

蚊屋釣草の雨はてしなき

丈

恨いふ首田栞辺の物狂ひ

丈

住吉丸に末しらぬ恋

丈

盃に蜘蛛はひ寄て驚かす

大

萩をうしろにさやかなる月

丈

稲守が地蔵和讃の灰なり

大

七尾の鯖も秋のにぎはひ

丈

水そ、ぐ枝松寒き手行灯

、

時計のさざみ音の冴つ、

大

(四ウ)

夜の花灯の消るほど散にけり 信州善光寺

柳莊

手の届く花と成けりゆふ桜

、

うつすりと花煙たつさくら哉

、

とまらぬものと成けり夕ざくら、

如風

桜戸や地虫の穴もあいてある

、

殿守のいとまや花の散あした、塩名田

、

花に風人の寢覚を風の吹

、今岡

腰かけや詠さくらに余念なき、七十八歳

、

身にしめる春をも知りぬ朝桜

、片倉

かならずは月の高根に風起る

、

鳥たつや餌さしの笠も花の雪

、三明

花の陰よし簾さへ物床し

、上諏訪

咲みちて散を詠や山ざくら

、林村

花盛松のあらしも静なり

、柳

山ざとや数の子いはふさくら狩

、林

うか／＼と請合にけり花の留守

、武州青梅

山鳥のほろゝもつらし散さくら

、小ミノ庵

宵闇もなくて桜にまた一里

、雪才

雪川

、

(五ウ)

心ぐるし心おかしや花雲

、熊谷 月樵

神がきにて

、江戸 紗言

尋常の枝も手折な花盛

、江戶 紗言

いにしへは今よさくらの散る寒み

、午心

日ざかりや雲なき空に桜散る

、上州宮崎 朔宇

ちる花に日朧の山となりけり

、相生 百川

世の慾を桜に捨る此日かな

、大原 白斗

あけぼのや硯にうける花の露

、麴舟

へつらはぬ花はことしも咲にけり

、楚室

花守の酒ぐせもなき男かな

、一鬼

似合しや花に煮染のつく／＼し

、青浦

炭竈の崩れしま、や散桜

、吾妻横尾 杜谷

皇の名に呼れたるさくら哉

、榮暉

何はなくとも花さく山の小家哉

、下毛板木 灯居

山陰や酒尽て散るゆふ桜

、桃葉

花の旅風いとはぬ身でもなし

、尺樹

明日はちる花見て過ぬ夕山路

、下総 月船

夕ざくら家ある人はとく戻る

、行脚 一茶

動くほど外山のさくら咲にけり

、甲州浅原 真洞

中／＼に常の夜はなし花盛

、雄生

えらぶなら春は桜にかざるべし

、古市場 美敬

是をかうといふ処なし山桜

、落合 倭士

をろ／＼と桜動て見せにけり

、物成

草の葉に置ても見たし散桜

、宮沢 委曲

押なべて山路は花の月夜哉

、加賀美 月舎

山ざとはさくらに隈もなかりけり

、戸田 普昌

暮たれば又月夜にて散桜

、雲水 嵐外

遅ざくら是にも月のか、りけり

、藤田 漢甫

(七オ)

散からに眼のはなされぬ桜哉

、蟹守

里はなれ住かひのある桜かな

、鏡平

ありたけを身に引受し桜哉

、可都里

我袖に月かげすへるさくらかな

、加賀 十廿

夜はまだ寒き庭の踏草

、挙遠

曳鴨の近き入江を啼出て

、李下

市のやすみに風の淋しき

、几丈

家具櫃のひくき屏風に隠れ兼

、槐路

相役に逢ぬ日もなかりけり

、一抄

朝雨に寺中の蓮を見て通る

、十枝

桃湯の匂ひかたびらにつく

、子仙

水萱にしばらく国の思れて

、凸山

むかしめきたる神主の太刀

、桃花

敷台を草履はかせる鳥の糞

、犁松

関の書ものわたす手燭火

、北台

秋の風雲の底なる月を見て

、樗陰

岸のひたひに咲く女郎花

、魯童

捨ぬ気のつたなかりける古団扇

、觜晋

上なき君をうつす傀儡

、素友

東南の花の遅速を告る時

、蘭吹

今年もさかむ庵の鶯

、執筆

けふの日もまた遠山のさくら哉

、加賀 其如

かくまでも花散中の藁家哉

、対山

朝ざくら木陰の外とを水消ぬ

、圭山

雲水やわきて桜の九重なる

、楚嶠

松が枝のめにたつ夜の桜かな

、似咲

鴛鴦の花につれなき羽ぶり哉

、文溪

(八ウ)

(七ウ)

(八オ)

たそがる、桜の色をさらし鮒

加賀 樗陰

柳静まる岡の小流

桃化

(九オ)

鶯の友うぐひすに啼かちて

北台

机はなれの肘を煩らふ

陰

怠りを心にしりし月の雲

化

くちの古窟に秋の水草

台

大かたはことしの酒のうす濁り

陰

手枕など、詠みてむつまし

化

京に入る宵の月代剃合て

台

はれすまししたる峰の松風

陰

(九ウ)

初ざくら歳ぐぬれて咲にけり

加賀 北台

物いはぬ人もありけり花の山

桃化

さくらちる里は萩結ふ住居哉

蘭史

磯山や鶴のふみ行朝ざくら

勉文

山寺の春こそかはれ初ざくら

十廿

花にのみ暮行里の無田地哉

北雁

汐風の雫夜を持さくら哉

加賀高松 来止

やり水に夜は残りけり家桜

、 自明

(一〇オ)

華名たつ網代庇の住家哉

、 女 野柳

八重ざくら舞楽の揃ふ朝付日

、 豕白

いくたびか花に恥かし老の杖

、 壺石

祇園あたりの花に酔て帰りしも十五年

風さわぐとよめり桜の動ぬ日

、 御風

遠ざけて見る我宿の桜かな

、 三京

かざ、ばや夕日もやどる花の袖

、 女 芝艶

三日月や留守の庵の花盛

、 牧之

種まきし畑まであらず花見哉

、 舍雄

切竹やうへに隣の花ざかり

、 邪丸

(一〇ウ)

日を遂て見ばや尾上の犬桜
物うりを背戸よりよばる桜哉、 ト雅
、 文行

花のなき山より明て花曇

、 三峰

残る日の桜ひとしき庵かな

、 古角

浪の音聞静めけり花の奥

、 錦子

花に我心とゝかで散る桜

、 蒼玉

夕風や誰も見あげて峰の花

、 女 玉枝

散り仕舞花に夕日の小雨哉

、 五卿

有明や月も其ま、花曇

、 鳳五

物による心の中の桜哉

、 白狐

弁当もそこ／＼にして花見哉

、 可常

(二オ)

青雲の朝定めけり遅桜

加賀暮柳舎 車大

鄙人の袖口厚し花曇

、 雄雌

初花や空にすみきる人の塵

、 眠和

花にさす日に衣干麓哉

、 可立

折を得て茶に見る垣の初桜

、 菓遊

(二ウ)

初花や薄縁もたぬ茶やも有

、 周馬

けだかさにはみても見る花の雲

、 女 歌の井

暮か、る山路や花に水の音

、 夢庵

山陰やをなじ桜に鳥の声

、 聖松

水汲の路や鳥啼谷ざくら

、 蘭吹

鳥の声桜に人のなき日哉

、 兎三

立退て見ればみるほど桜哉

、 素后

花くれて聞もの多し机

、 髯青

咲か、るしものと花や人の声

、 松斗

神垣に一だん高き桜哉

、 子仙

人さらに花まつ心安からず

、 素友

有明のさくらを人も覗きけり

、 槐庵 李下

(二二オ)

い勢人や待尽したる夜の花
賑はしく矢田野の桜咲にけり越中高丘 壺仙
、 全

朝夕の花にうつろふ扉かな

、 楚江

都辺や花によしある家作り

、 魚津 太翼

東雲や帆姿つゞく島の花

、 魯山

花盛地盛かたまる作り道

、 東阜

うつり気は花にありけり人心

、 芳菓

人顔のみへて有明ざくら哉

、 文景

花の山いざよひの際もなかりけり、

、 周台

追分や桜のもとのおこし米

、 富山 錐一

酒の酔さめて見直す桜哉

、 霞立

朝の月夜桜がもとの桔槔

、 子丑

桜狩火縄をふつて戻けり

、 都史

朧夜をにほひ桜のまこと哉

、 巨泉

酒つけて足もむ花の木陰哉

、 玉賈

雲一重帯て桜の匂ひ哉

、 呂十

薄暮や花の乱れの人通り

、 花菜

何となく世にある身哉花に鳥

、 呉山

花さくや其日帰りの預け鐘

能登川尻 遅逸

初花や越路を伝ふ朝煙

、 宇出津 一夫

花の中置忘れけり杖と笠

、 八湖

花守のひとり延すや顔の皺

、 柏茂

花の日の暮て静けし水車

、 あふち

風止で山に人あり花曇

、 百凡

葉摘川かけて葛城花桜

、 黄馬

夕ざくら海なき国をかぞへけり

、 竹姿

里ざくら葉がちに成て咲にけり

、 碩茂

桜さくや能登の島山雲晴る、

、 武部 五雲

狩杖も切かねて居る花盛

、 千瓜

(二三ウ)

(二三オ)

天の戸や嵐に鳥の花の波

、黒鳥 玻井

関の戸に笠とる朝の桜哉

、嵐枝

(一四オ)

明がたや桜へわたる川鳥

、ソラ 岸芷

山川や花にしがらむ一しきり、ノトベ 麦杜

片里や花に暮たる古社

、クロシマ 加由

家を出て花より外に家もなし

、破巾

初はなや心かよはす江の向ひ、田鶴浜 李溪

静さにたえて誠を散花か

南越ツルガ 扈言

雲鳥や花のむかふの人の声

丸丘 飛声

朝水を汲む芹の谷川

甫立

(一四ウ)

壺詰の去年の梅干封切て

振々

ふるき障泥の反かへりけり

路江

たち待や月の峰越す諏訪峠

里晴

薦のまとへる椎のころび木

龍玉

百姓の家にむかしの桜哉

、丸丘 晨風

植かへて見直す花に人老ぬ

、振々

人心花にふもとの家うつり

、飛声

夕栄の桜にもどる女かな

、松茂

(一五オ)

曇る日は猶奥深し花の山

、洞々

花に寝る鳥の白さや月の庭

、里晴

よき雲の涛たちにけり花雪吹

、渡柳

暁を誰か見付たり花の里

、龍至

山ざくら人折くゝにふるめかし

、古蓼

散花に祢宜が烏帽子の傾けり

、路江

雨の日のひぐらし人や遅ざくら

、有龍

昼ごとのほこりに月の桜哉

、友甫

けふもまた山に人あり遅桜

、虎洞

(一五ウ)

狩くれて花の岩間の宿からん

、酣子

里人や昼のさくらの日陰もる

、甫立

ねぢぼしの大根も花のひとつ也

、僧 沢雲

月薄く花の麓の夕煙

江州石部 良交

山かけや花照返す朝月夜

、寛子

咲花に浅井の水のうるみけり

、蚌玉

朝の花親殿馬に召れたり

、龜淵

我恋はゆふべの花の散中ぞ

西湖太田 二鶴

花の山ひき馬眠る麓かな

、知石

着のまに寝てしまひけり花戻

義仲寺 祐昌

死ねくとうしろに花の夕かな

、重厚

草庵に仮寝して花の散を見て

、琴桃

味噌のさい他力念仏桜かな

江州海津 琴桃

大切な花より風は起りけり

、万木 南嶺

見巡るや花に筵の敷所

、途中 一溪

花に塵子持鴉の啞けり

、旭里 松羅

行くゝて古郷床し山ざくら

、大津 又呼

花の雲月は河原の左大臣

、草津 四老

こぞりては踊る小里よ遅桜

、ハマン 芳志

仁和寺はいとゞやさしき桜哉

、佐川 末子

垣ほねに賤が植たる桜かな

勢州津 蝨山

蝶吹ほどにゆふ暮の風

、子良

狭衣を春のうしほの露にして

、鳥翠

心ばかりの柴の折箸

、山

月影のや、傾くと申けり

、良

駒曳との、もどらる、比

、翠

冷くゝと軒の雫に米を搗キ

、山

伏水は竹にかくれたる里

、良

空蟬にたとへん恋の浅ましく

、翠

うき雲へだつ人の俤

、山

松柏夕をまつるやしろ数

良

黒江の網の魚わかつ月

翠

露ふんで廿日あまりを浮れたる

山

秋をふり行宗鑑が宿

良

山がらす哀を何に啼やらん

翠

霞の底を水ながるめり

山

初種の俵ほどけば花散て

良

彼岸過より土間に居ける

翠

二度来れば二度の詠や山桜

伊勢津 理玉

門さすも惜しき夕や庭の花

伊賀上野 机山

うつくしき茶のからも有花の下

、单鶴

花見んと行水したる夕かな

、蛙方

息杖に薪もたせて桜かな

、如風

ちる花や畳む扇にはさまる、

、神戸 祖流

朝鷹の羽根より散ぬ山桜

、里鶴

よそも花に早き朝けの煙哉

、玉垣 蘭井

散るものにして戻りけり夕桜

、孔阜

夢の世は人にこそあれはつ桜

、寺方 里朝

月や夜半桜を覆ふ峰の雲

、芻龍

留守の戸も見ゆる桜の木の間哉

、津子 良

音もなく只香ばかりに散桜

、相可 右栗

朧夜を苔むさくらの匂ひ哉

、松坂 推巳

花の山罪作るべき人もなし

、大塚 鳥翠

見渡せば桜につゞくさくら哉

河内 雪江

それさはる杖をばひかへ山ざくら、

船橋 有山

案内者もみへつ隠れつ山桜、

楠葉 邑 一笑

雨の花傘にさはると覺けり

難波 尺丈

幾万の城にも暮し我さくら
、 奇淵
野鴉の花ふみかねて飛にけり
、 瑞馬 (一九オ)
花散て山一おしの曇哉
、 自楽
花の庭にかけふるしたる簾哉
、 魯隱
どの花の散ともみへず散にけり
、 長斎
よし野にて
花の雪銅の鳥井はつめたくて
、 蜂友
花踏で濡色に啼鶯か
、 鶯雪
花の香の柳にもどる夕かな
、 葵島
ちればこそいとゞ桜は初ざくら
、 大江丸
山ざくら徒ならぬ匂ひかな
、 よね彦
花一枝乞ゆるされて迷ひけり
、 勇 (一九ウ)
花の香のかざりに明るまくら哉
、 大和 万和
ちる花や月星ともに西へ行
、 撰池田 遅春
花散て山寺遠く成にけり
、 鹿楓
ちる花に首筋寒き入日哉
、 李杏
出ざらひを慰め申せ初ざくら
、 李凍
遅ざくら吾妻は雲に時鳥
、 其丸
花に風君がまゝにもならぬ也
、 瓜坊
柴船や折く花の夕あらし 但馬網場村 十手 (二〇オ)
身にも香を留て帰らん桜狩
、 秋向
たつ鳥に教へられけり初桜
、 清月
遠近や夕陰となる山ざくら
、 芭雷
蝶もいめさめて月夜の桜哉
、 吐月
見くらして又土産の山ざくら
、 鼓吹
朝は雲暮には雪のさくら哉
、 村岡 晴鳧
花最中美人に並ぶ居士衣
、 船谷 五雁
余の事に出て桜を見初けり
、 肥長崎 洵美 (二〇ウ)

笈仏を花のあたりに卸けり
、 月庵
花の咲雨つれづれの夜明かな
、 素人
鶯のうつり来にけりはつ桜
、 盤露
花曇どちらになりぬ宵の山
、 延之
日は斜なりさくら咲後やま
、 湖山
花筏よるは崩れて草の上
、 知友
夜をこめて糺の関越ん花盛
、 祥禾
御代うたふ花に我身も静也
、 嘉敬
山ざくら鍋に煮る茶の常なるか
、 其英 (二一オ)
さくら狩巢の杜宇見付たり
、 季明
夜ざくらや手折んとすれば鳥の立
、 杜陵
散のこる花を筑紫の土産哉
、 諫早 輝白
花に来て眼閉るもうき世哉
、 孤石
花の山どこともなしに日の暮る
、 都巽
朝曇花の使の来りけり
、 画鮮
繕ひし桜はさくら山ざくら
、 文塘
旅の花妬く思ひて過にけり
、 島原 万夫 (二二ウ)
霞む鏡をつゝむふる敷
、 桃仙
今参長閑に賀殿立舞ふて
、 有隣
只おかしげにゑめる人かな
、 夫
風落て竹の末より月のぼる
、 仙
づるくとし秋塵の瘦
、 隣
花の食焚が山路の薄煙り
、 島原 桃仙
静さや夕雲帰る花の上
、 春喬
散初て人に罪あり山桜
、 完雅 (二三オ)
水の上も花としくめる弥生哉、多比良 万夫
花七日吉野に入日なかりけり
、 楽只
逢に来て花に一日後れけり
、 土黒 吐龍

散かゝる花のかつらの宿り哉
、 利貞
花に酔てまたむつかしや人の上 豊前小倉 夏夕
春小雨はれてさくらの世成けり、中津 有隣
ちる花も漕れ行らん杉筏 筑前直方 五雪
命なりとまてば読けり花の山
、 寄木
山ざくらまた上張の花見哉
、 此原 (二三ウ)
人しばし物いひやみぬ花曇
、 博多 吾来
暁鐘や花ふり返りく
、 姪浜 浦詠
明日迄はまたぬや花の夕嵐
、 櫓睡
夕ざくら見返る山の風白し
、 絮風
よしあしのうき世の外や花の中
、 二扇
ゆるされて折ぞ煩ふ花の枝
、 俚橘
咲かゝる花の下陰露気なり
、 喜水
下戸ひとり花に酔けりうかれけり、朝倉 市峰
うき雲の花を越いく日和哉
、 植木 可角 (二三ウ)
夜ざくらや我ほど老し人は居ず、若松 可十
泣児の筈に散るや夕桜 備後布野 ふもと
柚が飯喰て明さん山ざくら
、 三調 楚雲
思ふまゝに散て桜の静なり
、 福山 庭白
よし野に着けれ共雨をやまず麓の桜は散く
見渡す谷くは水を上る雲に木立もみへ分ざれば
花と見よこれも吉野の雨の雲 備中倉敷 寄人
花咲や潮あがりの筈丸家 羽州秋田 素大
初ざくら桜所はさもなくて
、 五明 (二三ウ)
花の昼水無月比の空の色 江州八幡 柏翠
蝶やどる桜の中のさくらかな 津軽広崎 里川
山ざとの人に人見するさくら哉 尾張 龍淵

はせを堂にて

花咲と人ばかりなり東山 濃州 千阿房

滝ざくら襟につめたき雪かな 遠州角九里 可月

花盛うれしき命かぞへけり 全

花ざかり月のみ呼を過る也 、原川 捨席

花の山一日筆にのこしけり 、月圭 (二四オ)

基佐が馬はなれけり山桜 、鬼卯

散さくら行者の瞳こくかと長州赤間関 花休

何坊に今夜宿らん花盛 、仙梨

来る人の白髪がち也遅桜 、和由

杖捨て花に閉たる眼かな 、路若

花に明て花に暮行我身哉 、指月

小嵐の隈とやならん散桜 、里曉

むら雲や松は暮行花の山 、蟻好 (二四ウ)

家を出ればいよく花の真昼哉 、市冠

花守となりて心のなごみけり 、里水

花につれて一夜二夜の旅寝哉 、花曉

山ざくら散かゝりけり川筏 、湖滴

人恋し明るまつ花の夜たゞ散 、羅風

遠近の社友を会しつゝ、

供養の筵をひらきて

仰ぎ見よ桜月夜の東山 月影館 万井

咲も残らぬ花をくぐりて入日哉 安芸南方 厲掲

青空に桜くもれる日和かな 、真良 湖江 (二五オ)

眼につけばこそ袖も折れやま桜、小方 可友

世のさまや桜のひるも飛鳥川 阿波西分 羽角

初ざくら深山は雪のまだ寒し 豊後キツキ 梅月

火をかれば梢さし出しぬ桜狩 サヌキ姫浜 桃里

木食の花にも凄き眼かな 、仁尾 宗徳

翁の句意も恐れ侍れど

年ぐや花に桜に猿の面 丹波梶原 洞々

人しばし静りて散さくら哉 、大山 武陵

花の裏は皆青き葉の春細し 翠実

生野路の花や正木をうしろにす 丹後河守 梅居 (二五ウ)

もどり路は思はず遠し桜狩 雲州日御サキ 風知

夜をこめて開けたりはつ桜 播磨酒見北条 笠岳

しの、めや花咲志賀の山つゞき、 梅廬

世の中やましていはんや花と月 若州谷田部 汀波

年毎にみつる此花供養は

魚も渚に躍るや花の吉野川 日向美々津 吟龍

春風や心の動く花のかげ 作州倉敷 春山

軒かくいはらし憎し花の陰 アハ 圭夫

花のかげにやさしくもがなさくら草 周路

とにも世は花過にけり八重桜 イヨ今治 巻玉 (二六オ)

明わたる雲の雫か山ざくら アハチ 起石

咲にけり見ぬ世の人も見し桜 備前岡山 幽雅

山ざくらかぎりある日を忘れり 筑前甘木 布館

ちる花の一崩れにぞ静なる 城南朝暮庵連 戸口

や、うつりては蝶のぬる袖 子邨

玉盤に春の日脚のかたぶきて 化蝶

宵月ながら山路也けり 五牛

たくましき名と改る出代に 雨林 (二六ウ)

茄子の味に秋の更行 呉桂

五位鶯の淀のわたりは下りもせず 口

護摩にのぼせし顔を吹る、 蝶

中衣のいろも浮寝にさめぬらん 牛

菊さまぐの俣にかれたり 林

世にしたふ酒の泉のいく戸前 邨

誰に伝へし仙薬を祝る

月満る夜も蚊の声に明近み 桂

かこみをほどく喜事社あれ 口 (二七オ)

ぬれ色に切火のうつる洗ひ米 林

あし高はれて海たいらなり 桂

出ぎらいの名のうせてけり花の頃 邨

紙に包し木の芽贈りぬ 蝶

朝戸出や雲たつあとの山桜 城南魯長

先師年々花供養の句をせがまれけるに

今年は弔ふ事になりぬ

花びらのへばり付たるたもと哉 堅田 一之

花に手をあて、嵐を聞夜哉 浮御堂 桃醉 (二七ウ)

大かたは雲に先だつ桜かな アキ 田禾

蝶ほどに軽からば世は花の上 相州 丈水

乙鳥の子のかさむ巢籠 半素

凡人ものどかにおとづれて 芹尺

只釐等のひゞきこそすれ 松調

宵の間は月きら／＼とさし渡り 五青

浪のうね／＼遠近の霧 祇水

何神ぞ初穂刈藻の懸りぬる 眉山 (二八オ)

ふりおふ袖も伽羅の移り香 一壺

反古襖やれては文のほのみへて 南謨

童の、めく雪の広庭 川雅

面白や袋はあれど米のなき 閩南

ほつ／＼ほつと煉薬の鍋 林雪

杏の青くながる、八日月 許笠

峰の崩れて雲の行みゆ 几旭

忽に鎧のかはる墨ごろも

生雅

吾妻の耳に京の黄鳥

及古

(二八ウ)

春の雨芳野初瀬も枝たれん

呉雪

連くところ畑を打けれ

吞波

たれ込て山くくらし遅桜

相州関口 眉山

花の頃牛にのる人のらぬ人

、河原口 五現

常ならぬ花の盛や夢の跡

、上依知 松調

山ほどに世を経る花の日数哉

、関口 一壺

けふのうへに翌も有けり桜狩

、釈 南謨

朝まだきさくらにしらむ家居哉

、鎌倉 梅豊

日の目見ぬ谷は桜の夜明哉

、藤沢駅 曾登

薄曇さくらよくひがし山

、磯部 悦応

降やさくらふもとへ届く幾千尋

、室田 巴橋

片側はさくらなりけり大堰川

、猿ヶ島 寿杏

深山木の花走り井の響哉

、半素

八重山や桜はよそこかはらねど

、丈水

花守は箒とる身の果報哉

洛 秋水

分入らばいづこを踏ん花の雪

、竹下

(二九ウ)

蚕飼する里はさくらの盛哉

、乙道

初花や去年ともに見し人に逢

、虎白

水の面は花より先の嵐哉

、其白

木作りの手にもかゝらで散桜

華頂僧 如風

夕暮や野みちに散し桜花

洛 舍六

見る日より見ぬ日に花の噂哉

、斗九賀

花の咲木の有たけは我住家

、蓮和

花七日ことしも活て仕舞けり

、後楽

初ざくらかしこく咲て仕舞けり

、管鳥

音もなき桜の中の流れ哉

、杜隣

(三〇オ)

世の中や花見る山に松多き

、桂郎

我に物思はする花のさかり哉

、在貫

うつぶいて居れば淋しき桜かな

、春也

さくら折る影に驚く月夜哉

、双南

しる人や花のかげよりあらはれし

、とほる

吹おろせ蹄の外のみねの花

、芹水

塵塚のちりなかゝりそ庭桜

、駟丹

花にいづれ越の長浜行思ひ

、百池

(三〇ウ)

散花のうしろに笑ふ鳥哉

、五芳

どの花の散ともしらず散にける

、葛年

鳥と我と住めばさくらも咲にけり

、鹿舌

十分にまうけすまして花供養

、其成

ちる花の下になりけり八重桜

、馬印

押なべて唯一いろにさくら哉

、芦涯

年ぐゝの花に賑ふやどりかな

、土卵

山ざくら花より上に雲もなし

、月峰

かぞへ日の花に物うきゆふべ哉

、行脚 青銭

(三一オ)

ことさらに花見る一人二人かな

洛 可董

月の輪にて

桜より下は時雨の日和かな

漢水

どつさりと雨を持ちけり山桜

斗入

水みつる風情や月の桜花

芦蝶

(三一ウ)

洛東 芭蕉堂蔵板

京四条通河原町西へ入町

書林

勝田喜右衛門

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

14 享和元年『花供養』

底本 櫻井本
校異 小林本

花供養

【校異】小林本は墨直書きで「まつり見」とある合綴本。

(原題簽・表紙)

(表紙見返し)

叙

あとしめて見ぬ世の春をしのぶかなと、西上人の／かしこきあととをゝめてすみたまふける頼阿師が／葵華園のふるきほとりなつかしとて、翁の十三回／にあたり給へる年の弥生、追福の俳諧興行せられし／は、東花居士がいさほしにて、今九十余年になり侍れど、東山／万句の名はかぐはし。先の庵主闌更うし、中頃／其跡を興し給へりしより、今の蒼虬うしにいたりて

(序一オ)

年毎の供養怠ることなきものから、堂前の桜は、／とし／に枝さへ根さへひろごりて、其香や影や四方／つ国に満／て、道に遊べるも遊ばざるもなべて此／法筵にのぼらんことをおもへり。されば此さくら／の行すゑ、翁の余光なほも添ひつ、いや／しげりにしげれば、今よりは我道の扶桑木／ともいはましやと、ことのさかゆくよろこばしさを／可董はじめにするす。

(序一ウ)

花の咲山もと見えて海の音

長閑さあまる雲の一降

春もはや親子雀の啼ふりて

石屋根まじる家のかたかり

百池

蒼虬

鹿古

芦涯

ありたけの鉛鏝にふきながす
萩よりいそぐ人のゆふ暮
竹束を月の徑にうち倒し
めでたき事もさま／＼の秋

老の名のつくより朝の起能て

糞とり船に藻屑かき込ミ

涼しさを鳴ぬ鳥なき志賀の松

籬の上に乾く白布

さ、めごとつもりて声のうちかすり

文書なぐるたもと重たき

むかしより人の心はいさしらず

しろりと明し雪の遠山

泰澄がかたみの仏世に光り

何とかいふて伐ぬ榎の木

行雲のうつれる月の潦

羽音さびしく田に帰る鳴

秋の末かたづけて置土車

雨降かゝる松の開き戸

火もたてず人の哀を語り合

老ては麦を好くばかり也

白梅に冬のなくなる風が吹

築波ぞ寒き星の明くれ

恋すれば機のはしにも寝たりける

はつ時鳥夢か現か

むらさめは東へはる、淀の朝

細き煙の何所までも曳

いとをしとしるしの松を顧て

軒くれかゝる若葉つめたき

右一順末略

瓜坊

斗入

玉洋

稲丸

桃醉

玉屑

羅城

とほる

北空

百磨

後楽

其成

駟丹

破巾

馬蓼

柏翠

双南

宋和

其白

桂郎

馬印

芦蝶

乙道

五芳

月峰

千阿

駝岳

雪雄

我ながら花物狂ひと成にけり 長崎月庵 鞍風

花のある里より春は暮にけり 洵美

加茂川のほとりにて

花の香も交りけにけりな水の味 延之

花の山葉し道に暮にけり 素人

散ば咲桜最中や東山 樗南

人声の桜にしらむ山路哉 杜陵

山ざくら此比京は月夜なり 其英

やす／＼と峠をこゆるさくら哉 盤露

雨のさくら／＼も葉がちにならんとす 吾友

奈良草履ふみならはせよ花の山 志鴻

つく／＼とみれば若木ぞ遅桜 祥禾

年／＼や花に心のあたらしき 肥前島原 白花

人の気の桜にみちて散初る 神代 呂柏

山ざくら女の声の峰こえる 利帆

燭秉て夜ちるさくら惜みけり 斎我

守る人の名を呼深山ざくら哉 魯央

かくばかり日は惜かりし遅桜 画鮮

花のあらし人の中より起りけり 春喬

雪おしき日も暮てけり初桜 薩ガ 涛明

あな尊花にめでたる昏の月 島原 桃仙

(二オ)

明行や磯馴ざくらに浪遠し

網だく声の霞む朧気

旅硯春を馬上に匂はせて

鄙の酷酒さめやすき也

又ひとりおとなふ月のほはら家

鶴飼そめて秋に富める

亡鹿に古き刀を銚しめん

徒はてしなき野路の草原

朴介

画鮮

春喬

介

鮮

喬

介

鮮

(四オ)

(二ウ)

(二ウ)

(三ウ)

(三オ)

紅の雲たちのぼるみさ、ぎに

怨がごとき船^{コサ}のみだれ音

我恋よ岩ねしのぶの月寒き

十符の菅菰みな氷る夜は

米五合鼠の食みと成にけり

内裡普請の役にさ、れて

天神に百か年の幣奉り

しば／＼落る池の小嵐

花の雨はれて梢のくれ近き

罌粟のわか葉に蛙鳴出す

喬

介

鮮

喬

介

鮮

喬

介

鮮

喬

明行や嶺にわかる、さくら雲、諫早輝白

家土産のさくらに母をいさめばや、梅路

名のみしるさくらをけふの主哉、ぬい

雲に入る心地こそすれ花の山、楚艾

江の花や風をうらみつ風待つ、雪香

花一夜千里を巡る心かな、孤石

花の本うき世しらずの寝たりけり、文塘

散花や盛過にしにもあらず、筑前ハカタ、扨詞

花の月朧あまりて光かな、立翠

花の陰人ひそやかにた、ひけり、任風

あれ人は人も花なり都なり、月孤

花ざかりことに咲木のさかり也、鼠紅

錢もたで度々花見いたしけり、吾来

おきるたび花の散居る月夜哉、瓢風

花ちると仏造りに告ばやな、直方橘雨

聞てさへうれしき花のさかり哉、姪浜櫓睡

手折行花につれなき嵐かな、霞梅

散る花を袖につ、める名残哉、起悦

夕ざくら無常とつねに見なしけり、飯塚可都美

(五オ)

隨身の弓矢も花のあたり哉、豊後日田葵亭

花守や聾と見えておもしろき、松邦

今の人も斯すれ花に剪灯、長門赤間関万井

昼は花夜はさくらと風がふく、羅風

花咲て松青／＼となりけり、万水

月のさくら散がてには見ゆるなり、周防岐波春郷

花の山行／＼足のかるさ哉、安芸広島玉桐

花守や頓て翁と呼るべし、能美雨丹

ひるがへる乙女の袖や花の雲、日向美々津吟龍

山青花欲然^(マ)

山笑ふとや花に酔ふ天津空、安芸竹原松蘿

青空や花曇る日の猶遠し、信良胡江

花はよしの庭の桜を見るに付、本郷其乗

欲ありと仏もいはし春の花、南方厲揭

萌出る景色も有や花の山、節雨

灯ともすも中／＼侘し散桜、小方可友

古寺や花の上なる昼の月、備後福山李朝

散花の花に風なき日成けり、荳郭

花の奥水しん／＼と鶯の声、古府可卜

我さくら忘て居れば咲にけり、播磨玉屑

何心ありてさくらに礫せる、阿波羽角

見旁て我身の上にちる桜、淡路玉華

花に来る人むつまじく美しく、陸奥仙台雄渕

たゞひとり酔さめて花の雨夜哉、乙調

俵米の小口見えたり家ざくら、津輕里川

昼となく夜となく花の盛かな、出羽秋田吾長

下臥や風のきせたるはな衣、上毛雲嶺鷺白

朔日の月傾くを花の名残哉、草津麻刈

夕風のさくらに起る野末哉、阿原

詠しみて手折んと花に欲起る、大原青蒲

(六オ)

あけぼのや桜におもふほと、ぎす、麴舟

影おつる池のほとりの桜哉、小暮也蓼

とかくして世の人出たり遅桜、信濃高遠白兔

池水や吹こむはなに鶴、松本可考

はつざくら人の心を咲にけり、雨喘

花の山くだれば里は月夜哉、求巳

花の枝引よせ惜む念仏哉、坂本朝左

時得たりうら、かなけふちる桜、有栲

初花にいとへ五日の風とても、諏訪稻花

花つ、く鳥は小悪し朝な／＼、近江草津四老

眠気さすまづ山越えて花見哉、下鈎荷屋

花鳥は花に倦るもありつらん、太田二鶴

鐘よりもあちらを花に明て行、瑳雀

児ざくら花にせかる、ひがし山、普門邑琴路

広前に手向草かな筆の花、佐川末子

其ゆふべ花にわかる、こゝろ哉、途中一溪

よき事のつもり／＼て花の山、太田知石

葉桜となりて小寒し峰の雨、八幡芳志

露の戸は露に明たり花の空、柏翠

あき樽はけつく重たし花戻り、堅田籬邑

散花に鐘は物うきあした哉、柳糸

ほか／＼と汗する花の山路哉、文常

夜の雨の枝にそ、ぎて花の朝、其流

うすぐらき山はさくらの夜明哉、鯉登

鐘のねや心のしづむゆふ桜、麦栄

月の花ある夜のいめに散にけり、故友

花びらのちり行岡に馬の声、先之

居眠れば桜の起すあるじ哉、桃醉

花の色去て涼しき姿哉、高島右之

咲花に散花にうつり心かな、日野素艶

(八ウ)

(九ウ)

双林寺の花にかり寝して

花の夢見て甦る、嵐かな 若州谷田部 汀波

嵐絶てさくらは雲に隠れけり 、 貫扨

昼中の桜につゝむあらし哉 、 歌国

山寺の庭からつゝくさくら哉 高浜 帆路

面白さかうといはれぬ花の山 北前川 寿ト

咲花に物いふて見るこゝろ哉 向笠 独楽僧

初花や田中の宮の朝ぼらけ 加賀高松 自明

花ざかり人の人見る野路山路 、 都園

鳥啼やさくらちる日の山巡り 全

枝ながら花をつかんでとまり鳥 、 蘭路

道しばし隔られぬるさくら哉 、 横巷

さまぐゝの姿もありて花見山 、 和選

さくらちるや流の末の誰が思ひ 、 里川

咲し時蝶もたはれる桜かな 、 北舟

咲花や香ほどゆゝしき春の色 、 把翠

花の比めぐるや酒の二日酔 、 芝洗

大やうに花の一重や山ざくら 、 亀十

山隴雨の降出やはなの枝 、 甫水

西東花白雲の都かな 、 麦風

杖のあと目に立ほどの花ざかり 、 御風

いさゝかの小とりもよしや花の川 、 金沢 一抄

新しき花にうつりて月久し 、 暮柳舎 車大

三日ほど散きたはなし夕ざくら 、 眠和

花曇り夜は明にけり松の音 、 槐路

川すぢや桜にあまる山かづら 、 兎三

片ざとも花や柳のたくみにて 、 涼対

物思ふ隴の花のすがた哉 、 其箭

出ぬけてもゝ花のよし野哉 、 蘭吹

春もはや高き所のさくら哉 、 対山

人声も隴にはなのさかり哉 、 魯童

人すまぬ桜に遠きむかしかな 、 雪貢

行ゝて里はながれに夕ざくら 、 幸丸

夕ぐれや見えて静けき船と花 、 犁松

さればこそなんにもみへね花の山、 松斎

さくらよりさくらにうつる心哉 、 馬曹

花の中人声くる、便り哉 、 霞松

砂川やさくら散日の魚早き 、 蘭史

や、もすれば驚かしけり花に鳥 北台

猪の吹てあるきぬ散ざくら 桃化

昼過や桜咲出ス竹のはし 梨鳥

遠山の桜さきけり雲一重 其如

磯山やさくらにもどる夕曇 、 楞陰

花ざかり何をうき世の喰物ぞ 、 十廿

暮る、時むづかしげなり山桜 槐庵 雪雄

ゆふぐれの花を分入るこたま哉 能登宇出津 碩茂

水も隴に岸の月影 竹姿

酒のなき関屋の春を打佐て 柏茂

鑄かけのぞけばむせぶ竹炭 茂

うら西の風は時雨と降かはり 姿

冬草あさる雁がねの泥 柏

ひとつくね雲はあさひか山ざくら 柏茂

北くれて花の香ぬすむ嵐哉 竹姿

此まゝにありたき花のあるじ哉 一得

花の香やかりそめならぬ朝げしき 八湖

魚影の浅瀬にはやし散ざくら 魯洋

初花のけしき成けり海の色 碩茂

さくら見や此いたゞきを別世界、曾良 岸芷

松の声ゆたかに山のさくら哉 、 黒島 玻井

人去て花一円のにほひ哉 、 為本

永き日も猶永かれやはな心 、 加由

花の雲人のいへれば見付たり 佐渡 一静

まゝならば抱ても見たき桜哉 越中 洗耳

山ざくら川たけ添ば道ちかし 、 蘭阜

磯山やさくらの中を帆のはしる 富山 花菜

原中のさくらちいさく咲にけり 、 位知朗

常ならぬ夜の静さや散桜 、 維一

夜の花にうちかぶせたる松の声 、 薄年

ちる花となるや雀の夜の声 、 巨泉

さくらゝ煙籠りて暮にけり 、 霞立

とても散花よ月夜を重ねかし 、 子丑

雨の花あまりてなどか袖に入 暮丸

酒樽に桜をさしてもどり哉 、 一洞

山のはのみへぬさくらの盛哉 、 女うめ

角落て鹿も花見る姿かな 、 乙峰

花の雨なつかしの人来たりけり 、 呉山

ほつゝと花に音あるさくら哉 、 丹房

山鳥の尾に散やせん夜の花 、 吐龍

存分に分入る月のさくら哉 、 度来

夜も寝ぬか庵の桜に灯影さす 、 如泉

何を煮て煙らす花の扉哉 、 紫川

みよしのや花より明て花に暮 、 撫泉

薄雲の左右にわかれて朝桜 、 其声

仏法の山となりけり花の時 、 如弦

短冊に思ひ残してさくら哉 、 万良

日の出て山静なる桜かな 、 其一

花咲や門を過行君が声 、 斗一

折取れば桜淋しき木ぶり哉 、 玉屑

馴まじと思ひし物を桜花
笠取て鳥驚かすさくら哉
余の事に似ぬや桜の折惜み
春の夜の月あた、かや散桜
ちる花の物にさはらぬ風情哉
汲水の桶にこぼる、桜哉
出心のあしたや花に里だより
風もよし花のふゞきの夕日照り
老ぬれど色もかはらぬ桜哉
白雲につゞく尾上の桜かな
椎檜に双びて花の光哉
分のぼる山はあかるし夕桜
吹立や花の行ゑの大井川
立山を見わたるうちや花寒し
山のはの賤屋にふるき桜かな
花の陰ながる、水の清さ哉
花守て人に酔たる天気哉
花の末入日ばかりの山路哉
しづかさの空に雪降桜かな
寒からず暑からずよき花の山
船さすもおなじ所の花見哉
朝戸出に見わたすさとの桜哉
松山を出ぬけて月のさくら哉
日最中や花の上なる鶴の声
夕暮に心とゞめてはな見かな
吹かたは何れの風かちるさくら
花守の花を見あかぬ風情哉
散る花に扇を拾ふ小みち哉
ゆふぐれもとの色なるさくら哉
山ふかく人もなげなる桜かな

、国花
、小林 沙麦
、滑川 梁明
、子蘭
、君芸
、魚津 三壺
、半哉
、松香
、巨扇
、栗朝
、百生
、女 のぶ
、春峰
、菁夫
、文景
、知碩
、英文
、立嶺
、史溟
、世器
、周再
、馬亮
、魯山
、倩貞
、北原
、雲蓋
、東皐
、芸肇
、周台
、太翼

隴夜の花となりけり塀の上 越後梶屋敷 路室
古葉の下の蛙鳴出す 之鴻
春の水あちらこちらと流来て 萩里
鑄がたつゞくる土をこねけり 与竹
名月の庭に刈たる稗のから 若水
ぬれて小猫の秋を寒がる 卯来
来る雁にうちあはてつる女房達 蒼虬
須磨やあかしも波はものうき 佳青
けふもまた石切ばたに日を立て 古風
冬あた、かに山ぶしの貝 指翠
藪ふかき家中の町の通り抜ケ 古林
朝市終る雨のはら／＼ 巨万

（一四ウ）
（一五オ）
（一六オ）
（一七オ）
（一八ウ）
（一九オ）
（二〇ウ）
（二一オ）
（二二ウ）
（二三オ）
（二四ウ）
（二五オ）
（二六ウ）
（二七オ）
（二八ウ）
（二九オ）
（三〇ウ）
（三一オ）
（三二ウ）
（三三オ）
（三四ウ）
（三五オ）
（三六ウ）
（三七オ）
（三八ウ）
（三九オ）
（四〇ウ）
（四一オ）
（四二ウ）
（四三オ）
（四四ウ）
（四五オ）
（四六ウ）
（四七オ）
（四八ウ）
（四九オ）
（五〇ウ）
（五一オ）
（五二ウ）
（五三オ）
（五四ウ）
（五五オ）
（五六ウ）
（五七オ）
（五八ウ）
（五九オ）
（六〇ウ）
（六一オ）
（六二ウ）
（六三オ）
（六四ウ）
（六五オ）
（六六ウ）
（六七オ）
（六八ウ）
（六九オ）
（七〇ウ）
（七一オ）
（七二ウ）
（七三オ）
（七四ウ）
（七五オ）
（七六ウ）
（七七オ）
（七八ウ）
（七九オ）
（八〇ウ）
（八一オ）
（八二ウ）
（八三オ）
（八四ウ）
（八五オ）
（八六ウ）
（八七オ）
（八八ウ）
（八九オ）
（九〇ウ）
（九一オ）
（九二ウ）
（九三オ）
（九四ウ）
（九五オ）
（九六ウ）
（九七オ）
（九八ウ）
（九九オ）
（一〇〇ウ）

木の下の人さま／＼の桜哉
はつ花の道分得たるあした哉
人霞うへを一本のさくら哉
火を焚ば花の散来る山家哉
松風に花はめで度日より哉
花咲て露のさたなき庵かな
花の友心／＼はなかりけり
有明の月のほとりのさくら哉
初花の朝日に堪て零せり
鐘聞ぬ人に咎なし山ざくら
桜ちる中を負はる、子供哉
ひとしきり暮る、色有散桜
余念なく花に二日をまかせけり、井ノ岡 清泉
先達はとなりの人よ花の山 、出雲崎 文雲
見るほどの人よしゆかし花盛 、与板 都良
八重ざくらさながら軽く吹ちりぬ、 杜皐
奈良坂や花の跡なる薄月夜 、 陸二
花咲て七日は夢かまほろしか
あすはまた見るべき桜おほき哉
一番は誰がふみ分てはなの山
たそがれや桜顔なるさくら人
まだら雪ふみつ、行ば桜かな
風止て嬉しき空に散さくら
花にあらし道二筋は行がたし
山陰や花ちる時の墓の声
酒にもれてひとり静に桜かな
咲や花雨夜の月のもどかしき
花の雲終日吹てしづかなり
川添柳青みたつ門

、増田 泉古
、波入
、今町 驪彭
、其径
、之斤
、柏崎 呉洋
、其貞
、平水
、蘭甫
、由己
、玉宇
、虎雄
、清泉
、文雲
、都良
、杜皐
、陸二
、桃止
、交婦
、扶草
、市隠
、石翠
、雨青
、知夕
、雲沖
、打羊
、長岡 宇桂
、蒼虬

島うつ春は車に土つみて

はやゆふぐれの灯付来る

小男鹿の一声立る月影に

鰯のかけたる鮭拾ひけり

花の日や願なき身の心栄

ゆかしさの庵や戸ざして花の中

花の雲どちらへ行も同じ道

はなの山あしたを待ぬこゝろ哉

藁苞の中にも花の初日哉

花ざかり星をかぞへて戻りけり

人ちかくなりけり花の山がらす

無理屈に主人と思へ若ざくら

年経ぬる姿も若し花の山

はつざくらしばし曇と見る日哉

あらためて又来る人やゆふ桜

殊更に桜ちる夜ぞ夢深し

人なみに猿も桜の木の間哉

吹越てさくらしらする野寺哉

日の岡や明はなれ行花の雲

咲花に水色青きひる間哉

曙を見て空淋し家桜

明を啼鳥かはゆし花の中

山ざくら山へもどらぬ鳥もなし

散花にかづけて浮世通れけり

夜明れば月こそなけれ峰の花

よしのにて

名残ぞと散敷花に倒て見る

春の夜を押広げたる桜かな

花にそふて松も闇夜のあかり哉

、桂

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

(一九ウ)

(二〇オ)

はつ桜こ、にもはなの一本哉

里へ出る水の音あり山ざくら

手をそ、ぐ水に桜の九重哉

花の雲松は夜明の常の空

そよと吹風も白しや花の昼

けふもまた操返しけりいと桜

夕ざくら白き物とぞ成にけり

ゆふざくら人から先に散にける

去年汲しま、の井戸なり花の山

さくら売人の多さよ花の山

花ざかり水に添来る朝の風

旅人を花にへだつる山路哉

鳥の来てゆふべ定し桜哉

夕暮は花に花置ふもとかな

むく起を二足三足さくら哉

さ、がにの糸まだ弱し散桜

まぼろしの花を寢覚の詠哉

薄雲の花と見る迄さくら咲

ちる花や雲共ならず地にも居ず

曙のいくつも見ゆる桜かな

朝風や花に偽なき世なり

散花の松は音なき夕かな

あれほどに海はほどに花の山

花うりの七野通るやゆふ曇り

誰も来ぬ庭吹はらへいと桜

柴の戸のあるじは留守よ花の陰

歌を読鳥も来よぶか山ざくら

ひとり来て花にまる寝や水の音

誰が子ぞひとり昏けり花の中

山と我中をちり行さくら哉

、山田 四溪

、伊賀上野 未塵

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

(二二オ)

(二二ウ)

うつろふて日和と成ぬはなの山

花盛鳥の羽ぶきもあらし哉

雲散て山はさくらの夕かな

大方は花となりたるさくら哉

分入れば霞の中のさくら哉

夜ざくらの志賀はむかしに似たる哉

夕ぐれはさくらばかりと成にけり

花守や夜のあらしに起あがり

置曲突や花かき出して酒の守

花ちりて寝安き夜のあらし哉

咲みちてゆふべや花のしぐるらん

飛て行鳥に花の曇り哉

酔ぬ日も酔ふ日も花のあるじ也

此家もまた留守の戸や花ざかり

さくら咲中をわかつや杉檜

宵月や花より出て花に入る

咲花の傍はづかし賤が家

立尽す花の奥より人の出し

浪の上くれても花の弥生哉

夜に入れば寒い風吹さくら哉

雨の花道一筋になりけり

四方より桜散けり庵の闇

黄鳥のねぐらか夜の花に鳥

へし折の桜花さくゆふべ哉

しづかなり下の五日を散桜

むら／＼と花に成たる夜明哉

市中の寺に色よき桜哉

万代やさくらの下の土黒し

散ことの定なき日を花供養

咲みつる花の中あり叩鉦

、丹波 如六

、朝人

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

(二三オ)

(二三ウ)

散れかしと夜にそふ花の木陰哉

花の山下りる踏切れ草履哉

けふといふ桜になりし花見哉

静さのさくらに立る人もなし

花ざかり山の形まで思ふまゝ、

花の陰むしろさげ行女かな

人も日も出ぬうちなる桜哉

山寺の人はよく寝るさくら哉

とし／＼の気色こそあれ山ざくら

花盗む人をあはれの娘かな

さく／＼と今朝を咲なる桜哉

朝ざくら散を惜まぬ心かな

露うけて猶浅からぬ桜かな

雲よりも雨をかゝえし桜哉

春もまたたのもしき花の苔哉

松風に唇寒しはなの顔

桜さく比とて啼か浦の鶴

咲花に野山の際もなかりけり

夕暮は我にさくらのむつまじき

鹿古

百磨

宋和

桂郎

馬蓼

芦蝶

季柳

其白

乙道

在貫

旧草

依唯

夕可

双南

とほる

駟丹

可董

泉立

蒼虬

(二四ウ)

【校異】 小林本には刊記がない。

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

京御幸町錦小路上ル
書林 勝田喜右衛門

【参考】 小林本卷末に合綴してある「まつり見」は、大

坂の升六と田禾とが、京の祭り見物のために蒼
虬を訪れ、連句興行をなしたものの。また京の連
中の発句を収め、卷末句より其成、すなわち菊
舎太兵衛の刊行であることが知られる。菊舎は、
天明六年初刊から寛政七年迄の關更主催『花供
養』の書肆である。

(二五ウ)

許六がつくりし肖像をあふぎ

供養まうすとして、先懷紙にうつせし

東山の花を始とし、むかしはながれとゞ

まるべくもしられぬ海山の意成がより

明おくるこゝろの花のかず／＼文台に

みちたるを、うつろはぬうちにと

ひとつにそろへて奉られしこそ

めでたきばせを堂の本意なれ。

(二六オ)

享和元年春

延友国記

(二六ウ)

15 享和二年『花供養』（月の会を合併）

底本 岩見本

校異 山崎本

翻刻 福井県古俳書大観 七

花供養

【校異】山崎本は題簽を欠く。

（原題簽・表紙）

（表紙見返し）

ひがし山の南無庵に桜木の肖像あり。これにとしぐ

花をたてまつりて、その実

のおほいならむことをいのる。

そのさくらや、こと木にすぐれ

たれば、野となく、山となく、

浦となくそだちて、めでたき

花のさくといふことをなにはの

米彦がまをす

享和二年壬戌春

松風の中にそだちて桜哉

浪こまやかにとゞく芦の芽

陽炎をほうばるやうに鳥鳴て

朔ごとにかえる土器

垣明て日傭を通す家の間

のこる暑さも萩にをさまる

夕月の影さしかゝる高麗靴

むしの音をふむ岡の横道

わや／＼と人の出て来る諏訪の市

火うち袋の雨にぬれけり

そのまゝに住あらしたる竹藪

ことしの夏はひけぬ塩物

神たのむあした夕に川こえて

被白しとだれがとがめむ

露の身を石見之介にいたはられ

夜半の月ゆく観音の山

梟といふもの啼てやゝ寒み

紙漉わざに年つもるなり

夕風に釜の下火の燃しさり

春まだ早き鮎汲のつれ

花鳥につきへらしたる杖の先

霞がくれにみゆる松原

永祿のころよりあれし宮柱

黒染の身となるも憂恋

時々のおもひに草を引ちぎり

膳もとれぬに水主の又来る

工夫して西日をふせぐかけ障子

ほうじやう虫の竹の葉につく

円ほどに水の流るゝ砂のへり

一歩見しらぬ国は尊き

右一順

花咲て里はしたしき家ばかり

ながき日の心とまりぬ花盛り

花くれて人にかぎりはなかりけり

散もまた酒をすゝむるさくら哉

名月に寝し人も来る桜かな

甫尺 (一オ)

双南

月峰

葦笠

桂郎

銀橘

稲丸

千代道

百池

幽雅 (一ウ)

玉洋

梅笛

馬蓼

馬印

湖月

鳥幽

方居

八仙 (二オ)

一笑

玉藻

楓師

百磨

布雪

大阪 大魯

、 祖淳

、 里喬

、 甘男 (二ウ)

、 永六

足のばし寝る夜ぞあたたら花の陰、米彦

散安き花とて月もかゝりけり、兵庫 和田栖

人の見る日を盛なり山ざくら、呉来

ちる花を合点でのか保津川、池田 稲丸

花の散るのちもちひさき戸口かな、李杏

一木／＼暮うつる也花の山、堺 半桓

花の山遠寺の鐘のしづか也、三河新城 如竹

花ざかり水は青きにもどる也、遠江原川 可月

夢見草ならず桜の十五日、全

花はよしのさくらはたゞの桜にて、久喜賀浦 雄之

花の山あつめかねたるこゝろ哉、川布

花ざかり起こゝろよき日和かな、和吹

曇りなき日はたしか也花に鐘、阿波西分 羽角

ちる桜人には老のなき世也、筑後久留米 双鳥

夕風やさくらのうへに花のちる、龜算

散桜松の鱗にかゝりけり、嵐儀

ちる花の夜も日も散て仕廻けり、筑前博多 榎翠

人なみに雲と見てけり山ざくら、豊前小倉 黙雷

夜ざくらやしづかに散て膝の上、豊后日田 南美

花守や月には芋を売し人、周防上関 百樹

色も香もふくむ桜の木の芽哉、芝蘭

尼寺や匂ひさくらに浮名たつ、祝島 可請

けふも亦さくらは捨ず世捨人、其酸

山ざくら枝折し人の芳しや、如学

盛にも折枝はなし初桜、時習

桜咲て海へ入る目となりけり、岐波 春郷

夜のさくらイめば顔にちりにけり、和道

おしかる月のさくらや草の庵、長門下関 冬蘿

ちりかけて夜に入庵の桜かな、羅風
 鯉も今のぼらばのぼれ滝の花、安芸小方、可友
 白過て心しづまらず山ざくら、備中笠岡、文里
 初ざくらきのふけなる日和かな、備後福山、李朝
 夕ざくらありたけちると見えにけり、全
 散花に更行月の夜ごろ哉、備前岡山、子坤
 めでたれとはいふもの、桜かな、讃岐姫浜、一苞
 うつくしき盗人見たり花のくれ、桃里
 枝先も動かで花のちる日かな、大野原、湖流
 雨の花月夜は人の来ざりけり、但馬田中、晴晃
 日のくれてくれぬは花のあるじ哉、平野、五柳
 はつぎくら日のまばゆくて覚束な、八鹿、素蛤
 咲乱す花より出しあらしかな、網場、吐月
 をしむべき花にも雨の降日哉、十牛
 世をおもふころこそなけれ花の山、舟谷、五含
 春の夜は夢にもみたり桜がり、恕亭
 雨の夜のくはらりと明て山は花、丹波大山、陶三
 翠美齋
 ひた／＼と水にも花のあらし山、東亭
 手をうてばひゞく桜の木の問哉、武陵
 あはれさもある春の夕ぐれ、蒼虬
 汐やかぬ浦はしづかに海苔はして、陵
 ぼろ／＼壁のおつる戸の口、
 縄ほどく櫃の中まで月夜さし、
 風になるやら雁の出て来る、
 洪柿は蔦の葉ほどに赤らみて、
 みな涕ののこる尼たち、
 草鞋の破れてあがる雨のはね、

宇治へ奢のひける四五月、
 刈ごろになればはしき門の麦、
 けさのわかれは胸さわぐ也、
 なつかしき山はかくる、跡の浪、
 血しほぬぐひて御馬まゐらす、
 明る夜のあたまのうへに鐘呀て、
 道の阡陌の柳折月、
 宗旦が若き羽織も花の頃、
 みそを澄せる細根大こむ、
 節句より桜に出る入日かな、野村、黛山
 けふも花に日のくれて行麓哉、成松、双晃
 深山路は我とさくらのふたりかな、桂之
 三日めの花はまことのさかり哉、帰由
 吹風のすこしはうれし花ざかり、六里
 贅太の声うつ、なや花の中、峰琴
 こゝろまでうつくしうなる桜かな、献之
 ながき目を花ありたけにくらしけり、奈良布
 奥山に酒売家や初ざくら、淇水
 守る身にはしづけき花の夕哉、梶原、洞々
 ほむのりと桜に乘て出る日かな、国領、寛枝
 春も露おく山陰の家、蒼虬
 水車雪どけごろは休ませて、
 箒をつくる羽根すりけり、
 酒すこし飲で冷つく月の前、
 年貢ほど取背戸の萱原、
 柴栗のはじけかゝりて小淋しき、
 村雨のして矢は狂ふなり、
 執行者のくふ物たばふ紀の山路、

扇にとむる夜すがらの歌、
 下々の恋もうらやむ恋をして、
 水の面を鳥は鳴行、
 軒低うすめば芒に秋の来る、
 我子にも似て青そばの月、
 あれ／＼し野分の跡の朝の露、
 雲のかゝらぬ富士をけふ見る、
 花の陰軍に負し咄せむ、
 鯛にことぶく台の若松、
 はつ花につる／＼のぼる朝日哉、伊賀上野、右文
 錆ぬぐふ刀にちりぬ夕ざくら、五巢
 鳥もまだかくれかねたり初桜、桂枝
 灯うつりに又闇もよきさくら哉、鷺満
 夜のあらしされども花の開くあり、尹之
 朝の花蜂の動かす処々、
 ちる花に馬の鬣ふるひけり、
 春毎や松の思はむ花常盤、
 ことに此御室は花の女かな、名張、蟠松
 月の声桜の酒のあまり哉、倉経
 願ひ満る通夜のもどりや初ざくら、伊勢津、理玉
 ちる桜扇ぬらして帰りけり、山田、四溪
 花廿日よしのやみは破れたり、四日市、眠五
 花ちりて大仏殿も野原哉、大塚、烏翠
 初花やけさ見付たる藪の中、前田、居平
 いひつくしいひつくされぬ桜かな、朴所
 花鳥の中をあへなき嵐かな、近江舟木、楚雀
 うちにあても嬉しき花の日和哉、圃丈
 此ごろや花とあらしの中に住、太田、知石
 しみ／＼と花に定る月夜哉、和夕

(五ウ) (五オ) (六ウ) (六オ) (七ウ) (七オ) (八ウ) (八オ) (九ウ) (九オ)

守となく花にこゝろのおかれけり、	梅之	花見えてそれより奥の薄煙	枇青	雨ばれの露と桜のさかりかな	可方
曙はさくらがもとの小家かな	、	市人のいとまはをしきさくら哉	度柳	おほやけに遊び暮るや桜がり	、
花守の夜は寝やすきと申けり	、	石川の水に音なし遅桜	、	月の出の嵐にちるか山ざくら	、
花にせく人のすがたや小砂原	、途中	半日はおぼえて花のしづか也	、	うつくしき雲とわかれてさくら哉	、
共ならぬこゝろのさきや花に風	、鶴子	銅の葉鏤新し花のもと	文羅	月の夜の花に見込の深き哉	、
名木の桜寄りけり東山	、佐川	花曇焦耐匂ふ軒もあり	素更	朝山は雪ながらの桜かな	、
旅すればふた月ごしに桜哉	、八幡	青空の朝さだまりぬ山ざくら	龍至	ひとり咲谷間の花の盛哉	、
月夜にもあはではやちる桜かな	、芳之	花のうへちひさき星の流れけり	友甫	蝶鳥のものたらざりし山桜	、
かくばかり散花はあらじ嵐山	、柏翠	ゆふぐれの花は其日の姿なり	一透	月落て花に明たつ山路哉	、
きさらぎや花のうへちる日和雲	、天津	花にゆき江にゆく鳥や山かづら	古夢	しはひたる夜は明にけり山桜	、
打あげ砂にひかる小鯛	、宇立	花見れば花に眠れる人ごゝろ	里晴	夜のいろ桜に消て明にけり	、
蝶鳥に今狩衣を脱捨て	、度柳	世を見れば桜世に経るさくら谷	甫立	花に月うき世の外の寢覚哉	、
ひくい家並の風も通らぬ	、里晴	人の声なき夕山のさくら哉	玻井	一もとにあつまる影やはつ桜	、
丁々と木を伐る月の川向ひ	、丹柱	駕に乘人なかりけり花の山	柳汀	道の花見る気になれば散日哉	、
ふとき竹から秋の寂しき	、素更	ちると見えて物影白し夜の桜	、加由	ひと度はこけても花の流かな	、
菓子瓜のころ／＼転る根来盆	、一透	花の雨けふもつのでくれにけり	八山	花の山こゝろしづめて見たりけり	、
三夜さばかりをおなじ夢見て	、古夢	桜よりにはひそめたり東山	、李之	折ちらすのちや桜に雨の音	、
将基 ^(マキ) さす人は大和へ帰りけり	、枇青	夜ざくらにさはらめ雲の脚はやし	、野青	伏芝の塵うち出して花の雲	、
不自由がちに曇る冬空	、龍至	薄雲はれて山路のさくら哉	、加賀	野桜やかけ樋つゞきの薄曇	、
白壁の社とりまく群雀	、呉川	山陰や花まだらなる夜明雲	、李溪	曇るべき空とはなりし花の山	、
一里廻つて国のこと聞	、友甫	花山や二夜あかしの流れ星	、都園	川筋をゆけば桜のこぼれけり	、
大かたがさび鮎おほき翌市	、	しの、めや一重に見ゆる初桜	、少年	約束の人待得たり夜の花	、
寝てから月のぴか／＼とする	、	月の出て仲よくなるや初ざくら	、松輝	鳥の鳴塵たつ庭のさくら哉	、
洗ひ髪身に知る恋の肌寒み	、	朧ぞと思へば花に名残哉	、陸海	人しらぬ曙ならむ薄桜	、
未だ／＼物の朧なりけり	、	筆とめて夜の情も花のもと	、龜十	人往て我と糸遊の桜哉	、
水清し駒牽寄む花のもと	、	焚撫の跡あた、かに朝の花	、寺井	花の上去らぬ鳥の雪かな	、
するどき岩の苔に糸遊	、	北空もつか／＼と花のさかり哉	、宜石	山深し花薄色の日なりけり	、
思はずに居ても桜の日次哉	、	桜見に来ればなるほど二月哉	、御風	交咲や花に雑木の低みたり	、
	、	青雲の見え来る朝のさくら哉	、金沢	笙ふくや花見戻りのまち揃ひ	、
	、		、棹江	さつと吹嵐もよしや月の花	、
	、		、白二		、

人去ていよ／＼白し夜の花、子蘭
 ものに氣のつく年花の殊勝なる、君芸
 こゝあるかけふも田鶴鳴花の頃、眼日山僧 桃溪
 みよしのは雲井のうちか花車、小林 沙麦
 戸明れば山はあけぼのさくらかな、広野 雅亭
 魚のちる湖のながめや花いかに、黒崎 可積
 夕ぐれや花より出る人の声、魚津 太翼
 花盛どの家もみな明はなし、魯山
 我庵はさくらの人の余るかな、文景
 帰るさの友となしけり花の枝、桃屋
 盛なる花より明て鳴雀、芸肇
 初花のかぞゆるほどに嵐哉、周台
 桜哉神仏へもよき次手、越后荒井 如蘭
 朝夕のさくらものうき盛かな、旭浪
 翌来むと思ふうへより散桜、尔芳
 雨に来てうれしや花の東山、新潟 喜年
 雪にかたぶきし庇はいまだそのまゝながら
 花の香も吹こすのみか月の風、高田 几丈
 日はくれて月まだ出ず山ざくら、柏崎 其貞
 山ざくら咲日は風のめでたけれ、長岡 宇瓊
 ちる花をいたみ／＼て戸ざしけり、太史
 手枕に桜がもとの眠気かな、来明
 はつ桜夜雨に枝の雫せり、湛水
 白雲の行かさなるや花の山、佐渡 文雄
 花を詠め水をながむる日ぐれ哉、全
 八隅し、芳野となりぬ花の雲、美濃 千阿坊
 夜桜や我に蛙は何とやら、奥仙台 乙調
 近よればみないとこめく花見哉、全
 散ものにしてあはれ也桜花、雄渕

(一四ウ)

(一五オ)

(一五ウ)

初花のそこらを二日月夜哉、津輕 里川
 花さくやもとの色あるうつせ貝、上毛桐生 蘭皋
 雲は谷にうち片付て朝桜、全
 夢にかたる鬚髯を花の主哉、武蔵青梅 嘯谷
 散花を扇にた、むゆふべ哉、沢井村 龜使
 ちり残る花又松の間より、江戸古学庵 祇徳
 咲花の花の中なる東山、甲斐府中 方居
 葉桜やすこし曇りぬ下休み、信濃下和田 蓬尺
 しづかさや蝶のはさまる花の薬、寛之
 酒売が折てもどるやはつ桜、清花
 山ざくら人に古風はなかりけり、伊奈 梅布留
 我に友あり花に來りて鳥が鳴、諏訪 苦雪
 よき癖のつきし日和や花曇、在信濃 世徳
 つくろはぬ深山桜を初ざくら、肥前長崎 洵美
 我いほに春のありつく桜哉、吾友
 くれ遅き花に泣人けしからず、肥后熊本 潭月
 ある法師の言葉を甘ず
 はつかしき人にもまじる花見哉、吉野川桜渡 可翠
 おなじ世に花は年／＼咲めぐる、柳渡 河洲
 滝川の桜よび出す月夜哉、洛 秋水
 花の雲かならず雨をさそひけり、甫尺
 花の滝美人の顔をそ、がばや、斗雪
 花のため竹の下道作りけり、葦笠
 百性の手拭白し花のもと、八仙
 水雲の輪に入鳥や花最中、梅笛
 居りしめて人を待也山ざくら、桂郎
 夜桜や所の人の高軒、一笑

(一六オ)

(一六ウ)

(一七オ)

(一七ウ)

花衣つかねて嵐守夜かな、玉藻
 花曇はるかに鶴を聞日哉、楓師
 見て通る花にひとつの願ひかな、双南
 雨いとふ衣にひつつくさくら哉、布雪
 あらしとはいへど中／＼桜かな、徳野
 銀燭のうつりも深し花の雲、有国
 衣させぬ里も過けり桜狩、其川
 桜がりさくらにうつる香ぞ深き、砂香
 峰におく雲やしりへて花曇、米子
 花に來て花をわする、山辺哉、其白
 花を出て松ありて又花の中、漢水
 花盛能過る日和大事也、あたふ
 やごとなき身にもか、りぬ花の雪、林鳩
 けふはけふの花ちる暮の嵐哉、駟丹
 常盤木の下より暮てちる桜、百磨
 清水や神と仏の初桜、在貫
 花供養西行庵の隣かな、其成
 人といふ人にあまらぬ桜哉、後楽
 月花と夜はわかれてぞ明にける、百池
 箱根山にて雨ふりければ、芦涯
 わたくしにぬれても見たり糸桜、蘆涯
 遅桜松やもみぢのふとり哉、古塘
 楽／＼と見ゆる桜の山家かな、乙道
 日の影や庭のさくらに餅の黴、田禾
 いつの年も盛はしらぬ桜かな、蒼虬
 遅来
 くれ／＼て桜に残るゆふべ哉、大坂 魯隱
 ちる花も有やわかばの東山、長斎

(一八オ)

(一八ウ)

(一九オ)

(一九ウ)

【注】こより「月の会」

名月や昼ほどものを売ありく 安芸小方 可友
ゆく水のよどむところを月見哉、広島 玉桐

隣から此樹うら見む月の会 出雲松江 繁珠庵

名月や啼やむ鳥の行ゑ見む 筑前木屋瀬 友雄

名月や枕の沙汰は明てより 筑後志津里 仙李

名月や人なつかしき池の面 淇竹

親に似た人の行けり盆の月 其成

草も木もみなぬれ色やけふの月 柳雨(月一オ20オ)

名月や何も流れず角田川 双鳥

大かたは泪目にもつ月見かな 文角

世の中を願ひ過して夜寒哉 龜算

夕風のとまるところか花薄 羨乎

名月やころすませば鳥の鳴 日向美々津 吟龍

月代に牧の野髪のアらし哉 肥前島原 豊草

月に遊ぶ今宵を雲のかゝりけり、三宝 文士

二日月曙に似て暮にけり 伊福 万戸

さればこそ待甲斐ありてけふの月、多比良 几睡(月一ウ20ウ)

秋来見月多帰思自起開籠放白鵬と

いへる陶淵明が竟など思ひつゞけていと哀なる夜

秋の月つらく更て親恋し 万夫

岩に咲花や月夜の浪がしら 楽只

舟かりて月を柴山におくりけり、土黒 吐龍

露宿る草葉に重し朝の月 利貞

雲岫に収りて月の照夜哉 蘭谷

世静に月待空のけぶりかな 桃仙

月のうへありくも月の眺かな 全

名月や見事ことしの藁庇 諫早 文塘(月二オ21オ)

灯ともせば木賊に見えずきりぐす 梅路

かくれ家の障子あたらし後の月、長崎 洵美

誰骨か月の野末に晒にけり 季明

月を見る我に寝時はなかりけり 肥後熊本 箕溪

月照や清き麓のはなれ家 菊池 朝四

更るほど月澄にけり杉の上 碧泉

声立ず居ても淋しや雨の萩 豊後日田 仁里

萩咲や庭にわづかの月うつる 周防白松 春郷

雨ちかき夜や雁金の落る音 全(月二ウ21ウ)

虫さまゝ小島に聞や舟のやみ 和道

月今宵舟には筈もなかりけり 猗竹

鹿鳴や袖が枝折戸月のさす 徐来

秋もまだ蚊柱残る暑さかな 文完

うかれけり月の鳥の夜もすがら 女薩

夕ぐれや鳴さへうせて岸の鐘 路丘

そば雨に野菊みだる、小道かな 蘭那

野になれて鳴子のもとの鶉哉 梅曉

はぐかりもなき夜歩行や虫の声 李流(月三オ22オ)

小夜更て茶がまのたぎる夜寒哉、亡人 羽仙

露おもき草のしをりや鹿の声、名多島 報世

片手艫の舟のいくばくぞ月今宵 阿波西分 羽角

月影にかゝえてもどる菌かな 羽大

早うちつゞきければ 芝峰

世の中は月より雨を待秋ぞ 讃岐 芝峰

蒲団着て寝た山よりぞ後の月 近江八幡 芳志

盆の月あまりにのびし草のたけ 柏翠

石川や流もきよき月の船 舟橋 可卜(月三ウ22ウ)

待宵や曇れど通ふ月の脚 伊勢寺方 里朝

竹の月竹吹ぬれば雲のゆく 相可 有栗

名月や玉の中にも居るこゝろ 津 理玉

名月や底もあかるき伊勢の海 伊松

後の月鳥の霜ふむ夜明かな 睡雨

ひとつかみ野萩折来る月見哉 安部 古同

鳴鹿に三笠の山の月くらし 維石

月出て楓もみゆる山路かな 少年 蘭兮

雨の月たゞ木屋の匂ひけり 前田 居平(月四オ23オ)

ありあはすものとはなし月の客、朴所

残菊や夜明く月の宿 松坂 惟己

こしかたは皆月夜也秋のくれ 雲出 青川

松二木いざよふ月の伏家哉 大塚 烏翠

川こえて鳴たつ里の日ぐれかな 杜屋

旅人の身にありがたき月夜哉 田禾

笠のうへゆく浜萩の声 烏翠

ねぢれたる軒も直さず秋暮て 杜屋(月四ウ23ウ)

おもひくゝに湯漬してくふ 禾

大年もしづかに雪の積る也 翠

焚あまるほど柴をもちこむ 屋

又と来ぬ姫路の伯父をとめ置て 禾

明石の蛸のとれる西風 翠

曙のうつすりかゝる松のうへ 屋

門までゆけば楽のはじまり 禾

焼めしを面々の腰につらぐりて 翠

岩の鼻から筏すべらす 屋(月五オ24オ)

卯の花がさけば忘るゝおこり病 禾

何か袂にかくす月影 翠

ひいやりと塗戸に背を打もたせ 屋

露に餌ひらふ鳥を見てゐる 禾

川こえて又一村は花もなし 翠

霞のおくに螺貝をふく 屋

どこもかも護摩の匂ひに冴返り 禾

16 享和三年『花供養』

底本 岩見本
校異 綿屋本

花供養

【校異】岩見本に題簽はあるが判読不能。綿屋本による。

(原題簽・表紙)
(表紙見返し)

花鳥風月の興何れか勝り何れ

か劣れりとせん。されど心もうきたつ
物は春の気色にこそあめれ、と古人も

いひ置けるぞ。実まこと東山芭蕉堂の花
供養は、しるも知らぬも車馬を連ね筆紙

をやとひて、数くゝの巻も短冊も文台に
満盈たるを例のごと梓にのぼされ

たり。予がみじかき才いで其是に筆
とる事罪恐しけれど、好る道のゆるし

をひたすら念じかへして祖翁の像前に
頓首百拝す。

享和三のとしやよひなかばの日

西湖 素人誌

(序一ウ)

やまかげやさくらみだるゝうすあかり 葦笠

巢になくとりもはるのよごゝろ 蒼虬

みづぬるむたらひのとじるすでに、 五来

はらりとおつるのきのさしかや 百池

田禾

馬印

ふたつみつようじはなしてもどるなり

かはのせばさにさほまはらぬ

(二ウ)

ぐそくきて月見るかはのはぎすゝき 古塘

ふいてはやすむもりのあきかせ 月峰

ほんずきはしばらくとれぬすしのうを 馬蓼

白子のまちのたちいへをかふ 阿年

ひとしきりかさもさゝれぬざんざぶり 芦涯

かさねてわたすはこのさかづき 在貫

くろかみにほそき菖蒲をひきむすび 春峨

あはれさまじるよもぎふのこひ 乙道

さしかゝるあさひにとびのなきかけて 俗李

としとりものにしまの船待 銀橋

ひきまはす屏風におひのめをさまし 百磨

あきあともなき根来同心 青峨

月花にしそまくつちをほりかへし 八仙

けさはかすまぬ榊巖のかね 玉桐

しきかへしたゝみのうへもはるくれて 喜鶴

よごれてとゞく庄内のおみ 梅笛

のひらにとればあられのきゆるなり 驪彭

(二オ)

たきものゝうすきにほひをかきさがし 烏頂

なにちがひてもふえはかへさぬ 漢水

右一順下略

見てゐればめにしむものよやまざくら 筑後久留米 文角

みにうけてながむるはなの日かずかな 羨乎

ふつか見てかなしうなりぬ山ざくら 双鳥

おのづからかぜもつはなのはやしかな 惨然

山ざくらあすのあはれをさきにけり 筑前瀬高 一翠

はなにかぜさればみをきるおもひなり 姪浜 喜水

ちるとみしゆめはさめけりはなのかけ 魯々

見あるけばはななきさとはなかりけり 霞梅

とりさへもさくらにすむ山かづら 起悦

ふきはらふべきちりもなしたまづばき 筑山鹿 瑞芝

やまざくらたが敷柴ぞあたゝまり 飯塚 可都美

みづにうつるやなぎは人のかぐみかな 如璞

さくはなのうしろそびえてかしひのき 瑞水

(三ウ)

(三オ)

ゆふづきやさくらかざして人とほる、梅江
やまかげやひとときのさくらはるたける、梅枝
ちるやはながれしからむ木曾のふち、輝白
しばのくにふきこむはなのふきかな、雪香
はなのゆふべたがつまことぞ嵯峨のおく、知井
まくこえるをんなのこゑやさくらがり、楚艾
きくもさくら見るもさくらのうきかな、春河
ほの見えよなはしろみづのあまのがは、詩笛
みをつくしまてばふかれてゆくつばめ、梅路
はたうちやおなじことしてひもすがら、文塘
かけまはるきすのこゑやあさぼらけ、壺岐 其冠
ねこのこひとなりさびしきつきよかな、肥平戸 李薰
さきみづるはなにあらしのかりけり、長崎 吾友
おほかたのはるをまかするやなぎかな、分風
うぐひすのくちばしそぐかけひかな、祥禾
とり井よりおくにひのさすさくらかな、洵美
ふるでらやさくらにかる須磨の月、肥後八代 野梅
ひばりなくそらをのこまのねぶりかな、山鹿 眠石
しらうめのちかきはさむきあらしかな、羽人
いばらにもつくひすのなく二月かな、豊後日田 葵亭
はるのたにあならぶかりのうしろかな、有篁
ゆきどけやいそにいづればはるのみづ、豊後 春坡
ちりそめてひるしづかなり山ざくら、周防白松 和道
水にちるひとさくらのかるげなり、備後福山 杜陵
よしやわれくるればくれてはなのやど、羽白
いはのとをたくやはなのあさぼらけ、樂水
おもひねのあかつきさくら見たりけり、備中倉敷 里芳
人のきもほどけそめけりいとやなぎ、佳文
はさくらのなかにひとときはなみかな、川布
あけぼのおもふてでたりはなのくも、里桂

(四ウ)

(五オ)

(五ウ)

つきのさくらくもふくほどのかせはあり、寄人改 箕俣
つきさしてひとさくらとみへぬなり、在倉敷 居然
山かげや屋のむねこゆるちりつばき、備岡山 幽雅
おしわけて見ればきもあるやなぎかな、安芸小方 可友
てふるひておひのつき、ぞおぼつかかな、全
あかつきのあめはあとなりはさくら、播磨姫路 寸草
やまざくらこぐちはひばりきじのこゑ、頼木
ちるはなのひまなく見ゆれ山ざくら、栗堂
きしのはなちるとものこせみづのおも、明石 東貞
つきとわれとふたりになりぬゆさくら、桃下
ひとつ屋のやねまではなと見ゆるかな、播磨 五草
あまが屋のあいにあれどもやなぎのき、兵庫 秋湖
はなのやまかねはよにいるばかりなり、五調
うぐひすにたかげ見ゆるつきよかな、呉来
まきのとほくらぬものをはるのつき、桐栖
ゆくはるのかたみははなのひまげなり、浪花 奇淵
まつたくやつこもりころのよるのほな、大和 子来
よのなかはうめにはじまる夫婦かな、桜渡 可翠
おほかたのしづとなりぬはるのゆき、柳渡 河州
あけぼの、ひうらかたけやはなのくも、池田 瓜坊
たちめぐりくつきうめがもと、浪花 里山
はなになる日やむらぐものこほれあめ、鶯雪
からさきははるかぜを見るところなれ、全
よのなかのさくらはちりてふちのはな、全
みやまへやふじゆうははなに見へざりし、買風
しばのひのたぎえやすしも、のはな、秀里
はらくにはたうちかすむひよかな、讃岐姫浜 桃里
もるひとにとがめられうそゆふさくら、阿波 春峨
のみやを見るまさくらにわかれけり、淡路 青岐
おしあふてそはもよれぬさくらかな、河内楠葉 一笑

(六オ)

(六ウ)

(七オ)

(七ウ)

さきそめてひにくれけりあらし山、舟橋 可卜
よさくらやどふかとさうりはいて見る、丹波梶原 慶々
どふ見てもまつにかぜなしおぼる月、野村 古遊
ゆらくとはなにつきよの女中連、中山 清茂
はるのつきたゞひつそりと水のゆく、国領 寛枝
たちあがりくつ、かへるかり、大山 武陵
ゆふがらすねつかぬはなのやさかな、但馬船谷 五含
るふさきやうめはわかばのあさげしき、因幡 大蕨
やぶいりや奈良ざかこえてたちわかれ、大塚
やまざくらこのさくらまであゆみけり、かゝ金沢 我々
ありあけのけしきなりけりはなのくも、素羽
くれきらでつきのさしけりはなのやま、階涼
あめのはなちるにはしなもなかりけり、蘭阜
よさくらややへもひとへもひところ、暮柳舎 車大
ひとつきをひとつきばかりはなぐもり、石叢
かいだうや人ゆるすにはにさきあまる、兎文
月おぼろやまあひにかよふとみかな、高松 自明
をかへ出てかりのせを見るなこりかな、金沢 蘭史
ならざかやひとのなかなるきじのこゑ、三京
ふつちるさくらなにもなかりけり、嵐堂
くるときころのこらずはるのくさ、友樹
くずうをのあさせにとぶやはなぶき、文溪
きて見ればさくらのなかのさくらかな、卓丈
めさきよりふりかりけりはるのあめ、乙彦
うそこみによのきのえだもさくらかな、寄鳥
さむきことがてんでねたりたのかはづ、鶯青
たゞてにてかへるもあたらさくらかな、百風
くさのとはみづとかはづのかぎりかな、文章
おきくやはなのかほりにをりまどふ、在金沢 凡丈
かせふけばいはばなよりもあけびばり、古且

(八オ)

(八ウ)

(九オ)

あれのさきいまやさくらのかたあかり 金沢 蘭吹

くもるひとてる日ときしのへだてかな 杜月

かせとさへなるにくれゆくさくらかな 文苔

のころしのひとつふたつにはるのゆき 呂戎

うめがのわすれやすきもはる日かな 槐庵 雪雄

よひのつきばつかりとめはづくら 本吉少年 陸海

のさくらやあさくはなのしづくする、 春輝

しばらくのいとまほしやゆふくら、 己百

あめかせのすがたもみえぬさくらかな、 旭山

ちるはなにてふのまぎれるやまちかな、 可由

さくはなにそひえてなきしからすかな、 遊方

ゆふぐれをうしろにもちてはな見かな、 帰一

はなのふにいろなるころなりふつか灸、 都園

しらふぢや見てのころのおくもあり かゝ 御風

よをこめてさむかせちかしきしのごゑ 金沢 赫之

すえかえるけしきは見えすゆふひばり 魯童

しらはみはうらははななりむらつばめ、 九江

よのさくらそれほどやみのひろきかな、 枝川

うぐひすのゑおろかなるさくらかな、 六明

みちのべのやなぎにかゝるはるのみづ、 固来

はるのゆきいへにのこしてはたけうち、 蒼芝

やまぶきのさいていはらははなれけり、圃辛亭 甘谷

まつのはのひとしづくよりはるのみづ 越前丸岡 甫立

たびびとのおりてわするさくらかな 能登黒島 加由

はなのくもなぐれてうみのひかげかな 曾良 岸芷

ひとのきてわれも見に出るやなぎかな、田鶴浜 改玉

あしひきのやまよりあくるさくらかな、 舩路

よかんとも見えぬやなぎやなにはがた、 几山

ゆくはるをおやこしてなくすめかな 越中富山 嵐丈

ひもなかなはころゆるまるさくらかな、 如岡

(九ウ)

(一〇オ)

(一〇ウ)

しらうをに目のうつるこそおもひなれ、 蓬山

よのなかはこれにてすぎよはなにとり、 乙峰

網台に海馬啼はるやおきげしき、黒崎 可積

我すめるところにさくらあり。としふれども

いまだはなも見ず、さくときはいかばかり。

めでたきはなにやあらんとおもへば

ものにさへまつまははなとひとのいふ 越滑川 君芸

としくやよはあたらしきはつづくら、小林 沙麦

はなのやまころのほかにいる日かな、魚津 大翼

はなのあさたにまへとくひとのかけ、 魯山

さかりなるはなにもたゝく木魚かな、 芸肇

しのびあひてもどるたもとにちるさくら、 杏邑

たきのみづかるうおばえてさくらかな、 文景

松守のならべてあけるさくらかな、 桃屋

ひとごとのはなれかげんをはな見かな、 周台

ありあけのかねうつくしきさくらかな 越荒井 如蘭

かみかきのそといくさとのはなつづき、 梅旭

つきのもれいづるがとしゆふくら、山谷 朝雨

おしろいはこかげにいやしやまざくら、 松駐

くれてまうはなをたちくうらみかな、小国 波静

はなのおくつめたきみづのながれけり、目来田 里竹

あめかせをしのぐいるありはづくら、柏崎 平水

あをやぎのかたよりはるのひぐれけり、 其貞

はるのつきゑひしをんなのとはでかな、 玉宇

くる日もあさ日もをしきさくらかな、今町 其徑

山ざくらさいて三日のつきよかな 信濃下和田 寛之

よきみづやをけのつじのはななもち、上田 半古

とほめにももよりたかきいへはなし、 争茂

ちるはなやみづにはしふるみやこどり、 麦二

ほねしばのなかりでたりはるのくさ、 三机

(二一オ)

(二二ウ)

(二二オ)

(二二ウ)

うぐひすのねもころになくゆふ日かな、飯田 何頼

たいうりのひよりくさくらかな、 李三

のせりののはてはきにけりやまざくら、 文和

ゆくかりやうしろにはなをもちながら、 橘良

ひざくづすはな見わりなきむしろかな、 蘭二

このころのつきよにあはではるのゆき、塩名田 文花

このころいくつもあれよはなにとり 在信濃虫倉 世徳

かりたつてさびしきはるのあさひかな、伊奈 梅布留

はるのつき山家のつきとは見えぬなり、飯田 蕉雨

ひばりなくやものうひよきくさのへ、 壺伯

うぐひすのみにからまるこゆきかな、 以三

はるのかぎりかはつなくもはがゆしや、 除芥

つきはなのはなにもあへりはるのつき、 三都良

いまいで、ゆふぐれをなくかはづかな、諏訪 草龍

ゆかしさやさくらがもとのすてひがき、下諏訪 龜齡

やまざくらかほにさはりてくれにけり 上毛小暮 也蓼

あけぼのやはなにみやこのともこひし、大原 麴舟

門前屋あめのさくらのものしづか、 青蒲

あめのはれをづけてきにけりはづくら、惣社 土虬

そらふかくはなにくもりしよあけかな、 白燕

きかばやなはなにみやまのかただより、 梅雪

あめならでさくらの日よりくもりけり、 清卒

いるつぎのかげうとからぬさくらかな 元惣社 龜遊

なくかはづ御手洗はさむきよあけがた、藤岡 竹二

ふるゆきにくろをおくはるのとり 武蔵 川風

ふるゆきやとばかりはるのぬかりみち 東武 半夢

なくかはづよはふけにけりいへの角 甲府 方居

かひかねのはれたつまちやうめのはな、 嵐外

はるのこぐさあるひははなのさくもあり 奥南部 琴台

あらましはるのことすむつきかな、二本松 乙調

はなちる日頼にうまれしかひありや、八戸 文兆
 わかれんとおもへどはなのゆふべかな、鬼彦
 うすづきはなにころのうかれどり、梅眠
 ちるはなにあふさかえて見たりけり、来二
 やまざくらつねは雑木と見られけり、常山
 はなにゆくころはふたつひとつかな、采水
 ちるはなにころおとしてもどりけり、舎来
 かくれたるひとゆかしければなのかげ、仏平
 はるのみづとりなくかたへながれゆく、一ノ関 東籬
 ゆくはるやつく見たるそでのすみ、杉田駅 秋香
 あくるよのだいじとなれりはつぎくら、津軽 支三
 にはとりのこゑにもうめの日よりかな、史来
 はるのかりみづたにこゑをうつしゆく、里川
 うぐひすやにげてひとこゑそのおく、常陸笠間 有友
 かさとればしきりにほふのうめかな、帰厚
 ひとつもせばよるもさくらほちりにけり、三河岡崎 岱呂
 ゆきどけのひもむらさきのみやまかな、相州小田原 春人
 はなもりのみにあまりたるつきひかな、遠州原川 可月
 つちはしのくづるころやはなざかり、久喜が浦 雄之
 ゆふざくらおるもころのあまりなる、演之
 よをすでにいづればはなのさかりかな、伊勢寺方 里朝
 日くきてあめのひもさくらかな、津古川 理玉
 ふくはらやはなちるまでのほろの宵、津 此君
 けさからの雨間やはなのさきそろひ、花明
 よるはよるのころうつりぬさくらがり、蓼花
 つきよしさくらがもとのひとのかげ、木槿
 江のなみにはなあるかぎりうごきけり、蘭啓
 まつのまはつきよとなりてちるさくら、イ松
 はなさかぬきもゆふくれてなくからず、其仙
 はなふんできじのなくなりゆふづきよ、栗人

(一四ウ)

(一五オ)

(一五ウ)

めのさめるさくらのものあらしかな、竹奥
 かつちるもさかぬもはなのさかりかな、蘭堂
 またとなきさむきよにちるさくらかな、松峰
 らくくとはなにねにけりだうのすみ、前田 朴所
 見るたびにおもしろなるさくらかな、大塚 鳥翠
 うめがやねるもおきるもといちまい、山田 南江
 人のかふいへ見にゆけばうめのはな、四日市 眠五
 わかくさやみづますふねのつけどころ、伊勢 市山
 うぐひすのをりをなをりたるしほきかな、山田 四溪
 それくにはな見のとものはな見かな、若州 千好
 ゆくはるやしかのせをこすほけのはな、近江日野 芳林
 かぎ見ぐさてふはゆめ見てにげるのか、可徳
 やまざくらころりとねたるよさがりを、松羅
 はるのみづまつに日おちてさむげなり、素艶
 はるのさと奈良にとなりてのどかなり、淇竹
 なはしろやとほくなりたるゆきのやま、八幡 芳之
 きじなくやあけしづかなるうみのうへ、柏翠
 かぜ見えぬひをあらためてはるのかな、都水
 みづほどにしづけきさくらのさくらかな、西湖太田 凡旧
 ともしびのちらりとはなにあらしかな、寄竹
 ありあけのかげにあつまるかはづかな、梅之
 はたうちややまがはひとのきもながし、二鶴
 はつざくらふつかはつきもなかりけり、素人
 ことしははるのはやきさとやま、田禾
 すゝりひくやどにひばりのなきなりて、圃丈
 ぬかみそしるのさめるゆふかせ、獅丸
 しよくのひのちらくかゝるかきつばた、百痴
 すそのちまるるかたびらのしは、鸞尾
 ねりものまたひとならびとほるなり、九花

(一六オ)

(一六ウ)

(一七オ)

(一七ウ)

きすごうり出すこゑぞうつくし、桐川
 じりくともやはれたるあさの月、禾
 をきはそよいでとりわたるそら、人
 むねいたきおもひにあきもせまるらん、丸
 うみこえやまをこえてこひする、丈
 あしの屋のあるじにさけをす、められ、尾
 かぶとた、いていさむあかつき、痴
 このごろのかみもほとけにもぎはひて、川
 こてくかねをいたすこさいふ、花
 まきこまをひきならべたるはなご、ろ、人
 五形すみれにゑとのちかよる、禾
 はるさめにはるさめしふをおもひたち、丈
 ひさしぶりにてをひのとひくる、丸
 うはしきにくすりのなべをうちかへし、痴
 あけるかとやにとりのはた、き、尾
 きぬぐにこつくせいてひとのゆく、花
 なにやらしれぬそでのたきもの、川
 ありがたくしよのとうじにさけたべて、禾
 かきなぐるゑにわらひだしけり、人
 ものにつくひるのねずみをおひまはし、丸
 けふもちやうすをひきさしておく、丈
 はたばこをつりかさねたるつきのあき、尾
 つゆにかちけるきくのすてうえ、痴
 かきゆふてしまへばむしのなきいだし、川
 ひぎのくまれぬも、ひきののり、花
 よどぶねのまほにかたほにゆきちがひ、人
 かすみのそこにめばるおほむぎ、禾
 としぐにわかぎのはなのさきそひて、丈
 こもりてをしむはるのあけぼの、丸

(一八オ)

(一八ウ)

(一九オ)

うめのきもおほるもよほすぬくみかな 近江船木 獅丸
 ゆきすぎて見ればつきありゆふざくら 鸞尾
 さとく／＼のすゑはくもありきしのこゑ 桐川
 けふもまたきのふのはなにくれにけり 湖夕
 いさりするためときしのやなぎかな 素笛
 やみのはなほひそれ／＼さだめけり 九花
 もどらんとすればさびしきさくらかな 素人
 さくらちるうしろのやまのころつき、音羽 田美
 かねのなる方にはなありゆふづくひ、高崎 文山
 みのりきててもありけりはなのやま、籠山

はな供にまゐりあひて

ありがたき香のほひやあめのはな、大溝 一居
 みやまちやはなをしるしにかけまはり 近江海洋 不然
 からすよりよのあけそめてもちどり、三井寺 千影
 うすづきのよりさきけりはつぎくら、大津 佳綾
 やどとりてはなさくさとのよひねかな 蓬皐
 やまどりのねぐらあらそふさくらかな 又呼
 あさ／＼くらしづくするまでしづかなり、史明
 くさもえてねこのなきるふるとかな、杜陵
 かぜさきにふとぶまつのはやしかな、芹溪
 うつくしきすがたは見せずきじのこゑ、嘉陵
 うぐひすやひとこゑうつすまつのうへ、推叩
 たきのおとそれとおもはぬさくらかな、流霞
 やまぶきのちるひまであめのふりにけり、宇洋
 やまびこのはなにかくる、ゆふべかな、五来
 とはやまやはなのあめよりひのくる、走井 烏頂
 こゝろなくひきやくはすぎつはつざくら 浪花 東阿弥
 けいせいがいさつ／＼つなぐやなぎかな、嘉輔
 はつがすみまだはるしらぬものいろ 三河新城 如竹

(一九ウ)

(二〇オ)

(二〇ウ)

しらくものかすりかゝるやはつぎくら 洛 百池
 くま／＼にかくれぬものやはなすみれ 乙道
 みづもらふいへのうらまでさくらかな 布雪
 こまつまでのりほしわたすいそやかな 阿年
 やぶいりのつきに出てみるのづらかな 俗李
 とりなくやさくらのなかのひとついへ 馬蓼
 とびすゝめからすもないてはなさかり 八仙
 はるかぜやいくつもわたるかものは 喜鶴
 はなさかりおへどもとりのおどろかず 銀橋
 ひとむらをにぎやかにするやなぎかな 斗久我
 わがやどもとほくみえたるやなぎかな 梅笛
 くらきうるさとおひきのさくらかな 玉藻
 ふるさとやいへのあはいのすみれぐさ 一笑
 みづにてのとゞけどたにしをらぬなり 双南
 見て居ればしづかにうごくさくらかな 玉桐
 ちりほこりみなしづまりてよるのはな 亨
 こゑとほしくものうきよのはなのとり 駟丹
 ぬれかしく／＼つてみるやあさざくら 漢水

(二二オ)

(二二ウ)

とかくしてことしもさくらちりにけり 日枝僧 秋守
 いとゆふやひのおもきよりむすぼる、あたふ
 ゆふばえのよそほひふかきさくらかな 林鳩
 ひのはなのあさひのまへのさくらかな 月峰
 はなの後のやまよりおつるながれかな 古塘
 あらしやまにて 青峨
 をんがくやはなに手をつくあらしやま 春枝
 さきそめてちるまでをはなのさくらかな

(二三オ)

おくやまのさくらしづかにちりにけり のぼる
 はなくやう十ぶんならぬつきもよし 其成
 しばやまにふたきともなきさくらかな 芦涯
 たに／＼も正月らしやうめのはな 馬印
 いとほどなきにもはなもつきくらかな 田禾
 からすさへうめにはづれぬにほひかな 在貫
 かさねぎをやめて見たればはつぎくら 土卵
 かねのねのひろがるなやなくひばり 玉洋
 つきをさへたのむけしきやはつぎくら 蒼虬

(二三ウ)

御幸町錦小路上ル町
 京都書林 勝田喜右衛門

烏丸通下立売上ル町

勝田 善助 梓

(二三オ)

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

あめになるはしよかはづのやぶになく 山崎 白人
 やまざくらもときしみちをわすれけり 橘栄

17 文化元年『花供養』

底本 高井本
校異 綿屋本
翻刻 福井県古俳書大観 七

花供養

【校異】高井本は題簽を欠く。綿屋本による。

(原題簽・表紙)
(表紙見返し)

夫、南無庵の居たるや、座左
には鳧水の流ありて、春は霞
をひたし、座右には東山の景
ありて、満花園にかんばし。

実や何国の春もおしなべて、或は
東野に吟行し、或は西郊に詠
歩す。そが中にも此庵の風雅を
したひ、千里を遠しとせずし

(序一オ)

て笠をかうぶり、草鞋をしめて
来る人々のいやましつゝ、ことしも
すでに花供養なれり。小子も

厥末列に連りて、ともに厥雅
調の下響を楽しむ。まことに
祖翁の恩沢浩ならずやと、稽首
して白。

文化紀元甲子春 執古堂葦笠 (序一ウ)

たくさんにはやくもみゆる桜哉 武陵
やけ野の岸をこゆる朝水 蒼虬
燕の巢もおとさずに家ひきて 鷺少

ひとりくゝに蓑をあてがふ
やうくゝと百にそろえる木の葉鰈

船出す日なき暮の薄月

茶の湯者の庭に小萩の散かゝり

足袋さうくつにうそ寒き也

千住から糟壁までの一縄手

虹のきゆるもしらぬへら鷺

柴の戸も藺を刈ころはねむたくて

さむらひの子のものを読をする

朔日のすくなき酒を打こぼし

百万遍の屋根におく霜

梟の啼にも君をうらみつゝ、

扇こがして明るたきもの

あさがほの咲まで月のちらくゝと

露にかたぶく実方の宮

いはけなく地をはひありく秋の蝶

牛追ふ声に夢はさめぬる

曙の川瀬に花をせきとめて

春とてかすむ宝輪のかね

からかさをつたゝめば蟻の身にこぼれ

人のあづけるむしろ四五枚

折くは哀のおほき関守りて

かたわに咲る霜のなでしこ

をし鳥の腹するほどの雨流れ

遊行の興をしばしすえたり

盛かへて来るも粟飯麦のめし

あとかたもなき頬のはれ物

最上にてわかれしことをいひ出す

見るたびくゝにちさき御仏

草鞋のよきほしめる月の露

阿年

芦涯

玉屑

其成

月峰

在貫

馬印

葦笠

荷屋

玉洋

玉藻

八仙

五鹿

白黛

漢水

其白

孤石

斗雪

岱李

驪彭

宋也

千代道

有人

国雄

布雪

乙道

百磨

雨鵲

玉桐

やせし芒の早う穂に出る 喜鶴
鶉のこそくゝ通ふ藪の中 梅笛
はやくも過る七十の老 百池

右一順

(二オ)

藪中やひと雲ばかり山ざくら 大坂 長斎

一すぢは仙洞様がいかのぼり 文頂

晴天にけしき作りて帰る雁 飛良

かへる雁八月よりも寒げなり 吾雀

雨しげし春のかくる、蓑と笠 春思

おくそのなき風情也桃の花 買風

雁啼て又夕ぐれの余寒かな 兵庫 五調

夜の花ふたりほど来て語りけり 桐栖

水うねくゝ柳ゆらくゝ夜の明る 堺 芦堂

さし持の樽もまくらや花むしろ 大和五条 土也

虹きえて薄くれなゐや夕ざくら 熊野渡り浦 我青

正月といふほどほそき柳かな 河内富田林 甫六

一もとの咲とちるとのさくら哉 城南高木 貞雅

夕風や六田へ流す花雪吹 宇治 泰峨

はや露のみえてゆかしや葦草 烏江

雨はれて寒う成たる桜かな 桐岡

花咲やうしろの山も花の山 馬州

松かさの煙とゝかぬさくらかな 恕裕

みよしのや桜定むる人はなし 近江水口 蜷州

山吹を折気になりし小雨かな 平松 亞溪

ちる花にそえてふきとく霞哉 しろ

菜の花やこれもちる日は山桜 日野 素艶

手をうてば魚鳥馴よる桜かな 松蘿

一枝もわが背のたらぬさくら哉 齋老

(二ウ)

(三オ)

(三ウ)

(四オ)

山吹や花のうへよりおくり膳、八幡 芳之
鶯も地をありく也花の塵、柏翠

日中の影となりけり木蓮花、蘭之

灯のもる、家をたよりや花もどり、走井 烏頂

皇の空やぐるりと花桜、三井寺 千影

土器をうつぶせしも花の名残哉、大津 蓬皐

花ながら着物おしこむ袋かな、流霞

柴の戸や明るところに花重、宇洋

からかさの上行春の千鳥哉、五来

夕月に又見てもどる桜かな、堅田 文常

朝／＼や志賀の煙は花のぬし、友鹿

はつ鮎のとばしる水や板畳、籬邑

二三ほうけの跡の椿かな、太溝 蛙石

東風吹や日の影低き麦の原、無禁

道つくる人もある也山ざくら、梧月

水近き所から早き木の芽哉、一居

草の戸に遊ぶころ也帰雁、音羽 田美

うぐひすや小鍋ほしたる藪の前、野田 龍山

横たはる枝から梅の咲にけり、鴨 稻渚

しなかへて雨に見に出る桜かな、万木 砂文

軒の塵払ふて見るや初ざくら、途中 木容

又ひとつ寝に来る鳥や山桜、和秀

花守の夜は寝られぬと申けり、一溪

夕柳朝のけしきにもどりけり、藁園 凡旧

松のおくなほ春らしき子の日哉、梅二

春の水木の根／＼にもたれけり、麦二

もの、いろみな春雨と成にけり、舟木 獅丸

涅槃像古きはもの、めでたけれ、鸞尾

真向へばまばゆき花の山路哉、桐川

物音は山のあなたかおぼろ月、鳩人

(四ウ)

もの影の動くやう也朧月、湖夕
思ふほどには見つくさぬさくら哉、素人
上賀茂や古きに似たる柳陰、太田 瑤雀
畠から鐘聞てゐる彼岸かな、乙鶴

中／＼に夜をいのちのさくら哉、伊勢前田 居平

此山やしばらく花の朝ぼらけ、一之

花の世を烏の告る朝ぼらけ、寺方 里朝

あざやかに見ゆれど花の夜にうつる、四日市 眠五

見てゐれば動ぬ花はなかりけり、津 涼花

わが家を高うながめて朧月、花秀

谷こえて里の梅が香通ひけり、女 梅露

仰向に寝て髭ぬくや春の雨、一身田 牛一

よく霞む春やことしの松の内、尾張 梅間

ぼつたりと煤の落けり花の留守、相模五柏園連 南謨

曇りても降ても吹てもさくら哉、江水

なき人を杖に桜の山路かな、樗風

咲花にあかぬこゝろを水の果、松調

夕影やさくらが丘のぬれ仏、五卜

さくら／＼山のあるじはあるなるに、母節

世の中や花のあたりの裸山、路丸

初花や幾夜の夢の行もどり、浦唄

君が代や／＼とて糸桜、輦玉

ちる花やいかにも鈍き下り船、兎夕

花の日や聞はつりたる三井の鐘、文的

いやましの花の雫やふもと川、花調

水底のおぼつかなさよ遅桜、六元

花盛三日の月の足はやし、浦夕

山深し桜咲日の雲のあや、乙芦

(六オ)

花ざかりいつもかはらじ谷の水、川画
花の山扇をひらく人もなし、線水
さくら／＼こゝろに着せん墨衣、岩芦
山桜いつかの人に逢にけり、文丈
人里は夕告鳥や桜がり、里旭

花の雪ものもたぬこそうれしけれ、芦尺

花曇超の声の果のなき、正二

咲つくし散つくしても桜々、丈水

漁父もどる浦しづか也夕霞、上毛大原 青蒲

柳陰月の小川にあまりけり、安房江見 松夢

山川に朝日をしたふ小鮎かな、奥南部 梅笑

永き日や我に井一田三反、北溟

朝葦等閑ならぬ日のかゝる、津輕 里川

春の月朝日ごろの夜也けり、桃仙

さくらさけ十日あまりの宵月夜、文石

人近く鳥は寝にけり梅月夜、信濃南原 知足

いたづらに雉子の啼立麓かな、志耕

春の夜の不二を見あぐる在所哉、上穂 汝蘭

夕ぐれや松と桜の山ふたつ、善光寺 文兆

山の馬は人食ハでよし花の道、希言

春雨のことしは早し草の宿、松本 雨曉

菜の花の盛や昼の鐘がなる、可考

寝過して降出しも見ず春の雨、上田 半古

うぐひすやよく／＼聞は苦もなくて、伊奈 梅香

雁行てごろりと芦の丸屋哉、飯田 何頼

栈やかけはしや鳥雲に入、蕉雨

分入や東雲ごろの花ごゝろ、越前丸岡 甫立

霞の中を馬の啼里、里晴

霞の中を馬の啼里、里晴

霞の中を馬の啼里、里晴

(五オ)

(五ウ)

(九オ)

(七ウ)

(八オ)

(八ウ)

青畳青き匂ひに春くれて
白木づくりのもの、手軽き
さばくと埒の鳥の月明り
五十は旅のおちつきし秋
岡崎の祭過行水澄て
朝く風をしのご棕の木
藤籠のふち引のばす竹柱
素焼茶碗のおとなしにわれ
舞扇入道殿へまゐらせん
一時雨づゝくる月影
片よせて積たる船の炭俵
何ぞといへば妹が精進
陸奥は恋にこゝろのやすき哉
どこから見てもおなじ山形
遅桜塩たく煙うちかゝり
眠がちなる春の狩人

丹柱 友甫 文蘿 霞耕 素更 石溪 江翠 度柳 画風 一透 素涼 一吼 虎角 雨鶴 龍至 筆
(一〇オ) 直人 僧 霞耕 石溪 虎角 江翠 丹柱 一吼 里晴 度柳 友甫 一透 文蘿 素更

人去て花と我との夕かな
花の人と我も呼れん杖と笠
山寺や鐘つくうへの春の月
三日月や末たのもしき花の春
梅が香や水音ほそき夜の庵
人去て桜にくるゝあらし哉
山寺やけさも寝て聞雨の雉子
みなもとを見れば梅あり野辺の水
青柳の浦となりけり一在所
鳥さへ柳を立ば名残かな
大雨に柳とらるゝ日ぐれ哉
春の水見入て居れば流れけり
此花に生れおくれて這子かな
散花も見たしちりなば春でなし
朝かげの垣の戸あさし齋うつ
山ざくら巖にあつてさわがしき
鶯にかわかぬ外山たなぐもり
畑中の木も花どきは詠あり
猫のこひいくつも鳴て別れけり
陽炎や草たちばなの古葉より
つんまりと家十ばかり花のおく
永き日をしきりに雉子の遠音哉
白雲の吹定りてみねの花
春雨や人ぼつくと紫野
帰るかと思ふ夜もあり雁の声
花二木うゑて月みる二夜かな
としぐにむかしの日あり花盛
素涼 龍至 仙草 千好 井角 文章 五含 釣淇 鸞橋 柚蓮 大啄 桃丘 魯縞 蘿木 犁松 棹江 赫之 一川 五郷 松斎 蘭吹 魯童 我々 階涼 素羽 槐路 車大

川ひとつあるばかり也雉子の声
花の塵吹やよし野のつるべ鮓
三井寺ははやく更たり春の月
二日より一日がよきあか椿
おぼろ夜や月に五尺の柳陰
道守よ垣引おこせうめの花
花の宿ひとりものうし夜のいめ
物おとについて鳴なり猫のつま
咲花のかたへは滝の水けぶり
水いそぐやうに流るゝ春の風
谷あさき里の朝氣や初ざくら
山ざくら盛あらそふけしき哉
ながき日やいづれの鳥と見定ず
尋来るふもとの家や山ざくら
吹分る風にいろあるさくら哉
山かげや手にむすびあふ花の水
初ざくらゝのびたつ日となりぬ
酔のきかぬものにも似たり雨の花
雛の後宴をあそぶ里の子
ふたつみつ蝶の出て来る垣ゆふて
ちかきところの山のかねなる
つぼくと月にかさなる石のたけ
こそりおとする鹿の寝がへり
世をすて、こそ見定め秋のくれ
小鍋のつるをかけるをり釘
二三日山田へ船をかしてやり
初夜のかしらにおりる涼風
陽炎となるやわら家の朝けぶり
友樹 其如 素朗 乙彦 秋侯 雪雄 自明 攻玉 文路 李溪 几山 赤斧 李之 加由 魯石 玻井 岸芷 三枝 田禾 魯鳥 路月 二尺 馬城 としを 嵐丈 馬印 蒼虬 二尺

鍬さげてむかふところや雉子の声

魯鳥

(一四オ)

戸の先に詠くれたり春の山

俊雄

梅が、にうかれてはいる戸口哉

可丘

わらた、く礎となりし春日かな

馬城

咲と見しばかり深山の赤つ、じ

三枝

かぎりなき空にしだる、柳かな

路月

暁や柳にかゝるけしきあり

都山

かたかへて行や桜の山つゞき

嵐丈

さら／＼と干あがる海苔の夕日哉、右円

(一四ウ)

広庭や桜ふまへてみる桜

鼎々

さくら咲て浮世めきたる庵哉

碧山

山の端に鐘は曇りて春くれぬ

玉屑

長岡の里にやどりて藤の花

斗一

わが／＼き世まかせの花見哉

我尹

舟曳の柳負行あらし哉

東英

短冊やこゝろの花の咲処

羽扇

雉子はしるかげあらはなり麦畠

路甫

苗しろや早乙女はまだ常の人

石亮

立もどり又みてゆかん遅ざくら

鳥休

思ひきつて折た人あり夕桜

福岡松丘

気のつけばところ／＼の桜哉

羽扇

時守の鞆鼓のおとや夜の花

魚津窈窕

夕ぐれや桜こぼる、水の面

孤山

すこしづ、嵐もほしき花の上

周台

花と花中ゆく鳥のあさ雫

魯山

花からの鳥の音聞てけさの旅

文景

谷川や魚のうく日を花のかげ

太翼

みよしのにかくれ里あり桃の花

小林沙麦

人声や雨のはなる、山ざくら

滑川五湖

蛤の城よりつゞくさくら哉

三丸

風のすはりし浦の真昼

沙麦

鶯の声を扇にのせて来て

成美

素湯沸かへる釜のふたとる

五湖

鮫ほどく若者どもが雨の袖

麦

鹿にふまる、露のくさむら

丸

芋の葉もあだにあかるき夕月夜

湖

秋とちぎりし人のこゝろは

美

三笠山風吹されて春の月 越後今町 驪彭

日の出る畠もちけりはるの風 魚国

散花の時／＼ぱつとちりにけり、高田 杜走

背戸門の梅にとゞまれ夕付日 几丈

砂よけや海士が垣根もすみれ草 左琴

どちらへも桜に近し道の石 荒井 如蘭

はしたなく小雨降りけり春の月 旭浪

雲深くなるより桜散にけり 梶屋敷 若水

松の戸は松の閑あり花のくれ 柏崎 平水

花の香やめでたき家の膳まはり、魚沼郡松茂改 昇魚

桜さくけふより旨し蜆汁 長岡 大琰

もち山の小松かぞへる子の日哉 宇瓊

鶯もひとつ添けり花の山 播磨明石 桃下

梅津より夜は明初て雉子の声 遊亀

夜もすがら鳥の鳴しはどの桜 露石

何一木もたでも寝よし春の月 蛸国

山吹のあはれは花に成にけり 室津 士龍

人の気ものぼり／＼て花の雨 備中倉敷 里芳

秘が中の秘あり夕の花ざかり 箕俣

そびへたる岩の桜も咲にけり 備後福山 羽白

雉子鳴や明行野末山のすへ、牛後

夜／＼の雪わするれば初ざくら、田房 草隠

よしのにて

花ふめば三寸ばかりくほみけり、三原 土芝

出女のまたげかへすや春の水 安芸広島 五鹿

椀ぬれし豆腐の水や朧月、小方 可友

のどかさや汐さす浜の朝ぼらけ 周防自松 猗竹

草も木もうつり初るや春の水、和道

月の入かたへ帰るか春の雁、春郷

あわ雪の消行庭や猫の恋、古桂

近くみゆる海のおもてや梅花、百之

花咲てしたしき庵と成にけり 長門下関 冬羅

花のおくゆかしき氷流れけり、万府

ほこりたつころより人の花み哉、羅風

流れ木の花にまぶるゝとみ哉、豊浦山下 文橋

いろ／＼に花最中の雲霞、五嵐

晦日の夜も有明のさくら哉 讃岐姫浜 晴嵐

ちり初しけふぞまことの花盛、桃里

春の夜のこゝろのあまる戸口哉 淡路 玉花

わが門の月夜をみたる二月かな、梧園

こぼれ梅釣瓶の水のきれいななり 阿波 文亭

露ありとしらで蚕の一期哉 豊前小倉 黙雷

此春もよし野の花のちるといふ、十邑

朝の風桜を出てしづか也 豊后日田 葵亭

咲花の一枝に曇る山路哉、有篁

思ふたる木に咲にけり初桜、南美

百年の老みるさとや遅桜 筑前姫ノ浜 霞梅

ちるゆゑになほも嬉しきさくら哉、魯々

見つゝをれば眼のかゆうなる桜哉、直方 一萍

春の来てかさなる花の都かな 筑后久留米 芦月

山ざくら見にゆく人も花ならん、修然
 夕月に梅ちる里のこみち哉、美乎
 常にさへ夜明はうれし花の春、文角
 花咲て海に入日のふとりけり、田主丸 其成
 雨を得て桜のひとつひらけたり、肥前島原 桃仙
 行水にか、はる春の寒さかな、春喬
 万歳のとほりて春の道ひろし、李曉
 わが袖に匂ひをうつや花の露、諫早 孤石
 児桜ことしも花を待にけり、千来 (一九ウ)
 水桶に来て鳴宵の蛙かな、詞英
 たんぽ、に春風おこる夕かな、春河
 五十嵐に桜のひかる夕哉、階渚
 晴しかと雨戸明れば花の降、倚鳳
 梅が香に暮てほどなきねぶり哉、千波
 花の山夜はありながら明にけり、雨仙
 春の夜や何して人の暮るなる、詩笛
 幾すちも水流れけり藤の花、文塘
 夜をこめて鶯聞に出にけり、長崎 季明 (二〇オ)
 山のはをはなれて月の朧哉、吾友
 鶯のじだらくに鳴夕かな、全
 咲花のあはひからちる桜哉、鞍風
 在所にはわたし船あり春の雪、祥禾
 桃咲て甬腥き春辺かな、平戸 井甫
 峰の花机の塵となりにけり、肥后熊本 眠石
 暮かねて花にひかる、日あし哉、敝裘
 けあげたる鞠のしたゆく乙鳥哉、薰河
 夕雲の花にわかれてみだれけり、朝四 (二〇ウ)
 もの、香の春なつかしき山路哉、碧泉
 春雨のそ、ぎあげてや小米花、女 木曾
 夕日さす鐘しづかなり花の山、天山

三日月のほとりに春の思ひ哉、羽人
 さゝ波のはては月夜の桜かな、箕漢改 岫丸
 梅咲て世の中ひろく成にけり、壱岐勝本 其冠
 いめの間も寝るにはをしき桜哉、夏貢
 物なつく鷗うきけり春の海、観月 (二一オ)
 春の藻のつら／＼延て湖のいろ、近江堅田 歌雄
 御忌のかね人のあいだにひぎけり、城南寺田 良水
 みなと川にて
 うは浪もかづくや花の雪ぼうし、在京 居然
 葩煎売の出て来る桃のさかり哉、玉桐
 花の声となりゆく峰の嵐かな、京 百池
 木のはしのはしより梅の匂ひ哉、駒丹
 花ちりて又山里となりにけり、亨
 春をしと入日みにゆく堤かな、漢水
 かけ鯛やこれはあの世のめぐりあひ、あたふ (二二ウ)
 これなりに春もくるかはるの雨、北山 春山
 子をもてばもつたこゝろの花み哉、京 乙道
 橋守の屋根におもたき柳かな、銀喬
 雉子鳴や汐の満干の小松原、千代道
 つばくらのはいりおくれて朧月、鳥幽
 梢まで水のとゞきし柳かな、湖月
 月はとく峰をはなる、さくら哉、琴斎
 在明の朝／＼山のさくらかな、吐成
 こまかなる雨のふりこむ桜哉、松丸 (二三オ)
 しづかさや桜木まじる梅の花、徳野
 いそがしき門を出れば柳かな、徳々
 水澄とみれば花ちる夕かな、斗九我
 ゆふべにも露降山のさくら哉、可曉
 春の川夕月白く流れけり、魯雲
 どさくさと日のくる、也花の宿、半来

花の夜や半ふみこす渡月橋、其白
 人も我も花よさくらよ出て行よ、双南
 永き日や鳥もゐねぶる松の枝、在江戸 鬼洞 (二二ウ)
 山風や月の外よりちるさくら、京月峰
 九重や先一重なるはつ桜、在貫
 あけぼのは水に涼しき桜かな、宋也
 鶯や窓の先なる清水寺、古塘
 日和山のほればさくら曇かな、芦涯
 海苔汲の袖にもかゝる小雨哉、葦笠
 ひと山の桜になる、小舟哉、百磨
 人はみな桜にいづる山辺哉、国雄
 雉子の声木深くなりぬ男山、玉藻 (二三オ)
 水もらふ家の裏まで桜かな、布雪
 日のくれて並木のみゆる蛙哉、阿年
 尻すゑて暮る花みる山辺哉、岱李
 花供養翁のたまをうかさばや、其成
 梅一重咲なり比良の山おろし、素頑
 春雨のけふも降こむ嵯峨の山、玉洋
 朝／＼は大事に思ふさくら哉、馬印
 こしちにありて
 花鳥や身は笠のひも草鞋のを、田禾
 小寒きはさすがに花のさかり哉、蒼虬 (二三ウ)
 御幸町錦小路上
 桃林堂 勝田喜右衛門
 京都書林 烏丸下立売上
 橘栄堂 勝田 善助

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

18 文化二年『花供養』

底本 月明本
校異 綿屋本

花供養

(原題簽・表紙)
(表紙見返し)

のつと日の出る東山の南無庵
万景一望に尽しておのづから閑
雅の地なり。堂闌更うしこゝに
祖翁の肖像をうつされしより、としごとに
弥生十二日をさだめ、普く扶桑の花
を束ねて此精神を祭るものから実
もや、其中に備はる。今や蒼虬うし
徳孤ならず、くにぐの門葉日に重なり、
月に倍せり。ことしはわきて桃桜
庭面狭にひろがり、四海の兄弟共
に像前に手向ものす。祖翁の
徳はいふもさらなり。うしぐの
和歌亦かゝやくにあらずや。
惟時文化二乙丑のとし姑洗中の
二日

湖西 白鷗居千賀雄謹叙

(序一ウ)

山ごしに田をもつ人のさくらかな
家のうちよりかすむ朝の火
雁がねの立さはぐまで汐さして

乙都留
蒼虬
升六

何もおはねばさびしかりけり
堀かけて根鞭のからむすいかづら
十間ばかり廻ひろげる

鷺白
千賀雄
百哺

露の夜の月も残さず明はなれ
河鹿とらへる業もあるらん
袷にも単物にも温泉の匂ひ

文常
月峰
魚国

宮にめさるゝ日は雨のふる
桐の木ははたへかまはずふとるなり
真間の末寺の仕おくりをする
門さしに出れば一おし鴨の声
わが恋ほどに石路の花もつ

其成
葦笠
玉桐
芦涯
居然

きのふから初音柴舟炷尽し
常陸の紙は耳も揃はず
水うちてまはれば月の早う出て
三人前の菅を刈来る

乙道
阿年
鼠梅
百磨

残なく物の元たる気比の宮
鳶の眼も昼過になる
花の雲箱に入たる和名抄
薄紅いろのさわらびの灰汁

其白
斗雪
国雄
醉夫

春毎に笠を預る榎木原
かけたる鎗をわらふ所化達
降かとのぞけば竹の嵐にて
胞衣をおさめる暁のかね

緑娥
布雪
梅笛
銀喬

一しきりづゝは腕のいたみたし
酒田の船は械も流さず
背のあほうに長き鳥啼て
盥すへるも神秘なりけり

春草
田禾
桐岡
玉洋

煤たれて目さへわかたぬ大秤
泣よるまでの恋もするかな
松杉に冬のとゞくぞ便なき

馬印
白雪

研すましたる髪刺の月
鵲の声翌乗駕を問に来て
あやめ小路の風わたる秋
どちらかも戸の明たてに山みゆる

(二ウ)

ひとりすておく琵琶うちが妻
葉桜に安く神輿昇わたし
蛸をはらふてかへる笹竹
谷川のはげしき石もあかのつき

千明
岱李
木貞
芳之
玉屑
歌雄
琴斎
履視
百池
漢水
驢丹
烏頂
其如

八百はた雲の光る引明
ひやぐと鏡を袖におしかくし
盆も過行木辻帯解
あの山の間より月がのぼるなり

(三ウ)

皆一時に出る鯖つり
右一順下略

さなみにゆらるゝ岸の柳かな
端ぐに夜の明かゝるさくら哉
さくらからつい日の暮るむしろ哉
念仏に霞のかゝる野寺かな

(三ウ)

田の水の朝く冷るさくらかな
面白き小家となりし柳かな
雨の間を山吹きりに出るなり
有明の月の下散さくらかな

大溝
青楓
一居
蛙石
無禁
田美
音羽
稀山

道ばたに早ちりかゝるさくら哉
鶯に漣見えて松のひま
梅が香におもき柳の小枝哉
ひやぐと峰のあらしや初さくら

(四ウ)

はつ花にもどれば月も朧かな
大勢に見らるゝ谷のさくら哉
山守が家に咲こむさくらかな

新庄
可曉
籬鳥
千賀雄

松が枝に声のとゞくや田の蛙 太田 乙鶴

永き日や鳥の見てゐる八幡山 素人

藪の際まで打ならす畑 獅丸

鯉作る宿の小でまり早ちりて 田禾

盥の底にのこる月かげ 人

かたまつて動きもやらぬ秋の蠅 丸

ひつそりとする町の八朔 禾

うれあまる草履の数に日もたけて 人

覗きまはりて松すかすなり 丸

僧正の御座は定る角ばしら 禾

夷のふりのうつる北浦 人

降出して十日もおなじ雪に逢 丸

我より先に馬の年寄る 禾

おしつゝむ涙に月のありくと 人

うきことはりの見ゆる穂薄 丸

うそ寒き小笠かぶりて帰らん 禾

九条ほとりの古きひとつ家 人

ちれば咲ちれば咲つゝ花盛 丸

今朝の曇りにかやる蛙子 禾

魚あぶる匂ひの外は春の雨 西湖舟木 獅丸

深山にも咲花ありてして辛夷 花川

何事も花にまかせて峰の寺 桐川

夕雨や花にしたしき小さかづき 素人

今朝からの風にちり出す桜かな 堅田 文常

啼所の雨は晴たる雉子の声 友鹿

夕虹を日和にしたり蝶の舞 籬邑

花ちりて弥生は闇に成にけり 几頂

人住ぬ家かさくらは月夜かげ 歌雄

山里や梅をはなれて雲はしる 坂本 于当

春の雁啼ば帰ると思ひけり 大津 五来

うつり行花に桜のさかり哉 蓬皐

三月月に日の暮かねて初桜 倚宇

春の夜の面白ければ猫の恋 宇洋

何鳥の夜をばたつかす桜かな 三井 千影

我まゝにさくら咲けり長等山 走井 烏頂

連翹やみないきに咲そろひ 湖東八マン 芳之

乙鳥がくればこもとく蘇鉄かな 柏翠

水芥空にふさちる柳哉 日野 松蘿

花の香に歩行山城大和かな 水口 蟹州

恙なふ日は入にけりやよひ山 西湖堅田 五粒

入相の松よりくれて花の山 其白

松陰の家は桜の戸口かな 宇杭

雁帰る比を山家のなしのはな 枝露

すみよしの春は満たる汐干哉 美山

山ひとつ後にすへて雉子の声 扈当

うらゝかやことに柳は物しづか 若狭食見 花雪

よしの山さくらにせまる花盛 小浜 李兮

二日居てもどりとむなし花の嵯峨 遠敷 千好

散さくら向ひに家のなき処 神子浦 燕柳

ちり取の塵も花なり谷の庵 前川 寿卜

美しう桜にさはる朝日かな 相田 桃林

鶴たつて夢をみせたり松の花 成出 北洋

花の家春を僅にしたりけり 六英

月一つ残して寒しちるさくら 生倉 節之

炭焼の春はいつまでちる桜 向笠 貫扈

啼蛙源氏よむ夜の昔ぶり 越前丸岡 甫立

帰る雁夜もふるびたる山家哉 敦賀 仙草

春の雪むかしがたりの柳にてかゝ金沢 三京

ちる音にのぞむ流や花つばき 湖南

花椿むすぶの神の祠哉 素羽

かげろふの移りて物の流れり 階涼

大空や名乗て一つ春の雁 赫之

春雨の下に苦家はありにけり 霜屋

覗くほど降春雨と成にけり 友樹

長閑さの家見ゆるなり梅あかり 蘭吹

日の暮て思へば多きさくら哉 槐庵 雪雄

行雲や桜にせまる夜の山 高松 自明

一日も立し桜の木の間哉 本吉 兎園

行春をこぼれ初けり竹の蝶 暮柳舎 車大

長はしの夜のよき事か散桜 金沢 可方

汐あかり又門あけて山ざくら 他石

花をみようめこそ人のもてるもの 九台

日の入をうけた里あり雉子の声 且古

行春やおなじ顔なき角田川 一川

降捨て穂屋の芒に梅の花 圃辛亭 甘谷

岩たゝく水音寒し谷の花 能登黒島 玻井

水もらふ家の軒まで桜かな 加由

山買ふてけふは花見ころ哉 越中富山 蓬山

山の景朧月夜に見なしけり 如岡

ふりかへるあとを霞や妹が許 素六

人影のうつる柳の月夜哉 稲巴

落椿ともにごる童かな 来誰

気の付ぬ二日の月やもゝの花 東英

立戻り又見て行ん遅ざくら 烏休

梅が香やむかふ都の不二おろし 如覧

青柳はあれどこゝらはたゞの家、

白も、に烏なくなり夕月夜、

傘のひまより桜さきにけり、

おほつかな雲吹ながら春の月、

木の芽ふく枝より早き夜明哉、

ちぎれ雲けふは茶摘のはじめ哉、

鶯の寝所うれしや宵の空、

花十日過て来にけり簞売、

山陰や花のにはひの月夜めき、

畑中に暮るも雁の余波哉、

梅の月手にとる庵の夜明哉、

川風や山へはいればむめの空、

赤土の手につきやすし花の山、

独吟

真昼の花もりあげて桜かな、

もろこの魚の滝壺にうく、

うらゝかに月見のむしろ織捨て、

浦松風に露のちりけり、

鷹をうつ外山の鐘の明かゝり、

丸額から遣ふ若もの、

恋せねどよしの漆の香にかぶれ、

いさご交りにうつくしき庭、

雪もきえてもとの野原や涅槃の日、

まぶれ飛鶉よ落花よ一あらし、

酔覚や花にけそりと月が出た、

山ざとやさくら暮ても人の声、

鶯の二羽来啼てぞ吉日よ、

四五本の松の高さよ朧月、

はつ花に分別もなきひとり哉、

一日の髭も伸たりはるの雨、

十分は散とおもへど山ざくら、

愚にも暮す日のあり花の中、

帰らんとすれば桜のちり初る、

うぐひすの声を拾はん草の中、

大空のそもけしきして梅の花、

一口にいはいれぬさくら咲にけり、

行雁や麓につゞく家のさま、

何をしてもあたら桜の山家哉、

太秦の藪木なりけりむめの花、

鳳巾あげにゆり芍薬もふまれける、

しみぐと散日にあへり遅さくら、

ちる花にふかいのおもてかぶらばや、

桜とは申初けり折敷うり、

たゞ一木みどりの中のさくら哉、

白浜をそのまゝ春の月夜哉、

かち栗のいよくかたし春の風、

余念なや咲花に身はまかせぬる、

古くさき草のちからや梅の花、

どのやうな日にも咲なり梅の花、

薄雲のそこら明るしやま桜、

小男鹿の角見かくれて花の中、

物足らぬ月のけしきや朝桜、

春の月曇れど雨の沙汰もなし、

黄昏を寝て見れば花の動くなり、

しみてと散日にあへり遅さくら、

ちる花にふかいのおもてかぶらばや、

桜とは申初けり折敷うり、

たゞ一木みどりの中のさくら哉、

水上はしづくならん春の川、

曲水や鶯も放したき此流れ、

花の山松はまばらの影法師、

長閑さや男交らぬ桑ばたけ、

花ちりてはづかしき程寝られけり、

花盛こゝろに何もなかりけり、

咲みたす花や命の山かづら、

花の山銀は光る世なりけり、

鶯も花も物かはくさのいは、

日の影ものびて摘るゝ土筆かな、

青柳や屋根から見ゆる人の庭、

横笛の遠音に花のちる日哉、

木魚うつこだまにくれぬ花曇、

七賢もうかれ出るか花の宴、

汐時や花にみち干の硯石、

ちる花に交るや磯のうつせ貝、

三つが三つ鶴のふりむく春の風、

よし野にて、

飛込で花の衾に夢を見ん、

蕉翁のむかしをしたひ伊勢の国、

多度といふところのいたりて、

宿とりて三日雨見る柳かな、

よしのにて、

大空にとゞくやうなり花の山、

青柳は見る度ごとに動きけり、

雨晴て世は梅が香と成にけり、

行春の闇を寝に寄る小鳥哉、

水上はしづくならん春の川、

曲水や鶯も放したき此流れ、

花の山松はまばらの影法師、

(一一ウ)

(一二ウ)

(一三ウ)

(一四ウ)

(一五ウ)

(一六ウ)

(一七ウ)

(一八ウ)

(一九ウ)

(二〇ウ)

(二一ウ)

(二二ウ)

(二三ウ)

(二四ウ)

(二五ウ)

(二六ウ)

(二七ウ)

(二八ウ)

(二九ウ)

(三〇ウ)

(三一ウ)

(三二ウ)

(三三ウ)

(三四ウ)

(三五ウ)

(三六ウ)

(三七ウ)

(三八ウ)

(三九ウ)

(四〇ウ)

翌はまたあすの桜よ鐘の声、左雀
 雨の日をはつちと桃のさかり哉、舎童 (一四オ)
 人だかりするや若草の馬の市、はじめ
 ざりくんと砂踏音や春のつき、まなひ
 啼もせず一羽の雁の行事よ、雪沙
 葦草咲や角力取狐の子、三夜
 嬉しさを啼かもしらず帰る雁、丸々
 松の葉の折ふしか、る葦かな、杉桑
 山ざくらさのふは蜂にさ、れけり、阿溪
 蛇多く塔に集る日暮かな、蕉兮
 きのふ見し桜は花の木の間哉、黄山
 花によき言葉づかひやあらし山、竹有 (一四ウ)
 笈摺も梨子の花ちる余波かな、参州新城 守山
 花守の世上に欲はなかりけり、如竹改 蟻道
 咲も亦散るもよしの、桜かな、一声
 花守は日終人をはなご、ろ、京夢
 暮る日は雨と成けり花の山、如岡
 うぐすやちいさき顔をあちら向、伊勢大塚 烏翠 (一五オ)
 山里や魚洗ふ日のちるさくら、山田 四溪
 立のひて雲の透間の柳かな、津 蘿道
 あすもこむと桜がもとのひとりごと、大坂 月居
 見る物の松よ竹よと春ながし、矩随
 思ふさま霞め夕べのむらさき野、春思
 春さめもやめば世界の雀かな、素鶴
 夜歩行も梅散までぞ宿の猫、飛良
 た、みたる傘提て春の雪、文頂 (一五ウ)
 朝ぎしや淀の縄手の草の上、竹宇

まざくんと夢に入けりはなの宿、丁江
 や、ゆふべ人さだまつてさくら哉、東阿み
 所々花に隔つる山家かな、鶯雪
 桜見て居れば身に添ふ嵐哉、梅兮
 春風にやどりて花のきをひ哉、松月庵
 あるとあるものにゆずらじ山桜、堂島 瓢介
 一夜づ、陰のふくる、さくら哉、米彦
 見おろせば水に吹ちる桜かな、池田 ひとし (一六オ)
 花のちる葛家くも月夜かな、遅春
 あけぼのやしばらくありて朝桜、李杏
 春の夜の人ほど鳥は寝ざりけり、大坂 五寅
 雨雲にわけ入花のあかり哉、夜来
 雨雲に匂ひうつすよ梨の花、青芝
 ちらく人と人のゆき、を啼蛙、二有
 旅の日のふつか暮行蛙かな、升六
 あけぼのは雉子が啼なり草の門、泉州左海 金花
 塊になづな花咲春野かな、、炉月 (一六ウ)
 静さは菜の花多き木の間哉、河内富田林 甫六
 花曇り底には白き遠の峰、讃岐高松 履規
 山中や柳の見えて家のある、姫浜 桃里
 馬つなぐ木にもなれとてさし柳、阿波 壺大
 花に鼓篋に盛見ゆるなり、羽角
 旅癖のいそぐぞ花にはづかしき、文亭
 夜は夜にて明離れたり花の雲、徳島 麦由
 朝露にむせてや草をたつ胡蝶、子罌
 春の日をありたけ見たる峠かな、菅古 (一七オ)
 草見るもよき山ざとを初ざくら、青史
 春さめの濡色見ばや牧の駒、、祇筵
 一明りして日は入りぬ木瓜のはな、素英
 春風の雨をふくみて吹日かな、仙艾

猫の恋やまず梅より桜まで、子謙
 水鳥の舞や霞と浪のひま、鳴雄
 雉子啼て今朝も寝たらぬ篠家哉、雨香
 昼までは常の雨なり春の雨、伊予土居 五粒
 あしもとに日は暮てあり春の山、貫至 (一七ウ)
 近江路や水の光りも春の色、鯉登
 紅梅や是はむかしの車よせ、播州明石 桃下
 ふるさとを思ひ返してうめの朝、遊亀
 名ありげに見ゆる柳の小家かな、野泉
 花咲て大きく成しさくら哉、北条 梅廬
 うたがふな月夜の花のよしの山、姫路 竹鶯
 寝そこなひく草の胡蝶かな、判丘
 食ふ物もみな春さめの匂ひかな、魚崎 蘇明 (一八オ)
 はつ桜一本の松にかゝる雲、石毛
 山暮て桜にうしろ見せにけり、鹿間 田日
 角落て寝起もやすき小鹿かな、女とき
 白うめのひつづく雨の葛屋かな、晴嵐
 見かけたる日さへ桜はちりにけり、風羅堂 千明
 雨一日花のたゞ中降くる、備前岡山 幽雅
 夜さくらの山に声あり嵯峨の犬、京在備後福山 牛後
 塩竈のけふりは絶て梅の月、志原 (一八ウ)
 春風の吹や伸ゆく水の雲、湖東在福山 羽白
 夜は夜の友が来るなり花ざかり、福山 李朝
 散椿しぐれの後の夜のおと、田房 桃甫
 明がたや月のこちらの初ざくら、安芸小方 可友
 白魚のかくれ所や江の曇り、広島 宇柏
 花の頃は賤がかた荷もさくら哉、防州樺野 和風

旅人に日のさす頃や梅の花

、亮張
(一九オ)

柴の戸の日かげつゝみて啼蛙

、白松 百之

、古桂

僧正の道の工夫や花のやま

、和道

大和路や眠るところにちる桜

、小郡 古梁

雉子啼て朝から花のちる日哉

、長州赤間ヶ関

よしの山花におはるゝねぐら鳥

、憐霞

菜の花に日は沈み行小家がち

、冬羅

いふ事もなくて花見る山家哉

、龜旭

静さをたえかねてちる桜かな

、甫雪

牛つなぐ山のうしろはさくらかな

、仙梨

我出れば人も出て来る花見哉

、羅風

孤山、昨夜大酒致、今日は不参と申来候。

此段御しらせ申候とありける翁の古き

ふみを得て文台をはじめる日に

梅に月世は俳諧のふつか酔

、豊前小倉 黙雷

筏士よ我もうかまん春の海

、士勲

春の世や思ふ頃より雨が降

、豊後高田 春坡

白藤に咲添ふる雨のしづく哉

、山離

花のあたり雨は小粒に成にけり、日田

、有篁

闇に降力は見えずはるの雪

、南美

家／＼の花が散なりひがしやま

、筑後久留米 文角

面白き春を寝に行鳥かな

、羨乎

花のちる中に散けり駕ふとん

、芦月

野の梅や日暮鳥のふみこぼす

、方朗

呼声も浦もしづみて夕霞

、修然

年／＼に春は桜の曇りかな

、双鳥

菜の花や松のかげ行人通り

、田主丸 其成

まだ友のたらぬ時から舞胡蝶

、筑前直方 此原

(二〇ウ)

沼道のかたまりかねつ初ざくら

、寄木

雲の中に蛙啼なる夜明かな

、沙牧

さくらにも浮世の埃か、りけり

、一萍

百性に梅の咲けり麦の中

、博多 朝可

野路山路匂ふや花のあさぼらけ

、姫ノ浜 魯々

聞に出て松風もなし朧月

、信入 不如

散さして花又雲に入日かな

、新延 未達

花ざかり木の間を人の行方哉

、丹志

落着て花見る四十ごゝろ哉

、吟思

あらくれし枝咲かくすさくらかな

、吉木 此柱

ぼち／＼とつぼみの花のみしほ哉

、志岐勝本 其冠

瓶にさす花のつぼみや夢ごゝろ

、夏貢

灘くれて蝶の行を思ひけり

、鯉丈

其辺り石さへ瘦て牡丹哉

、弥雄

中／＼に残りて淋し燕の巢

、観月

梅が香の門も過けり夜の道

、渡良 可遊

吹とれて見れば柳の根は一つ

、似柳

十日ほど前に花さくおもひ哉

、肥前大村 米虫

しづかさの桜にもどるゆふべ哉

、微山

ちる花の中より出たり渡し舟

、為休

花の雲まことの雲のか、りけり

、素遊

我宿のさくらに月の居りけり

、夜桂

白梅の中に落けり朝の月

、鶯羽

初空やまことに帰る人ごゝろ

、奇由

さくらより産れてもどる日暮哉

、俗鳥

白椿暮の小雨の音すなり

、諫早 文塘

さは姫のあちらむいてや花の闇

、長崎 洵美

白うめのみだれんと日のゆるみ哉

、吾友

(二二オ)

夜もすがら吹れて白し梅の花

、士言

かたゝには残りてゐるか帰る雁

、宇笛

長閑さや沖行船の帆の光り

、三省

御手水に梅が香の添ふ夜明哉

、不言

一はけは絵に見る富士の霞哉

、如慶

長浜や雁の名残の薄曇り

、蘇十

【校異】高井本は上五を「長浜や」と墨書きするが、元

の上五は不明。さらに、同筆で句の左に一句の全

てを記す。綿屋本には訂正無く、本稿はこれによる。

煤わらの上にもちりて山ざくら

、其映

青柳や影定まりて草のうへ

、松涛

谷水にきゝすのこだま流れけり

、大峨

ふりにしは花なき所／＼かな

、祥禾

おし寄るけしきなりけり山桜

、雲水 浅見

あり明はむかしのまゝ、よ花の奥

、正阿

関守の居眠るさまや桃のはな

、平戸 楚涯

雉子啼て野守が夢やさますらん

、幽貞

柳より橋に小雨の渡りけり

、可石

落椿夜は雨ながらしづかなる

、文英

はてもなく我を埋めよちる桜

、有無

藤のはな終四五軒の在所にて

、李薰

草の戸も独りは置し花に鳥

、肥後熊本 羽人

高ひくのまゝに居並ぶ花見哉

、丹泉

初花や雲に雨もつあしたより

、橋巴

寝ても花起ても花のあるじ哉

、秋画

雉子啼てやがて日のさす野松哉

、貫露

尋ね寄る庵は花に隠れけり

、淇山

けふもまた富士をうしろの柳哉

、如霜

嵯峨に寝る夜は氣遣はし花曇

、碧泉

(二三ウ)

鶯の花に飽てや岩のうへ

三ヶ月の先に落けり夕雲雀

柚が家はまだ戸をさして初桜

さくらよりまよひし道や暮の鐘

春の日を寝に行までの鳥哉

ひき鶴の翅に動く朝日かな

山賤のこゝろ問たきはな見かな

長閑さの枯木に見えて鐘の声

春の雪たま／＼届く麓かな

諸鳥の声しづまりぬ春の雪

世に住も世をいとふ氣も桜哉

雲の根は花にもあるか曙の月

海山の音をおさへてゆふがすみ

淋しがる顔にしづくや庭の花

鹿を追ふ目に見付たり初桜

何にあはゞかくあるべきぞ曙の花

世を忍ぶ居士に近付花見かな

暮のこる里かと思えて夜の花

人あらば山の名問んはつゞくら

行駒をしはしとゞめん岨のはな

灯火のうへまで曇るさくらかな

檜の葉のちる時春はのどかなり

板の音のどゝくさと有り花の雲

苞にして花見をあてや薺壳

大かたは曇る二月のあしたかな

月まてば人の慾なり花の上

灯ともしに戻ればやどのさくら哉

くれぬ日を立とゞまりて花の宿

山路来て桃に宿とるうつりかな

出雲神門知井宮

一釣

朝四

薰河

青岨

訛牛

虹夕

白扇

賦水

雲岱

歌山

鶴桂

栗葉

岨邑

蓼雨

連之

含章

素石

眠虎

流螢

鴻歩

巨水

露好

化養

静巴

曉岱

敝裘

眠石

岫丸

竹葦

竹葦

竹葦

竹葦

(二五オ)

(二四ウ)

(二四オ)

氷魚よりも白魚の名の覚よき

花は見るばかりではなし奥山家

春の雨己が葎に降にけり

鮒壳の来て鶯を簪にけり

若草やきのふの雨の目に見える

青くさき柴焼嵯峨の余寒哉

秋の夜のうしとやいはん臘月

ちる音をかぞへる庵の椿かな

開帳の札や倒れて桃のはな

梅の枝さげて梅見に来たりけり

鳳巾霞の海に遊びけり

縫あげにげんげこぼるゝ子供哉

梅がゝに駒をしづめて通りけり

草の戸や明ればすぐに花ごゝろ

明ぬうちに啼やさくら山の山鳥

茶の湯氣も朧かさねて春の雨

春の雪戻りに消える瀬田の橋

若菜うり年はいくつと問れけり

隣から子をかりて来よ春の雨

うつかりと花にぬれけり春の雨

山を出て春におどろく柳かな

花さかぬ里はなしとや帰る雁

見るうちは我もぬしなり山桜

水草にもおかで低さよ野の霞

奥山に春のわけ入日数かな

菜の花は沢山なるを眺めかな

みよし野は踏おはるまで桜かな

飽までと年／＼おもふさくら哉

花曇山にあつめて夕暮ぬ

花曇山にあつめて夕暮ぬ

花曇山にあつめて夕暮ぬ

花山

里蝶

少年 鶴寿

春蒲

燕子

飛鳩

魚村

波濤

龍池

古志 露光

少年 惟明

李郷

杜若

吾友

東廬

九鶴

友志

百丈

三都良

玉沾

文節

浦安

其泉

五溪

大耳

嵐洲

桃丘

如蘭

觀之

觀之

觀之

(二五ウ)

(二六オ)

鶯の人をしづめて啼にけり

難波江や芦かれ／＼て春の月

嵯峨に二タ日京にも一日春の雨

篠原の方に臘の月夜哉

難波江や宵のあかりを春の水

草や木は枯たる俣に春の宵

曇る夜の晴間／＼ぞ山桜

北にかたぶく笠の春風

いかめしく帰るや雁の打むれて

小家かさなる坂に小坂に

忍ぶ身の秋告よとて歌の題

尾花の苞をひらく塩鯛

ちら／＼と月待友の誘ひ寄

四十五十は人の世の中

道せばき梅の日ぐれをくゞる也

三日月に極めがたさよ春の宵

下戸ならぬ顔なり花に懷手

臘月ながれに添てまよひけり

雲のはのみたるゝが散夕さくら

いざ出よ春の山辺の一またげ

雨の柳雨の柳となりにけり

良ありて雁啼春の雨夜かな

松風にぬくみのうつる二月かな

うか／＼と手さきへ来る胡蝶哉

しづかなる家のかこひや花の山

草履うる家はちいさし藤の花

都より弓の便りや臘月

蛙水

蛙水

蛙水

飛文

由水

梅丸

魯仙

大啄

大燕

唯我

大啄

我

啄

我

啄

我

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

啄

(二八オ)

(二八ウ)

(二七ウ)

(二八ウ)

桃桜いろをならべてけふの雨、天桂

芹摘や間く水に雲うつる、枕流

うぐひすの次第にふとる朝日かな、素艾

やまぶきを折ば流る、小川かな、巴久

星一つ尾上にすて、帰る雁、岩屋素竹

うき雲の柳を出る月夜哉、保牛

忘れては海月にすへる汐干哉、如白

かたはらにちいさき庵や梅の花、柳雫

夜の明るところ見出して春の山、弓木蕭谷

藤の花笈へとく小雨かな、加悦町二蝶

花の山囀鳥の声深し、山田李州

思ひきや鹿狩入りて初ざくら、田辺白雪

春の草雀の友に成にけり、似藻

花散て心おぼろに成にけり、器一

ちる桜我が夢さむる日なりけり、ミナト羅木

菜の花の都の花にあまりけり、丹波黒江其萌

出あるけば野にもあるなり梅の花、大山武陵

霞めとて日の出か、るやま路哉、氷上魯縞

四五日は花にしづまるゆふべかな、宇治恕裕

夜ざくらや梢にかゝる水のおと、泰峨

春の山都の外に立りけり、雪洞

一ぱいに川は流れて花ざかり、馬洲

見るうちに三日月かゝる柳かな、烏江

菜の花や袖に吹入る風もよし、桐岡

桃のはなひらき初けり二日月、女かめ

木食の僧にまちるや遅桜、在中

暁のやみを隠すや山ざくら、城南鷺坂山飾哺

声あらば啼べし暮の山桜、城南化蝶

市中をはなれて花の心かな、羽玉

飯しる膳を逃たる花見哉、不蘭

夕風や二百歩退て遠桜、五溪

見のこした花にくるしき夜風哉、李蝶

暮てある桜に人のさはざかな、良水

ちる花や地に落つかぬ夕心、雲裡

飛鳥も日ごろの花のひと霞、洛玉屑

我かげにわかれて寒し春の宵、一鳳

都から吹初にけめ春の風、斗雪

夜ざくらに苔の袂のかり着哉、呂蛤更春夜

風骨はやせたものなり山桜、秋水

京にても咲次第あり初ざくら、居然

傘の上まで散ややまざくら、鼠梅

はなやかに花が咲たり須磨の浦、千代道

花重土のよこれに雨がふる、墨沖

花を見て杖を忘る、奥ぞかし、其峰

むく起にゆるく見たる桜かな、茂良

雨の暁いよ青き柳かな、巴静

ひとりきて花に侘しきすり火打、木貞

満月や桜しづめる水のおと、国雄

松杉や小鳥の分は花に啼、百磨

花の戸やあるじがましき人もぬ、琴斎

昼からは鳥の来たるさくら哉、松屋

此ほとり子供もおほし八重ざくら、凡仲

夕ぐれのむねにせまりしさくら哉、猶古

おしなべて花の吹雪や輿車、有国

きたるは谷と見えけり花の山、有洛

ちる花やされども朱は奪れず、亨

咲花をあだに算へて伊勢の旅、葦笠

葉に花の咲かさなりて遅桜、白朗

我花を人の見に来る夕べ哉、季謙

鐘もなき春のゆふべや東山、醉夫

おもふ事花に一日は預けたり、有邦

尋得し清女が塚やすみれ草、杖下

花筏緑りの川に下さばや、湖舟

鶯や児の立居に気をつかふ、金下

逢坂は夜も吹なり春の風、南岳

さびしみを見せて咲けり糸桜、魯雲

帰らんとすれば月さす花の中、橘仙

散花に道は分らぬよし野山、橘栄

筆とつもの、か、れぬ桜かな、起龍

寒ければ余所に名の立柳哉、在京越中高岡真葛

七つから低う見へけり春の水、漢水

尻がろに出て行花見上手かな、芹水

子の多き里と見えけり赤椿、布雪

野に山にかぶさりかゝる花の雲、玉桐

花のあと大堰桂の水のたけ、乙道改仏斎

ひやくと顔に花ちる月夜哉、芦涯

沢山に五加木もちけり花の宿、岱李

啼はなく藪の一重を猫の恋、阿年

白浜のはては梅咲小家かな、其白

梅咲て世上も春の匂ひかな、在京筑後天籟

比良の雪折々見えて帰る雁、在京加賀其如

山吹に鮮桶ひたす小川かな、古塘

風流のうかれなりけり花供養、其成

宿かりて花を見に行草履哉、在貫

鶯の高音に池は曇りけり、在京加賀北雁

朝風に取しまりたる柳かな、銀喬

初桜下行水の薄にこり、月峰

春の夜にはてなき山のすがた哉 千崖

やまざくらからぐと夜は明けにけり 百池

かげろふの小松はなれて啼ひばり 玉洋

山水の朝はつめたし藤の花 素頑

みのを着て出る気になれや梅の花 雲水 木海

山陰はみな大きな蛙かな 馬印 (三四オ)

近江野や畑打までが皆馴染 田禾

初ざくらちかより見れば老木なり 蒼虬

京都書林

御幸町錦小路上ル町

勝田喜右衛門

烏丸通下立売上ル町

勝田善助梓

(三五ウ)

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

延着

花にやどる一夜の露も春の水 伊賀上野 柏舟

兀山は木の芽に寒きけしき哉 越中富山 太呂

鶯や桃に来て啼京の町 洞李

畑うちの休らふ土手の柳哉 古洞

心ある人は見しるよ夕柳 其成 (三四ウ)

能空を見捨て雁の行ゑ哉 二扇

のどかさやひとり物いふ山巡り 赤鳳

山寺や板戸にはしる雉子の声 六寄

花の山鳥啼なり三十日の夜 桐卜

山の端の近ふ見えけり鳳巾 都川

春風にきのふの山はなかりけり 歌林

あと向ば鳥の啼なり春の月 龜遊

くみあげる水のぬるみぞ梅の花 龜山

蛙飛岨に崩る、旭かな 深水 (三五オ)

春雨や自問自答の几 大坂 よし輔

琴負ふて峰に籠れり花の雪 讃州仁尾 宗徳

雲とながめ雪と見かへる山ざくら 笑歩

おろそかに鐘つき出すや花盛 紅石斎 里山

玉川の玉吸あげよ藤の花 信飯田 雨鴻

19 文化三年『花供養』

底本 糸井本

校異 岩見本

翻刻 石川県古俳書大観七

花供養

(原題簽・表紙)
(表紙見返し)

しばらくは花のうへなると咲花に
つけ、春やむかしの春ならぬ月日のみ
移り行て百とせまりとぞきこゆ。

其たかきこと葉の花はいまもなほ散う
せずして、よきもあしきもみな此下かけ
をたのみつゝ、千草もゝくさいやさかえ
にさかゆなれば、いやおふ月にちぎり
花たてまつる日とさだめけり。年々

歳々花相似と手向草の露所せく
満ぬれば歳々年々人おなじからざる
はし書をしていにしへをあふぐ
双紙とはなし侍るものなり

うつくし松のもと 志宇
文化三年とらの弥生

吹あげるやうに夜明る桜哉 阿年
滝の響をうける鶯 蒼虬
小淋しき春の閑屋に米売て 砂童
箸丈の木をそめる丹から 瓢落
雨かたき毒だみ草の葉の戦ぎ 魚舌

橋の上から秋の来る月

稲妻の折く背戸の山兀て

露の草履を捨る洗足

耳うとき人を一日責つかひ

よほどみじかき長持の捧

扨にあられの玉のこぼれけり

名もおそろしき神を誓ひて

横顔の少ししらめば鳥が啼

海のあちらの田を植に行

みちのくは雨のけしきも捨られず

いのちに倦し旅に寝るなり

手のひらの松やに落すものもなく

御幸の道を作る静さ

北向のちひさき宮に錠をりて

をきて狂女の蓑を丸げる

うち寄て飯くふ上の月と花

ひだりの方に霞む辛崎

残る雪彼岸の鐘の響くなり

油ゆたつく十の土器

年よりが掃除にかゝる滝の口

あすの茶の湯の椿切置

貧しさは箱の身蓋に物入て

雀の多き藪浪のさと

うつぼ草覚束なげに曇るなり

君まつくれのするわざもなし

着心のよくて小袖はよごれたり

鯉の料理をのぞむ椽端

すつくりと落葉の上の筑波山

御仏負へば足のかたまる

二夜三夜月の哀に寝過して

岱李

玉桐

在貫

恕裕

布雪

芦涯

宣雅

仏斎

松屋

月峰

玉屑

古塘

鷺泊

百磨

凡仲

葦笠

其白

茂良

泉立

千代道

斗雪

履視

百池

烏頂

芝玉

梅笛

其成

居然

歌雄

木溪

(一オ)

るりや頬赤の池水につく

軽尻に秋風寒く奈良通ひ

鈴ふり行は何の詫宣

右一順下略

山ざくら山もかたむく盛り哉

大和路や昼も嬉しき春の月

かげろふの松ひく人にかゝりけり

一日は疵なき日あり山ざくら

嵯峨山はみな春雨の老木哉

世の花と今はた見せて散さくら

朧夜に暮残りたる桜かな

夜をかけて鳥も遊ぶや花の中

人はたゞ浮世なれたり木蓮花

川すぢやどの柳より朧月

春雨にぬれて歩行や小松原

行春のすがたにも似ず藤の花

山峰とねぐらやおなじ花の蝶

明の雉子かくれんとして顕はるゝ

春さめや松にかちたる草の色

梅林見えて家ある山路かな

大ざくら夜中にかゝる盛哉

出家衆は皆出て行て遅ざくら

はつ桜ゆふべ鳥の啼たはづ

花曇り嵯峨にせり焼く昼時分

やまぶきに麦搗て居る小家哉

梅が香やほとと吹出す鳥の息

来る人の先しづまりて桜かな

人近ふ見ゆるさくらの梢かな

路虫

芳之

桃李

丹波水上 魯編

、国領 寛枝

、成松 淇水

、園部 其倍

、大山 武陵

、但馬大屋 木徒

、夏梅 桂月

、沙月

、幾野 連蛾

、千原 月波

、浜坂 四暢

、藍尾

、方行

、因山

、温泉村

、芭尺

、全

、宮津 鸞八

、桐君

、宣谷

、魯諄

、青馬

、岑斎

、且志

、魚道

はるの山何処に下りても海辺哉、米負
 是ほどにけふは桜の散日かな、里人
 夕めしの茶碗ならすや藤の花、馬雪
 砂原やひとつ落たるあか椿、笛賀
 日うらにも咲て桜の盛りかな、馬柳
 木の本を出ればさくらの月夜哉、三省
 あながちに夕榮するやあか椿、捜古
 山陰はさくらもひろき月夜哉、素鱗
 しょんぼりと鶯は濡けり春の雨、魚光
 井の水のつる／＼として梨の花、武節
 藤の花空にさはらぬさかり哉、青湖
 鯛の値のおつるほどちる桜かな、馬良
 乞食の世界は広し春の草、山巴
 野すゝめの囀高し朝さくら、鳳吹
 きのかから松かたづいて汐干潟、巍道
 花のちる水いたゞいてなく蛙、兎郷
 朝起や草の二月は鳥の声、桃十
 水鳥の水にもぬれずはるの雪、岩瀧 鼎二
 諸鳥や何を便りに雲に入、渭柳
 夜のさくら己があかりに散にけり、弓ノ木 蕭谷
 梅にならぶ隣の桐はふとりけり、石川 羽三
 うり残す雛そのまゝの節句哉、香圭
 扨のはや涼しうてもゝの花、蛙吹
 風折／＼水にもつかず藤の花、巴久
 何につけかにつけ春の夜雨哉、漱石
 山吹やき、覚えたる人の音、加悦 糸英
 三日月を桜に置てもどりけり、后野 舍琴
 はる寒に日の永なる沙汰もなし、田辺 草稿
 春の日の家のうちから暮にけり、似藻
 長き日や鶯も来る石の上、岩屋 素柳

(五オ)

(五ウ)

(六オ)

夕ぐれや雲置なをす花のうへ、石川 里笛
 三日月にきはめがたさよ春の宵、因幡岩井 如竹
 桜見て居れば人あるうしろかな、蘭友
 青柳の木の間しづまる嵐かな、鼎
 腹からの寒さでもなしはるの雪、不説
 鶏が夫婦かすむよ門の山、越山
 ながき日を親子と見えて畑うちぬ、雷師
 日の当る苞提て行春辺かな、泰山
 草の戸はすみれに近き月夜哉、大調
 はるの水けふも野末の雲に入、古居
 むつまじう桜や人や夕くれぬ、月村
 やぶ入や霞がくれの里に入、大壺
 山寺の鐘や霞のうしろより、飛文
 けふも亦入相き、ぬ宿の梅、三籟
 夕蛙おのが世界を流れけり、市隠
 春の海見返す里は暮にけり、至三
 くる、やら柳に響く鐘の声、大素
 雨ふらぬ夜は月になく蛙かな、守口
 鶯の声旅ならぬこゝろかな、慰月
 夢覚て見れば蛙の声の中、守中
 春もや、長閑になれば落椿、一溪
 明近くふる松明にかへる雁、少年 一方
 初午や夜更て深き門の月、瓦人
 初午に忘れて居たり杉の月、大蕪
 途中から袴戻して花見哉、伯耆米子 曉山軒 春紫
 春をしむ人の植しか遅さくら、三崎 碩遊
 朧月花の曇のあまりてか、湖水
 初蝶や日和になりてけふ二日、宇野浦 六子

(六ウ)

(七オ)

(七ウ)

おそさくらは是と休ふ旅路かな、二翠
 咲満て花のうぐひす見えぬ哉、倉吉連 曉雄
 おもふ夜の只明るなり春の雨、楚嵩
 中／＼に雨降花の盛り哉、梅川
 五位鶯の付て行ぬや帰雁、蘭交
 で、虫の角ふりわける柳哉、飯中
 ふい／＼と蝶出る也草の庵、呉雲
 百千鳥来ずなる松の光り哉、芦錐
 とつおひつ並べ直すやけふの雛、可来
 しぐる、と見ゆれ霞の東山、箕嵐
 藪入やそよ／＼寒きうめの花、浜大谷 月里
 むづかしき枝面白や梅の花、梶原 豊衣
 蝶に手を引れて老もうかれけり、所子 翠月
 三味線のぞめきに蝶もかたよりぬ、今津 眠月
 さびしさの端を見せたる桜哉、日吉津 徐来
 夕暮や只二三尺の上ゲひばり、川岡 蘭玉
 来てからは桜の囀止にけり、大谷 湖眼
 皆人のこゝろほどける柳哉、米子 貫龍
 燕や旅して見れば旅にまで、千家
 梅二輪それだけの春得たりけり、和月
 春なれや海にも波の花曇り、出雲大社 日々庵 浦安
 水かれて山吹高く咲にけり、白沢園
 毎日のさくらに瘦る法師哉、有風
 姥捨やさくらにかゝる宵の雲、呂竹
 くれて行春を川辺に啼蛙、扇風
 花に宿るとは歌のころかや、神門知井宮 里蝶
 引直す虹のけしきや夕さくら、一釣
 薄雲の一重を出たり山さくら、其風
 白藤や雨の雫の寒からで、春浦

(八ウ)

(九オ)

(九ウ)

網の目を散るぞ小鮎に初桜

、飛鳩

人恋し夕山ざくらちり初る

、龍池

捨がたき山や桜の一木より

、波濤

山ざくらよふも揃ひし老の皺

、魚村

雉の声淀の魚市みゆるなり

、燕子

我門やけしきをよせる梅の花

、松子

うごき出す草の中より鳳巾

、鶴寿

月のある柳折んとおもひけり

、梅月

桜咲揃へば山の低ふなる

、古志 露光

花をしむよるの雨気にかゝりけり

、芝及

我花を捨て出歩行ひとり哉

、東廬

春風の宿を見せうぞ柳陰

、吾友

遠ざかる梅の朧を出るつき

、九鶴

連に朝夕ありてさくら哉

、三千丈

のどかさを夜にうつして花見哉

、澄水 (一〇ウ)

雪の後峰にかたまるさくら哉

、渡舟

青柳のかるふ吹出す小家かな、古志町

杜若

咲あけて花屋の損や春の雨

、李郷

売に出る花にのりたる胡蝶哉

、和風

うつろひし彼岸桜や庵の庭

、魯山

野心も空より出来て初雲雀

、芦舟

草餅に影をうつして三日の月

、溜水

八雲山のおもにて

白雲の巢にそだちたる桜哉

、橘隠 花叔

野遊や雉子の尾につく日の光

、文節 (一一オ)

一本のさくらにこつむ藁家哉

、神在 三都良

月深き夜頃や春のあり所

、百丈

八重ざくらむかしふりにも咲にけり

、玉沽

梅が香を梅檀の葉にとめにけり

、二部 里石

花ちりて水の白さや春の川

、久村 一種

谷底も弥生が来てや花に風

、如竹

若菜摘宵やむかしの月がある

、露竹

さゝ波や思ひをよする桜貝

、保水

向直る梢の鳥や春の月

、紫翠

松杉の陰はくれてもさくら哉

、小田 其泉

里はまだしらぬ夜明や山桜

、馬木 古吹

若草や波間も春の島ひとつ

、基丁

袂から小貝のもる、汐干哉

、柳枝

誰問む花にかけたる谷の橋

、柳原 一声

吹おろす風に花あり春の山

、よの女

梅ちるや谷の流れも花筏

、しほ女

鶏よりも夜明の早し山ざくら

、池月

さゝやきも花の鳥のと花の友

、都水

野にもはや品の付てや梅の花

、石見大田 其由

花鳥の空にならぶや鳳巾

、河本 曉廬

水にある豆腐に春のあらし哉 豊前小倉 十邑

一に富士二は何くぞ山ざくら、桑雨

ゆるされし祖師こそ花よ酒肴、歛甫

面白やさくらに渡す山かづら、久木

山ざくら西亞魯は何と見ていにし、默雷

前載に見知た蛙啼出しぬ、黒崎 青人

顔ばかり夜明る人や山ざくら 豊後高野 魚舌

山かげや七つ過れば花のちる、日田 有篁

朧夜となりぬ檀の木柏の木、葵亭

暮かねて水のはしぐのどかなり、カツラ川 春坡

白魚や花ちり流すおりくくに 筑前山鹿 瑞芝

香を配る世話で一重か梅の花、姪浜 魯二

ある山寺にまかりひめもす

かゝるをりにふれて

けふばかり夕暮もちらぬ桜哉、直方 此原

山ざくら吹ちる水に留るかな、桃李

狩人の桜にながき羽織かな、寄木

青天や是ぞ誠の花ならん、曙川

日おもてや松のはづれの初桜、柳左

散さくら坐禪の僧の心しれ、藤曲

夜ざくらや烏うかゝ雲に啼、涼眉

動くぞと見えぬる花のかるみ哉、南交

花に鳥とぞ見るうちに日和かな、文花

横雲の気色も見たし花盛、求古

我留主にさくらの花の散にけり、壺青

それぐに目のきはまらぬ花見哉、少年 晩翠

来る人も花守となる花の陰、白芳

あさ風や雲はなれ行峰の花、たき女

花の上くれぬうちから月やある、橋雨

むつ田よりさし登る日や花の雲、歌舌

花に鳥雲に入べく見えにけり、楓里

花盛鳥消る枝もなかりけり、五雪

鶯ののぞひて歩行小松かな、博多 朝可

夕暮を門へもてきて啼蛙、井美

朝霞嬉しき橋のかゝりけり、芦屋 希玉

松の隙を苗代水の曇り哉、芦江 撫節

雲雀から引延ざる、烟かな、白志

夕ざくら処によれば火のほしき、吉木 此柱

とかくして月は満たり花盛り、直方 沙牧

山人の藤もて戻るゆふべかな、竹丸 泉左

夜は夜とて桜のうへの噂かな、石中庵 一萍

山はみな畠にするか春の風、甘木 帰来

船つなく桜持けり須磨の海士 筑後恵和村 鉄舟
 有明のかくる、花のあらしかな、藏人 其成
 正月や何につけても月と花、久留米 一簣
 古きもの流れつくせり春の水、方朗
 のび上る磯菜や雁の別れより、芦月
 月になる迄の宵なり春の山、双鳥
 心ほどちるものありて山ざくら、方舟
 正月は何があるふとうめの月、冠山
 花にひとり春の夜ごゝろ尽しけり、芦月
 花ちつと散出す夜から啼蛙、文角
 みち汐に月夜桜の匂ひけり、羨乎
 けふの日も暮そこなはず啼蛙 肥前神代 春喬
 定らぬ風の吹なり梅のもと 肥前イサ早 梅路
 夕空の小雨あつまる柳かな、平戸 井甫
 まづ風を押へて花のさかり哉、五鹿
 永き日や汐に引る、水の筋、玉芝
 野に走る駒の頭や立ひばり、太皐
 鶯を跡になしけり丘の松、青鱗
 啼蛙やどの寝いびき夜更たり、二桃
 朝雲のかすりて行や梅の花、梅芽
 鶯のたゞ飛ぶかと気づかはし、李薫
 花よりも多し御室の人の数、長崎 洵美
 すむ水に影もとまらぬ燕かな、如松
 松風を放れ切たる汐干哉、士口
 のどかさや川原に落す鶯の声、三省
 白梅に夜降もの、雫かな、吾友
 いつ来ても夜明のやうな桜哉、其映
 春の雁おぼつかなささ啼夜哉、菊也
 夕風に吹起されて藤の花、紫溪
 入月のさくらにさはぐ小鳥哉、芦江

(一五オ)

(一五ウ)

(一六オ)

風もなし爰を心の夕ざくら、李溪
 年々の桜にくる、藁家哉、友之
 堰水に春はみちけり啼蛙、輝友
 日の影も草に落こむ雲雀哉、烏孝
 散花にまぶれて見ばや此朝気、松陵
 夜の明て見ればひとつの蛙哉、登龍
 大嶽をおろして来たり花の鳥、祥禾
 平押にくれて行なり遅ざくら、大村 米虫
 月の夜も雪の夜もあり猫の恋、微山
 風止で朧をつゝむやなぎかな、島原 鐘山
 南無庵のほとりはみな
 西行の花と聞えければ、長崎 菊也
 夜桜と呼ばれて咎を散しけり、馬印
 されば久しき山吹の軒、大峨
 人ぐの箸取たびに雉子啼て、士勲
 旅の調度のあさき在明、蘇十
 狩衣に秋の匂ひを打かさね、松涛
 ひさごほしやとたゝく板ぎれ、祥禾
 祖父婆々は牛のいろ毛にうつゝなく、天外
 風の跡から恋をしかける、天外
 世の中を梶の花と思ひしに、印
 くるくゝとまぐ四五枚の紙、(一七ウ)
 賓頭廬をどつさり下す椽の先、也
 なには堀江の船の長冬、峨
 あぢむらの羽音に月の曇りかけ、涛
 兜かゝえて古き名をいふ、禾
 豆を煮る心のうちぞ哀なる、外
 きれいに明し山の中ほど、印
 木々はみな花の風にかたぶきて、十

(一六ウ)

(一七オ)

(一七ウ)

蝶舞出よ蛙音をなけ、勲
 けふまでの彼岸の水を汲並べ、鞍風
 さびしき時にたゝむからかさ、竹人
 山繭をみの、男の売に来て、也
 すたりくけふも氷柱の雫哉、士勲
 行先は樹あり家あり啼蛙、大峨
 鶯やうしろを見れば山の月、天外
 落馬しておかしき萩の若葉哉、蘇十
 春深く木の下つゝじ咲にけり、松涛
 若草を四五日踏で都かな、竹磨
 春風に付て来るなり川原鷗、在長崎 馬印
 初ざくら家の古さに散にけり、肥後熊本吾齊改 砂童
 水草のわづかな夜にも啼蛙、百児
 声高ふ笑ふ人なし花のもと、天草女 芝玉
 家ありて桜なき岡はなかりけり、熊本 眠石
 散る花にはや陰もある深山哉、羽人
 たよる木もわからぬ藤の盛り哉、敵裘
 花の山終にはあすの曇りかな、貫露
 日を跡になして夕山ざくら哉、虹夕
 うつかりと舟着磯のさくら哉、二扇
 梅咲て山陰濁るながれかな、岨邑
 只ひとり見ては置れぬ初桜、蘭雫
 梨の花昼の姿の残りけり、尺風
 人声のかつゝ暮て花の山、松角
 麓には牛の声あり雨の花、蓼雨
 董咲野にはとゝかず鐘の声、秋鳥
 ちる花の雨に捨たる箒かな、車来

(一八オ)

(一八ウ)

(一九オ)

(一九ウ)

流れ来る物にさはりて柳鮠

、文橋

空木の一本たてり花の中

、蟻城

我裏につゞく野末の桜かな

、雲岱

入相の上に遠山ざくら哉

、露好

山ひとつつゝ、じの物と成にけり

、怨風

山ざくら人をしらべて戻るなり

、緑川

花ありや飛くあかき夜の山

、岫丸

散初る桜はあすの名残かな

薩摩都城 登鯉

捨がたき身と思ひけり初桜 日向ミ、ツ 吟龍

梅の花見てからよその夜明哉

、老岐 鳥悦

万代や志賀のさくらに草の家

長門赤間関 羅風

やま吹にならむで煙る戸口かな

、冬蘿

峰の花眼を定れば星白し

、芙山

見ては行くけり山ざくら

、一蓑

夕ぐれを鳥も啼ぬさくらかな

、亀旭

畑打の空に日暮す小鳥哉

、如玉

青柳に来てゐる雨の鳥かな

、甫雪

行雁は日々に水田の曇かな

、蟻好

鶯に行とゞきたる日和かな

、里夕

草の家の小ぐちに降や春の雪

、枝江

灯のかゝるときちるさくら哉

、其国

ゆふ事も春はめでたし東やま

、庸々

山ぶきの色にもどるや朝の月

、松下

朝桜火を焚人の老にけり

、里柳

開作の後百年のさくらかな

、桃宇

いかさまに是は愛度桜かな

、古硯

鶯が啼とて橋を作るなり

、梅仙

遅ざくら雨の降日を盛りなり

、仙梨

烏までたゞ居る春の山辺哉

、憐霞

四国路や春の夜明の火が見ゆる

周防小郡 古梁

道草の匂ふや水のぬるみより

、和風

咲花にたすきかけた坊主哉

、和竹

草も木も墨絵なりけり朧月

、一葉

梅のはなまだ裏道は溜り水

、喜謠

乙鳥の柳に来ては戻りけり

、和木

青柳に春を預けて行日哉

、古嵐

鶯や風かはしたる雨のはな

白松 古桂

くもる夜や水にも入ず啼蛙

、百之

梅と家梅と家との山辺かな

、和道

月に咲月にちり行山ざくら

山口 雅倫

家づとや桜に結ぶ夢はなし

上ノ関 為充

山口の明た心やはつぎくら

安芸小方 可友

ことしは多賀庵の花守と成て

、梅仏

菜の花の白きも見たり麦の縁

広島 梅仏

あらし山今朝咲花をかぞへけり 備前岡山 子坤

(二二ウ)

山かげや二葉の麦にうめのはな 備中倉敷 五蓬

朝の柳おきよとたゝく庵かな

、甘蘿

山吹や夜のあらしに咲そろひ 京在福山 午後

松風の上にくれたり鳳巾

、羽白

炬ふさぎや門に聞ゆる山の鐘 備後福山 重塊

犬までもつき来るものか花の山

、彫雲

ほろくゝと花のちりけり雨の朝

、青枝

あらし吹浦もさくらの盛かな

、李朝

松さくらいづれ夜明の姿かな

、三原 素良

さくら咲軒やひさこのふと下り

、菊徑

初ざくらよしありげなるこづきなり

、杜庵

はつ桜折れよといへば折過し

、士芝

ちる花に我笠重しよしのやま

、芝暁

鶯に何ぞいひ度寝さめかな

、田房 桃甫

鶯やあさ日のうつる小松ばら 美作高下 常戯

引よせて手折もやらず糸桜

、女 可度

あたら花に人は日頃の山路哉

文章改 瓠落

梟のつくねんとして花盛り

播磨魚崎 石毛

花の山藤遅かれとおもふなり

、姫路 頼木

美しき柳を貰ふ汐干哉

、繁昌村 蛭溪

ちる花の須磨は夜に入浪の音

、北条 梅廬

春の風少し小高き草もあり

、魚崎 蘇明

今年の水のたまるから池

木海

此家の息子の戻る二月にて

全

ひとつの策の遣り所なき

全

いざよひをそこくにして餅をつき

全

棕鳥場くへよせる笹の葉

海

江戸からもいふてぐしたる菊の事

全

草履たばこも翌日の賄ひ

明

付紐のあるきりものを記念とて

海

めさきへ落る桐の木の花

明

鶏のけた、ましくも啼出し

海

わけのかはつた棟札をはる

明

山中に大釜すへる月の秋

海

得しれぬふねのかゝる露霜

明

岩角へ落す筏を乗よけて

わらぢの紐のとける折く

耳なれぬ仏法僧の声尊と

梨子地の箱を児の携へ

霜寒き月に誰かは忍ぶ影

うすものゝ香のもれるくだら野

すり違ひ群集なしたるはやり神

七つにちかき日の廻りやう

律に聞笛のしらべも花の中

へぎにのせたる草餅の色

誰やらん日永き部家に高軒

那智の住寺の入院にぎはし

楽書をはんじて見よとりぐに

化そこなふて関を通さぬ

啼水鶏はかる空音はなかりけり

小田守賤があかりうすく

叔父は今六条へんの出来分限

ものいひごしは百になりても

思案する眉のほくろに皺をよせ

緑青兀た辻の庚申

かいわいの角力にこぞる月の秋

埒の陰より下る百生

棕鳥のわたる梢に透もなし

閑伽汲もてる尼の年若

なき人の記念の筆をうすやうに

傘の蛇の目はいともうつくし

白幣咲や神園の花曇

ことのはことに結ぶ糸遊

鮒うりの来る夜もありぬ朧月 近江在武州 亀使

春さめの処を得たり都鳥

江戸 春蟻

花の山何れ下戸なく見えにけり 安房磯邑 楚流

魂も飛来る花の日和かな 素月

花に鳥みだるゝ時をさかり哉 雨銘

枝川やさくらかざせば水に蝶 雪兄

暁の雲まだ寒し初ざくら 雪弟

花に鳥こゝろの動く日和かな 松寓

朝鍛冶のおとに余寒の残りけり 一松

暖な月ひとつあり海の音 下総結城 眠齋

ひとしきり桜に早き夜明哉 其章

蛙啼夜は雨もなし風もなし 常陸 曙雲

うるはしくみどり立けり竹の秋 竹里

水際にあまる夜もあり春の月 陸奥南部五ノ戸 三豆

桜花おなじ春にも隔あり 津軽 文石

雨風の神にも申せ初ざくら 全

春の夜の雨は雨にて夜明けり 桃仙

日ぐれても花のかげある小里哉 里川

行々て瀬の音高しおぼろ月 鯉ヶ沢 子賀

手折人なきはいのちぞ松の花 観水

羽子板のうらを見せけり春の雪 除風

夕虹の裾引土手の柳かな 里夕

鶯の真向に啼やかゝみ山 子英

若草や雨に日落て陰二寸 雨萩

朝空や濡る覚悟の山桜 尾鏡

しら浪にしらむ磯山ざくら哉 津軽 素純

家一ぱいに匂ふ甘海苔

千賀雄 (三三オ)

鶯の小声に雨を呼出して

うちむかひ居る夕月の人

何となく草の花道静なる

余の秋しらず竹さらす里

大鳥は来てもにごらぬ洞の水

羯磨が作のほとけなりとや

此度も売きらしたる忍ぶ摺

おもひかさなる暁の夢

炷しめし兜の香や薫るらん

しぐれの中に秣さる音

甲斐が根にかたぶく月の影寒し

籠にならべる塩の小肴

腰かけにねぶる坐当^(ママ)をおどろかし

日も陽炎も永き最中

ちる花のおくへくと咲うつり

峰入前の米はこぶみち

だゝくさによせて置たる鈍屑^(ママ)

兄も弟もこくめんな顔

隣からまたかりに来る塵劫記

岩きり落す水はあら田へ

甲かけの間まで蛙のはさまりて

女ぢからにあまる長櫃

明を待銀かはらけを汲ながし

いはれの多き朔日の式

船にひく四手ちらく^{ママ}と浅瀬川

萩ふみあらず菱くひの声

眼ざめてもさまでうごかぬ窓の月

妻籠の宿の柚味噌なつかし

鼻紙を黄楊の小櫛のすべり落

温泉のけぶりのほつくと立
にぎやかに珠数かけ鳩のあさるなり
やとひのもの、錢わけて居る
花の香に春の名残のおしまれて
蝶に追る、唄の網はし

雄 純 全 雄 執筆

雲わけてやどる鳥あり夕桜 弘前比斗坊 其友

四方は皆さくらに突る山もなし、七十九翁 乙彦

初ざくら我にちる日の思ひあり、素純

あり明の桜に鐘もおもしろし、柳子

あら壁のかげろふ家や桜陰、皓々

山ざくらやまにはなしはなかりけり、文洲

さくらいろく花は何さま山ざくら、燕児

桜にも世は十分のねがひ哉、五英

おく富士のふもとにありて

月も雪も弥生は花の岩木山 近江在津輕 千賀雄

桜ほど花ちる花はなかりけり 津輕 五友

愚かなるこ、ろも花の木陰哉、吞鳥

花の山と呼ほど桜咲にけり、雪江

花咲とおもへば春の夜も長し、素涼

いく千里煙立なり梅の花 飛驒八賀 素立

行雁のひとつは月に成にけり 信濃松本 可考

山ざくら月夜となれば風もなし 全

梨の花麦のあらしと成にけり 全

啼蛙明て雀の旭かな 伊奈 伯先

行道のわきに成けり初ざくら 飯田 何頼

水かけがしても散出す桜かな 越後今町 なくに

月や日の余慶になりて梅の花、新潟 喜年

暮てくれず明ぬに明て桜哉、小国 菊里

鳥の巢もけふはかくれて木の芽哉、里泰

梅が香や夕暮の窓引忘れ、探泉

百姓の正月長し梅の花 柏崎 呉洋

雉子啼て広き野山と覚えたり、其貞

世の中は今の事なり花に鳥、平水

落着て物をくふなり遅ざくら 越中富山 方三

花びらのつよく見えけり滝の梅、如岡

赤椿大工の眺めつくしけり、乙竹

はるの夜の明れば花の曇り哉、孤山

人里のはなれかげんを花見哉、周台

いたづらに里さる、なり姥ざくら、文景

松風をうしろに置いて初ざくら、太翼

飯橋に松を根こぎやはな盛、魯山

今朝も見て昼も亦見て夕ざくら、四方 支山

おれぐちの扱あたらしき初桜、高岡 内海

つまだて、小坊子歩行藤の花、花農

馬駕に水はとくぞはつ乙鳥、関野 真葛

初ざくら白き小袖の寒きかな 能登黒登 玻井

此上に鳥も啼なり滝の花、加由

ちかき比焼しすぐろがなつかしき、寒厓

鶯のおのがこだまに逃にけり 加賀槐庵 雪雄

高からぬ籬のさくら咲にけり、一抄

乙鳥や今朝より聞ぬ海の音、蘭史

世に住びばりの野辺も見たりけり、棹江

雪なだれゆるき嵐と成にけり、階涼

(三八ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

(三九ウ)

鳴の啼夕ぐれに似て焼野哉、暮柳舎 車大

石臼の挽木倒れて春寒し、越前丸岡 甫立

春の霜桜に消えて仕廻けり、若狭向笠 貫扨
種蒔て見れば月ある夕べ哉、北前川 寿ト

竹の葉の流れて交る小鮎哉、田井 牛戾

啼蛙うつり心のひよりかな、生倉 節之

河こせば河内の蝶と成にけり、成出 六英

海士の火の淋しくもえて春の月、北洋

静なる夜明のさまやはるの雨、高塚邑 千好

臘気をはなれて高し梨の花、神子浦 柳澁

やまぶきの井手に狭まる戸口哉、佳玉

子の世話にやつれの見える燕哉、食見 花雪

梅暮るあたりの薺聞えけり、敦賀 仙草

眠たさの春もつとめて朝桜、小浜 李兮

天晴れの大木なりけり花曇、近江水口 蟹州

花ちりて春是までと思はる、其友

三尺に花の過さる夜のやま、砂上

初桜あれと見おろす峠かな、平松 亞溪

我ながら我はづかしや花吹雪、女しう

出る時の心ではなし夕ざくら、日野 松蘿

花に遊ぶ心に我も人もなし、紫英

夜の柳しほるばかりに闇き哉、サツマ 如蒿

鶯の餌の外や買屋敷、濃水

花によを一ト日なげうつ山路哉、紅枝

何所とても花にまばゆき梢哉、如行

きのふから散る花に来て啼鳥、湖東 如風

大寺の掃かけてある春日哉、ハマン 蘭之

山まるで春に成けり落し角、芳之

日枝三上おなじ夜明で飛胡蝶、柏翠

初花はちりて桜のはやし哉、西湖舟木 素人

初花にさはらぬ春の寒さ哉、獅丸

しばらくの雨もうれしき桜哉、湖夕

出来上る鐘や浮世の花の中、太田 乙鶴

白梅の中より出たりはしご売、森 子諒

家ざくら夜に入る雨のふとり哉、万木 鷺泊

つか／＼と見による庭の董かな、北嶺

松風におされて出たり春の月、素雁

岩橋の夜は明にけり花に鳥、砂文

京人が見て／＼散す桜かな、野田 龍山

草餅やけふもわかる、雁の声、音羽 田美

飴売も搗屋も春の隣かな、大溝 青楓

松山の夜にもまぎれぬさくら哉、一居

油火のまことらしげやちる桜、無禁

麦よりは一段高し花のかげ、松零

日のうちは何ともいはぬ桜哉、阿石

けふの日も花にとらる、曇哉、堅田 歌雄

音のして散る花も見る山の寺、籬邑

白藤に春のかくる、山辺哉、几頂

雀らも声ありたけに霞けり、友鹿

浦家めくものは柳の朝日哉、五粒

人馴れし雁の名残よ八幡山、其白

霞む日やどこに巢を持鳥の声、扨当

淀川や鶴のたつにも春の風、美山

青柳やしつたりぬる、夜の雨、有常

朝雨は寒みもつなりうめの花、子兮

陽炎や野辺には野辺に啼鳥、湖月

明行や川浪そ、ぐ初ざくら、文常

世の中や咲ばかり行山ざくら、坂本 于当

桜よりあらはれにけり朝ちどり、三井 千影

大空のながめられけり花の雨、大津 五来

雀子や笥の水に下りて来る、宇洋

ちるも花咲も花なり雨の中、走井 鳥頂

樋の口のあかはたまりて柳哉、山城宇治 泰峨

啼鳥は啼て桜の夜明哉、馬州

船造る苦屋に昼のさくら哉、恕裕

畠から春も立ぞ雉子の声、三室 幹海

柴漬の一枝はねて木の芽哉、淀 蓬室

苗代や水のいそがぬ青みより、伏見 可蝶

あた、かに土の匂ひや車道、全

ふみわけし麓の花ぞまざりける、在京讀高松 履視

花守の四十を恋のはじめ哉、信上田 六轡

うつなや世上の花の臘かげ、奥二本松 二松

みよし野と思へばちるや我桜、山科 木溪

愛宕から丹波へ越しぬ桜がり、京 斗雪

家ありてつ、がなく咲野梅哉、漢水

くる、日やさくらに戻る花の色、あたふ

たぐひなき寺の名となる椿哉、春山

花咲て酒ある嵯峨の家毎哉、馬遊

あかるきは水の常なり遅ざくら、其白

よけて吹け花にはにくき夕嵐、一熊

長楽寺にて

さはがしき時はきにけり夕ざくら、茂良

何となふ流る、水や春の月、以鳴

遅々としてあたり日暮る桜哉、白朗

ちる花や世の鐘遠く日のくる、魯淵

日和にはあかぬ物なり藤の花、泉立

何所までもうらなき花の盛哉、
 暮行や畠の中のもの、の花、
 うぐひすに引れて入りぬ二尊院、
 夕日さす彼岸桜やうしろ堂、
 梨の花朧月夜に戻りけり、
 きのお見し人も居るなり花の山、
 草の風間もなく来て朧月、
 西風に日直るそらやはな曇、
 何心付ぬところやすみれ草、
 留守の戸を叩て過ぬ初桜、
 越路には神代のまゝの春の雪、
 初花やまだかけ替ぬ去年の橘、
 人声や霞の中の山ざくら、
 西山の茶はなまぬるきさくら哉、
 土器をかさねる花の垣根哉、
 わか／＼と今年も花に立双ぶ、
 虎杖や蕨の春と成にけり、
 横雲のきれ残りけり峰の花、
 我宿は豆腐ばかりの桜かな、
 したゝかに折て囃ふや山ざくら、
 三条に先宿をかる桜かな、
 桜から押出す雲のかしら哉、
 はや露も見えて木陰の落椿、
 初花やしらぬ小宮も伏拝み、
 朝雲に気をつく桐の木の芽哉、
 ちる花に時も聞えず鐘が崎、
 老けりな藪の中なる桜花、
 年々に心さびしき桜かな、
 日毎／＼花の八重山人諷ふ、
 山ざくらこゝらも志賀の郡哉、

芦涯、
 桃江、
 魯竹、
 起龍、
 涸轍、
 酔夫、
 知大、
 春峰、
 季謙、
 芹水、
 南岳、
 杖下、
 橘栄、
 千代道、
 凡仲、
 松屋、
 東子、
 蓮儕坊、
 吐成、
 鶴翁、
 兎角、
 百磨、
 国雄、
 阿年、
 葦笠、
 岱李、
 荷屋、
 仏斎、
 桃李、
 在貫、

(四五オ)

白魚やゑの子柳のかげこゆる、
 小十町汐引捨て春の雨、
 さくら咲と聞さへはやき山路哉、
 松山のこなたに昼の桜かな、
 居然、
 百池、
 千崖、
 蒼虬、

(四六ウ)

追加

芹川や蛙子あまりいかいこと、
 散ぎはや一日梅のさはがしき、
 いくたりの人の遊ぶや山ざくら、
 美しき夜となる浦の弥生かな、
 砥にならぬ石とてはなし藤の花、
 つと出る日にあまりけり雉子の声、
 明かゝるところは花の山路かな、
 春の雪処／＼に見ゆるなり、
 さし柳五尺の春と成にけり、
 さくら狩鯁喰た人も交りぬる、
 松立て世を小車の初め哉、
 八重一重霞める中や花の寺、
 うす雲のゐなをる方や花盛り、
 東武 芹齋、
 在京筑後 天籟、
 丹州八上 玄之、
 西湖舟木 鸞尾、
 肥長崎 禾径、
 洛西 不染、
 洛有国、
 洛北修学院 三朝、
 在京西濃州 三好、
 京 羅石、

(四七オ)

京都烏丸下立売上
 書林 橘栄堂勝田善助

(四六オ)

(四七ウ)

(裏表紙見返し)
 (裏表紙)

20 文化四年『花供養』

底本 竹冷本
校異 高岡本

花供養

(原題簽・表紙)
(表紙見返し)

序

石上古き一年木の間の花のとり庵の主の喰じ／出されしもこゝらあたりの事なるべし。されば、俳諧おこりて後、道のわいだめ婆のけぢめも多かれど、盥に雨を／聞れしより、世々はせを葉の響高く、其間に遊ぶ者、／葦原の中津国に実こぼれり。かゝる大とこのこよなう／尊ければ、玉葛たゆることなく、年々祖翁の像前にも／さるも宜哉。芳野に花供養あり。日枝に花摘あり。晋子／は母のために、夏百日の発句を積て一集の名と成せり。

(序一オ)

千早振宇治のわたりのあざりのもとより、わらはべの供養したる／初穂なりとて奉れる早蕨も外ならぬかは。今や蒼虬うしは、／先師の道をふみいやよひ中の二日定て諸人のをのがしうに／言出せる言の葉の花を束て、彼精神を祭玉ふ。やをらこの真／心のいいたうせちなるものから、不知火の筑紫おのこも、鳥が鳴／吾妻童もまう上り集ひて、南無庵と手を合ることのよしを／ひなびたる文作りて、おこめかしうかい付侍るは、人笑れならんかし。

皆文化四卯春三月伯陽応響舎沾雪謹序印印

(序一ウ)

一順

うへしたに雲置はなの盛かな

春をしづめる余所の有明

松檜わたり乙鳥に宿かして

かつてのよさにつかふ古鉄

毎日の飛脚はよれど用もなし

小魚の鰭をそめる初霜

立別るくさど／＼の国境

何を焼やら土とりに来る

是ほどの住居に広き夜の明て

そら手ばかりが我病なり

旅人の夏めかしたる三輪の杉

行者の鈴を戴きたがる

瀬の音の北に廻れば日和にて

帆綱もつる、別れするかな

夕暮は思ひすて、もむら薄

壁にゑぼしを打かける月

白樺に栗飯などを盛ならべ

今と昔の木曾の麻衣

空日よき梅の咲たる道の端

つま乞声か烏啼なり

雛作る窓の明りもくれかねて

銭さへしらぬ母のくずをれ

武蔵野の便りも早き船の上

初夜とよいとの間がすゞしき

御垣守恋の関家と読れたり

笛がこけても胸さはぐなり

牡蛎籠に今朝の霰のきえ残

畦をつくる谷の山鳥

鋸の刃に引かゝる後れ髪

恕裕

蒼虬

瓜坊

馬州

文常

此原

月峰

葦笠

岱李

千崖

霞潮

国雄

玉桐

籬邑

居然

芦涯

百丸

百哺

一熊

桃雫

真菅

仏芥

素林

其成

千代道

阿年

茂良

宇洋

玉洋

二度目の波に桶もとらる、
牛馬も役にさゝれし神祭

女ばかりが先膳につく

吹伝ふ松の調子のやはらかに

旧都に土器をうる

腹ぐるな事をも月に工出し

矢先とゝかぬ鹿の通路

末略

春の夜は水の上より明にけり

梅が香をぬけつくゞりつ片山家

草の家の曙低し雉子の声

春雨のはてを見てゐる夕かな

雉子啼てきじの鳴日と成にけり

十日たち廿日立なり独活蔵

ふるごとの花にとはれつよしの山

家ざくら月にもしばし見たりけり

春の風ところ／＼にかはりけり

一日のすゝきを過て初ざくら

霞のまへをはしる山水

竹簾春のをしさに柴さして

はなしに来るも同じ鳥好

どつかりと月に捨たる豆のから

草より先に露のしぐる、

蟬螂の袖に飛つく旅まくら

七つの鐘に施葉はじまる

紅葉ちる家は大きな灯の光り

須磨のもどりの船よするなり

此こゝろ雨ともならず根なし雲

在貫

馬遊

荷屋

斗雪

布雪

百池

買羊

肥后 眠石

菽泉

牧笛

波弼

壺溪

百兒

秋郊

李蹊

梧井

岫丸

羽人

栗葉

蘭戸

怨風

車夫

蟻城

慶遊

緑川

丸

人

(二ウ)

(三オ)

(三ウ)

(四オ)

名月の程遠からぬ兀鳥帽子

酒のすぎたる石工が秋

つゝ立て鹿の身をもむ冷じさ

夜明る際にもえる灯心

咲花を此かいわいに盗まれて

歌よみ達をそゝる蛙子

印

蓼

松

測

蓼

印

(九ウ)

ひつたりと咲ては花もうす赤き
梯の手のとゞきけりうめの花五鹿
李薰

(二一オ)

山深きやどりもたのし花のころ

龍雨

鶯や竹の千尋の陰を出て

吟龍

永日やまたも椿の落るおと

五岳

梅の咲暮は小寒し一在所

肥前平戸

井甫

出かたのちがふ春の三日月

正阿

横堅に霞の中を網引て

李薰

鶯を放てばまた雲に入

甫

卯花を持ぬ軒端のさびしさは

阿

松に箒をつゝ懸て置

薰

馬で行双六打を呼りとめ

甫

踏ばざぶつく砂川のはし

阿

浅くさの御堂の屋根が見えかゝり

薰

鐘をぬらすほどの初恋

甫

我袖はくゝとてなみだなる

阿

月と露とは別くゝのもの

薰

刈萱はすべて鶉の宿にして

甫

たつたひとつも雁の来ぬ秋

阿

氏神のかろき祭も仕損ひ

薰

大きな石をこかす鬺とり

甫

咲花も是ばかりかと仰ける

阿

何を植ても来なく鶯

薰

(一〇ウ)

春の水生松笠の流れけり

、其外

雑魚はかる浜に出ばや春の月

文英

闇の夜もなくまいものか雉子の声

楚流

誰なれば仏なぶるぞ鳴田螺

吾鳥

出がはりは霞の深き日なりけり
行水に笑ふて覗く柳かな吉田 春江
姪浜 魯々

(二二ウ)

若草に火をうちこぼす山路かな

羅風

たらちねに似た顔もがな寺の花

冬蘿

家土産やさくらに結ぶ夢はなし

上ノ関 為充

往来の人声つゞく柳かな

防州小郡 不占

能人に馴たるはなよ菫草

古梁

駕かきに無心いひくゝ花見哉

浦詠

けふばかり雲も通ふな初桜

芦屋 一鏡

旅人になりてもたらぬ弥生哉

福岡 四軒

大寺や松の中より初ざくら

頓野 歌舌

仮橋のかゝるも花のころならぬ

魚水

是ほどな春にも雁を惜むかな

豊前中津 亀友

水ひたく草にかくれて春くれぬ

郭釜

花を見るとことて住ば鳥も啼

其嵐

朝風の吹出せばなく雲雀哉

豊後日田 素光

茶の煮る頃や彼岸の鐘が鳴

有篁

おしげなふ折てくれけり桃の花

小浦湊 月虎

かち人の一日遅きさくらかな

対馬 曙堂

さゝ波や雉子鳴かたは小松ばら

雨柳

月にかざす野寺が袖や花すゝき

曙堂

初嵐柳見かけて通りけり

雨柳

檜檜谷一ぱいの月夜かな

東指

松原に一本曙るもみぢかな

都翠

鳴たつてながめられたる嵐かな

歌声

仮着して更行舟や月今宵

兎丸

名月に当てなく道を歩行けり

雨竹

(二四ウ)

遠山や霞につゞくゆふ煙 石州福光 美言

笛籟ぬ制札もがなうめのはな 臨江

鳥さしも吹れてまはる柳かな 浮根 湖東 (一四ウ)

柴の庵奢らぬ花の一本かな 出雲大社日々庵 浦安

湖に行とゞきけりはるの風 、白沢園 有秀

約束の心うごくや花ぐもり 、寸苗

春の野を遊び過して闇夜哉 、有風

香をぬすむ風に霞の関もがな 、雀子

山川や花の浪たつ夕あらし 、扇風

花咲て郭の昼の静なり 、露磨

寝はせぬぞ片火焼家の梅の花 神門知井宮 一釣 (一五オ)

住吉の松から吹やはるの風 其風

仁和寺の裏の木戸さす春日哉 、龍池

雉の声あらしを起す山かづら 、波濤

春の雪月は宵く見えて降 、燕子

花守や煙をかくす古すだれ 橋隠 花叔

梅咲とやうも告けり今朝の風 下志 芝及

斧の音に鶯滝をのぼりけり 、露光

白魚の花ちりてもとの流かな 、三千丈 (一五ウ)

山鳥のをが迷ひて春くれぬ 上志 東廬

都にも夕べがあつてなく蛙 、澄水

菜の花に円へるつまの嵐かな 古志町 杜若

行春は川辺の垣にうつりけり 、李郷

吹風もいとぬ花の荅かな 、魯山

山陰も桜に闇はなかりけり 稗原 よの女

雪は空に消て見せけり初桜 、志津女

人の世はあれども志賀の桜かな 、池月

香をとめて垣をさぐるや闇の梅 、都水

梅のちる日はかはきけり古草履 神在 三都良 (一六オ)

関寺をひくふ見せけり春の月 、百丈

聖廟や白髪に薫る夜の梅 小田 其宗

酒のむは花を大事と思はずや 安芸ヒロシマ 梅仙

雲雀落て草のあらしと成にけり 、峰貫

ひとり居の明て出けり春の雨 、豊浦

暮かゝる日にしづかなりはるの風 、霞柳

蝶ふたつわざとならざる風情なり 、宮島 含菊

これのみを己が花実やつくし 、中村 梅山 (一六ウ)

唐崎や松のあたりの夕がすみ 、五由

時しらぬうら枯見たり葉種花 、蒼虬

鶯の背丈伸けり花すみれ 備後福山 牛後

うれしさに笠着て歩行桜哉 、黄葉

正月もすむや夜明の雨のおと 、李明

あの山がありて春行草木かな 、羽白

ひとり居て見れば小寒し梅の花 、撫月 (一七オ)

又花につかはれくらす日数かな 備中 寄居虫磨

際立て青き空なり焼野原 、笠岡 古音

数ならぬ枝折添て花供養 、李山

世の中やたがひちがひに花のちる 播州魚崎 蘇明

降ずともすむ姿なり春の雪 伯州大谷 沾雪

世に用のなき身や投ん花の滝 、牧牛

雨にくし花ものいはぬものなれば 、徽州 (一七ウ)

顔出して雨見る春となりにけり 、久古 沾荻

花ざかり月夜となりて嬉しけれ 三崎 仲麟

ちる花やいとま給はる白拍子 、宜哉

夕焼に日かげの椿光りけり 法勝寺 文虹

遅ざくら日南とならぬ山はなし 、三崎 碩遊

人の気の野山へうつる二月哉 、湖水

径ありあるじをとへば山ざくら 寺内 新風

遅ざくら埒もない樹にはさまる、 米子 富門 (一八オ)

行春やしなりくなりと麦の中 浜大谷 里月

春の雲序に花のはしとなる 川岡 蘭玉

炭焼の袴着て出る春日哉 車尾 光器

落椿虻さへかくごせぬ間なり 米子 和月

いつ出来し花のあたりの小家哉 日吉津 徐来

人來れば咲人去れば散る椿 伊賀上野 峨月

春の月浦家にはまだ啼千鳥 、梧鳥

さればこそ吹やんで後の梅の花 、猪来 (一八ウ)

日も薄く桜に沈む外山かな 総州結城 詩舫

浮世めかぬ所も花の盛り哉 、其章

鶯や山一ぱいを啼渡し 因幡岩井 鳥城

里遠き広野の鳥井霞けり 但馬二方郡 月波

はかるほど桜ちりたる小庭かな 、大養父 鳳兮

下臥や桜をもる、日の光り 丹后后野 舍琴 (一九オ)

雨ばれや思ふあたりの初ざくら、加悦 如琴

ひつそりと月影にちる桜かな 、馬琴

しづかさの雲置添て花の山 、箕山

あのやうにちるや桜のかたあらし、宮津 武節

三日の月花とひとつに暮にけり、石川林 蛙音

長閑さや女波ばかりの和歌の浦 、枝鳥

鶯の啼てゆくなり柴の上 丹波大山 兎原

さゝ波や月のうへ飛ほと、ぎす 、尋河 (一九ウ)

白魚をすくひ上たる寒哉

、 二桂

さくら散て月に重る夕べかな

、 朝於登

苗代は猶万代のけしき哉

篠山城西

弘三

灯のきえて夜ふかき蛙かな

、 東眉

大きな月を見すかす柳哉

、 季柳

さみだれの晴て汐木の匂ひ哉

、 岡眠

朧月鳥はよく寝てしづかなり

、 梧朗

湖と青田の中の小家かな

、 鯉三

木啄や秋は静けき山桜

、 其屋

閑古鳥啼ほどもなく飛て行

、 東亭

鶯のおりてあるくや苔の上

、 武陵

鶏と雉子も遊ぶや山の家

水上村 魯縞

柴の戸は西行ざくらしをりかな

摂州池田

瓜坊

ちる花に口ひろげけり雀の子

、 李杏

初桜ひとりおくれて山の月

、 遅春

法輪は日ぐらし寺や花の頃

、 三好

言の葉のちりかゝるなり朝桜

、 口谷 未徹

初桜ことに小家の隣かな

、 伊丹 比良

川わたる心となりぬ花の雲

、 駒房

何ひとつけしきはからず花の山、大坂堂島

、 米彦

灯を見せてあれば散出す桜哉

、 女 桃葉

浮世ともいふべき花の盛かな

、 瓢介

山ざくら弥生がうへの化粧かな

大坂 松月庵

空おもしろく霞む東雲

行雁の声にみづから火をうちて

(二二オ)

としに一度は地子を免ずる

きぬぐに流れを渡る月の影

苞をになひし露のきくらげ

右独吟

青柳のうへのす鷹の静なり

、 芝卜

さげ髪や顔にゑくぼの小松引

、 女と美

芦の芽や鴨の古巢の春の富士

、 市正

此君にもたれて雁の帰るとき

、 少年 里友

葛城のしたゝりいくつ春の水

、 燕子

こゝそことねぢ折花の夕かな

、 万和

風少しあるも桜のながめかな

、 松人

むつくりと桜のうへの月夜かな

、 膳松 田日

咲花の木間にあるや鳥の道

、 花叔

木啄の背にかゝらで飛蟻かな

、 伊丹 能岳

初花や思ひかへせば宵の月

、 尼ヶ崎 春人

陽炎に寄てはすたる女浪哉

伊予川ノ江 東里

鶯に建てもらひし小家かな

、 三島 燕国

草鞋はく心になりぬ梅の花

、 小松 霞耕

明星も桜となりて夜明たり

、 讚州仁尾 宗徳

嬉しさや年木はづして初桜

、 卜仁

はつ花やまだ寒げなる山の家

、 有隣

峰の雲手にとれそうな春の風

、 歌長

照殿の立姿よしうめの花

、 去鹿

兄弟の子もほめられつ梅の花

、 風馬

此笠の重るまでちれ夕ざくら

、 阿波 壺大

田一枚持ば夜／＼なく蛙

、 泉州堺 金花

あとからも鳥雲に入る木幡山

伊勢神戸 素隆

人声に又分入や山ざくら

、 白子上の 雲子

さくら咲かたや鳥啼朝朗

、 祐之

おもしろや花の吹雪にかこまれて

、 幽蘭

はる／＼となにか花みてひとり言

、 斯西

行て見ればひとり住なり花の宿

、 津 霞外

きのふから草履うるなり花の宿

、 幾久賀

若鮎や落花をつゝく夏箕川

、 他力

洪谷や花のかげをく古すだれ

、 竹至

笛の音に朝の青柳しほりけり

伊賀上野 乙夕

蝶／＼や夜もよしの、川を行

、 士得

おのづから鶯の啼日和かな

尾州名古屋 大蘇

犬の子のまた、きしたり飛胡蝶

東陽

表

我を見て立しか雁の別れ哉

、 浦且

雲か花かとおもひやる空

、 大蘇

春風にのりも定めぬ舟かりて

、 珉屋

あとなき事もおかしがりけり

、 五道

唐墨の匂ひ渡りし翠簾の中

、 大蘇

松のけぶりの静なる秋

、 浦且

下戸どもを月のかつらと諷はばや

、 五道

袴のひだをみだすや、寒

、 珉屋

露の道塩焼くはまに通れけり

三河新城 藍洲

霞ねば物たらぬ日と思ひけり

相模荻野 東洞

気がりや花に明行鐘の声

、 几柏

曙は桜の夜とぞしられけり

在京 牛道

山ざくら世のよき沙汰もありふれて

サガミ平塚 帰山

屋根ごしに影ある夜の柳哉 房州 桃阿
逢坂やさくらすり行夜の袖 、 東居

朝雨や花のあるじの袋米 奥州南部五戸 三豆
ちる花に月もさしけり植柱 、 仙台 子孝
雉子の声折くは風の止みてけり、南部五戸 雲臥
雨をふくむ山のはるかに揚雲雀 、 子甲
花の外にへだゝるひなど都かな 、 斑鳧
陽炎や大かた人の住ところ 、ミヤコ 北溟 (二五オ)

山陰や屋根ふきかへて桃のはな 信州飯田 梅彦
梅が香はかげろふのたつあたり哉 、 柏居
松風に鶯の鳴藪木かな 、 保三
土足の鳥を見ても春日哉 、 三都良
我丈のとゞく処や梅の花 、下イナ林 風子
白象を出すべき夜なり朧月 南原僧 五柳子
やまぶきの中を出てくる湯川哉 、 志桂
梅が香の二夜かゝりし板戸かな 、 知足 (二五ウ)

黄鳥のつらゝを落す草葉哉 飯田 蕉雨
冴かへる里の花なり赤つばき 、 雨鴻
住吉は泥の三月三日かな 、 何頼

桜咲世に逢坂の人ごゝろ 飛騨高山 儲史

花の中むかしから名のふたつ岩 越後中野村 霞翠
先がけはしたり顔なる花見哉 、徳田 翠甫
雨ばれは朝のこゝろや花の中 、仙石 柳居 (二六オ)
花の香を吹入る柴の扉かな 、 亀面
花の空籠の鶯はなちけり 、目来田 里竹
越山や雪のこなたに初ざくら 塩沢袖小松沢 峰雪

はせを堂を尋て

此道に入らずば見まじ初ざくら、水尾 素琴
夜の梅にほひに闇はなかりけり、大崎 桃之

鶯啼や土屋わらの雨の体 越中富山 嵐丈
春の雪窓へ吹こむや日のさすや 、 如岡 (二六ウ)
梅が香を樹々にわけたる月夜哉 、 馬城
花の咲中にも松の一本かな 、 路月
鶯に月さすくれの小窓かな 、 鯉里

青柳の日は西へ入る川辺哉 、 宇井
夜に入れば火を焚花の後哉 、 魯長
薄がすみ又松風の吹んとす 、 東映
枯枝の落るけしきや雉子の声 、 龜遊
小田に啼蛙の目にもちる花は 、 鳳章
駒鳥の声はたゆまぬ小雨哉 、 子碩 (二七オ)
すみれつむ手先にかゝる西日かな 、 田胡
のどけしや子に啼聞す親雀 、 右枝
人となりて後思ひけり二日灸 、 洒布
蝶の羽に風見る日なり弥生山 、 玉燕
山陰やすみれに並ぶつくくし 、 素僊
雁行やつみに二夜の船どまり 、 可一
藤の花曲突ぬりて遊びけり 、 路方
朧月杉の赤葉のけぶるかゝと 、 如是
水音の又低ふなる霞かな 、 士芳 (二七ウ)

酔も酒も涌たり里の桃の花 、 素甫
里の名を先聞さくら咲にけり 、 一甫
花のちれば小田の蛙も声高し 、 二龍
朝風や北むく雁の友きほひ 、 白雄
星の梅一つゝなりに見ゆるなり 、 子由
啼あはす関の網戸や猫の恋 、 子猷

巢の雲雀繚によれば柳株

田の幣の吹もちぎれず春の雨 、 梅下
浅茅生に雲雀の出入のどかなり 、 如柏
春の塵下にはおかぬ雀かな 、 魯扇 (二八オ)
川の名の花にとられし盛り哉 高岡内海更 菜朝

明てから数をましたり藤の花 、 里修
鳥のともや花のけしきを持て来る 、 文鳥
花につれて二筋三筋山の雲 、 芦舟
白藤の咲所には水のあり 、 花農
ちる花や思ひ捨てぞ珍しき 、 真葛
童から先野董と告にけり 氷見 井斉 (二八ウ)

朝毎の春引あぐる雲雀かな 、 祐之
ゆふだちの音して下る百千鳥 、 春潮
いつまでもおもかげのかぬさくら哉 、 豊曉
常盤木をなべて桜の曇哉 、 蘭陵
行春をうらむる鳥か春の声 、 不全
道守やさすがに董かり残し 、 うら主
見るまでは折とも言し山桜 、 女仏
春の氷動く所の家鴨かな 、 松花
傘さして行ば田毎の蛙かな 、 雪みち
梅の月思ひし事の寝かねけり 、 南枝 (二九オ)
春の猫よごれてかへる草の丈 、 きつら
我影を立のぼりてや啼雲雀 、 樹嵐

春雨や山へ鳴込くれの鐘 、女 柳子
うぐひすや雪のふる日は何を喰 、 李亭
蛙啼そこらに雲や広がりぬ 、 移文
ついはいれる霰を梅の苔みけり 、 野春
面白う桜から散月夜哉 、 菊二
唐崎の夢は破れし雉子の声 、 可近
里人の朝寝を仕けり梅の花 、 梅眠 (二九ウ)

出代やこゝろふたつのあはれなり	秀台	菜の花や中なる家を明はなし	一雙	一本の花にひかれて暮るかな	五陵
山桜咲ばこそみれ常のもの	馬太	春雨の岡に煙の登るかな	鳥紅	花の山二道かけん宵の月	二慶
うぐひすや山のゆふ日をうしなふて	十花更 八子才	日は入て花高うなる桜かな	芦花	白雲のたつや睦月のはだか山	観雅堂 都立
松風を甘日もきかぬさくらかな	水橋 文器	車水外へ流してなく蛙	鳥隼	雨の日や戸口にひとつ蝶の夢	波雀
花守もかはりし事はなかりけり	堀岡 曾由	春雨や東寺の鐘は夢の中	眉秀	日は峰に禁は暮て蛙かな	寿仙
日は山をはなれて梅の雪哉	海老江 梅仙	あながちに日向ばかりの初桜	平畴	隠れ家の道としてしだれ柳かな	如流
山かつら直にさくらの曇り哉	如龍	くゝる日の水にうつりて梅の花	其柔	あけぼのや烏啼行花のうへ	蘭風
白梅やすなをに明る朝朗	吉久 孤林	日帰りの里に見て来る柳哉	世器	年々ゝや花の匂ひに人の顔	桃夫
目に見ゆる嵐となりし桜かな	放生津 草風	静さや入日かゝへてちるさくら	竹雅	花の色にひかるゝ墨の袂かな	枝白
笹の葉の雪つもりて春の水	共和	網戸もる灯の影薄し鳴田螺	軌長	撫仏まいる道なり花の山	貴的
雪どけや漲るすゑは湊川	有隣	吹わける柳や水のうす曇り	錫我	白梅に露味噌かほる小寺哉	東花
菜のはなや家持郷の古屋鋪	歌兆	人待も春の山辺や雉子の声	志明		
夕ぐれや萩の古根に啼蛙	如友	松風に散らぬも梅の匂ひかな	呉人	鶯の春にして行山家かな	加賀金沢 兎文
菜の花や畝一筋にゆふくるゝ	白雄	菜の花や夕日まばゆき一繩手	可融	穂屋なれて雀おくせぬ花の中	逸竹
木づたひに鶯遅し軒の梅	樹徳	年々の人やかはらではつ桜	可碩	人里のちかき処や初ざくら	雪橋
長閑さや寒ンだけ過し鞍馬口	二翼	咲かけて気遣ふ花や嵐山	度了	帯とれば野中の花と成にけり	里花
永くゝと人行春の繩手かな	大西更 海農	長閑や鳥屋をはなれて鶏の声	如乙	桃といふ隣持たるさくらかな	馬紅
藪に来る鴟も春には春の声	水見鞍川 風唄	そろゝゝともとの道なり花の山	女のぶ	二日散る桜何ともなかりけり	嵐堂
散るものとひとつに暮て花重	魚津 大翼	散かゝる中に静けき桜かな	燕之	梅の門旅先ことば言捨て	三京更 年緒
山の花一度にちらす風もがな	東敬	梅が香にかけほくれたる時計哉	桃塙	潦ながれうければすみれ草	龍居
暁の空より直に花見かな	文景	朧夜に背戸は淋しき蛙かな	金戈	つくろはぬ宿や先見る梅の花	高松 自明
鶯や田畑やしなふ水ぐるま	魯山	ちる花や睡うごかす牛の声	八尾 芭光	片側は木の芽延かつ山路かな	北台
古寺の名ばかりたるゝ柳哉	菊芳	隠家の春やあぶなし梅の花	寛路	見ふるさぬ花のさかりの西東	粟崎 稻梁
松淋し其夕暮に啼蛙	徐生	梅の花越の苔藓晒にけり	李夫	西山や夕日もくれて花の雲	子来
灰汁を焚山辺も春の柳哉	其竟	鶯の雨にぬれてや谷わたり	霞叟	賤が家も明はなしたる桜哉	至峰
朝蝶や野守が庵のあたりより	巴良	川の瀬や松にも吹す朧月	祖柳	山川の冬すむ頃の杉葉哉	春紅
蛙啼上は甲斐なき月夜哉	孤山	我影も朧なりけり水の月	梅公	一木づゝ雲にとられて桜かな	本吉 春輝
雨の日や藪の中なる雉子の声	朱鹿	誰やらに思ひの増る桜花	文水	日のくれる事なき物よ花の陰	大聖寺 蘭阜
梅咲やねぶたき雨の晴上り	貞志	立どまる人に小家の柳かな	牛嶺	行とゞく程は柳の手がらかな	磯水
折ふしはつまづく道や梅のはな	柳台	笹ふかき門に新し春の月	和水		

重くても見ばや夕の花の雲 能登獅々窟 玻井

呈芭蕉堂

遠きむかしを名にしかはらず

おなじく

千里の流世にや増らむ

天津みそらの月の山下

絶せぬ色ぞ花にありける

川すちを行ば桜の山路かな

加由

(三五オ)

我も斯桜に並ぶ朝ごゝろ

越前丸丘

素更

水の行ゑを霞む遠里

甫立

流石にも継尾の鷹の春なれて

枇青

杉のまさ木をさくくと枇

友甫

三日月にあすのけしきぞ見へにけり

振々

柚子の匂ひに舟のつれなく

巨眼

ありくと野菊の中も小町塚

里晴

人待ひとか松を結びて

古蓼

涼しさのあまりに髪を引むしり

瓜簍

(三五ウ)

雨に啼よる夕ぐれの鷺

文蘿

置砂のうへは塵さへなかりけり

一透

知るもしらぬもはやり眼をやむ

哲水

振残る魚の市場の月を見て

一吼

虫音低き石の小やしろ

龍至

各詠

木つ、きのつ、き出しけり遅桜

僧 仏角

身を古く思ひ初けり花ふみて

枇青

彼法師が意にはそむきながら

振々

(三六オ)

物かるといへどさくらの盛り哉

瓜簍

花のうへけふも其まゝ暮にけり

瓜簍

提灯のもへ穴張や山ざくら 一吼

草ふまぬ里や都の花ざかり 巨眼

露むすぶ庵りに浅黄桜哉 里晴

朝虹の白くなり行花のうへ 文蘿

めづらしと先いひそめぬ山ざくら 素更

白くと人のほこりや月の花 一透

桜ほど人の寄木はなかりけり 友甫

かるくと日のおしうつる花のうへ 古蓼

日は花にとられてくるゝ桜かな 行脚 哲水

花の雲いづくへ道をつけて見ん 龍至

年あれば花あり我も其木陰 甫立

ちる桜中にめでたし山の家 若狭向笠 貫扨

踏まがふ路おもしろし山ざくら 食見 花雪

西の雲も東の雲も桜かな 小浜 李兮

花千鳥木にもくさにも声すなり 北前川 寿卜

焼残る岩根に高し赤つゝじ 氣山 青柳

故郷をうしろにしたり山ざくら 成出 北洋

花の時公事の出来たる桜かな 生倉 節之

野に山に春の落着二月かな 小川浦 麒一

青柳の風をはじめて散さくら 神子浦 十鼠

波雲や峰の桜の中を行

柳 詩

やぶ入の松風も聞在所かな

、 樂鶯

若草は雨もつ空の静なり

、 燕柳

山ぶきの花うち越て朝日哉

、 牛辰

伐捨る木もなき春の山辺哉

田井 牛辰

鷺に今朝も消すなりありあかし 江州水口 蟹州

売残る雛につらく西日さす 其友

門外や葦酒交りの山ざくら 日野 松羅

坊の屋根かへる目じるし花の中 紫英

いふ事の皆になりたる桜哉 田井 重塊

朝ごゝろ花は一重にさだめけり 愛知川 松風

仙台よりの便に

(三八オ)

陸奥はあけぼのはやし花のうへ 八幡 柏翠

花盗む人は栄花のあるじかな 湖東麻生 不得

興つきて寝た人もあり春の雨 三ツ屋 来車

花ちるや鶯の下行夜の雲 堅田 籬邑

鳥までが皆おろかなり春の山 野田 龍山

田へ移る櫓の木久し鳴蛙 連山

うぐひすの声の近も霞みけり 舟木 獅丸

引鴨につれてなくなる余寒哉 万木 鷺泊

梅が香に下駄の緒むすぶ畠道 北嶺

ゆりおこす程に桜の盛りかな

いつく島にて

月丸く桜吹こむ舞台かな 素雁

さし汐の鳥井に臘月夜かな 全

若竹のほとりから夜の明にけり 高島 春衣

月の下に花を抱くあらし山 大津 宇洋

花の雲それから上は夜の山 三井寺 千影

人中やかるとちる山ざくら 申齋 五来

(三九オ)

風重く土埃する暑さかな 山城伏水 霞潮

草鞋の足を冷す夏川 全

野も山も何を隔て暮らん 全

花守の家から花の見へぬかな 城南寺田 良水

花に響く丹波の斧や嵐山 雲裡

春の雨嵐となりし夜明かな 野尻 魯長

傍に大禪師あり山ざくら

京斗雪

(三九ウ)

田の水の梅までとゞく山辺哉

月峰

鳥が啼いまや暮むとちる桜

百嘯

薄月よ花かたげたる我世かな

百池

みてもどる人なつかしき桜哉

玉桐

小童のもふ商よ花の里

芹水

盗みたる花大かたは散しけり

荷屋

万歳に聞ばや雪のよしの山

布雪

薄曇る花や百畝の麦畠

馬遊

花供養七十二日ひと日過ぐ

居然

(四〇オ)

ゆきくれし花の木陰や志賀の宿

一熊

京出て花の都とおもひけり

其友

咲満て枝の瘦たる野梅かな

不染

空色の日傘かたげて花曇

春峰

夕がすむ祇園あたりの灯かな

二松

散花に月のかゝれば消ぬべし

魯渕

青天の花に数敷筵かな

国雄

海士の家に梅なればこそ咲にけり

仏齊

桜咲馬酔木咲うるはし泊瀬山

千代道

(四〇ウ)

みちくるや汐にかけさす山桜

其白

待ことのひとつ出来たり花供養

其成

花のかげに我も飯くふひとりかな

橘栄

犬も出て遊ぶ桜の月夜かな

芦涯

雁鴨も未だ居る花の入江かな

阿年

山の夜はともし火までも花ざくら

岱李

くもるとは期して朝どき花のうへ

茂良

青草の日和や伊勢の神桜

百丸

(四一オ)

いかにして草木は青きねはん像

玉藻

美しき空大事なりはつ桜

宗賀

雨の音花なき門の夕かな

在貫

川越て花にとゞくや茶の煙

玉洋

散がての桜にさがの月夜哉

ト友

靄とれてはらりと露の桜哉

知大

咲花のけふも朝からぬる雀

宋也

山みつの花は嵯峨なり日ごろなり

玉屑

ちる時をおもしろがるも桜かな

真菅

散て後花はちりしと思ひけり

蒼虬

(四一ウ)

遅来

鶯の飛やひき音の残る竹

越中井波 路太

流れ鶯をついには包む霞哉

胡山

草のいろうつるやうなる小鮎かな

籟丈

鹿の角落るものとて落しけり

馬園

花に添ものとして春の葛屋かな

甘吾

あすのけしき定りてから落椿

訥齊

雲を見に歩行に似たり山桜

素兮

春さむしまだ三日月も見ぬ夜哉

杜秀

(四二オ)

竹川や鶯啼て水ふかき

柳尾

花満て鳥の声なき山路かな

泗水

竹寒き日は鶯の来るものよ

文可

鶯や接骨木嗅き顔がまへ

史朴

鐘の声暫時霞みて暮にけり

丸磨

朝よさの四つ五器花に面倒し

汶弄

手が、りのない藪下の梅の花

梅甫

梅花ちるや夜明の薄ぐもり

麻丸

(四二ウ)

青柳や見はりて居れば水に似る

全福光 波弓

これがための月の夜はなき椿かな

巴船

有たけの水の嗅さかちる椿

文蒿

蛤の汐に残りて朝ぼらけ

氷見クラ川 松翠

ある夕べある人潜る柳かな

戸出 玉可

ちる花の二日もはやき思ひ哉

幾秋

葉に残る雪の日南や雉子の声

杜園

みよしのや夕べの花に思ひ人

玉鳴

(四三オ)

現なく墨にすりこむ桜かな

加賀金沢 雪雄

灯ともせばよくをのがさくら哉

百風

かげろふの掃よせられし垣根哉

五葉

砂風を起すけしきの茅花哉

嵐二

梅が、の真中になるはしら哉

年風

福引や鍋をいたゞく白拍子

旧堂

行春や入江の玉藻刈のこせ

文溪

海棠のねむりや雨も覚し得ず

森下 玉宇

一日も十日もおなじ木の芽哉

尺見

(四三ウ)

山風の桜をしごく夜の間かな 筑前秋月 聞香庵

山畑の麦にかくるゝすみれ哉

山螺

雨の日の山吹かづく小鳥かな

芋坡

うぐひすやな良坂こゆる昼の鐘

六川

山鳥の尾にかゝりけり藤の花

荷山

ほのゝと明行花の林かな

兎暁

行雁の声も霞と成にけり

無好

雉子の尾のかすむを分る夕日哉

暁秋

(四四オ)

いつの間に露をく花の夕かな 大和六田 河洲

梅に月是より残る寒かな

八幡 葦笠

苗代のしろきは日枝によるものか

宇治 在中

松杉の中に桜はさくら哉

之風

梨子の花まことのあめにしだりけり

東都在宇治 馬州

大仏の鐘のひゞきや雛の宴

泰峨

暖みつく野山の風や百千鳥

湖東八幡 芳之

(四四ウ)

日の出るも月の入のもさくら哉 湖南走井 烏頂
里向ひて山寺の猫啼にけり 堅田鳩組 友鹿
朧夜の月を鳴とる蛙かな 紫溪
三月や根から咲たる山ざくら 文常
取沙汰やもの喰うちも散桜 庵裡 千崖

京都烏丸下立売上
芭蕉堂書林 勝田善助梓

(裏表紙見返し・四五才)
(裏表紙)

21 文化六年『花供養』

底本 石川歴博本
校異 武蔵本

花供養

(原題僉・表紙)
(表紙見返し)

これの一とち花供養てふ名に
呼びて、祖翁の精神を
仰ぎまつり、永くその跡を世に
伝えむとの較計、またく故師
闡更うしの高きいさをし、
あらたにことを添ふるもいと
腹くろきわざながら、尚久後
も此さくら木のさかへく、て、
年毎のけふに偶はむことを
陰たのむ。今のあるじ蒼虬うし
にかはりて

文化むつの春三月像前に
ちぎり花奉るの日
鳩の屋文常しるす

手をはなす桜や直に夕曇
畔ぬり仕舞ふ小田の静さ
鶉づかひが家のうちより春暮て
草履四五足はき古しけり
かた側は並木の残る裏通り
すなまぶれし秋のみるふさ

燕の別れを告る朝月に

あすの御幸も寒き帷子

くやしさは箸がこけても年を寄

大樹の町へ家買て行

菊少しあやめ少し花持て

まだ阿伽棚のけさは濡ざる

へりもせぬ岩の細橋むかしより

燃るやいなやきゆる笹の火

鑑着て此ま、年も取事か

こ、も枕のしたの有明

秋雨にしめる襖のひはく、と

雀の扶持に残す粟の穂

貝殻を踏ても念仏申さる、

冷泉どのへは今に立入

はれの夜は犬もとがめぬ気色にて

なはしろ作る水ひきに行

もの陰はまだ雪残る巫女が宿

君とさし向朝も有けり

飛鳥に何もあてなき飯の菜

峠を下りる肥後の長持

靄ふかき半に桐の花みへて

みな出て誉る初川の鮎

子供等がひとりの祖父に付ありき

御廟の箒別にして置

下市は少しの雨もたよるとこ

鶏のやもめについ冬が来る

憂時は垣根に出て立ばかり

よるの心にちかき浪音

せき守が古き疝氣に月澄て

盆と節句の間の寂しき

右一順下略

(三オ)

あした散花がみへけりはつ桜 肥前長崎 吾友

鞠垣の外に椿のさかり哉 恕交

紀の関を越せば付けり蛇の声 其映

かげろふの山はふたつに成にけり 里幽

梅が香やなれがましくも旅枕 徳隣

藤棚を潜り習ふか雀の子 天外

はる風の出て来る家のあはひ哉 鞍風

鶯の一日来ねば雪の降 烏孝

明がたや一しきりづ、なく蛙 如蕙

行雁のあと白雲のかぎり哉 菊也

吹風の末は霞と成にけり 可龍

おく山や春の残りの家一つ 二九

有明の空は広いぞ鳴蛙 李溪

春の水あはたしくは来ざりけり 祥禾

遅日を裾野の花に立にけり 諫早 梅江

寝入らふとすれば桜に雨の音 春芦

梅が香のうしろ成けり三日の月 夏亮

鶯太のつ、き出しけり春の水 芳笠

十六夜の前に突出ぬ東やま 澧波

梅が、の大川越えて来たりけり 文塘

のどけさや植て久しき松柏 島原 利貞

朝くの気色取出す柳哉 良彦

あさ風の吹殖しけり揚雲雀 岡艾

花咲て山寺の木はなかりけり 神代 汝川

家ありて家がつたなし鳴蛙 琪風

さうさなく雨にもぬる、二月哉 鷺洲

松風の日暮を二月気色かな 春喬

そゞろにはくれぬ桜の夕べ哉 霞林

(四ウ)

榎杉やさくら持ねばならぬ家 平戸 其外
 夜の明る雲おそろしや雉子の声 、 李薰
 ゆふ暮は雫しさうな柳かな 、 有無
 長閑さや菜の花にきて鐘の声 長崎 可交
 草の香に月を広ぐるやよひ哉 肥後熊本 怨風
 仁和寺に雲の下り居る二月かな 、 蟻城
 山里やちりそめてより梅の花 、 仙斧
 梨の花空に雲なき山路哉 、 斜葉
 古き世に似たり外山の春の暁 、 壬辰
 あかつゝ春一ぱいを咲にけり 、 蘭戸
 やまと路を問はれて柳放しけり 、 岫丸
 恥しき花やむかしの城戸の跡 萩原 萩里
 鐘にそひ桜を植る人のあり 熊本 霞觴
 ふねの夜の花に明たり志賀の里 、 李溪
 滝のをと聞も定めず春の月 、 梧井
 おそ桜此あと咲散花は何 千種庵 秋郊
 春の水闇の田面のかぎり哉 肥後 芦曉
 はる風やどちら向ても梅みゆる 、 眠石
 平横におし行山の霞かな 小島 慶遊
 いくつれも暮をもて行桜かな 、 草斧
 いふ事を忘れて居たり花の陰 、 車夫
 春の野のうちにも這入庵かな 、 白飛
 はつぎくら東をさして人の行 鳥朝
 雀子につか／＼朝のあらし哉 、 九古
 石工の藤の夕べを残しけり 、 徐風

(五オ)

山陰や古木を出る春の月 筑前博多 扈詞
 ひといきは小鳥も鳴かず散桜 、 凡馬
 腰かけて居られぬ花の散にけり 、 完夫
 おぼろ夜と成て影もつ小草哉 、 おと文
 夕ぐれや花咲告る人のかほ 、 素士
 出る月を立向ても帰る雁 、 戸雀
 家のうちに寝はするもの、花の陰 、 瓢風
 水音の二筋か、る野梅哉 吉田 春江
 はなに来る鶯も哉春の月 姪ノ浜 魯々
 董咲野になつかしき小草かな 、 霞梅
 花に余波春に名残て供養哉 、 喜水
 こつそりと夜が明るも也臘月 、 柳圃
 山吹の垣をふかめて咲にけり 、 流泉
 花咲て背戸門もなき山家哉 、 甫木
 はるかぜが吹か野道の人通り 、 雨踊
 黄鳥の声に日影はなかりけり 、 路松
 雉子の声 笹うち越こだま哉 、 喜詠
 まつ原や檜原も過て初桜 、 浦詠
 大空へ闇おし明て花曇 向浜 亀岡
 美しき土握りけりはつ蔵 元岳 涼風
 いほの春ある夜は足らぬ枕哉 頓野 歌舌
 青柳は月の都の木なるべし 新延 丹志
 浦人の亦春雨にかくれけり 甘木 雪頂
 あを空は倦ぬもの也董草 、 帰来
 梅が香にさのみ夜風もなかりけり 竹丸 泉左
 満川に洗ふ小松にみへて春の雪 小竹 柳左
 うつくしき月みて戻る花見哉 芦屋 何来
 いくらでも植て置たきすみれ哉 福岡 玉峨
 道芝の上を流れて春の水 須恵 雲平
 大仏の軒は雀のかすみかな 小竹 曙川

(六ウ)

泣にとは登らざりしを山桜 筑後久留米 文角
 ぼつかりと桜に明る谷間哉 、 良寛
 嶮さや有ものながら山ざくら 、 芦月
 かぞへたる月日が咲て梅の花 、 冠山
 うらやまし柚が世帯も花曇 丹波 汀波
 寒も桜にこゆる山路かな 、 烏墨
 みまはして花に小竹筒の置所 海老谷 自笑
 年々二日酔する花見哉 、 卜笑
 日の脚の届く所やはつぎくら 、 未覚
 けふといふてみに行花も余波哉 、 酒楽
 満月のころりと出たる柳かな 水上 魯縞
 春の山海みゆるかと人の行 亀山 文鳳
 月夜から直に明たり梅の花 、 野楊
 をし鳥の通ひし道を臘月 大山 武陵
 すみよしにて 丹後宮津 鷺八
 古寺は松にいはせて散桜 丹後宮津 鷺八
 鐘遠き夕べは余所の梅の花 、 万籟
 夕山や人にまかせて散桜 、 梅士
 爺婆々の飯くふ上や夕桜 、 三孝
 寺の鐘聞日也はつぎくら 、 魚道
 湖の水はつめたし朝ざくら 、 魯諄
 燕の腹につかへる浪がしら 山田 芭尺
 古人憎るもの、詩に倣て 石川 羽山
 身にしらみ世には盗人花に風 、 少年 枝鳥
 たび人のはや泊りけり花の宿 、 蛙音
 花散て夜明の鐘の聞えけり 次津 里仙
 春の雪鴛の羽た、く其間也 、 昨非
 はる寒き中の響や雉子の声

(八ウ)

(九オ)

(九ウ)

尼寺や背戸は桜の薄月夜

但馬芝 尚古

谷水や墨にすりても春の色

、 龍堆

あり明の濡て落たる柳かな

因州河内 龍石

山添や田一枚づゝ春の月

鹿野 馬陵

鶴高く鳴てのどけき日和哉

、 凡鳥

しら梅や近うなるほど花多き

、 青条

去年の塵流し尽して春の水

、 如行

猫の恋夜明の鐘も聞えけり

、 五粒

花咲て有べき山をながめけり

、 平砂

寝よいとてねられるものか春の月

岩井 蒲川

花に鐘明日も聞ふと思ひけり

鳥取 梅村

三度まで雉子に出逢ふ春辺哉

、 大蕪

花も寝た様にみえけり臘月

伯州三崎 碩遊

おく山の椿流れて水ぬるむ

、 湖水

山吹の流を汲や美少年

浜大谷 里月

鶯のなく時うごく小枝かな

伯州 梅洞

うめが香に梅とはしれど人の背戸

大谷 沾雪

麦の葉へ花ちりかゝるやよひ哉

、 徽州

野を横に吹れて嬉し梅の風

久古 沾荻

かへるとも居るともみへず小田の雁

川崎 沾浪

川柳流るゝものは流しけり

、 一瓢

野鼠の巢を囲ふたる訪かな

三崎 宜哉

梅さくや香に丸めたる風の角

福原 丈砂

はなよりも見心やすき柳かな

日原 雪窓

塩竈の煙おしあふ霞哉

猪小路 嵐月

氣に合た人の来よかし春の雨

原 薫草

長閑さやそれにもみへぬ鐘の声

車尾 花棠

鶯や朝の日脚のさす所

石井 一志

うぐすや吹矢を枝に小半日

、 枝鳩

琴の音や余所の花見も立止り

熊鷹 寿栄

今ふみし水隙なし梅の華

佐田 沾草

手ざはりや霞の中の水の肌

伯州 翠杖

春の夜や月を妬まぬ花の雲

出雲大社 浦安

よごれたる雲の雲也山ざくら

、 有秀

楼や笛は霞まぬ夕気色

、 寸龍

永き日や柳にとけて花の留主

、 寸苗

淡ゆきや日うらに残る松の雨

、 壺外

散さくら水は都を流れけり

、 呂竹

いのちより外は思はず初桜

、 雀子

山賤は花に富たる夢也けり

、 露磨

散ことは習はずも哉ちりざくら

、 花叔

庵の花酒なき日から散初る

石見 曉芦

はな盛世に出嫌ひはなかりけり

池田 秋里

いはの春は麦の尾花に隠れけり

作州 瓠落

神垣も花は降りけり此夕べ

大隅 其鹿

余所へ行日ぐりする也梅の花 播磨魚崎 蘇明

月ありて奈良坂越ぬ花の空

大塩 為形

つゝがなき山家こと葉や梅の花

鹿間 田実

七草の春を定る匂ひ哉

備前岡山 幽雅

鶏のうちに居らず春の雨

備中倉敷 五蓬

花提てずんぶり暮す野中哉

備後福山 李朝

鶯の思ふほど啼小家哉

、 岱雨

西風のふたゝび寒き焼野哉

田房 桃甫

足輕の切風追ふて通りけり

、 寄居虫丸

都の住居と、せばかり

にして古郷の春に逢ふ

古郷の花もみやこの香に匂ふ

安芸広島藩内 甘露井連

花に泣人さまぐのみやこ哉

、 乙主

あめの花心の余る夕かな

、 勃々

より添へば夕暮深し花の陰

、 一兆

ゆら／＼と花のあかるき日暮哉

、 児龍

咲続く桜の中に馬のこゑ

、 梅溪

さく花に藁家持たき山路哉

、 松雨

咲ものはあれど桜はさくら哉

、 綾彦

世の春は只一目なり花の山

、 芦笛

松風の吹ともみへず山ざくら

、 百合丸

粧の静なりけり夕ざくら

、 桐圭

目のとゞく迄は誉けり花の山、子恭改

、 蘭芷

満月の山に余りて桜かな

、 鳳郎

松のあるところまで摘若菜哉

安芸広島 松宇

傘さげて桜の中を歩行けり

、 宜哉

春風の美しうする川原かな

、 立丁

はるひとつ残して行や枝の花

、 景和

手のひらのなまぐさう成董かな

、 路宅

桜より春のかたづく名残哉

、 宇柏

はる雨の降もへらさず小米花

、 春平

山かげは初葉の花に霞けり

、 敏彦

夜の明て椿の家を尋けり

、 雨砌

竹垣に花冝かへるつばきかな、国方
 うへた夜に動かしてみる桜哉、双蛇
 くれ／＼た所を蝶の一夜かな、雉郷
 薄紙の障子さしけり梅の花、春可
 一日来ぬ雨の燕気にかゝる、篤老
 桃の花けふはさくらの上に立、古江
 咲そめる手はひとつ也花の色、竹原
 門先や檻のつかへておぼろ月、周防小郡
 古梁
 鈴鴨の羽音がましや朧月、長門下関
 憐霞
 雲は皆花に来て夜の明にけり、上ノ関
 事白
 鶯も啼て居る也桃のはな、讃岐
 桃里
 野は陽炎にしほる四ッ過、奇淵
 人並に家もつ春のつい暮て、井眉
 盥一ぱい灰汁のこしらへ、里
 宵月のしこ踏うち影もなし、測
 ひよいとのぼりし稲の白露、吾雀
 代官のめでたがらるゝ石たゝき、里
 御座のあとをこそ／＼と掃、眉
 よい事をいふて別れし片明り、雀
 卯の木の花に愛のよせ有、測
 砂道の伊勢路へかゝる傍に杭、眉
 嵐にみだす馬の立髪、里
 灯のしら／＼となる朝の月、雀
 斧をうち込薄霧の中、里
 どの山も大かた冬の近付て、雀
 風よけにする門の積藁、里
 窟みたる硯を花にさし出し、

なりより高ふ匂ふ独活の芽、執筆
 右一折

御室にて

咲にけり花の雲井に人群る、讃岐
 芝峰
 大和路は径を往ても桜かな、万頃
 鶏の砂かきかぶる春日哉、和田浜
 蘭舟
 三月葉替て去けり桜人、観音寺
 霜操
 朝ごゝろ届く所に雉子の声、小豆島
 無物
 我庵や寝どころ迄も春霞、梅勝
 之上
 下駄かれば消る二月の小雪哉、路九
 うぐひすに別れて寒き山路哉、内海
 這歩行様にみへけり田の霞、ちる／＼と申兼たり梅の華
 寝ても／＼ねぶたき春の別かな、ふく
 浦の家は浪にあらても桃の花、橋中
 行春や三朝も同じ竹の雨、島芽

(一六ウ)

(一七オ)

歌仙表

寒いとて明ぬ夜はなし梅の花、千崖
 わたりかけたる川の雪しろ、島芽
 年／＼の春を燕の宿にして、崖
 喰ものまでがみな雫也、芽
 さす月の松は時雨の跡に立、崖
 冬のしをりを見せる炭焼、芽
 右

(一七ウ)

不惑の春を迎て

鶴に乗老のはじめを花心、讃岐仁尾
 宗徳
 さくら養ふあけぼの、空、

春風が吹けばいづこも畑ふえて、
 右

春の夜はあからさま也泊瀬山、摂津尼崎
 春人
 雉子が出て奇麗にしたり小松原、池田
 未徹
 梅白し花をそこなふ虫もなし、瓜坊
 春の夜や忘れて居たることの有、大坂
 春思
 行雁の声の下よりはつ桜、鶯雪
 二三輪小ざくら咲ぬ我守りぬ、米彦
 散花の梢はひくし鳩の海、丹頂
 根をふめは響やすらん山ざくら、在坂薩摩
 青梁
 門口に椿咲けり水ぐるま、兵庫
 芝蘭

(一八オ)

笛の鳴かたへちら／＼散ざくら、河内交野
 古光
 (一八ウ)

朧月おとなく汐のさす夜かな、泉州堺
 金花
 昼寝する日和交りし桃の花、句龍

夕さめや大路をいそぐ蝶一つ、伊賀上野
 梧鳥
 春の雪扇にのせて戻りけり、猪来

有明の鐘はしづみて花の中、伊勢神戸
 里鶴
 月の朧花のおぼろやなくかはづ、津女
 梅露
 夕照の遠山桜おぼろなり、蘭圃
 おしなべて花に暁行よしのかな、楽山
 夜ざくらの下行我にこぼれけり、菊坡
 いとゆふや馬引つる、川向ひ、祐之
 ぬしや誰ぞ梅つれ／＼の荒畑、上のかゝる

(一九オ)

等閑に牛引捨るやけ野哉、香蘭
 暮兼て居るよあたりの白椿、紫西

梅の事はぬ日もなし梅の花

松坂 権己

豆腐こそ下手なれ花の奥山家

津 塩叟

蝶々の眼をつけて飛垣根哉

霞外

磯がくれして咲にけり梅の花

山田 鶴鳴

みる人が花の主ぞ山ざくら

尾張名古屋 鹿野

散時にやう／＼花を手折けり

三河和泉 和楽

ちるならば我に沙汰せよ山桜

柯亭

帰らんとしは見直す桜哉

桐屏

雲に入鳥をみてから山ざくら

参河 霞洲

亦みて／＼花は珍らしき

木常

みあげては取付て来る桜哉

梅堂

美しう咲ほどさくを山桜

朱錫

花咲けば花の事いふ庵かな

桐居

そこからも子供かけ出る桜かな

保舟

遅き速き花に都を草鞋かけ

秋拳

春の雪降ともしらず寝たりけり

相州萩野 許笠

松柏どれもよけれどさくら哉

水砂

如月のある夜は冬に戻りけり

一蘿

桃山はも、にかたぶく日影哉

牛道

遊ぶにはよき夜と成て鳴蛙

東洞

夢いくつ数へて花に向ひけり

浦唄

花の山いづれの尾より筆満ん

輦玉

さくらにもよくを申さぬ山家哉

東武 毛九之坊

みにくれば遅し早しの山桜

行脚 甫滴

取しめぬ軒端わたりや春の猫

江戸 春蟻

夜に余る雨駒鳥に晴にけり

下総結城 腸谷

日の入の大きうみゆる桜かな

常陸 叭介

聞なれしこゑや桜のうしろ山

甲州 文川

春雨の降につけても墓屋哉

芦雁

うら／＼かや山のうへより富士の山

小原 田鶴守

碓を作る小くちやうめの花

甲州 方居

春雨や今宵のおとも海松海雲

有斐

花の宿いかい事居る在家僧

重行

岡の日や田螺かせぎに行からず

草丸

ものぐさに暮して居れば梅の花

信州飯田 叙人

葦にも酒のむいほの戸口かな

梅江

湖に山がうきけり春のかぜ

雨郊

梅の垣く、らん炭の虚俵

鯉川

おろかさせむるか庵に鳴蛙

梅彦

鶯に火をうちかける山路かな

柳化

黄鳥の夢をみたれば初桜

古齋

下萌や花の咲くさちかぬ草

桐甫

蛙啼夜の静ぞ月の雲

何頼

花の事寝言にいふて奇麗也

蕉雨

きのふよりけふはなつかし春の風

一色 我笑

みし花も昨日となれば気の弱り

善光寺 呂吹

田家

壁の菜はいつなく成ぞ花盛

希言

逢坂を通りか、れば夜の雉子

飛州高山 儲史

棣棠や芒尾花は柴と成

能登宇出津 碩茂

雁鴨のうつくしう成て帰りけり

馬場 玉史

畑中やひつたばねたる木瓜の花

輪島 軽黄

人声に魚も浮けり花盛

ソラ 岸芷

春の夜や鳥の寝に行里も有

黒島 加由

山桜盛といふ日なかりけり

上毛磯部 口々

夜ざくらやどの枝折戸も明てある

一風

白魚や江戸は霧のいざぎよき

紫陌

旅に寝しことも有也花の雨

榛名 此教

鰻にしなぬ命を騙る桜哉

草津 鷺白

霞むほど霞でも、動き哉

奥州弘前 英有

菜の花や嵯峨はあかるき人の家

桃仙

よき雨のこぼれ出しけり葦草

出羽森丘 仙風

深山木を春になしたる月夜哉

南部都古 北溟

山陰や桜覆ふて水寒し

越后山谷 昇魚

降ほどの雨に花さく山辺哉

新潟 喜年

しら梅や一重にしては此匂ひ

塩沢 牧之

明たかと出てみる門のさくら哉

上十日町 守白

長閑さのゆふべも浪はかへりけり

柏崎 平水

湖をみて来て柳さしにけり

高田 左琴

月の有空にかくれて帰る雁

越中魚津 孤山

桜花深山心はなかりけり

其竟

鳥の身も軽うみえたり花の山

徐生

咲たらぬ桜に気色定りぬ

眉秀

うら、かに花をみる也夕あらし

梁月

梅咲て紙子にたらぬ嵐哉

周台

(二一オ)

(二二オ)

(二三ウ)

(二四オ)

足る事を知て花みる心哉
 うつかりと傘ふり上て夜の梅
 夜もすがら桜定めて独かな
 下風はありて桜のさかり哉
 手折らんや花には蝶の夢現
 現在の花はかはらで新しき
 梅が、に家作らんと思ふ也
 日の筋や柳定めぬ朝朗
 三十三ヶ 花友
 海老江 梅仙
 春雨は柳の為に降ものか
 夕暮は散桜よりみえにけり
 更科の哀にも似よ春の月
 柳には紙りも付よ梅の花
 はつ午や是从から山も人の声
 日の入や雲雀は山のあるたより
 朝／＼の雫ほど咲梅の花
 かげろふは轍より立都かな
 さかしきは春の青夜の鴉かな
 蛙啼て楨の木の間の真昼哉
 山寺はけふも掃也松の花
 春風や筵戸張の恨なる
 梅が香の透間にみるや人の顔
 駒鳥の声に消たる紙燭哉
 並松のそこにも啼や夕雲雀
 あさ風のあとの付けり梅の花
 駒鳥に門引明るきほひかな
 ちら／＼と散が桜のまこと也
 さは／＼と花立去れば夜の姿
 梅が香や榛までの月夜也
 尾を立て雉子の走るや雪の上
 八尾 東花
 四方 關士
 、 百禄
 水橋 文器
 堀岡 旧湖
 、 曾融
 明神 磯山
 殿村 加白
 三十三ヶ 花友
 海老江 梅仙
 、 如龍
 氷見 女仏
 、 南士
 、 橘浦
 、 加徴
 、 秀邦
 、 柳士
 、 樹風
 、 春和
 、 鳥明
 、 三秋
 、 久居
 、 千里
 、 乙魚
 、 会盟
 、 如芳
 、 春海
 、 周泰
 、 菊二
 、 竹老
 (二五オ)

夜／＼の桜に馴染榎かな
 帰るやう雁は多くぞ成にけり
 眠を覚す雄鹿みてこよ春の草
 白梅の瘦た匂ひはなかりけり
 炭売が宿と答へて咲李
 明ながら月は帰して花の上
 ゆく春をいらつに似たりきじの声、
 椿斎
 富山 泗上
 、 嵐丈
 、 見方
 、 耳洋
 、 風香
 、 鳥休
 椿斎
 花の日のあらぬ小藪に入にけり
 加賀金沢 甘谷
 梅さけば椿もらひに人の来る
 来てみむと思ふそこの花の雲
 猿曳のおのれに似たる日和哉
 はつ花や地によむ程の杖の跡
 春来てもきても椿とうめの花
 雲と梅花ちらば春の越路哉
 鶯の一声ほしや野の小まつ
 朝の日をか、へて臥せり雉子の声
 川狩ては松霞まる、計也
 谷間や苗代水もさくら川
 誰がいふとなしに山家の桜哉
 うめの花葛屋に気色出来にけり
 流て来て柳にすがる蛙かな
 はつ桜何日おくれる証拠なれ
 朧月網代木などもみゆる所
 手もつかぬ今朝の気色ぞ梅の花
 梅一本あるがうへには月ほしき
 さればこそ花の散日も夕桜
 山川の有て朧の月夜かな
 新家にたやすく馴て花盛
 我帰る跡や戦風花ちりぬ
 加賀金沢 甘谷
 、 年緒
 、 竹寿伊
 、 梅廬
 、 馬紅
 、 淇亭
 、 鈍車
 、 文淇
 、 兔文
 、 蘭吹
 、 一瓢
 、 圃山
 、 夕水
 、 燕石
 、 白二
 、 乙彦
 、 本吉 春輝
 、 金沢 友樹
 、 井中館
 (二七ウ)

草筵踏出しがほや春の鹿
 やみの夜をうち任たる桜かな
 菜の花や上京あけて竹の隙
 風追ふて燕も来たり花の中
 有明の夜はどちらから花の宿
 魂のうつ、に入かはなのあめ
 高松 自明
 (二八オ)
 何ひとつ倦ものはなし花の山
 越前丸丘 友甫
 行春の眼先になりぬ伊吹山
 、 素更
 踏迷ふ道おもしろや山ざくら
 若狭食見 花雪
 はつ花に鹿まで出たる日和哉
 うき世には似ぬ畑なり桃の花
 暁の鐘暮の鐘聞さくらかな
 さる曳の猿も取けり土筆
 小雨降中に董の春べかな
 柳にも一日は暮ぬ御忌詣
 春の月鐘さへ遠し草の家
 世の春を麦に隠る、鶉かな
 白魚のみゆる程なり水の月
 はる雨や樹々は慥に夜の更る
 近江水口 蟹州
 、 八幡 可盈
 、 筋音
 、 芳之
 、 紫石
 、 彦根 白文
 、 日野 松蘿
 、 紫英
 蚊の声におどろく花の夕かな
 あけぼの、柳も見えて春の山
 此頃やどこの日暮も梅の花
 宵月の影みゆる間やはつ蛙
 夕ぐれの来る顔もせぬ椿哉
 さればこそぬるみ安きも京の水
 大井川つもりて花の下雫
 あらしして御衣吹花の夕哉
 小川浦 素帆
 生倉 節肆
 氣山 青柳
 向笠 貫扨
 、 青芝
 佐古 正鳥
 前川 寿卜
 田井 牛辰
 成出 北洋
 遠敷 千好
 若狭食見 花雪
 素更
 (二九オ)

道とへば辰巳の庵や山桜

春風や売人形も女がち

はつ花に二日の雨のあかり哉

あか桶の輪のゆるみけり散桜

寝所の替るや花の咲しより

草臥た草履亦是く霞かな

春風や都を走る牛車

くらき夜を鳴しづめたる蛙哉

かげろふや人の出て居る畑より

よい家を持家みえて山桜

俳を残して暮るさくら哉

山桜雲は一段されてあり

下駄はきて棹さす人や春の雨

鶯と並んで霞むちどり哉

戸口まで雨に桜の盛かな

野仕事の余る里あり梅の花

山鳥を追ふて登れば散さくら

春風や年経てみゆる谷の橋

うぐひすも手分して鳴せ東山

引鶴も戻らで松は霞みけり

山吹の夜浅き月と成しにけり

行春をこちらへ吹ぞ松の風

長閑さを立延る也小田の鶯

夕ぐれをしつかりうける柳哉

目じるしの桜咲けり丹波山

梅にみし月より丸し花の上

行春や平野の宮司ものいはず

むかしめくものは桜の木かげ哉

うめ折てのけば鳥啼堤かな

小流れに筏もありて山ざくら

、随波

、士明

(二九ウ)

、麻生 不得

、大沢 權馬

、田井 重塊

、野田 龍山

、万木 北馬

、鷺白

、太田 乙鶴

、舟木 鳩人

(三〇オ)

、カモ 稲渚

、舟木 荷篠

、獅丸

、大溝 阿石

、湖月

、無禁

、一居

(三〇ウ)

、堅田 友鹿

、紫溪

、五粒

、文常

、歌曉

、幸彦

、走井 烏頂

、三井寺 千影

、大津 宇洋

、申斎

鐘つけば落出す花の雫かな

雪みした蓑着て行ん雨の花

代々庄屋持べき家や八重桜

花ざかりはあるからに人の春

佛を雲に残すや花の山

夕やみや桜へさして死ん事

白いをや先水にみるはつ桜

山水の山めぐる也夜の花

春の月夜小袖の垢の匂ふ也

水あびて花に帰るか山鳥

川おとを後に聞て梅の月

昼の鐘花あるかたの賑しく

柴刈も霞の人となりにけり

小まつ野や雉子を毎日みる所

暮る時桜は少しもの凄し

何するもおなじ拍子や壬生念仏

夕虹のはしに声ある雲雀哉

行雁の打めぐりつ、浮御堂

山風や花の下枝鳥さはぐ

八重桜人さといとはちらぬ哉

朝夕に霞相手の野松かな

なかばより屋根の重る桜かな

有明の暁にちかし花の雲

鶯のゆふ音とめるや山ざくら

しらぬ夜の明て来る也花盛

山吹は日にそまりしか水の上

花に来て月みて戻る嵯峨野哉

蛙音に入る、夜もあり草のいほ

ふすぼりし家越に高し山桜

八幡 葦笠

、洛斗雪

、斜山

、其独

、一之

、眉両

、芝山

、魯竹

、桃江

、千代道

、琴巴

、峨雪

、砂俗

、霞城

、李溪

、月橋

(三二オ)

、玉糸

、花明

、馬遊

、芹水

、漢水

、万栖

、十壺

、国雄

、布雪

、石哉

、芦涯

、柏雨

、乙道

暁はよそ外もなし梅のかげ

湖のはしを曇らす桜かな

桜さへあればかゝりぬ朝の雲

さくら散音をきく迄夜更たり

日がくれてあれどもみゆる桜かな

暁の雲を汚すなちりざくら

入相は桜散る也はつ瀬寺

山吹の気色み出すや一曇

花の雪木の葉としにけふも来る

おしあて、ものごと違ふ桜哉

いそがしう西よ東よ花七日

二木ともなくて柳の山路かな

苗水の流れも久し花供養

花供養我は年寄覚悟哉

筈に桜ちらすな小傾城

家土産のさくらに道の風かな

夜の雨やがて桜の降にける

八重桜夜の心のうごきけり

夕ざくら鐘は心をせまくする

川上の余寒のみゆる立木哉

手枕やおもふ所になくかはづ

大空の外に夜を持さくら哉

ゆふ飯の夜に入花の盛かな

遅桜供養をいそぐ気色哉

脈とりてみるや花の夜唯ひとり

跋

木をわつて花のあかりを

たづね、竹をさいて君

子の心を操らむより、常

、芙九

、僊芝

、梅涯

、曲肱

(三三ウ)

、梅價

、宋也

、一熊

、梅二

、百丸

、茂良

、百池

、月峰

(三三ウ)

、岱李

、其成

、書林 橋栄

、在貫

、六轡

、荷屋

、白黛

(三四ウ)

、素頑

、真菅

、宗樹

、千屋

、雪雄

、芭蕉堂 蒼虬

(三四ウ)

に此俳諧に遊びて心
朗に歳々花に逢ん
とぞ

(三五オ)

吟万 大蕪

(三五ウ)

烏丸下立売上ル町

芭蕉堂書林 勝田善助

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

22 文化九年『花供養』

底本 竹内本

校異 糸井本

備考 文化八年興行を合併

花供養

(原題簽・表紙)
(表紙見返し)

ことしも南無庵に数百の
花の集りけるを、おのれに
奉行してこの花を像前に
たてまつり、のち梓にのぼせ
よ、と庵主の申されけるが、
八重にひとへにめで度、花の
さはなる色香にめで、
先供養の場に時うつし
たれば、のち梓にのぼす事
のおくれつるも奉行美九が
罪にぞありける。

文化壬申六月

唯暮る日はなし花のひがし山
ぼけやつゝじの中の畑打
ゑほし貝春のものとして売に来て
料理の屑を鶏に遣る
朝虹の雨の盈るゝむかふがは
二人出て呼ぶ月の約束
赤いとして掃残したるそばの茎

燕巾 蒼虬 美九 田美 月峰 桂阿 雪雄

(序一ウ)

わたり仕舞て雁のすくなき
なまぬるの外は飲さぬ貝津舟
まづ機嫌よき爺が起く
裸木に伝ふ煙の雪ちかく
御供のいはなを汁に打こむ
むこえらむうちに垣根も荒て行
尻目にみたる五月雨の月
さるとりの花の身に付佐屋廻り
白いを寺の念仏聞ゆる
暮る迄外に捨たる雑水桶
ひといき東風のよはるさゝ波
雉子追の後をみせる小松原
供養済たる鐘に梅ちる
ゆのたぎる音さへ古き四疊半
またも虫歯の動き出しけり
赤蟹の遊ぶほど成みなと川
宮の鴉のものを喰に来る
すゝ風のをりてそこらの咄声
熊川土のわろき香のする
通ひ路に綾の袋を手にさげて
おもひ過せば低き穂薄
釣瓶にもちら／＼うつるなりほあか
月みしまへは主なきいほ
宇治人に知己に成雨降て
萍泊ものにぐいと値が出る
押売に朝／＼魚を置いて行
あまがむかひを無理に返さず
鶴ひとつをりて冬野を広げけり
葉のてりたらぬ市の寒菊

岱李 真菅 春漣 嵩平 漢水 茂斎 烏頂 甘谷 翠箒 月叟 十壺 真彦 石鹿 玉屑 其成 芝山 可良久 白糸 素重 国雄 三千竹 希雪 一熊 百丸 斗久我 百池 月孤 東陽 梅價

(一オ)

(一ウ)

(二オ)

(二ウ)

未年一順

山ひとつ暮兼てある桜かな
みつよつ雁の春残す声
かげろふの御畑を廻る鑓さげて
窓のあとほど壁はほせけり
新浜に藍荷の便ひけらかし
ものゝさはりて桔梗開きぬ
ゆる／＼と月も出たる草まくら
境の公事に鹿もこえぬか
韃ふむ足を平生まげかねて
なますにやせむ鮎二三十
葛城の小峰の雲が癖に成
みそぎちかつく里の麻刈
先だちて陸から戻る水主のもの
かなしきもちの盆にころがる
大風の跡の日向に居並で
帯の赤きは小鳥店が供
からころと餌に付鶴の立騒ぎ
ゆふべに遠き山がみえ出す
やぶれたる翠簾の内よりものいひて
霞あふぎに歌一首かく
むかしから舟の着場の月と花
種まく比の雀鮮うる
江戸みたる心に春を寂しがり
清閑寺石をひとつもて来る
新宅に蚊の声細き已待して
夕がほ棚はけさのおもかげ
人のみぬ時は葉を打盈し

怨風 蒼虬 布雪 真菅 蛾月 月峰 若夢 文枝 之斤 関叟 僊芝 嵩平 梅價 儲史 履規 十壺 岱李 斗雪 花明 双南 可交 蝸州 乙道 白糸 百池 漢水 金馬

(三オ)

(三ウ)

(四オ)

梅月夜扱も師走は昔なり 肥前長サキ 祥禾

桃活けて置ば形よし小德利

、杏水

漣やあだにもならず花の屑

、萩里

をり馴る桜がもとの自然石

、一鳥

常盤木の中より桜咲にけり

、蘭子

炭売のかざすをみれば初桜

、素川

かすみより霞に入か鳥の声

、芦石

田の家をよくあらはして春の月

、熊本砂童

晩鐘をいくつも聞や山の花

、潭月

暮る迄春風の吹塘かな

、貫露

静けしといふ夜のものか雉子の声

、仙斧

朝／＼は草のもの也散桜

、車夫

京の日を二日減すぞ春の雨

、怨風

鶯の声の色なる朝日哉

、羽人

山吹に二日の月のしづくかな

、菊二

梟の声豊かなり別れ霜

、梅溪

火を焚て梅折人か夜の舟

、鯉年

山中に寺の田ありて鳴蛙

、雪枝

ゆふ暮の鐘に広がる焼野哉

、和友

有明の影もたのまぬさくらかな

、曠輝

常盤木も朧になりぬ花の山

、朝四

ありあけの上に声有雲雀哉

、薰河

落て有花からみたりかど椿

、蘭戸

大寺の風は椿に消にけり

、斜葉

さくらからつらりと出たる旭かな

、如春

春の夜や心も付ぬ壁の穴

、霞山

おぼろ月かたぶくものと思はれず

、蟻城

雁鴨の上にふはりと春の月

、久喜丸

山吹の水や朝日の置どころ

、山鹿蝸入

分入れば我も曇るぞ花の山

、熊本千種庵秋郊

うら町の犬を連て花見かな

、霞觴

雪解て鐘音よはる夜明哉

、李溪

鶯の夜明にしだる桮かな

、梧井

夜の明てゆるぎ出しけり山ざくら

、素暁

都から歌の流れて春のかぜ

、佐敷文獻

散花の中よりおこる風かな

、三千丸

山吹にばかり降しか宵の雨

、椿笠

海棠やむかしのみゆる須磨明石

、月鶴

大空に月はうもれて梨子の花

、秀丸

かげろふの中打鉄の光かな

、法松

鶯の声より暮る、椿かな

、三笑

うす雲の添て真昼の桜かな

、漱石

鶯や一すぢふ風の中

、柳雨

青柳を鴉分行ゆふべかな

、汀雨

白波のこなたに月のさくら哉

、眠石

みて置けよ桜に閏二月なし

、大隅其鹿

飯うまし花咲比の旅ごろも

、春波

細窓に月のはさまる花の宿

、長庵

【参考】同句は、文化一三年の『花供養』に再出する。

門叩く人もあれかし朧つき

、日向吟龍

蝶／＼やくれてものを思はする

、つる女

花の咲日は暮安き庵かな

、真彦

散花に鳥も来て鳴夕かな

、筑前磯光嵐二

満月をよくも朧になしにけり

、竹丸泉左

さくら花思ひあまりてちらせたき

、直方一萍

見てをれば近寄て来る桜かな

、寄木

花の時我名も人のとひにけり

、嵐梧

三日月の入際か、る柳かな

、桃雫

慾のなき顔並びけり花の陰

、求古

ひらかんと桜の動く小枝哉

、己青

おとなしき有明ぶりや野、柳

、曙川

春雨にはなつき合す鳥かな

、須恵雲平

董もつて帰り来にけり舟の内

、博多瓢風

青柳や春は勿論朝の事

、白国

鶯の一声鳴やかさのうへ

、蕪領

三百里末の噂も梅の花

、可丁

翌しらずけさを忘てさくら哉

、扈詞

夜もよしと人に沙汰せよ花の山

、石池

夫ありて鳴や蛙の薄あかり

、福岡臥山

鶏に言ひ聞せけり菊の苗

、小竹柳左

昼過や雨の柳にしてほしき

、頓野歌舌

初花に逢へとておろす草履哉

、宗方五郎

新らしき夜も出来たり梅の花

、筑后其成

ひとつかみ花の浮たる水田かな

、久留米市曉

春の夜は雪の降さへよかりけり

、寒岳

旅人に春風みゆる浦辺哉

、草夢

門／＼の夜のみごろ也月と梅

、芦月

風引て戻るや花に又一と夜

、沙明

親の日に三日後れて初桜

、文角

山鳥の野を霞せて出たりけり

、豊前畑村玄留

舌長に鶯鳴よ弥生やま

、中津其嵐

草鞋はく次手にも摘菫かな

、豊后日田葵亭

親子して山の端ほる春べ哉

、有篁

西山に用が出来たり花盛

、魚舌

門しめて寝ても居られず春の雪

、南美

花の陰本の遠山みつたり

、双美

隣にも一日居たる春日かな

、白杵吐洲

とる年を花に忘る二月かな、南溟

大事とは花にひらめく天気哉 丹波大山 武陵

卒忽にも暮ぬもの也春の山、杜高

蝶の来てかしくしたりちいさい子、起春

ちる花の顔にかゝりて静なり、東眉

夕風や人の跡にて散さくら、白路 (一四ウ)

かげろふの草に飛つく雀かな、梧朗

梅に鳥鳴かせてみたき夜也けり、笹山 台秋

明かゝる桜に松の雫かな、梅迫 里雀

花咲や夢の戻の覚心、梅笑

よくみれば葉に毛のはえしねばつじ、上林 荃来

菜の花や川幅ほどの水がゆく、淇竹

春の風家一ぱいにあまりけり、白駒

捨ばやと思ふに憎し白薊、梶原 秋栞

雫迄処さだめぬ柳かな、六合 (一五オ)

嘶して茶を摘老の二人かな、青而

何ぞ障るやうに散けり夕桜 丹後宮津 万籟

西山や雲さめて亦夕ざくら、馬良

ゆふげしき借か桜のひとつ家、柳絮

持こたえく夜のさくら哉、魚道

谷深し桜の花の散て行、鳳吹

夜桜と成てもの喰ふ庵哉、梅士

鶯の滝向てなく日よりかな、百由 (一五ウ)

日あたりや吹にして置春の風、潮花

あながちに麦にも寄らず春の雁、且志

月代や我影に散山ざくら、月亀

花の夜も短く成るや蚤一つ、鱗也

まだ傘の放されぬ野や初桜、孤丸

春雨の降にまだ鳴暮の鐘、双梧

山の井や覗てみても花曇、磨淳

夜桜のひと際高しかみの町、巍道

しら波の軽う打也ゆふざくら、成坡 (一六オ)

動かざる時は霞める柳かな、加悦 井霞

ねもごろに垣根の蝶の二月哉、田辺 孔昭

春の雪昼降ものと成にけり、万籟

海苔とる磯へまがり行水、蒼虬

菰の香に家のあはひの土肥て、馬良

はしらの釘を二人してぬく、籟

葛袴一夏たてる月影に、虬

橡の木廓いつもすゞしき、良 (一六ウ)

行基壺文字のみゆるは珍しき、籟

あみしほからでひるを出さる、虬

大粒な雨を家鴨の追ありき、良

鳥羽の車のいち時に来る、籟

青筵ことしは買ぬつもりにて、虬

母の目覚に夕日かたぶく、良

砂除の松もそだちて波の音、籟

門の仰は千年のつゆ、虬

奉公の淋しき身にも月はてり、良 (一七オ)

夜を寝ぬとなら雁も我友、籟

霧の奥花やあらんと立田越、虬

くぼき所は桔梗刈萱、良

馬計繋ぎて人は居らぬ也、籟

御なき声の細き夜嵐、虬

あら菰の上の祈も七日たち、良

干鯛の箱をこち明にけり、籟

うつすりと氷室の桜香も有て、虬

啼く鶴の消る蒼空、良 (一七ウ)

仮そめも裸身で居る舟のもの、籟

十露盤あける神棚の隅、虬

栗酒の蒸吹さます秋風に、良

顔が揃ふて月もいざよふ、籟

きぬたうつ田中の家をみせにやり、虬

まだあちこちに引残る水、良

神宮寺の和尚が歩行て通らる、籟

日の出ぬまえと植木あつかふ、虬

御物見の上は取わけ花盛、良 (一八オ)

鳥の摺餌も陽炎にけり、籟

谷の雪残るうはさに弓提て、虬

はつ雷に青むなはしろ、良

枝折戸や闇の柳の障る音、大島 春潮

【校異】系井本、名前の「潮」に「湖」の墨書入れ有り。

笹の風頓て柳にうつりけり、白嘯

ゆく人に馴合やすき柳哉、可友

降れくとおもふ日も有春の雪、河守 無諍

霞む日や暈の上の捨つ、み、弥芳 (一八ウ)

咲満る桜に夜のはし居哉、但馬上野 烏行

一日人々と水谷の花見に罷て、

水谷や滝も不動も花の底、大養父 鳳兮

夕がすみつかえる山もなかりけり、出石 弄月

草鞋はく朝を寒の別れ哉、南花

鶯の鳴てもさびし杉の雨、雲居

迎も行日をかたどりて野の柳、月阿

朝露を下にみて鳴雲雀哉、乙菴

雉子の声桜一木を見出しけり、旨梓 (一九オ)

落付た顔でみて居る椿かな、司蛸

人先に出て人先に梅の花

、魚彦

田の中やいとま乞して帰雁

、一簣

夕暮や人落つて春の月

、唇涯

明六つに今朝はおくれて雉子の声、

、鸞屋

夜の橋蛙のうへを渡りけり

、樵松

きのふけふ余寒放れて草の雨

、朱鶴

御衣がほして有也きじの声

、猿甫

山の井や汲人あれば雉子の声

、圃夫

散花に顔ふり向る鴉かな

、日和坂 一貫

鶯や日和鳴出す山かつら

、浜坂 勒居

春の水塵も交らず流けり

、四暢

遊ぶ蝶花の上にも居つかぬか

、藍尾

春雨や寝ても居られず朝雀

、芝 尚古

したしさの心あまれり雨の花

、龍堆

雉子鳴て春の届かぬ山もなし

、潤甫

長閑さや朝／＼煙る禁寺

、東圃

鶯や御松に近き朝朗

、七釜 弓月

梅が香に埋れて夜は明にけり

、桃卜

山吹や傘の雫の落る所

、章甫

款冬の静にみゆる小家哉

、二月 月波

鶯の枝に障るな松葉搔

、手辺 竺仙

脈取て見るや花の夜只独

、蒼虬

草の蛙の雨を呼ぶ声

、村之

舟木曳跡の霞を掃けして

、千屋

祖父が帰を待ばかり也

、

配膳にはや落かゝる朝の月

、之

秋のしほりのみゆる漂杭

、之

一文で下駄かる道も萩散て

、屋

心尊き宵のこつじき

、之

神楽めせ／＼とて舟は行

、屋

しぐれの底のぬける淋しさ

、之

思ふ事何もなき野の門構

、屋

元てつれなき君がさし轢

、之

仇に汲月の清水も花の薬

、屋

蛸みかけて升借に遣る

、之

火串売戸口に夏の近寄て

、屋

九戸と高野の間がけはしき

、之

筆まめな心時／＼羨れ

、屋

嗽するにも塩はやき空

、之

まだ寒き奈良の月夜を初桜

、村之

さぶいのも合点で出れば春の月

、不説

人について門迄来たり夕霞

、梅村

片扉あけて先みる桜かな

、越山

臂太に覗かれにけりさくら狩

、竹磨

寝心の桜に近き月夜哉

、兌頼

松杉の静な外を春の月

、李謙

河添の木さへみゆれば柳かな

、六居

ひとつひくあしたと成て雨の雁

、三頼

藪入やその草の戸の梅もみず

、車用

かはほりとみる迄野辺を飛燕

、如駭

出直せば又西須磨の春の風

、卵鳴

春の雨気色にまけて止みにけり

、至三

鶯の春をふくらす咽かな

、大壺

如月の雁さへみれば日和かな

、雷師

仰でもふしても旅ぞ春の雨

、僧為一

かなしみもおこる桜の盛かな

、飛文

散花をおもひ捨れば遅桜

、大蕪

草の戸や五尺放れて鳴雲雀

、鹿野 馬陵

人のよる方を柳の青みけり

、若桜 及志

出代や京を離るゝ薄月夜

、女至白

永き日の昼から出たり松の風

、浅掲

藪木にはして置ぬ也梅の花

、伯州三サキ 湖水

明がたの月の初花匂ひけり

、女李葉

鶯の急にはをりぬ畑かな

、千屋

露に寒さの残る松苗

、湖水

鋳物師が霞の中にももの喰ふて

、

滝くみあげる朝の骨折

、屋

築捨ていつの俣なる月見台

、屋

兎の道をふさぐ穂すゝき

、水

百たまる阿舎梨の銭に秋暮て

、屋

いこまの雲に人声のする

、水

あて扶持に病ぬ鳥迄のこ／＼と

、屋

雪ふみよごす供のさむらい

、水

神楽めす跡の哀に灯をともし

、屋

葉の下をちよろ／＼と焚

、水

こにもまく聲が忍草もほどかせて

、

花にとめ置城崎の馬

、屋

月もよし夜よし蜩のとれて来る

、水

草履の裏も雨かたきさま

、屋

拾ひ木のひとり崩るゝ軒の下

、水

堀の蚯蚓の夏しらぬ声

、屋

焼のぼる山に雨添ふ夜明哉

、大谷 徽州

山寺の芽独活堀出す雉子かな

、境 禹水

雨にして寝らるゝ春の夕かな

、川先 一瓢

雁鳴て桜も散と思ひけり

、沾浪

さすかたもなくうかれ出つ、

野暮山くれ里暮て

蝶くしの我世はかるき旅寝哉 出雲大社 浦安

雁鳴のつとめて鳴か春の雨 、母里 冬曠

山吹やうか／＼行ば水の中 石州池田 秋里

鶯やどちら向てもまつの中 周防白松 和道

古畑の小松ふとりぬきじの声 、小郡 不占 (二四ウ)

梅咲や明際のたつかた在所 、一葉

昼過や海苔の香を吹春の風 、秋月

鳥も来て身を繕ふや梅の花 、和木

散花やみな月影の添て行 下関 羅風

さればこそ山吹みゆる奥の家 上関 事白

鶯や門は日頃の茶の木畑 下関 冬羅

【校異】糸井本、下五「茶木畑」。竹内本「茶の木」の

「の」は不自然に小さく右に寄っており、後の

埋木訂正と推察。

我庵や花の咲日は人も来ず 、花休

初午や夜の酒もり雪のつむ 安芸広島 篤老 (二五オ)

田螺の籠の寒きしたゝり 双蛇

初くばる人の袂に春みえて 玉桐

さつくりと吹月前の風 路宅

関の戸を礎の音のこゆるやら 蛇

舟をかぞへて日をくらす露 老

むせるほど土鍋の下のくすばりて 宅

ついう事も哀れさう也 桐

朶射る君が姿をさしのぞき 老

子猫もらふて戻る番町 蛇 (二五ウ)

茨さく雨のあかりのいらつきて 桐

利休の像を二度きざみけり

薄月の二階に筵しきならべ

いぶきの嵐むかふ菌にしむ

豆鳥がわたりしまへば荷をからみ

十日の汐の橋にこたへる

一さとのやくかいにする花畠

羽織着つれて五加木つみけり

瘡馬の太鼓がなれば春は行

土蔵の間にみえる夕虹

かせ糸のやうに乱るゝあだごゝろ

がざみをせゝる箸のあさまし

けふはまた播磨の沖に浪の立

八手の花に庭風呂をたく

黄昏の杭に来てゐるみそさゝぬ

ほろり／＼と落る山つち

子細なく七日の護摩もはてるらん

咽が干るとて梨をくひけり

町尻の角力場かまへるくれの月

風にくはらりと秋の広がる

鶏の砂ふりこぼす塵の上

かりそめながら三月わづらふ

はたち迄しらずにをりし姪の顔

咳をおさへて次の間へ立

初花を車／＼に呼立て

こゝぞとかすむ湖の朝

わかな摘人とみえけり後ろつき

さかさまに土橋のうらの萼かな

春雨や餅つく家も山の陰

よはさうな花はみえぬや赤椿

路宅

宅

蛇

老

宅

桐

老

蛇

綾彦 (二六オ)

草翠

蛇

老

宅

彦

翠

蛇

老

宅 (二六ウ)

彦

翠

蛇

老

宅

彦

翠

筆

(二七オ)

月章

嵐夕

十六

路宅

大やうな山のはなれや朧月

鶯にかゝへまいるや料理物

しづかなる空や雪解の松の露

せはしなや一日正月二日灸

精出して降ともみえず春の雪

苗しろや都出れば青くさき

菜の花にほころびにけり恋衣

只ひとり起て月夜の柳かな

桜咲木かげ／＼や帆かけ舟

風切て日和すはるやひとつ松

春の野や三十年のものがたり

梅をみて直ぐにもどりし怪哉

鶯のうぐひす聞て居にけり

鉢植の花に壺中の春暮ぬ

鶴鳴や余寒のみゆる馬の上

旅のめし喰ならひけり梅花

手はしかく霞行也猪牙二艘

おもふ事ひとつふえたり初桜

散桜みなも散さぬ嵐かな

しづかさや夕山陰の遅桜

四五軒の朝影長し藪つばき

鳥はみな親子になるよ遅桜

吉野山花より奥はなかりけり

寝ぶたさの眼先にあるよ春の月

鶴のやどる梢をみたり春の雨

念頃に毎夜さ来たりはるの猫

花守の兎追出す月夜かな

はなに風めで度過たる夕かな

心よや花盗人に酒かれて

大やうな山のはなれや朧月

和尤

梧来

双蛇

夏雲

魚年

米億

圭雨

柳後

速雄

梅理

甘古

字柏

三盃 馬卵

忠海 淇園

備后フク山 午后

備中倉敷 五蓬

備後福山 李朝

三原 芝曉

田房 桃甫

伊与今治 孤松

国丸

蝸州

讀岐姫浜 桃里

霜操

仁尾 宗値

万頃

丸亀 古彦

雄鹿

(二八ウ)

しづかさの余て花の散日かな、梅堂 (二九オ)

鐘つけば日の暮る也藤の華、淡路 青城

春の夜のそれなりみゆれ朝明、花橋

牧馬の見に出て居るや春の海、南岡

よし野にて

花ざかり杉の月夜はなかりけり、烏秋

翌の事おもはぬ花の盛かな、播磨北条 梅廬

見尽さぬ花に倦る、雨夜哉、鹿間 田実

山城の夜はまだ寒し朧月、兵庫 松月

五器で汲流も梅の匂ひかな、芝蘭 (二九ウ)

むかし我背くらべしたる桜かな、浪華 米彦

春風や花咲里の初日より、扇暑

土蔵たて、趣かはる桜かな、春思

遅桜咲おくれしを手柄也、春來

あふみ路に宿も定めず雁の行、鶯雪

散花の梢は低し鳩の海、丹頂

山明の咲やすげ也花曇、蛾月

散桜月かたらひて面白き、豊郷 (三〇オ)

雪はまだ麓にあるや初霞、芦鳥

つい扇ひらげて寒し初桜、登山

近道はぬれてある也山ざくら、梅里

元日の心にもどるさくらかな、馬禿

どふ見ても花とはみえぬ桜哉、月江

春風や海みる家の青だ、み、北亭

夜に入れば不二を取巻蛙かな、伊勢神戸 冬梅
すれ違ふ人にくからぬ桜かな、上野 紫西 (三〇ウ)

花の雨花よりはれて色深し、志完

木啄の外に音なき桜かな、山田 椿堂

此比は夜心しらぬさくら哉、左涯

蒼空のけふこそ花の浮世哉、鶯洲

初ざくら咲と申よ雲に鳥、省我

処ぐ残るさくらの月夜哉、桃林

足もとに汐のさし来る桜哉、其白

うき雲に顔合したる桜かな、春湖

花咲て壁取置の山家かな、白子 斗口 (三一オ)

半暮る日のなつかしや遅桜、龜山 其阜

筋違に道も付ひたり花曇、津 梅楼

烏帽子着て庭掃上や八重桜、支吟

山賤も手をかざしたる桜かな、四日市 眠五

やま吹のたれるを庵の表かな、山田 淇石

詠つめて穴のあいたる桜かな、明星やさくらにうつる摺火打 伊賀上ノ 笛人

春の水日く太る気色哉、尾張 菊史 (三一ウ)

梅の花笠寺は雨の朝日哉、東閣

花守となれり時雨の落葉搔、徐英

初霞鳴戸の若和布売にくる、而后

春雨や人のきげんを問ひにける、墨樵

ぬかほしの消て敷から雁が行、月底

春風やもの、種売敷の家、木天

高ぐと鶯は舞けり山ざくら、佳樵

百姓の夜中歩行や桃の花、国雄

蝶に蝶のとまろうとする姿哉、一古 (三二オ)

朧さや月夜は西のやまのうへ、清須 鶴人

【校異】糸井本、所書き「清飲」。「飲」を消し「須」と
朱筆書入れ訂正する。竹内本は訂正の後刷。

朝まだき覺東なくも桜かな、三河新城 翫之

珍しき人にも逢り花の山、一声

春風や山寺の鐘あとを引、榎園

花もどり人大勢に成にけり、蟻道

老の世となれば引けり鶴の声、吉田 茶筵

世の中はいつも桜の散いそぎ、遠州植松 和吹

散桜硯の海の干渴かな、上庄内 松山 (三二ウ)

きのふから催し雨よ帰雁、美ノセキ 巴圭

春の夜のものにはしたり風の芦、蒼虬

小田のかはづの声を尋る、有斐

手とり鍋みが、ぬなりの如月に、

ねぶたき時の隣もちけり、

十六夜は古き詠に立もどり、

舟を繫ばすさまじき露、

ばつと火の燃るばかりの宮迂し、

僧都の母の挨拶を聞く、虬 (三三ウ)

ゆふ空にしばし脚氣の膝立て、

魚の骨やくころくの里、

枯しのぶ一葉あらぬも心なき、

寒さをにくむ愛の中だち、

雑式が顔を月夜にさし覗き、

鳴子のおとをとめに遣りけり、

御祓すと聞けば桂も秋のすゑ、

余所の門まで祖父の掃る、

花の事言はぬ先より花咲て、

ながれのはたに霞む山鳥、

椿はどつめたき花はなかりけり、信州田中 希杖

心あてに鶴をみておけ朧月、其翠

人なれし鳥の多さよさくら狩、林 風子
 花の日や暮て田にしを売をしみ、甲斐 有斐
 裂箸の香に更安し春の月、真恒
 散花のあるじぶり也門の不二、重行
 をかの日や田にしかせぎに行鴉、草丸
 腹赤釣る人の案内や遅ざくら、如雪
 正月の霞にもてる野山かな、静菖
 一つかみ童もて来る女かな、芦かり
 初桜心こそぐるよふにさく、江戸 春蟻
 もの、香の鼻につく日を花盛、巴 涛
 寝て居ても花に心をゆらる、よ、笠甫
 梅咲や人にあかる、葱畠、常陸平カタ 随和
 汐木焚家やむかしの春の風、素英
 万歳の烏帽子かたぐも祝哉、常陸 松江
 鶯のいろくくに鳴山家かな、よし香
 折くれし花のあと也夕嵐、上毛新波 此教
 山鳥の来るやいつまで春寒み、大原 茅磨
 野良風の吹広げたり路の臺、朴哉
 花のかたむけて建たる小家哉、ヤナセ 李翠
 連翹の垣や照る影曇る影、松井田 扇立
 いにしへの友に逢けり花の庵、磯部 喜全
 山寺やけぶりかすりて朝桜、一風
 花はみな朧也けりやま桜、口々
 小雨降中に桜や人の声、長賀
 明の月花にしらみて仕舞けり、鬼丸
 出る帆のさはぎに浦のすそは行、惣社 士虬
 ひやくと夜の明て有柳哉、下総結城 眠斎
 星影にほの見る梅の寂しけれ、奥州伊達 徐水

(三四オ)

(三四ウ)

(三五オ)

跡ざりにみるや夕日の山桜、安達 露遊
 延付に長閑けき里の昼飯哉、二本松 乙調
 散心なくて桜の夜明かな、会津 如髪
 町中へ月もて来たり梅の花、ツガル 里川
 鶯に打まかせけり我ころ、五友
 江の面や鐘に押る、朝霞、吞馬
 青柳にとゝかで月の二日かな、粗長
 ゆふ暮やしはしらゆる梅花、ト古
 早蕨やはまだ届く昼の鐘、青森 白珂
 夜の雛ものや言たき姿也、祇山
 鶯の鳴や朝から不二の山、富館 布席
 晦日のぐるりあかるし山の花、曉花
 麦のみどりは雁の餞別、雨桂
 春の雨晋は甕に水汲て、万休
 切火にまじる塩のはらく、文華
 笹の葉を幣と言も安き世や、長昌
 浦輪の人の眉も正直、露橘
 月に露恋に泪はならひ也、指月
 なさけくらべの黄菊白菊、執筆
 夢をみて花をみる日は少いぞ、出羽宮内 雨桂
 おもしろしあら面白し花と水、万休
 花に住蜂人を追ふことなかれ、曉花
 笑ふて過る春の跡先、湖翠
 日は廿日月は朧の中くぼに、仙耳
 ふり返りみよ旅のきぬく、美津留
 うき身とはぬれ手拭の藍の色、圭斎
 誰が罪白眼鐘の龍頭は、眠笑

(三五ウ)

(三六オ)

(三六ウ)

(三七オ)

血を吐し鳥の隠る、木下闇、扇柳
 机のうへに五月雨のそら、周和
 散花の夜は水くさく明にけり、大塚 湖翠
 鳴鐘の隅に花もつ辛夷哉、最上 亀年
 傘さいて見るさへ嬉し春の雨、越后柏崎 平水
 梅見舞と泣子が月の門あたり、双眉
 草の戸の貧しくもなし月と梅、四ッ谷 秋峰
 鳴鳥の口より霞む山辺哉、高田 都遊
 鶯よ一足行ば小松やま、芙蓉
 寝心やかならず帰雁の声、梅路
 老となる約束はなし春の雨、左琴
 かげろふの跡拾ひ行ひよこ哉、与板 悟明
 菜の花や果なし雲の行着ぬ、山谷 のぼる
 飯煙の霞と成て暮にけり、出雲ザキ 恭峨
 春寒し小昼の鳶の枝に鳴、荒井 旭浪
 みよし野や三十日も花の薄明り、大沢 雨岑
 陽炎や畔新らしき田一枚、岡野町 梅泉
 春もまだみやれば寒し野の黒ミ、霞暁
 野鳥の流石に鳴ぬ春べ哉、重水
 裙もちの摘たそうなる若な哉、山室村 秀山
 釈迦堂に人の声有散桜、妻有 二川
 人ちかくなりて行かや春の雁、越中石動 史喟
 行雁にうしろゆびさすか、し哉、戸出 玉可
 霞から梢がみゆる嵐山、高岡 内海
 暮行や命あやしくぬる胡蝶、越中魚津 孤山
 雪解や在処心の離れたり、其竟

(三七ウ)

(三八オ)

(三八ウ)

夜の明る浜見て帰る二月哉

、徐生

来るとはや人馴顔の乙鳥かな

、周台

いつとても丸い心よおぼろ月

、大翼

静さは花のうねりの山路哉

、能生 起石

湖水うつ波音もなし葦草

、五禽

花守や何夢結ぶ雨のあさ

、桂児

啼蛙炉の火もとほし此ゆふべ

、富山 如柏

畑中の桃に一日日のあたる

、鳥林

なま酔を泣する梅の匂ひ哉

、蘭陵

花に来る人をもてなす清水かな

、宇井

あさ／＼と見るは桜の梢なれ

、六列

よし野にて

杉檜花の眼休め足やすめ

、椿斎

人も馬も吹れに出たり春の風、放生津 草風

(三九ウ)

梅に人多し柳に人えらび

、加賀 巴石

うめさけば椿もらひに人の来る

、年緒

朧とは桜に伊達の名なるべし

、兎文

梅提し人を渡のはじめかな

、一抄

人の来るやうに吹たる柳かな

、棹江

花の月影さすものは雪のうへ

、越水橋 文器

こよみにも書て有かや猫の恋

、かゝ 商斎

蛙子に火を打かけて種風

、鶴木 歌瀧

虹が根を烏ふんばる春の雨

、桃林

く、たちや京へとならば雪付て

、呂竹

【校異】糸井本に「桃林」「呂竹」の所書は無い。

松風の夜も等閑に春の行

、高松 自明

のどけさや屋根を鴉のありく音

、能登輪シマ 軽黄

暁の心に寒しあめの華

、差庭

散花に肌こそばゆき木陰哉

、蝶睡

鶯の椽に掃出す埃かな

、鶴川 之楓

町の道作り初たり夕がすみ

、石動山 管路

春の夜や海遠さがる松の隙

、佐渡 文雄

(四〇ウ)

何しても暮せるものよ野老堀 江州ハマン 芳之

大秦はどちら向ても花の道

、柏翠

家ひとつあればめぐりて春の水

、可盈

田螺喰ふほどは小寒し宵の雨

、春雄

眼にもの、付たやう也春の空

、筋音

歩行さへすれば吹也春のかぜ

、夜外

蝶／＼の白きにつけて友の来る

、班車

咲花に何も売らぬよ丘の家

、芦洲

門の有家は古びてなくかはづ

、仙李

雉子啼て松の深みを覚けり

、巫山

初花や海と山との里の中

、日野 松蘿

花戻りちいさき月の桜かな

、雨洲

青柳や水汲声の二三人

、長浜 素岳

胷太のあくほど桃は咲にけり

、和尔 吞龍

それも松是もまつとて蝶の飛、三井寺 千影

降雨にぬれる声也畑の雉子

、音羽 田美

山吹やあたまの上に鳴鳥

、太田 乙鶴

蛙なく夜の境や油筒

、カモ 稲渕

もの忘するや朝から花盛

、堅田 馬当

手にあまるほど美しき葦かな

、花丈

田の水の花にしたしき月夜哉

、峨石

桃赤う咲や何とか啼からず

、文常

神祈る命も花の愁なるか

、三谷 来車

【校異】糸井本の中七「命」と竹内本のそれとは字面が異なる。埋木訂正が行われたと推察される。

夜桜や花には何の露が降

、万木 北馬

はつせにて

廻廊をくぐるさくらの夜は深し、鷺泊

爺婆々の夕飯過ぬあか椿、田井 重塊

みる所のおほなる春の行系かな、素耕

春風やほそい木迄が花に成、野田 龍山

つく／＼と人みる花のやま鳥、水口 蟹州

とく起て待てば鶯遅かりし、淇園

夜ざくらに欠び移して歩行けり、走井 鳥頂

もの申遠近人よ花供養、嵩平

祇王寺へ酢売もきたり山桜、大津 石鹿

あけぬ間を鳥のちらつく桜哉、坂本 花陶

散花のぬれ色うつるはしらかな山城八幡、奇文

谷間は桃みる迄の節句かな、何有

散花に嵐おこるや波がしら、洛 百池

入相に桜ちるあ泊瀬寺、一熊

暮るにも心付ぬやさくら狩、花頂僧 巴水

世の春を内に居る日の花曇、履視

言はやす晦日ぞはや梅の花、芙九

折／＼て花は霞の山桜、芹水

立寄れば花にむかしの移りけり、能守

よきほどにこぼれて置けよ花の雨、馬龍

笹原や雁に別れて小提灯、茂良

あさい笠ばかり並で花の雲、三千竹

皆こちら向にみゆるぞ花の山、在京丹后 月叟

木の葉にも鶴は寝る也花曇、百丸

白梅の遠くも散ず静なり、其白

笹に聞雨は花待たよりかな、漢水

汐先へはやまはりけり春の雁、岱李

鴛もいぬる余寒のゆるみ哉、あたふ

野に出れば夕影のかつ柳かな 万栖 (四三ウ)

散花にのちといふ声はなかりけり 双南

蓬生といひ初にけり春の月 十壺

はれやかに花は咲たり須磨の浦 千代道

炭やきが黒き顔より霞けり 在京豊后 巴水

静さや花のうへ吹あらし山 女 白糸

立されど花に心の残りけり 芦涯

日の暮て盛のみゆる桜かな 月峰

山の端に日は有ながら春の月 布雪

山ざとのゆすりが花に捲簾 茂椎 (四四オ)

散花の相手に行か小商人 素頑

中／＼にちるとはみえず夜の花 千崖

草臥て嬉し桜のあくる朝 梅價

花の雨比叡みかえらぬ人もなし 雪雄

人音や花の跡なる石拾ひ 蒼虬

(四四ウ)

花供養集跋

今の世の俳人たゞいき過をよろこびて、向上の一路／＼にあそぶはさることなれども、師伝の沙汰なく質／＼朴をうしなふかたもまゝありぬべし。されば、／＼中ごろの人の蕉門三世、四世などかけるをみ／＼ては、たゞに野俗なることのやうにおもへど、師伝法／＼脈といふことかならずなくてかなはぬものなりと／＼かや。発句、付合いかにも上手にいひまはし、宗匠顔／＼する人たちも、師伝のみだれたるは、こゝろえたがひの

(跋四五オ)

すぢおほかるべくや。今の芭蕉堂のあるじ、なら／＼びにおのれが輩の師とたのみし闌更翁は、蕉門の／＼高弟北枝叟の門人希因先生に学び給ひて、／＼出藍のきこえ

ありけるが、ふかく此ことをなげき／＼たまひて、常に師伝の事をしめし給へり。まことに／＼此一宗旨につらならん人は、芭蕉堂を本山／＼として、年／＼の花供養おこたることなかれ／＼かし、と初心の人／＼にすゝめ侍る。

文化九年壬申

蕉門五世 篤老謹書

(跋四五ウ)

烏丸下立売上ル町

芭蕉堂書林 勝田善助

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

23 文化十三年『花供養』

底本 白鹿本

校異 月明本、竹冷本

備考 文化十一、十二年興行を合併

花供養

(原題簽・表紙)
(表紙見返し)

みつの都はさらなり、

あし曳の山陰や漁する

浦島まで、はせを葉のかけ

広ごりて、西も東も奉る。

花は八重一重、白くれなゐの

色々、南無庵の園生にかむばし。

是此花の集れるや。蒼師の跡

厚きに帰するものから、

文化丙子晩春中二日の供養

なれり

久留め 芦月書

(序一ウ)

暁がたの闇につかえる桜かな

池へはれ行はる雨の音

燕に煙草の縄を解かけて

家あづけたる人を呼也

篠竹の道を佃につきはじめ

鯨の策にみゆる露しも

月のこといはぬ時分に夜の直り

文常

蒼虬

木海

雪雄

梅價

十壺

月峰

鸚鵡もひとり秋風を鳴

足元へころりと鈴の落かゝり

けさの夢にも越のあら海

蚤ひとつ路の広葉に取放し

榎の下の寮もふさがる

かさくくと天氣に成し紙合羽

あとの市から遊女さまよふ

箸とりにも立も夜空の様子也

松をもてなす片はれの月

霧の吹時に出たがる神の馬

ふらついて居る伊豆の石工

朴の葉を汁のうかしに放り込み

行灯ふんで巢に帰る鳥

御局をこひしがらる、花咲て

【校異】月明本、中七「こひく、かゝる」。

山のかげさす雛の横顔

雨ふれば釣の草臥出る也

呉羽参りに垣をぬかる、

右一順下略

戌年 一順

人声のさくら放る、月夜哉

門にたておく春の塩柴

組板にいま、で動く鱒乗せて

翌の下行の銭はこぶ也

此度は機嫌に叶ふ船の形

何処やらにあるさるとりのはな

村雨の庵に兀たる会津椀

古川を鵜の朝廻りする

旅人の藁を焚る、道の傍

芙九

白雪

真菅

金葉

翠簪

五芳

茂樵

双南

岱李

陶居

国雄

漢水

白糸

百池

其成

あたふ

千崖

(一オ)

くにとも鍛冶の師走めかる、

いつの夜も星の明りを顔に見て

管弦のあとは松風のふく

追く々に筏を下す口があき

傘さへ祖父のすぼめ兼つる

金沢の文庫見に来る秋に成

けふの様子は河鹿計也

おみなへしうつむく方に残る月

堀はふるほど多き赤土

黙阿弥が夢に知りたる革衣

雨を占ふ土竈の燃口

上京に此頃花の客となり

小魚の匂ひ鼻につかえる

亥年 一順

水おとやおくの桜の見ゆる迄

夕日の中に鸛鸛囀

干蕪戸さ、ぬ窓のあしらひに

油売より来る人はなし

着る度に昔の小笠の唯匂ヒ

風に渚の濁りつく也

きのふから月に成たる宵のうち

並べし椀に移る梶の葉

蜻蛉の羽に競るたもとにて

山掃おろす朝の骨折

酢漿草に盈る、雨の音もなし

枕の伽にた、す小人形

夢にまで有馬の事を謂つゝけ

ほしき所にはえしなよ竹

傘を適くさせばおもしろき

其阜

素童

国雄

其成

岱李

魚辰

芦涯

白糸

双南

百丸

竹彦

百池

漢水

金葉

得終

瓜坊

百池

月峰

真菅

百哺

岱李

雪雄

梅價

国雄

杜蓼

士明

素章

馬当

(二オ)

(二ウ)

(二オ)

(二ウ)

(二オ)

(二ウ)

(二オ)

(二ウ)

(二オ)

柴折宿はちたゝき也

夕月に光らぬ苞の塩いわし

今のはる舟の棹の白露

みそ萩のはや咲過し様子にて

木を伐音の響く北さが

子年 表

夕桜鳥の林と成にけり

霞かさなる山のうねく

一舎り蕨煮香の身に付て

簀に水を打かけて置

下駄の緒にたしなき紐を遣ひ捨

鰯盛りのみゆる赤雲

刈残す草にも月のかくすらん

節句もしらぬ露の散やう

草の戸の米喰尽すさくら哉

苗代に影さす岡の桜かな

水桶に松の雫よ春の月

有明の松のふとさよ雉子の声

何となく登れば高し春の山

鶯の声すくい行あらし哉

ひとつ宛散や桜に昼の鐘

おもふこと流れて行ぞ春の水

陽炎や岸の上なるはな重

落椿二日の雨を溢しけり

灯ともしよまで今しばし夕桜

焼野原浅くも春を見る事よ

能き家は五加木がないぞ春の旅

来車

五芳

布雪

孤松

白糸

十壺

千崖

雪雄

布雪

月峰

杜蓼

周泰

金菜

肥後 眠石

、 三千丸

、 春暁

、 無垢宇

、 葭月

、 蛤台

、 漱石

、 汀雨

、 月鶴

、 秀丸

、 潭月

、 車夫

熊本 軸磨

霜に別る、明のしづかさ

童の小鮎売来る浦坪に

幾ところにも財木を積

月影の古き庭になはくと

こゝろくの瓢並べる

そゝぎたる秋の狭衣取入て

雨によるこぶ恋もある哉

こゝらより京へ三里は草の道

きのふの墨を流す椽先

遷仏の近うなるぞと雀啼

曇りが晴て茄子出初る

右 一順

若ものがたげて通る山桜

夜の明る春がある也蟹が家

夜さらく蛙の声に月もなし

日も雨も少しはほしや重草

春の風只居る人はなかりけり

陽炎や苦もなく粟をかしぐ音

しり顔の人の多さよ春の里

何しても心に足らぬ春日哉

一棹に舟を渡して春の月

梅白し一里夜に入る奈良の里

皿鉢に春は行也道の家

宮島にて

宮島や鹿も交りて貝拾ひ

足袋の緒のひとり解るよ花菫

山鳥は朝く見へて春の水

よき家の磯に見ゆるぞ春の月

、 諫早 梅江

、 龜泉

、 石鼎

、 振鷺

、 蒼翠

怨風

葦戸

蟻城

仙斧

以正

車夫

尺菊

壬辰

慶遊

蒲丈

千甲

肥前諫早 文州

、 走鳥

、 桑我

、 津画

、 詞英

、 孤石

、 梅路

、 淇桃

、 春里

、 霞林

、 春喬

、 春喬

、 龜泉

、 石鼎

、 振鷺

、 蒼翠

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

(六オ)

鶴四五羽春の月夜と成にけり

燃て居る火にも汐さす春べ哉

寄る浪の上にも乗らず春の月

雉子鳴や心の外の草枕

蝶くや朝から絶へぬ人通り

君が代の陽中に出る田打哉

鶯や杉の実植は川のはた

徒に蛙もなくや花ざかり

薦敷かけよ鈴菜酒々代

朧月人の心にうつるらん

肩を並べて運ぶ酒樽

濡椽のはしから夏のせめ寄せて

あさなくの幘も仕舞はず

手を打ば舟のもの等も手を叩キ

つくねた髪に雨のばらつく

殺されし夢の終りのなくなりて

錦のうへに落る鈴むし

白露の太刀の鞘を引掴ミ

月をうしろに黒米を烹ル

須磨寺は空家に似たる戸の透間

鼠の穴へ水を掃こむ

竹を見て居れば昼寝の種と成

桜に添うて消る佐保姫

春寒く小袖の袖のせまければ

初午ちかき味噌の生馴

夕暮の隅から人を出出し

草鞋片足の捨処なき

木枯に銭取橋もあるものを

腹をへらしに瓢なぶるか

、 炉扇

、 方居

、 斎巳

、 時習

、 春芦

、 豊波

、 長崎 祥禾

、 怨交

、 鞍風

、 交

、 交

、 風

、 風

、 交

、 交

、 風

、 交

、 交

、 風

、 交

、 風

、 交

、 風

、 交

、 交

、 風

、 交

、 風

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

(七ウ)

憂事のいくらも溜る竈の前

蜜の匂ひのせんかたもなし

郭公しらぬ男が召出され

清水乏しき歌の中山

村雨の中に太鼓を昇居へて

宮の屋根葺秋は来にけり

借り来る酢壺も月の間に合せ

押へて置ば延る糸萩

楽焼の土のねばりの嬉しさに

音計きく浪の終夜

松前は垣よりしたに店を張り

花の雪吹の雪吹もて来る

さつぱりとくれてやつたる葩袋

けふも暮行万代のはる

山里は春めかねども田螺哉

蝶よりも静に成ぬ遅桜

山ざとや垣にもかゝる朝霞

春の夜の浅く更たり蜆汁

嚏の二つも三つもはつぎくら

鳥の踏余寒やしばし藪の音

花の友すくなきものと思ひけり

詩をよんで登る人あり花の山

おもしろき世帯也けり花の宿

花の山夕べは秋の来る計り

蛸が子の小海老取也花明り

朧夜や湖水の浪を膝の前

いつの年もおなじ柳を家の前

帰る雁是ほど常は見ざりけり 筑前博多 南礎

しら魚やけふも命の美しき 直方 沙牧

のどかさやうしろ見せたる小田の雁 小竹 柳左

山ざくら翌日も思はず歩行けり 須惠 雲平

おしまげし枝から咲や梅の花 山鹿 瑞之

我庵も隣ありけり夕ざくら 磯光 嵐二

梅が、やほどなく見ゆる家一つ 辰風

鶯の雨にもぬれぬ林かな 周防佐山 其雪

窓にもる影まで深し梅の月 櫛浜 若葉

人馴て花守の子の並びけり 白松 和道

いさ、かのけぶり立けり小野の梅 不占 柳之

野をへだつ隣むつまし春の雨 湯上 終屋

春の山火燵仕舞は膝の上 上ノ関 終屋

雪どけや浪花は多き橋の数 南霞

薄雲の桜にかゝる夜明かな 事白

すきかへす花の雫や吉野紙 長門下ノ関 己醉

春といふ隣の出来て一つ家 羽尺

華の外に休む心やよしの山 花休

花の香は小ぐらき月の夜頃哉 大隅 雪橋

花に寝る日のあり雨の小半日 金鼠

花の夜や響き定る城の鐘 加次木 春波

細窓に月のはさまる花の宿 長庵

【参考】同句は、文化九年の『花供養』に既出。

蝶鳥を動かす花の供養哉 其鹿

都のひがし山霞む内 冬日

畠打の心やすげに欠伸して 雪橋

隣の馬のものを喰をまつ

笹の露いくらも走る月影に

秋のながめの鐘に乱る、

宿かつて乾きつきたる拾時

伊勢と尾張の間の汐風

傘にあられの溜る身を忍び

南の角の白粉を買ふ

何事も医者の言葉を力草

【校異】月明本、上五「何事の」。

月の戸さして過る此秋

菊の香のほのかに寒き朝夕

露を運ぶか車街道

脇差の風に吹る、草履取

柳たれたる地うたひの明

酔顔も二八の春のすだれ越

なぶられ廻る湯女の出代

から臼を挽を力の親持て

寺の障子をやつと張とる

待合に紙衣の音や木葉吹

今ぞ恨の縞ひと筋

月ぐの八幡参りを怠らず

油灯光る家の賑ひ

松影に涼風をまつ腰延て

かゝしの笠に雨のぼらつく

太ぐとことしのそばを切出し

五位も六位も月に聞し

雲ならで塵焼けぶり東より

大魚二つ舟に活おく

一ナ時におなじ病のふるひ出ス

花ちり初る彼岸中日

曉霞

金鼠

春波

鹿

橋

霞

鼠

日

波

鹿

橋

霞

日

波

鼠

鹿

橋

霞

鼠

日

波

鹿

橋

霞

鼠

波

鹿

日

橋

漬もの、色香も春になれ合て

霞

(一四オ)

鶯とりの戻る声く

鼠

大松の陰に一本の花ぐもり
初ざくら朔日ほどの朝朗

、 芦川
、 龜碩

うつ、にも寢覺世話しき旅衣

波

舟曳の踏行隙や芦の角

、 南之

滝を心の歌枕して

日

春の雪くとして朝寝哉

、 風尚

散までは散とおもはで花見哉

吟龍

長閑さの戸口に成ぬ山の家

、 一濤

【校異】月明本、作者名「吟龍」。

谷く／＼のひとへに見ゆる桜哉

女つる

よきほどに遊んで暮る汐干哉

、 仁尾宗徳

寒けれど心よげ也春の風

蝸牛

ひら風や接木養ふ夜のしめり

、 仁尾古桃

寝に来る犬も飛のく柳かな

壺両

水鳥の雫こぼれて草萌る

、 引田春耕

片枝は水に流る、柳かな

龍雨

生竹の枝より暮て春の月

、 芦舟

仰向て手を置ば見ゆる雲雀哉

風之

奥ふかう花散夜也曇空

、 李風

錆のある嘶も出たり春の雨

女梅枝

草道の月夜も捨ず春の人

、 幾久里

語り合友を得にけり花の頃

龍水

夜の気の放れ際也雉子声

、 移山

青柳のあたりに結ぶ庵哉

里曉

散花に流る、水をおしみけり

、 麦飯

梅が、をしとふて行ば野寺哉

吟風

ちる花の扇に帖みこまれけり

、 泗来

鶯の初音やすらん薄霞

、 高鍋娘斧

植てから隣したしき柳かな

、 アハ小松島 慮一

薄暮や雁の別る、浦の松

、 網島兎扇

草臥て寝る過分さよ花の中

、 徳島一路

取付て息をつく木も桜かな

梅隠

(一五オ)

三日月や寝ての嘶も花の事

素橋

甲斐が根や富士にも逢ず春の暮

、 淡路江井 桃堂

あまり咲てさびしき花の盛哉

素朗

ひや／＼と苔ふむ花の木間かな

、 民古

すいらしき赤前だれや春のかぜ

、 一草

月落て花に木の間のなかりけり

、 松帆 冬柱

晦日の闇にも梅は月ご、ろ

、 春台

花の戸にかさ／＼歩行家鴨かな

、 草加 李長

散さくら日和に癖はなかりけり

、 二江

春の夜のどこまで往ても小松原

、 里鶴

精進の酒に酔けりはつぎくら

、 里教

屠蘇の香のしらぬ思ひや梅花

、 梅秀

花の山白雲に乗る心かな

、 一翠

行程の処が桜／＼かな

、 岳龍

道見えぬほどもで桜散にけり

、 百翠

一癖もなくては寝まじ花の陰

、 湊 大麓

ぬる／＼と水に伸たる柳哉

、 イ長

花に来て居ても浮世の鐘が鳴

、 方壺

夜明りの桜に届く小家かな

、 都橋

鞍置て魁したり初ざくら

、 三津浦 晋阿 柳化

よしの山花によぐれぬ道もなし、 藍水

捨ものを尋に來たり桃の花、 玉鳴

盗人といはれても折桜かな、 左來

春の浜べ人そこ爰に日の暮る、 須本 其秀

川風に吹あてられて梅の花、 播磨三木 美岳

あさざくら出て行鳥に曇けり、 梅旭

折／＼はさくらに戻る風かな、 其川

草麦や軒に離れぬ春の月、 露洲

角た、ぬ夜とは成けり春の月、 翠梧

【校異】月明本、上五「角た、く」。

家ごとによい酒持て桃の花、 文郷

雨の花さのみもろくも散ざりし、 米花

春を見とめる磯の海松房、 千屋

帰る雁人の寢覺を声懸て、 梅旭

竹のうしろへかはす小灯、 花

水繩にひけて落たる山の月、 屋

秋の行ゑのより所なき、 旭

しら露の中に蝶吹修験達、 花

昼さへ眠る三輪の松杉、 屋

鷺去ずうちにさめたる舟の飯、 旭

た、んで人に渡すさむしろ、 花

雨の漏庵は時雨の疾降て、 屋

ちぎれる様にかゆき耳たぶ、 旭

とう／＼と轡はやめる月の声、 花

流どまりのしれぬ川霧、 屋

何一木外の樹のなき柿畑、 旭

あたま計をかくすからかさ、 花

絵ぶみせし跡の思ひを捨兼て、 崖

心に寒き園の若草、 旭

旭

あながちに降とも見えず春の雨 広峰 梅羊 (一九〇)

雨の戸や五形は誰か思ひ草 備后尾道 蔵六

山ざくらあまりに道の広過ル 南 路

曙の春よしばしは人も来ず 東 翠

春の夜や三井の御児の夢心 鶴 江

渡らずに済川渡る桜かな 三 原 茶 隠

花の夜を垣間見に出る都哉 素 鶴

山ずみや居ながら花に取まかれ 庄 原 花 雀

風三日月低ふ出たりけり 田 房 桃 甫 (一九ウ)

ふんぎつて麓の花に戻りけり 備前 鷺雪

【参考】本冊二五丁表に下五「帰りけり」とする同作者の句あり。

一日は男世帯や山ざくら 香 登 孤 松

【校異】月明本、中七「男帯や」。

桃に灯を置や延喜の夜のさま 安芸広島 篤老

鐘なりて寺と見上る霞かな 石州池田 秋里

鳥の寝る水は動て春の月 浜 原 吾 風

水長うながる、梅の盛哉 矢 上 梨 雪

来よ／＼と鳥は鳴かも春の山 紫 雲 (二〇オ)

暮行やおなじ宿りに花の友 出雲大社 扇風

花盛うかる、様になく蛙 路 鳥

藤咲や桮の鳥井朽ながら 里 信

佐保姫の笑顔なるらん夕気色 四 川

夜ざくらや思案極て啼鳥 馬 嘶

山ざくら只大やうに咲にけり 有 秀

気短に朝ちる庵の桜かな 浦 安

春の夜のうつゝを花の木の問哉 伯州米子 草台 (二〇ウ)

どれ／＼が啼勝たやら朝蛙 大 眉

音のしてちらば寝てみんな花の中 南 岳

二人来て中よく売し若な哉 亞 水

散花に初音のかゝる山路かな 美 鶴

枕する方を定る弥生かな 雨 村

水筋の長かれ梅にさす小舟 羅 堂

初花やその日帰りも旅の中 思 考

風筋は鳥も並はず春の海 習 風

梅さくや此比人の夜が見ゆる 嵐 水 (二一オ)

錠おろす水流れけり桜陰 因州鳥取 阿蘭

はつ／＼にかゝるや岨の梅の月 南 溟

雪解や畑をもたぬ家もなし 孤 睡

戸口から春の山也草の庵 龜 睡

山住や戸の明たてに梅の散 桎 姿

人の来る序にも散門ざくら 扇 流

啼捨て雉子も眠るや松の陰 宋 真

湖や鳴も啼ぬも帰る雁 少年 好之 (二二ウ)

しら魚の美し過て春寒し 湖 流

如月や一足出ても草の上 良 子

夜すがらや蛙の声のかれもせず 大 方

海川に影を置也春の山 雌 鵲

乙鳥はぬくひ鳥也初桜 月 丸

しら鷺の水踏割春日哉 魯 雲

雨三日都に出ても日の長し 羅 風

つゝ折子供の下を雉子のこえ 無 三

水ぬるむ川上青し山の色 画 石

藪入をしても聞也初瀬の鐘 竹 室 (二三オ)

長閑さの添そめたり隅田川 鬼 孫

山の井の水はふへたり遅桜 雷 師

折り口のつく旦より梅の華 南 嶺

草に踏出す水の陽炎 南 溟

春先の土にも逢はぬ鍬提て 嶺

籬の小海老のばら／＼と飛 嶺

さしかゝる月に冷き銭の露 嶺

秋にもたる、酒の醒際 嶺 (二三ウ)

木屋の花の匂ひも広がりに 嶺

岨の高みに移す萱堂 嶺

ひたすらに古井の訳を聞たがり 嶺

戸はその風にしばし手を置 嶺

宵啼の鶏も思ひのありさうに 嶺

筵の塵を波に突やる 嶺

朔日の雪の明りを酔に当て 嶺

先へ東を見せる馬の子 嶺 (二三オ)

唇の薄き弟に世を護り 嶺

いづれを花の隠笠にや 嶺

甲斐が根の月も弥生と移る空 嶺

鶴と雁とが引添ふて行 嶺

鶯の越せば濁るよ糺川 村 之

酒呑の顔照る花の夕日かな 百 茂

人の気のためて夜散桜哉 兌 籟

初ざくらおよそ／＼の昼の鐘 李 謙

散うへに夕べの見ゆる桜かな 半 兎 (二三ウ)

昼からの汐干になる、小鳥哉 因若桜 桃 涯

町中に寺のある也花曇 木 鷄

【校異】月明本、中七「華のある也」。

山彦の山動かすや朧月	、	今志	旅人となればねむたし赤椿	、手辺竺仙	種売のいつきりもなし梨子の花	、	東嶺
横町に藪入の人見えにけり	、	李下	引ずりて若草よごす柳かな	、畠山耕雲	浮雲は汐干についてなくなるか	、	夷白
有明の月よりふえて散桜	、女	兎遊	片枝は有明残るさくら哉	女遊宇	正月の心で居るや初ざくら	、	呂風
大風の木の間に見ゆる胡蝶哉	、女	至白			つつじでも折氣に成ば夕暮る	、	万籟
けふもまた桜に暮る山路哉	、女	梅枝	曙の目に癖づくや東山	、一貫	山吹の色うしなふな雨ひと夜	、	巴明
ささらぎや十日も過て春の雨	、	如雪	庵は寛の音のあた、か	、蒼虬	花の夜のつばなしや越の雪	、	馬良
花に行人を見に出る在郷哉	、	浅掲	やどり木の桜小早く葉を見せて	、			
草臥し雀の声ぞ春の風	、	及師	春の鳥の人ちかう飛ぶ	、貫	鑑にもせち備るや梅の華	、丹波亀山	野楊
永き日の昼からも咲董哉	、	孤松	月の影田に縄網を引廻し	、	灯に眼のはなされぬ桜か哉	、笹山	松美
赤椿落も果さず暮にけり	、	孤月	旅して戻る夜から稲妻	、虬	連翹や塵はきよせし門の隅	、三輪	宜春
梅咲やしよろ／＼川の水煙	、	可龍			浪音の遠き一日や花の散	、上林	多実
					匂ふらめ松のこけらの花の香の	、須知	巴流
兀山や片日渡りて雉子の声	、作州江見	桃蹊	菜の花やもの喰倦し鳥の顔	、丹后田辺	漣か雲にとゞきてちる桜	、	郁良
山寺や出つ入つ花に二十日ほど	、	独醒	面白き夜の小口から咲桜	、汶水	火打かる花見の客や渡し守	、	呑曇
心なき身也花の夜只更る	、	花調	叮嚀に鶏のうたふて懸筵	、桃之	誰人の仕業ぞ花に割狭み	、	貝士
冬からの出おしみも出るねはん哉	、	鸛友	華さくら人も仏に成といふ	、桃月	しづかなる桜ににじむ宵の月	、	古瓢
雉子鳴て花少し散小屋哉	、	如休	影置て行か汐干に去ル雁	、宮津	我も花見るも花也よしの山	、	枝雀
ふんぎつて桮の花に帰りけり	、倉敷	鷺雪	畠打や宮の梟の昼もなく	、青馬	烏啼ば花が減かと思ふなり	、	魚屑
			目の届く程は人ちる汐干哉	、其景	花散て花守ひとり老にけり	、	車丸
【参考】本冊二〇丁表に下五「戻りけり」の同作者句あり。			人の地とひとつに咲や山つゝ、じ	、呉律	鶯のほつとして居る野風哉	、大山	東眉
あらためて言事多し梅の花	、	雲子	網提て川べに暮る椿かな	、松居	親子して檜原見やるや春の雨	、	梧朗
春の雪傘より上に降にけり	、	徳水	芦の家は汐につかえて夕桜	、柳絮	昼過や羽おりた、めば蝶の来ル	、	白路
			祖父が世をけふは聞日ぞ梅の花	、大鳥	春の夜の永かれとこそ思ひける	、	杜高
湯の銭を忘れて出たり朧月	、但馬浜坂	藍尾	ちる花に埋まれて一夜夢見ばや	、岩屋	一雨のまだ乾かぬに雉子の声	、	武陵
草臥て寝たか爰にも春の犬	、	勒居	人に飽風情も見ゆれ夜の桜	、河守	菜の花の果は日和に曇りけり	、永上	眠虎
鳶の輪をかける董の日和かな	、二方	月波	我おもふ山に霞のか、りけり	、加悦	花咲て心世話しき天気哉	、	夏臯
如月や木の焚さしの炉にたまる	、和田山	月波	鶴鳴て海一杯に霞けり	、芦笛	春風のおもふさま吹野山哉	、	関斧
一しきり動て暮るさくら哉	、大養父	鳳兮	霞日や嬉しがらるゝ山法師	、糸英	翌の日を残して帰るさくら哉	、	呉潮
鶯や偽りらしき筵おり	、	岸輅	陽炎となるまで朝の霞かな	、井霞	梅に三月心通ふや春の月	、	漢二
蜂一羽たすけて清し手水鉢	、七味郡	呉柳	留主勝の山家となるや花つゝ、じ	、宮津	あのやうに人の行のは桜かな	、	架橋
【校異】月明本、上五「蝶一羽」。			山ざとのふところ広し朝霞	、青湖			

ふはく雁の羽音や朧月

、南樹

寒喰や我はおかしき花の庵

、春抄

暮兼て立かねて雁の名残哉

タジマ松居

春はもの、退屈もなし山ざくら

タンゴ無楽

捨がたき日和と成ぬ梅やなぎ

杜高

草鞋かろき道の陽炎

武陵

筏くむ上まで春の崩れ来て

梧朗

露の音さへ響く薄垣

東眉

栗の穂のかたぶく月は出にけり

白路

松の木箸を削る秋の夜

高

傘を畳で覗く海士が軒

陵

独りごとする啞のかはゆき

朗

馬の尾のぬれくしきを結び上

眉

卯の花折て眼を覚しぬる

路

梅干の酢にも匂ひと契りしか

高

羽織の袖の墨に汚る、

陵

月早き江の大浪の押か、り

朗

芒島を人にあづける

眉

木啄にとられし夢は何とやら

路

簾のへりをつとふ雨漏

高

咲華にしばしと申初瀬の町

陵

酔て世話やく古猫の恋

朗

人声のあれば光るや春の水

大坂星譜

鶯は喰はぬ鳥也春の鮎

、天籟

行春に蔵ひく声の聞へけり

、鶴里

坐撰に足る事しらぬ桜哉

、其鳥

雨ふれば雨の人来て春の山

、二鶴

宵と夜の間の花に心あり

、宝鼎

朝ばれや柳一本に家二軒

、北亭

淀川もよどむ計に霞けり

、寄松

出日和や花なき里も朧にて

、籬蜂

花の香も人に交りて腥き

、樽雄

朝風の替りぐち也初ざくら

、吐雲

横雲の一当あたる桜かな

、尼冬色

華に見られ旅する人は何事ぞ

、几仙

行春を草臥顔の柳かな

、士竹

人並の人に生れて花の陰

、月巢

見て居ても手先の寒き齋哉

、三四坊

初ざくらおとつひからの暖さ哉

河内星田峰輔

花で夜の行届たるよし野哉

、雪丸

けふあげし棟の寒さよ春の月

、魯秋

花守に散て見せけり山ざくら

、秦村貴染

桜から誉て這入し家見客

、高田馬笑

よし野にて

、

蝶鳥の羽をもそ、げよ苔清水

、郡づ古光

夢にすむとこが爰らか飛小蝶

大和三輪歌鳥

ちらちらと畑戻りや春の暮

伊勢津芙蓉

松原はあとに成けり朧月

、龜山其阜

菜の花に東寺の塔の移りけり

、玉垣春車

山ざくら覚悟なき日の盛哉

、川崎暁浦

道形りに蛇の出たる春日哉

、稲生玉井

行雁や月は残して文字ヶ関

、二蝶

散花に杯ひろふあしたかな

、朝水

ちる華の花に驚く散日哉

、志完

隙明の絶し桜にきふもまた

、上野紫西

風の柳昼も朧の風情有り

、鼓ヶ浦斗口

梅咲て低き月夜と思ひけり

、月喬

遠近の人ゆらつかす桜かな

、笋村

あらし山にて

、

五器もたぬ乞食と思へ山桜

、大塚烏翠

花鳥といふ鳥も来ぬよき日哉

、久居蘭山

下陰も風情に花の山桜

、来居

何といふ神かはしらず花の陰

尾張名古屋杜堂

塩竈は南むき也花重

、平斎

あら磯や松は花にて打霞

、月釣

春雨や折ふし寒き枝の上

、宮鱸亭

咲華に大切がらす日和哉

、布袋花央

花守やはづかしがらぬ己が年

、柏台

道ばたで薪する也ちる桜

、里頂

二人居れば筵ちいさき花見哉

、其培

一日は笠によごる、さくら哉

、停立

散花や家鴨の多き下屋敷

、閑里

山ざくら人の心をくらべけり

、重陽

藪越に曇かけたる桜かな

、不残

花の香や二間に客を立籠ル

、頭言

耳遠になるや吉野の花曇

、桂芝

散花によし野の衆の花見哉

、雨耕

鸚鵡よくものいふあたり初桜、琵琶島

足彦

谷底の小橋も花の渡り哉

、多陀寸

華守る人こそ心あるならめ

、路郭

木兎のふりむく方や春の月

、玉野風蕉

垣越に返すや梅のかり階子

三河吉田三岳

宵闇の軒にかぶさる桜かな

、木芽

山の井にふたする音や朧月 蒼虬 (三三ウ)

木の葉に残る雪のかたまり

三岳

鶴つかひ爆竹の跡のもの喰て

千崖

ぬぎし烏帽子の置所なき

茂樵

あらし吹すだれの外の車百合

岳

埋木を見に人のよる朝 虬

【校異】月明本、中七「山も霞のは」。

むつくりと鶯の居る日や初霞

甲州 如翠

田の水のかしこく落ぬ初蛙

淇海

野鼠の尻もかくさず花すみれ

潮水

しら梅の散過したる日和かな

玉視

鶯に寝処見せて仕舞けり

岱呂

春の夜や酢を貰にやる裏の道

一作

磯馴松子の日もまたで霞けり

蛙文

どちらから見ても花守男かな

箕由

鶯の足踏延す日南かな

久狐

色に香に只うらやまし梅の花

真貫

淡雪の降あつまるや諏訪の湖

有斐

春の月人うるはしく成にけり

江戸 白芹

梅早き兼言あてし野の小家

鷺雪

かげろふや礫うたる、野の烏

無三

藪かげや杖折ルおも花盛

素玩

あけぼのや杉葉に濡る雉子の腹

青梅 来夕

戻らんとすれば桜の月夜かな

金沢 万岳

咲花のいづくはあれど東山

扇町屋 紫雄里

咲花に思へば長き命かな

房州藤原 一松

別る、に近き声也天津雁

下総左原 惟平

花守の宿はひとつの小鍋哉

、 柏二

一日の陽炎ちるや雨障子 角米

大根堀手にもかゝるか春の雨

、 松林

水底に声ある月の蛙哉

、 結城 大梁

摘草やもの、ゆかしき都人

、 準虎

さまでなき山も霞ぬ花心

、 硯斎

粥腹の機嫌も軽し薄霞 常陸帆津倉 有美

(三五ウ)

旅人の村雨しのぐ椿かな

上毛伊せ崎 紅碩

小屋敷の一本つゝ、じ咲にけり

、 車隣

鶯や大事そふなる朝の声

、 広水

かげろふや乗もの揃ふ奥女中

、 才枝

行雁や山のうへなる星一つ

、 新波 此教

大空に映ふものはさくらかな

、 桐生 しげり

花守も寝ておはせしや鶯の声

、 奥三春 朴齋

聞き夜はとてくらかれ弥生尽

、 仙台 威鶴

どこらまで梅引するよ門の水

、 南宮

海苔柴や月の湧出る鼻の先

、 龜婦

桜見る日数は春に似もやらず

、 琴松

どの雲に競て見ても花の雲

、 行脚 真澄

馬呵るやつも柳の木の間哉

、 会づ 如髪

焚ざりし灰ふむ雉子の夜明哉

、 青森 花得

春おしむ人又来たり草の庵

、 末松山 彩雅

花の山や心にかゝる斧の音

、 外ヶ浜 白珂

あけぼのは人の葉よ春の海

、 出羽米沢 潮翠

里の夜や余所の桜のあかるくて

、 最上 龜年

梅に鳥声せぬうちの頼もしき

、 楓二

若草や雨の催ひもつい降らず 南部山田 卓堂

山越すや又ひと明り遅ざくら、五ノ戸 三豆

生れより育つ処の柳かな

越后仙田 二川

春もや、雨しみて昼も帰る雁

、 与板 悟明

春の夜や旅人に酒を振まはれ

、 今町 烏交

雁啼や都は竹の朧月

、 方穀

わが母の心栄也夕ざくら

、 春歩

山ひとつ川一筋や雉子の声

、 岡野町 梅泉

あけぼのや雲より上に春の水

、 重水

桃の花矢取が袖に散にけり

、 霞暁

大寺や藪にして置赤椿

、 荒井 旭浪

うつら／＼ひとり歩行や春の月

、 五禽

花の山定まる道はなかりけり

、 桂児

おさずとも明べき花の戸口哉

信州吉田 何丸

一枝も木ぶり直さぬ柳かな

、 伊奈林 風子

若草や蜚が釣瓶の置処

飛州マシタ 方斎

出ル月を目当に行ば柳哉

、 八鹿 雨荻

花童終に草屋へたどりつく

、 高山 儲史

もろともに月も夜に入さくら哉

越中水橋 文器

針魚のぬらりひらりと春日哉

、 島 醜文

行違ふ人のたもとやはな雪吹

、 魚津 宇玄

此山に住なれてこそ花に鳥

、 亨

川音について桜のありどころ

、 東畝

春の夜はすべてなつかし梅の花

富山 乙丸

山吹に明である也裏の門

、 花桂

花の夜や塩鳥匂ふ湯吸物

、 蚊国

咲花の是から奈良の地也けり

、 霜苔

、 霜苔

蝶一つ藪から出たり雨上り

、乙峰

あたらしい家が出来たり野の燕

、鳥休

(三八ウ)

初華にあげる鉢か磯の蟹

、宇井

叩ても起ぬ男よ雉子のこゑ

、能登宇出津 桃切

旅立に隣を誘ふ弥生哉

、如蘭

鶯や小枝に一夜あかしたる

、声戸

一日に延るものかはつくし

、晩成

遠のけば花のふへたる桜かな

、拳嵐

鶯の通ふ道也勝木はら

、錦川 王史

鶯のこりそふなる楓かな

、三階 李青

霞む瀬は立戻りても渡るべし

、加賀金沢 年緒

ある時は鐘につく也田の蛙

、固来

吹よせて蝶ともなるかうせ貝

、嵐眺

園広く勝れても見し梅の月

、一立

柴の戸や豆腐買にも重踏

、歩兵

初蝶や先へ立なら伏見迄

、雪貢

里寺や外トで米搗暮の春

、一慶

蓬生の宿や燕も寝に戻る

、高松 自明

(三九ウ)

春の夜や声かけて見る灘の船

、若さ小浜 雲居

草の名を付んとすれば忘霜

、くら

蓑虫の朝日に逢り梅の花

、江州水口 蜷州

川越に我家の見ゆる柳かな

、彦根 素律

貝殻にとりつく磯の霞かな

、保貫

しばらくも寝ては居られず花盛

、飛川

行春に連立大和めぐりかな

、市子 芦柴

武士やいやしからざる花の陰

、下田 車露

(四〇オ)

参宮してもどりし人に

七日あまり花に寝て来し嘶せよ

、辻村 忍雪

弓さげて戻る道也梅の花

、少年 金爪

春風の吹草臥し平地かな

、日野 士明

鳥の毛の足にまとふや春の風

、甫一

春寒や鳥羽の水田の夕明り

、如来 何楽

蛙ともならぬもの也水の沫

、サツマ 如蒿

春の海島高う成低う成

、大クボ 如圭

苗代の水に浮けり稲荷山

、平ツカ 梅翁

花の陰人さまぐに転び居ル

、坂田 梅園

旅籠喰て二日も居たり春の雨

、西湖太田 乙鶴

草笛を吹や朧の小柴垣

、大ミゾ 蕪巾

若草や志賀の小家の鶏の声

、音羽 田美

鶯の菜摘呼出す木間哉

、素眠

春の夜や足にかゝりし藻塩草

、カタ、馬当

【校異】月明本、肩書「カタ」。

伏見にて

きり出す計も桃のさかり哉

、文常

華の宿翌行山の道もみゆ

、大津 石鹿

蝶起よ湖は夜が明である

、古猿

奈良にて

かげろふや遊びほうけし鹿の顔

、宇洋

浅川の一夜めぐるや山ざくら

、洛 百池

【校異】月明本、中七「一夜もくるや」。

花守が来る足音か麦に風

、金業

咲花のまぎれ込る夕べ哉

、双南

西山やはれ行花の星一つ

、魯竹

正直に詠るうちぞ朝ざくら

、三夜

若草や手拭白き野べの人

、二峰

鮎波の笠かつぎたる背中哉

、芹坡

山吹や心やすくも歩行所

其楽

只居ても戸明ぬ寺の椿かな

、泉柳

花の散あしたを旅寝心哉

、車鳴

春おしといふては只に暮しけり

、桃窠

何の木もあたりになくて柳哉

、俗美

咲といふ日ははや老ぬ庵の花

、陶居

散くせのなき様子也朝桜

、白糸

居過して眠だるく成や花に風

、洛 乙彦

【校異】月明本、中七「成ぬ」、肩書「洛」無し。

しら壁に日はつひえけり山桜

、桑居

寝るほどの木陰持けり山桜

、支芹

散果るさくらの上も下り月

、梅價

時しらぬ人といわれて花に舟

、布雪

行春や隣へ落る木の雪

、杜蓼

花の香の夜は小草に戻りけり

、国雄

陽炎の花はさきけり糸桜

、百磨

世の中が丸う見ゆるぞ花の雲

、其成

春の夜や木の間のほしき四条川

、茂樵

花の雨覚束なくも晴にけり

、千崖

華ときけば早まぼろしの嵯峨御室

、雪雄

あらし山にて

(四二ウ)

居るよりはや名残ある桜哉

、蒼虬

おのが弥生を往通ふ鳥

、兌頼

八重霞去年の酢瓶の蓋明て

、茂樵

抱へてあがる舟の敷物

、千崖

粟稗は若くて月のさたもなし

、籟

壁のいとゞのしのび音に鳴

、虬

秋風の葉につかふ加茂の水

、崖

むく起に來る貝原の文

、樵

十称宜のうちにとならば子も呉ん

合歡の葉ごしにみゆる砂山

夕かげに板戸の反を踏付て

大きな亀を仰向ておく

寂しさの果もしられぬ南部領

ふと眼のさめて拝む有明

露に似し君が心のひよろ／＼と

草のしのぶを結ぶ琴箱

から車引かずば花は散まじき

仏を居るかげろふの中

豆崎は燕の飛ぬ家もなし

連歌の衆の朝戻りする

何事か肘のはるも小一ヶ月

年忌／＼に松植る磯

寒声にさつさと雲は走ル也

うきを忘れに叩く組板

葛城の見ゆる計が雅にて

畏の狐のいのちときやる

命松がはぐれて居る青菜汁

潮汲んで庭樹茂らす

炎天もすこしは月のひづみ出し

へいら烏帽子を着てもなまるか

馬の血のなま／＼したる小笠原

垣根も持ぬ白髭の宮

箕をかふる人はどこへかなくなりて

魚に酔たるあとの草臥

青柳のへらつき懸し花の暮

筏にのせる春の山かげ

【校異】月明本、竹冷本は、四四丁裏までで終る。刊記

は裏表紙見返しにある。

虬 (四三オ)

籟

椎

崖

籟

虬

崖

椎

籟

籟 (四三ウ)

椎

崖

籟

虬

崖

椎

籟

籟

籟 (四四オ)

椎

崖

籟

虬

崖

椎

籟

椎

崖 (四四ウ)

真直に水も流れぬ花の下 南柯

解際の冬より白し雪の山 豊杵築 蝸若

なの花をつか／＼出たり渡し守 全 亀頂

塩がまも人も並ぶや春の月 巢化

山間も苗代ごろや小風吹 信善光寺 可厚

二日月見定てより朧なり 叢

春寒や麦の疲葉に鳴のつく アキ西条 柴籬

鶯にあて、置けり竹五本 玉斧

花の旅わすれて出たり庵の鍵 左城

【参考】白鹿本の柱は「ヲハリ」。

さし汐のぬくいを啼か春の雁 林阿

夜の花しばらく月もよせ付ず ツルガ 里川

虎杖の葉にこぼれけり山桜 奥州二本松 乙調

吹風の草臥見えて蜷にしろ 湖東大塚 吾人

香を今に吹つたへてぞ花供養 菊舎三世 其篤

京三条麩屋町東江入

蕉門俳諧書林 菊舎太兵衛

色紙短冊 画半切并扇掛 短冊掛

矢立石刻御望次第 古本売買仕候

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

文化十三年

蒼虬の時代(1) 俳号索引

凡例

一 本索引は、本冊に収める作者を俳号から検索するものである。なお、刊記の人名はとらない。

一 俳号は音読みを原則とし、漢音を優先する。ただし、習慣によったものがある。

かなを含むもの、漢字一字、俳号末尾が「彦」「丸」「磨」のものは訓読みとする。また、次のものは特に習慣によって読む。

青銭(あおぜに) 朝於登(あおと) 青人(あおんど) 有国(ありくに)
勇(いさむ) 一茶(いっさ) 瓜坊(うりぼう) 得終(えしゅう)
慳姿(かしかた) 時雨(しぐれ) 車丸(しゃがん) 邪丸(じゃがん)
千賀雄(ちがお) 千種(ちぐさ) 千代道(ちよみち) 鳩人(におんど)
三千竹(みちたけ) 三都良(みつら) 三津人(みつんど) 百池(ひやくち)
毛丸之坊(もくのぼう) 茂椎(もつい) 雪雄(ゆきお) 雪みち(ゆきみち)
路丸(ろまる) 露磨(ろまろ)

音訓のどちらか一方しかない字、国字については、それに従う。

一 配列は五十音順、現代仮名遣いによる。

一 別号、別表記のあるものは、代表する表記に加えて()にも記し、傍線等を付し、所在に対応する。なお、別号は捨て見出しを付けるが、別号のみで出句しない場合は捨て見出しを付けない。

なお、次のような俳号併記の場合は、二重傍線で示す。

・槐庵雪雄 ↓ 享三9ウ ・三京更年緒 ↓ 化四34オ

一 俳号等の「坊」「女」「亭」「斎」は省くことがある。

一 同一人の所の相違は、傍線等で区別し、所在に対応する。

一 本文にある肩書、所書きは可能な限り「 」に記す。旧国名を付すが、山城は「京」「南山城」、武蔵は「江戸」「武蔵」、摂津は「摂津」「浪花」「大坂」等とする。また、「行脚」「雲水」などのみで住所未詳の場合は、所、肩書を記さない。

一 連句における重複分は取らない。その他、同頁に複数ある場合も、同様。

一 「作者不知」「執筆」は取らない。

一 俳号の所在は、次のように略記する。ただし、所在の丁数が併記してある場合は、私に付した通し番号(本文下段)による。

寛政十一年序文表 ↓ 寛十一序オ
享和元年二丁裏 ↓ 享一2ウ
文化三年二〇丁表 ↓ 化三20オ

あ

青銭〔行脚〕 寛十一 31才
 朝於登〔丹波大山〕 化四 20才
 青人〔豊前黒崎〕 化三 13才
 蛙音〔丹後石川林〕 化四 19ウ 化六 9ウ
 阿溪〔尾張名古屋〕 化二 14ウ
 亞溪〔近江平松〕 化一 4才 化三 41才
 阿原〔上野草津〕 享一 7ウ
 麻丸〔越中井波〕 化四 42ウ
 麻丸〔肥前島原〕 化九 8才
 芦かり〔甲斐〕 化九 34ウ
 足彦〔尾張琵琶島〕 化十三 33ウ
 蛙水〔吹〕〔丹後石川〕 化二 29才
 化三 6才
 亞水〔伯耆米子〕 化十三 21才
 蛙〔阿〕石〔近江大溝僧〕 化一 5才
 化二 4才 化三 42ウ 化六 30ウ
 あたふ〔京〕 享二 18ウ 享三 22才
 化一 21ウ 化三 44ウ 化九 43ウ
 化十三 2才
 曰人〔陸奥石巻〕 化三 36才
 阿年〔京〕 享三 1ウ 享三 21才
 化一 1才 化一 23ウ 化二 1ウ
 化二 33ウ 化三 1才 化三 46才
 化四 2ウ 化四 41才
 蛙文〔甲斐〕 化十三 34ウ
 蛙方〔伊賀上野〕 寛十一 18才 享一 21ウ
 享二 9才

綾彦〔安芸広島藩内 甘露井連〕

化六 14才 化九 26才

阿蘭〔因幡鳥取〕 化十三 21ウ

有国〔京〕 享二 18才 化二 32才

化三 47ウ

鞍風〔月庵〕〔肥前長崎〕 寛十一 21才

享一 3才 化一 20ウ 化三 18ウ

化四 8ウ 化六 3ウ 化九 5才

化十三 8才

い

維一〔越中富山〕 享一 13才

為一〔因幡鳥取僧〕 化九 22ウ

威鶴〔陸奥仙台〕 化十三 36ウ

為休〔肥前大村〕 化二 22才

委曲〔甲斐宮沢〕 寛十一 7才

郁良〔丹波須知〕 化十三 28才

為形〔播磨大塩〕 化六 13才

慰月〔因幡岩井〕 化三 7ウ

勇〔浪花〕 寛十一 19ウ

以三〔信濃飯田〕 享三 13ウ

移山〔讃岐引田〕 化十三 16ウ

為舟〔陸奥伊達〕 享二 26ウ 化二 12ウ

化三 36才

為充〔周防上関〕 化三 22ウ 化四 14ウ

以正〔肥後〕 化十三 6ウ

維石〔伊勢安部〕 享二 23才

猗竹〔周防白松〕 享二 22才 化一 18才

一棹〔陸奥津軽〕 化二 12ウ

一甫〔越中富山〕 化四 28才

一鳳〔京〕 化二 31才

一方〔因幡岩井〕 化三 8才

一熊〔京〕 化三 44ウ 化四 2才

化四 40ウ 化六 1ウ 化六 33ウ

化九 2ウ 化九 43才

一葉〔周防小郡〕 化三 22才 化九 25才

イ長〔伊予今治〕 化十三 15ウ

一蘿〔相模萩野〕 化六 20ウ

一立〔加賀金沢〕 化十三 39ウ

一路〔阿波徳島〕 化十三 17才

位知朗〔越中富山〕 享一 13才

乙鶴〔近江太田〕 化一 6才 化二 4ウ

化三 42才 化六 30才 化九 41ウ

化十三 41才

一貫〔但馬日和坂〕 化九 20才

化十三 25ウ

一鬼〔上野大原〕 寛十一 6ウ

一簀〔筑後久留米〕 化三 15才

一簀〔但馬出石〕 化九 19ウ

一居〔近江大溝〕 享三 2ウ 享三 20才

化一 5才 化二 4才 化三 42ウ

化六 30ウ

乙居〔越中富山〕 化二 10才

乙魚〔越中氷見〕 化六 26才

一鏡〔筑前芦屋〕 化四 13才

一釣〔出雲神門知井宮〕 化二 25ウ

化三 10才 化四 15才

一溪〔近江途中〕 寛十一 16ウ 享一 8ウ

享二 9ウ 化一 5ウ

一溪〔因幡岩井〕 化三 8才

一慶〔加賀金沢〕 化十三 39ウ

一壺〔相模関口〕 寛十一 28ウ

寛十一 29才

一古〔尾張〕 化九 32才

一吼〔越前〕 化一 10才 化一 10ウ

化四 36才 化四 36ウ

一茶 寛十一 7才

一蓑〔長門赤間関〕 化三 21才

乙蓑〔但馬出石〕 化九 19才

一作〔甲斐〕 化十三 34ウ

一之〔近江堅田〕 寛十一 27ウ

一之〔伊勢前田〕 化一 6ウ

一之〔京〕 化六 1ウ 化六 31ウ

一志〔伯耆石井〕 化六 11ウ

一種〔出雲久村〕 化三 11ウ

乙主〔安芸広島藩内 甘露井連〕

化六 13ウ

一抄〔加賀金沢〕 寛十一 8才 享一 10ウ

化三 39才 化九 40才

一笑〔河内楠葉村〕 寛十一 19才

享一 21ウ 享二 2才 享三 8才

一笑〔洛〕 享二 18才 享三 21ウ

一松〔安房磯村〕 化三 32才

一松〔安房藤原〕 化十三 35才

一翠〔筑前瀬高〕 享三 3ウ

一翠〔伊予今治〕 化十三 15ウ

一静〔佐渡〕 享一 13才

一声〔三河新城〕 化二 15才 化九 32ウ

一声〔出雲稗原〕 化三 12才

いっ〜うち

乙夕〔伊賀上野〕 化四23ウ
 一仙〔加賀松任〕 享二14才
 一川〔加賀金沢〕 化一12才 化二8ウ
 一叟〔越中魚津〕 化四31ウ
 一湊〔加賀金沢〕 化六28才
 一草〔伊予今治〕 化十三15ウ
 乙竹〔越中富山〕 化三37ウ 化四28ウ
 逸竹〔加賀金沢〕 化四34才
 一兆〔安芸広島藩内 甘露井連〕
 化六14才
 一鳥〔肥後八代〕 化九9ウ
 乙調〔陸奥仙台／二本松〕 享一7ウ
 享二16才
 乙調〔陸奥二本松〕 享二26ウ 享三14ウ
 化二12ウ 化三36才 化九35ウ
 化十三45ウ
 一透〔越前丸岡〕 享二10ウ 享二11ウ
 化一10才 化一11才 化四36才
 化四36ウ
 一洞〔越中富山〕 享一13ウ
 一涛〔讃岐宇辰〕 化十三16才
 乙道↓仏斎〔齊〕〔京〕
 一得〔能登〕 享一12ウ
 乙都留〔京〕 化二1才
 一萍〔石中庵〕〔筑前直方〕 享三4才
 化一19才 化二21才 化三15才
 化九12ウ
 一瓢〔伯耆川崎〕 化六11才 化九24才
 一瓢〔加賀金沢〕 化六27ウ
 一夫〔能登宇出津〕 寛十一13ウ

一風〔上野磯部〕 化六23才 化九35才
 乙峰〔越中富山〕 享一13ウ 享三11才
 化十三38ウ
 一苞〔讃岐姫浜〕 享二5才
 乙芦〔相模五柏園連〕 化一7ウ
 稲丸〔撰津池田〕 享一1才 享一22ウ
 享二1ウ 享二3才 化三28才
 夷白〔丹後宮津〕 化十三27才
 移文〔越中氷見〕 化四29ウ
 惟平〔下総左原〕 化十三35ウ
 為本〔能登黒島〕 享一13才
 惟明〔出雲古志〕 化二26才
 以鳴〔京〕 化三44ウ
 依唯〔京〕 享一25才
 葦笠〔執古堂〕〔山城八幡〕 享二1ウ
 享二17ウ 享三1才 化一序1ウ
 化一1ウ 化一23才 化二1ウ
 化二32才 化三2才 化三46ウ
 化四1ウ 化四44ウ 化六31ウ
 渭柳〔丹後岩滝〕 化三6才
 因山〔但馬温泉村〕 化三4ウ
 尹之〔伊賀上野〕 享二8ウ
 う
 烏悦〔彦岐〕 化三20ウ
 芋園〔越後高田〕 寛十一3ウ
 右円〔越中〕 化一14ウ
 魚彦〔但馬出石〕 化九19ウ
 羽角〔阿波西分〕 寛十一25ウ 享一7才

享二3ウ 享二22ウ 化二17才
 雨鶴〔越前〕 化一10才
 烏休〔越中富山〕 化一15ウ 化二9ウ
 化三37ウ 化十三38ウ
 雨曉〔信濃松本〕 化一9才
 羽玉〔南山城〕 化二30ウ
 宇桂〔越後長岡〕 享一19ウ
 宇瓊〔越後長岡〕 享二15ウ 化一17才
 化二11ウ
 雨桂〔出羽宮内〕 化九36ウ 化九37才
 宇玄〔越中魚津〕 化十三38ウ
 宇杭〔近江堅田〕 化二6ウ
 烏江〔山城宇治〕 化一3ウ 化二30才
 雨香〔阿波徳島〕 化二17ウ
 雨鴻〔信濃飯田〕 化二35ウ 化四26才
 烏孝〔肥前長崎〕 化三17才 化六3ウ
 雨郊〔信濃飯田〕 化六22才
 烏行〔但馬上野〕 化九19才
 烏交〔越後今町〕 化十三37ウ
 雨耕〔尾張布袋〕 化十三33才
 羽三〔山〕〔丹後石川〕 化二28ウ
 化三6才 化六9ウ
 雨萩〔陸奥鰺ヶ沢〕 化三33才
 烏秋〔淡路〕 化九29ウ
 雨洲〔近江日野〕 化九41ウ
 烏城〔因幡岩井〕 化四19才
 雨岑〔越後大沢〕 化九38ウ
 羽人〔肥後山鹿／熊本〕 享三5ウ
 化一21才 化二23ウ 化三19才
 化四4才 化四5才 化九10才

烏翠〔伊勢大塚〕 享二9才 享二23ウ
 享三16ウ 化二15才 化三28ウ
 化十三32才
 禹水〔伯耆境〕 化九24才
 雨青〔越後与板〕 享一19才
 宇井〔越中富山〕 化四27才 化九39ウ
 化十三39才
 雨砌〔安芸広島〕 化六15才
 雨鵲〔京〕 化一2ウ
 雨石〔肥後〕 化四7ウ
 羽尺〔長門下関〕 化十三12才
 烏雪〔但馬夏梅〕 享二27才
 羽仙〔周防白松〕 享二22ウ
 羽扇〔越中〕 化一15才
 羽扇〔越中福岡〕 化一15ウ
 雨仙〔肥前諫早〕 化一20才
 雨喘〔信濃松本〕 享一8才
 禹川〔因幡岩井〕 享一23ウ
 雨村〔伯耆米子〕 化十三21才
 羽大〔阿波西分〕 享二22ウ
 歌の井〔加賀女〕 寛十一12才
 雨丹〔安芸能美〕 享一6ウ
 雨竹〔加賀松任〕 享二14才
 雨竹〔対馬〕 化四14才
 烏頂〔近江走井〕 享三3才 享三21才
 化一4ウ 化二3ウ 化二6ウ
 化三2ウ 化三43ウ 化四45才
 化六31才 化九1ウ 化九42ウ
 烏朝〔肥後川尻／小島〕 化四7ウ
 化六6才

宇笛〔肥前長崎〕 化二22ウ
 雨萩〔飛騨八鹿〕 化十三38才
 于当〔近江坂本〕 化二6才 化三43才
 芋坡〔筑前秋月〕 化四44才
 羽白〔備後福山／在近江／在京〕
 享三6才 化一17ウ 化二19才
 化三23才 化四17才
 宇柏〔安芸広島〕 化二19才 化六14ウ
 化九28才
 烏墨〔丹波〕 化六8ウ
 うめ〔越中富山〕 享一13ウ
 雨銘〔安房磯村〕 化三32才
 烏明〔越中氷見〕 化六25ウ
 梅彦〔信濃飯田〕 化四25ウ 化六22才
 梅丸〔因幡鳥取〕 化二27ウ
 宇洋〔近江大津〕 享二10才 享三20ウ
 化一4ウ 化二6才 化三43ウ
 化四2ウ 化四39才 化六3才
 化六31才 化十三41才
 雨踊〔筑前姪浜〕 化六7ウ
 卯来〔越後〕 享一16ウ
 うら主〔越中氷見〕 化四29才
 右栗〔伊勢相可〕 寛十一18ウ
 瓜坊〔摂津池田〕 寛十一20才 享一1才
 享一23才 享三7才 化四1才
 化四20ウ 化六18才 化十三4才
 雨柳〔対馬〕 化四13ウ 化四14才
 雨林〔南山城朝暮庵連〕 寛十一26ウ
 烏林〔越中富山〕 化九39ウ

雨鹿〔肥後〕 化四6ウ
 雲臥〔陸奥南部五戸〕 化四25才
 雲蓋〔越中魚津〕 享一16才
 雲居〔但馬出石〕 化九19才
 雲居〔若狭小浜〕 化十三40才
 雲子〔伊勢白子上野〕 化四23才
 雲子〔美作倉敷〕 化十三25才
 雲岱〔肥後熊本〕 化二24ウ 化三20才
 雲沖〔越後与板〕 享一19才
 雲平〔筑前須恵〕 化六8才 化九13才
 化十三11才
 雲裡〔南山城寺田〕 化二31才 化四39ウ
 え
 栄暉〔上野吾妻横尾〕 寛十一6ウ
 詠婦〔上野小保方〕 化二12才
 英文〔越中魚津〕 享一15ウ
 英有〔陸奥弘前〕 化六23ウ
 永六〔大阪〕 享二3才
 得終〔京〕 化六1ウ 化十三3ウ
 ゑち〔讃岐小豆島〕 化六17才
 悦応〔相模磯部〕 寛十一29ウ 享二26才
 越山〔因幡岩井／鳥取〕 化三7才
 化九22才
 越夫〔加賀金沢〕 享二13ウ
 燕国〔伊予三島〕 化四22才
 燕石〔加賀金沢〕 化六27ウ
 延之〔肥前長崎〕 寛十一21才 享一3才
 演之〔遠江久喜が浦〕 享三15ウ

燕子〔出雲神門知井宮〕 化二26才
 化三10才 化四15ウ
 燕子〔大坂〕 化四21ウ
 燕之〔越中魚津〕 化四32ウ
 燕児〔陸奥弘前〕 化三35ウ
 蘭井〔伊勢玉垣〕 寛十一18ウ
 塩叟〔伊勢津〕 化三28ウ 化六19ウ
 猿甫〔但馬出石〕 化九19ウ
 燕柳〔若狭神子浦〕 化二7才
 化四37ウ
 お
 鶯羽〔肥前大村〕 化二22才
 横巷〔加賀高松〕 享一10才
 黄山〔尾張名古屋〕 化二14ウ
 王史〔能登錦川〕 化十三39才
 あふち〔能登宇出津〕 寛十一14才
 黄馬〔能登宇出津〕 寛十一14才
 黄葉〔備後福山〕 化四17才
 大江丸〔浪花〕 寛十一19ウ
 乙彦〔加賀金沢槐庵連〕 享三9才
 化一12ウ 化六27ウ
 乙彦〔陸奥弘前〕 化三35ウ
 乙彦〔京〕 化十三42才
 おと文〔筑前博多〕 化六7才
 乙丸〔越中富山〕 化十三38ウ
 鬼彦〔陸奥八戸〕 享三14ウ
 鬼丸〔上野磯部〕 化九35ウ

か
 改玉〔能登田鶴浜〕 享三11才
 蟹守〔甲斐藤田〕 寛十一7ウ
 階渚〔肥前諫早〕 化一20才
 可一〔越中富山〕 化四27ウ
 海農〔大西〕〔越中放生津〕 化四30ウ
 会盟〔越中氷見〕 化六26才
 階涼〔加賀金沢暮柳舎連〕 享三8ウ
 化一12ウ 化二8才 化三39才
 槐路〔加賀金沢暮柳舎連〕 寛十一8才
 享一11才 化一12ウ
 我尹〔越中〕 化一15才
 夏雲〔安芸〕 化九27ウ
 可盈〔近江八幡〕 化六29才 化九41才
 榎園〔三河新城〕 化九32ウ
 花央〔尾張布袋〕 化十三32ウ
 荷屋〔近江下鈎〕 享一8ウ
 荷屋〔京〕 化一1ウ 化三46ウ
 化四3才 化四40才 化六34才
 笥音〔近江八幡〕 化六29ウ 化九41才
 我々〔加賀金沢暮柳舎連〕 享三8ウ
 化一12ウ
 霞外〔伊勢津〕 化四23ウ 化六19ウ
 可角〔筑前植木〕 寛十一23才
 何楽〔近江如來〕 化十三40ウ
 かゝる〔伊勢上野〕 化六19ウ
 可丘〔越中〕 化一14ウ
 可久〔上野溜池〕 化二12才

花休〔長門赤間関〕 寛十一 24ウ
 花休〔長門下関〕 化九 25才 化十三 12才
 訛牛〔肥後熊本〕 化二 24才
 蝸牛〔日向美々津〕 化十三 14ウ
 花橋〔淡路〕 化九 29ウ
 架橋〔丹波水上〕 化十三 28ウ
 可曉〔京〕 化一 22ウ
 可曉〔近江新庄〕 化二 4才
 花曉〔長門赤間関〕 寛十一 25才
 歌曉〔近江堅田〕 化六 31才
 霞曉〔越後岡野町〕 化九 38ウ
 佳玉〔若狭神子浦〕 化三 40ウ
 可近〔越中氷見〕 化四 29ウ
 鶴翁〔京〕 化三 46才
 鶴桂〔肥後熊本〕 化二 24ウ
 鶴江〔備後尾道〕 化十三 19ウ
 樂山〔伊勢津〕 化六 19ウ
 赫之〔加賀金沢〕 享三 10ウ 化一 12才
 化二 8才
 鶴子〔近江途中〕 享二 9ウ
 樂只〔肥前多比良〕 寛十一 22ウ
 享二 21才
 鶴寿〔出雲神門知井宮〕 化二 25ウ
 化三 10ウ
 鶴渚〔肥後八代〕 化九 9才
 鶴人〔尾張清須〕 化九 32ウ
 樂水〔備後福山〕 享三 6才
 郭釜〔豊前〕 化四 13ウ
 角米〔下総左原〕 化十三 35ウ

鶴鳴〔伊勢山田〕 化六 20才
 瓠落〔文章〕〔美作高下〕 化一 11ウ
 化二 28ウ 化三 1才 化三 24才
 化六 12ウ
 鶴里〔大坂〕 化十三 30才
 岳龍〔淡路草加〕 化十三 17ウ
 岳輅〔尾張名古屋〕 享一 21才
 可慶〔伊賀上野〕 享一 21ウ
 嘉敬〔肥前長崎〕 寛十一 21才
 香圭〔丹後石川〕 化三 6才
 禾徑〔肥前長崎〕 化三 47才
 花径〔肥前島原〕 化九 8才
 花桂〔越中富山〕 化十三 38ウ
 可芸〔浪花〕 享一 22才
 可月〔遠江角丸里／原川〕 寛十一 24才
 享一 20ウ 享二 3ウ 享三 15ウ
 可月堂↓芭尺〔丹後山田〕
 嘉月〔越中富山〕 化二 9ウ
 葭月〔肥後〕 化十三 5ウ
 峨月〔伊賀上野〕 化四 18ウ
 蛾月〔浪花〕 化九 3才 化九 30才
 可考〔信濃松本〕 享一 8才 化一 9才
 化三 36ウ 化三 37才
 夏貢〔沓岐勝本〕 化一 21才 化二 21ウ
 花紅〔相模〕 享一 20ウ
 霞耕〔越前僧〕 化一 9ウ 化一 10ウ
 霞耕〔伊予小松〕 化四 22ウ
 可交〔肥前長崎〕 化六 5才 化九 4才
 化九 5才
 可厚〔信濃善光寺〕 化十三 45才

夏皐〔丹波水上〕 化十三 28ウ
 歌国〔若狭谷田部〕 享一 9ウ
 蝸国〔播磨明石〕 化一 17ウ
 蚊国〔越中富山〕 化十三 38ウ
 佳哉〔讃岐仁尾〕 化三 27才
 歌山〔肥後熊本〕 化二 24ウ
 花山〔出雲神門知井宮〕 化二 25ウ
 荷山〔筑前秋月〕 化四 44才
 霞山〔肥後熊本〕 化九 11才
 倭士〔甲斐落合〕 寛十一 7才
 檉姿〔因幡鳥取〕 化十三 21ウ
 花雀〔備後庄原〕 化十三 19ウ
 河洲〔州〕〔大和吉野柳渡六田〕
 享二 17ウ 享三 7才 化四 44ウ
 花秀〔伊勢津〕 化一 6ウ
 霞洲〔三河〕 化六 20才
 蝸州〔伊与今治〕 化九 4才 化九 28ウ
 可十〔筑前若松〕 寛十一 23ウ
 花叔〔出雲大社橋隠〕 化三 11才
 化四 15ウ 化六 12ウ
 花叔〔大坂飭松〕 化四 22才
 霞松〔加賀金沢〕 享一 11ウ
 荷篠〔近江舟木〕 化六 30ウ
 霞觴〔肥後熊本〕 化六 5ウ 化九 11才
 佳樵〔尾張〕 化九 32才
 可常〔加賀高松〕 寛十一 11ウ
 霞城〔京〕 化六 32才
 花丈〔近江堅田〕 化九 42才
 鷺少〔京〕 化一 1才
 我笑〔信濃一色〕 化六 22ウ

瓦人〔因幡岩井〕 化三 8才
 榎翠〔筑前博多〕 享二 4才
 可翠〔大和吉野川桜渡〕 享一 24才
 享二 17ウ 享三 2才 享三 7才
 霞翠〔越後中野村〕 化四 26才
 花水〔京〕 化六 2才
 佳青〔越後梶屋敷〕 寛十一 3才
 享一 16ウ
 可請〔周防祝島〕 享二 4才
 歌声〔対馬〕 化四 14才
 我青〔紀伊熊野渡り浦〕 化一 3ウ
 化三 28ウ
 可石〔肥前平戸〕 化二 23才
 可積〔越中黒崎〕 享二 15才 享三 11ウ
 夏夕〔豊前小倉〕 寛十一 22ウ
 可碩〔越中魚津〕 化四 32才
 峨石〔近江堅田〕 化九 42才
 画石〔因幡鳥取〕 化十三 22才
 花雪〔若狭食見〕 化二 7才 化三 40ウ
 化四 37才 化六 28ウ
 歌舌〔筑前直方／頓野〕 化三 14才
 化四 13才 化六 1才 化六 7ウ
 化九 13ウ
 鷺雪〔浪花〕 寛十一 19ウ 享一 22才
 享三 7ウ 化二 16才 化六 18ウ
 化九 30才
 鷺雪〔阿波〕 化三 27ウ
 峨雪〔京〕 化六 32才
 花川〔近江舟木〕 化二 5ウ

画鮮〔肥前諫早／神代〕	寛十一21ウ	花農〔越中高岡〕	化三38ウ 化四28ウ	可融〔越中魚津〕	化四32才	雅倫〔周防山口〕	化三22ウ
享一3ウ 享一4才		霞梅〔筑前姪浜〕	享一6才 享三3ウ	可遊〔志岐渡良〕	化二21ウ	舸路〔能登田鶴浜〕	享三11才
霞叟〔越中八尾〕	化四33才	化一19才 化六7才		菓遊〔加賀〕	寛十一11ウ	瓜簍〔越前〕	化四35ウ 化四36ウ
珂則〔信濃塩名田〕	寛十一5才	加白〔越中殿村〕	化六25才	花友〔越中三十三ヶ〕	化六25才	歌瀧〔加賀鶴来〕	化六28才 化九40才
可度〔美作高下女〕	化三23ウ	夏晃〔肥前諫早〕	享三4才	化養〔肥後熊本〕	化二25才	完雅〔肥前島原〕	寛十一22才
仮中〔伯耆倉吉連〕	化三8ウ	画風〔越前〕	化一9ウ	何来〔筑前芦屋〕	化六8才	幹海〔山城三室〕	化三43ウ
歌兆〔越中放生津〕	化四30ウ	佳文〔備中倉敷〕	享三6才	何頼〔信濃飯田〕	享三13才 化一9才	寒厓〔能登黒島〕	化三39才
歌長〔讃岐仁尾〕	化四22ウ	可碧〔加賀松任〕	享二14才	化二11ウ 化三37才 化四26才		寒岳〔筑後久留米〕	化九13ウ
霞潮〔山城伏見〕	化四1ウ 化四39ウ	嘉輔〔浪花〕	享三21才	化六22ウ		化十三11才	
化蝶〔南山城朝暮庵連〕	寛十一26ウ	可方〔加賀金沢〕	享二13才 化二8ウ	可来〔加賀松任〕	享二14才	含菊〔安芸宮島〕	化四16ウ
化二30ウ		可卜〔備後古府〔府中〕〕	享一7才	可来〔丹後石川〕	化二29才	岸曉〔越後五智〕	享一17才
加徴〔越中氷見〕	化六25ウ	可卜〔近江船橋〕	享二22ウ	可来〔伯耆倉吉連〕	化三8ウ	完慶〔筑後久留米〕	化十三10ウ
可蝶〔山城伏見〕	化三44才	可卜〔河内船橋〕	享三8才	花菜〔越中富山〕	寛十一13ウ 享一13才	観月〔志岐勝本〕	化一21才 化二21ウ
歌鳥〔大和三輪〕	化十三31ウ	かめ〔山城宇治女〕	化二30ウ	可良久〔京〕	化九2才	菅古〔阿波徳島〕	化二17才
花調〔相模五柏園連〕	化一7ウ	花明〔伊勢津〕	享三15ウ	花六〔在長崎豊後〕	化九4ウ 化九6才	甘古〔安芸〕	化九28才
花調〔美作江見〕	化十三24ウ	花明〔京〕	化六32ウ 化九4才	可立〔加賀〕	寛十一11ウ	甘吾〔越中井波〕	化四42才
葛年〔京〕	寛十一2才 寛十一31才	蝸茗〔豊後杵築〕	化十三45才	霞立〔越中富山〕	寛十一13才 享一13ウ	甘谷〔圃辛亭〕〔加賀金沢〕	享二13ウ
可都美〔筑前飯塚〕	享一6才 享三3ウ	茅磨〔上野大原〕	化九35才	花柳〔上野大原〕	化二12才	享三10ウ 化二8ウ 化六26ウ	
可都里〔甲斐藤田〕	寛十一7ウ	歌雄〔近江堅田〕	化一21ウ 化二3才	霞柳〔安芸広島〕	化四16ウ	化九1ウ	
柯亭〔三河和泉〕	化六20才	化二6才 化三3才 化三42ウ		可龍〔肥前長崎〕	化六4才	冠山〔筑後久留米〕	化三15ウ 化六8ウ
可丁〔筑前博多〕	化九13才	何有〔山城八幡〕	化九42ウ	可龍〔因幡若桜〕	化十三24ウ	貫至〔伊予土居〕	化二17ウ
雅亭〔越中広野〕	享二15才	加由〔能登黒島〕	寛十一14ウ 享一13才	何嶺〔近江万本〕	寛十一16ウ	観之〔因幡鳥取〕	化二27才
可董〔京〕	寛十一31ウ 享一序1ウ	享二12才 享二27才 享三11才		佳綾〔近江大津〕	享三20才	寛子〔近江石部〕	寛十一16才
享一25ウ		化一13ウ 化二9才 化三39才		嘉陵〔近江大津〕	享三20ウ	寛枝〔丹波国領〕	享二7ウ 享三8才
花棠〔伯耆車尾〕	化六11ウ	化四35才 化六23才		夏亮〔肥前諫早〕	化四8才 化六4才	化三3ウ	
花陶〔近江坂本〕	化九42ウ	可友〔安芸小方〕	寛十一25ウ 享一7才	化九8ウ		寛之〔信濃下和田〕	享二16ウ 享三12ウ
可徳〔近江日野〕	享三16ウ	享二4ウ 享二20才 享三6ウ		歌林〔越中富山〕	化二35才	酣子〔越前丸丘〕	寛十一16才
花得〔陸奥青森〕	化十三36ウ	化一18才 化二19才 化三22ウ		瓜輪〔肥後〕	化四8才	貫扨〔若狭谷田部／向笠〕	享一9ウ
鼎〔因幡岩井〕	化三7才	可友〔丹後大島〕	化九18ウ	霞林〔肥前神代／島原〕	化六5才	化二7ウ 化三40才 化四37才	
蝸入〔肥後山鹿〕	化九11才	可由〔加賀本吉〕	享三10才	化九8才 化十三7ウ		化六29才	

かん〜きじ

漢二〔丹波水上〕 化十三28ウ
岸芷〔能登曾良〕 寛十一14ウ 享一12ウ
享三11才 化一13ウ 化六23才
甌之〔三河新城〕 化九32ウ
含章〔肥後熊本〕 化二24ウ
漢水〔京〕 寛十一31ウ 享二18ウ
享三3才 享三22才 化一2才
化一21ウ 化二3才 化二33才
化三44ウ 化六1才 化六32ウ
化九1ウ 化九4才 化九43ウ
化十三2才 化十三3ウ
観水〔陸奥鰻ヶ沢〕 化三33才
関叟〔京〕 化九3ウ
管鳥〔京〕 寛十一30才
完夫〔筑前博多〕 化六6ウ
関斧〔丹波水上〕 化十三28ウ
漢甫〔甲斐藤田〕 寛十一7ウ
歛甫〔豊前小倉〕 化三12ウ
甘蘿〔備中倉敷〕 化三23才
閑里〔尾張布袋〕 化十三33才
貫龍〔伯耆米子〕 化三9才
貫露〔肥後熊本〕 化二23ウ 化三19ウ
化四6ウ 化九10才
寛路〔越中八尾〕 化四32ウ
管路〔能登石動山〕 化九40ウ
岩芦〔相模五柏園連〕 化一7ウ
岸輅〔但馬大養父〕 化十三25ウ

き

器一〔丹後田辺〕 化二29ウ
帰一〔加賀本吉〕 享二12ウ 享三10才
其一〔越中富山〕 享一14ウ
麒一〔若狭小川浦〕 化四37ウ
希因 化九45ウ
倚宇〔近江大津〕 化二6才
其英〔映〕〔肥前長崎〕 寛十一21才
享一3才 化二23才 化三16ウ
化四8ウ 化六3ウ
喜詠〔筑前姪浜〕 化六7ウ
起悦〔筑前姪浜〕 享一6才 享三3ウ
奇淵〔瀨〕〔浪花〕 寛十一19才
享三7才 化四9才 化六15ウ
亀淵〔近江石部〕 寛十一16才
淇園〔備後忠海〕 化九28才
祇庭〔阿波徳島〕 化二17ウ
其屋〔丹波篠山城西〕 化四20才
淇海〔甲斐〕 化十三34才
其外〔肥前平戸〕 化四11才 化六5才
喜鶴〔京〕 享三2才 享三21ウ
化一2ウ
其冠〔沓岐勝本〕 享三5才 化一21才
化二21ウ
其〔其〕 竟〔越中魚津〕 化四31才
化六24ウ 化九39才
亀旭〔長門赤間関〕 化二19ウ 化三21才
几旭〔相模〕 寛十一28ウ

希玉〔筑前芦屋〕 化三14ウ
寄居虫磨〔備中〕 化四17ウ
寄居虫丸〔備後田房〕 化六13ウ
幾久賀〔伊勢津〕 化四23ウ
菊径〔備後三原〕 化三23ウ
菊史〔尾張〕 化九31ウ
菊二〔越中氷見〕 化四29ウ 化六26才
菊二〔肥後熊本〕 化九10才
麴舟〔上野大原〕 寛十一6ウ 享一8才
享三13ウ
菊坡〔伊勢津〕 化六19ウ
菊芳〔越中魚津〕 化四31才
菊也〔肥前長崎〕 化三16ウ 化三17ウ
化六4才
菊哉〔肥前田代〕 化九8ウ
菊里〔越後小国〕 化三37才
幾久里〔讃岐引田〕 化十三16ウ
鬼荊〔京〕 寛十一2才
其徑〔越後今町〕 享一18才 享三12ウ
箕溪↓岫丸〔肥後熊本〕
其景〔丹後宮津〕 化十三26ウ
季謙〔京〕 化二32ウ 化三45ウ
希言〔信濃善光寺〕 寛十一5才
化一8ウ 化六22ウ
帰厚〔常陸笠間〕 享三15才
亀岡〔筑前向浜〕 化六7ウ
蟻好〔長門赤間関〕 寛十一24ウ
化三21才
其国〔長門赤間関〕 化三21才
宜哉〔伯耆三崎〕 化四18才 化六11才

宜哉〔安芸広島〕 化六14ウ
龜算〔筑後久留米／志津里〕 享二3ウ
享二20ウ
其酸〔周防祝島〕 享二4才
帰山〔相模平塚〕 化四24ウ
箕山〔丹後加悦〕 化四19ウ
磯山〔越中明神〕 化六25才
机山〔伊賀上野〕 寛十一18才
稀山〔近江音羽〕 化二4才
龜山〔越中富山〕 化二35才
几山〔能登田鶴浜〕 享三11才 化一13才
淇山〔肥後熊本〕 化二24才
祇山〔陸奥〕 化九36才
龜使〔武州沢井村／在近江日野〕
享二16ウ 化二13ウ 化三31ウ
其枝〔加賀金沢〕 化六28才
岸磨〔尾張名古屋〕 化三29才
幾秋〔越中戸出〕 化四43才
其秀〔淡路須本〕 化十三17ウ
龜十〔加賀高松／本吉〕 享一10ウ
享二12ウ
起春〔丹波大山〕 化九14ウ
宜春〔丹波三輪〕 化十三27ウ
其如〔加賀金沢槐庵連／在京〕
寛十一9才 享一11ウ 享三2ウ
化一12ウ 化二3ウ 化二33ウ
其尚〔阿波〕 化三27ウ
其章〔下総結城〕 化三32才 化四19才
寄松〔大坂〕 化十三30ウ
其乘〔安芸本郷〕 享一7才

几丈〔越後高田〕 寛十一 3ウ
 寛十一 4才 寛十一 8才
 享一 17ウ 享二 15ウ 化一 16ウ
 希杖〔信濃田中〕 化九 34才
 蟻城〔肥後熊本〕 化三 20才 化四 4才
 化四 6ウ 化六 5才 化九 11才
 化十三 6才
 箕俣〔寄人〕〔備中倉敷〕 寛十一 23ウ
 享三 6才 化一 17ウ
 喜水〔筑前姪浜〕 寛十一 23才 享三 3ウ
 化六 7才
 几睡〔肥前多比良〕 享二 20ウ
 淇水〔丹波成松〕 享二 7才 化三 3ウ
 其翠〔信濃田中〕 化九 34才
 龜睡〔因幡鳥取〕 化十三 21ウ
 磯水〔加賀大聖寺〕 化四 34ウ
 其成〔京〕 寛十一 2才 寛十一 31才
 享一 1ウ 享一 24ウ 享二 1才
 享二 19才 享三 22ウ 化一 1才
 化一 23ウ 化二 1ウ 化二 33ウ
 化三 3才 化四 2ウ 化四 41才
 化六 2才 化六 33ウ 化九 2才
 化十三 2才 化十三 3才
 化十三 42ウ
 其成〔筑後志津里／久留米田主丸／藏人〕
 享二 20才 化一 19ウ 化二 20ウ
 化三 15才
 其成〔筑後〕 化九 13ウ
 其成〔越中富山〕 化二 34ウ
 其政〔肥前長崎〕 化三 47ウ

其声〔越中富山〕 享一 14才
 几青〔越中上市〕 享二 14ウ
 起石〔淡路須本〕 寛十一 26ウ 化三 26ウ
 起石〔越中能生〕 化九 39才
 淇石〔伊勢山田〕 化九 31ウ
 龜碩〔伊予今治〕 化十三 16才
 宜石〔加賀寺井〕 享二 12ウ
 希雪〔京〕 化九 2ウ
 其雪〔周防佐山〕 化十三 11ウ
 其仙〔伊勢津〕 享三 16才
 其泉〔出雲小田〕 化二 27才 化三 12才
 貴染〔河内秦村〕 化十三 31才
 龜泉〔肥前神代〕 化十三 7ウ
 其川〔京〕 享二 18才
 其川〔播磨三木〕 化十三 18才
 其箭〔加賀金沢〕 享一 11才
 几仙〔大坂〕 化十三 31才
 喜全〔上野磯部〕 化九 35才
 其宗〔出雲小田〕 化四 16ウ
 其桑〔越中魚津〕 化四 32才
 其則〔京〕 享三 2ウ
 鬼孫〔因幡〕 化十三 22ウ
 其倍〔丹波園部〕 化三 3ウ
 寄竹〔近江太田〕 享三 17才
 淇竹〔筑後志津里〕 享二 20才
 淇竹〔近江日野〕 享三 17才
 淇竹〔丹波上林〕 化九 15才
 寄鳥〔加賀金沢〕 享三 2ウ 享三 9才
 几頂〔近江堅田〕 化二 6才 化三 42ウ
 化四 38ウ

基丁〔出雲馬木〕 化三 12才
 机蝶〔讃岐仁尾〕 化三 27才
 軌長〔越中魚津〕 化四 32才
 龜頂〔豊後杵築〕 化十三 45才
 其鳥〔大坂〕 化十三 30ウ
 橘雨〔筑前直方〕 享一 6才
 橘榮〔洛書林〕 享三 22ウ 化二 33才
 化三 45ウ 化四 41才 化六 34才
 橘仙〔京〕 化二 33才
 橘中〔讃岐小豆島〕 化三 26ウ 化六 17ウ
 橘浦〔越中氷見〕 化六 25ウ
 きつら〔越中氷見〕 化四 29ウ
 橘良〔信濃飯田〕 享三 13才
 葵亭〔豊後日田〕 享一 6才 享三 5ウ
 化一 19才 化三 13才 化九 14才
 幾丁〔越後高田〕 寛十一 3ウ
 其貞〔越後柏崎〕 享一 18才 享二 15ウ
 享三 12ウ 化二 11ウ 化三 37ウ
 淇亭〔加賀金沢〕 化六 27才
 貴的〔越中八尾〕 化四 33ウ
 葵島〔浪花〕 寛十一 19ウ
 鬼洞〔京在江戸〕 化一 22ウ
 淇桃〔肥前諫早〕 化九 8ウ 化十三 7才
 蟻道〔如竹〕〔三河新城〕 享二 3才
 享三 21才 化二 15才 化九 32ウ
 巍道〔丹後宮津〕 化三 5ウ 化九 16才
 其篤〔京菊舎三世〕 化十三 45ウ
 其独〔京〕 化六 31ウ
 祇徳〔古学庵〕〔江戸〕 享二 20ウ
 享二 16ウ

鬼入〔越後高田〕 享一 17ウ
 喜年〔越後新潟〕 寛十一 2ウ 享二 15ウ
 化二 11ウ 化三 37才 化六 24才
 龜年〔出羽最上〕 化九 37ウ 化十三 37才
 其梅〔伊与今治〕 化九 28ウ
 其培〔尾張布袋〕 化十三 33才
 輝白〔肥前諫早〕 寛十一 21ウ 享一 5才
 享三 4ウ
 其白〔京〕 寛十一 1ウ 寛十一 30才
 享一 2才 享一 25才 享二 18ウ
 享三 2才 化一 2才 化一 22ウ
 化二 2才 化二 33ウ 化三 2才
 化三 44ウ 化四 41才 化九 43ウ
 其白〔近江堅田〕 化二 6ウ 化三 43才
 其白〔伊勢山田〕 化九 31才
 几柏〔相模荻野〕 化四 24ウ
 其阜〔伊勢龜山〕 化九 31ウ 化十三 3才
 化十三 31ウ
 龜婦〔陸奥仙台〕 化十三 36ウ
 倚鳳〔肥前諫早〕 化一 20才
 其風〔出雲神門知井宮〕 化三 10才
 化四 15ウ
 琪風〔肥前神代〕 化六 4ウ
 奇文〔山城八幡〕 化九 42ウ
 起文〔丹後宮津〕 化十三 27才
 其峰〔京〕 化二 31ウ
 其峰〔豊前大里〕 化十三 10ウ
 其萌〔丹波黒江〕 化二 30才
 鬼卵〔遠江原川〕 寛十一 24ウ
 寄木〔筑前直方〕 寛十一 22ウ 化二 21才
 化三 13ウ 化四 12才 化九 12ウ

き〜ぎょ

其丸〔摂津池田〕 寛十一20才	久狐〔甲斐〕 化十三34ウ	京夢〔三河〕 化二15才	玉屑〔越中富山〕 享一14ウ 化一1才
季明〔肥前長崎〕 寛十一21ウ 享二21ウ	牛後〔備後福山／在京〕 化一17ウ	杳邑〔越中魚津〕 享三11ウ	玉沾〔出雲神在〕 化二26ウ
化一20才	化二18ウ 化三23才 化四17才	曉雄〔伯耆倉吉連〕 化三8ウ	玉藻〔京〕 享二2ウ 享二18才
季明〔越後高田〕 享一17才	九江〔加賀金沢〕 享二13才 享三10ウ	曉廬〔石見河本〕 化三12ウ	享二27ウ 享三2才 享三21ウ
奇明〔豊後久留米〕 化十三10ウ	白国〔筑前博多〕 化九13才	曉芦〔石見〕 化六12ウ	化一1ウ 化一23才 化四41才
龜面〔越後仙石〕 化四26ウ	求巳〔信濃松本〕 享一8才	共和〔越中放生津〕 化四30ウ	玉桐〔安芸広島藩内甘露井連／在京〕
龜友〔豊前中津〕 化四13才	及志〔因幡若桜〕 化九22ウ	挙遠〔加賀〕 寛十一8才	享一6ウ 享二20才 享三2才
奇由〔肥前大村〕 化二22才	及師〔因幡若桜〕 化十三24ウ	巨眼〔越前〕 化四35ウ 化四36ウ	享三22才 化一2ウ 化一21ウ
婦由〔丹波成松〕 享二7才	旧草〔京〕 享二25才	玉宇〔越後柏崎〕 享一18ウ 享三12ウ	化二1ウ 化二33才 化三1ウ
輝友〔肥前長崎〕 化三16ウ	九台〔加賀金沢〕 化二8ウ	玉宇〔加賀森下〕 化四43ウ	化四1ウ 化四40才 化六13ウ
龜遊〔上野元惣社〕 享三14才	旧堂〔加賀金沢〕 化四43ウ	玉燕〔越中富山〕 化四27ウ	化九25ウ
龜遊〔越中富山〕 化二35才 化四27才	牛道〔相模萩野／在京〕 化四24ウ	玉華〔花〕〔淡路〕 享一7ウ 化一18ウ	玉斧〔安芸西条〕 化十三45才
斯酉〔伊勢白子上野〕 化三29才	化六21才	玉花〔京〕 化六2才	玉鳴〔越中戸出〕 化四43才
化四23才	久木〔豊前小倉〕 化三12ウ	玉賈〔越中富山〕 寛十一13ウ	玉鳴〔淡路三津浦〕 化十三17ウ
其友〔比斗坊〕〔陸奥弘前〕 化三35才	牛辰〔若狭田井〕 化三40才 化四38才	玉可〔越中戸出〕 化四43才 化九38ウ	玉洋〔京〕 享一1才 享二2才
其友〔近江水口〕 化三41才 化四38才	牛嶺〔越中八尾〕 化四33才	玉峨〔筑前福岡〕 化六8才	享三2ウ 享三23才 化一1ウ
其友〔京〕 化四40ウ	喜謠〔周防小郡〕 化三22才	玉沾〔出雲神在〕 化三11ウ	化一23ウ 化二2ウ 化二34才
其由〔石見大田〕 化三12ウ	橋雨〔筑前直方〕 化三14才 化四12ウ	曲肱〔京〕 化六33才	化四2ウ 化四41ウ
箕由〔甲斐〕 化十三34ウ	恭峨〔越後出雲崎〕 化九38才	桐岡〔山城宇治〕 化一3ウ 化二2ウ	旭浪〔越後荒井〕 享一17ウ 享二15ウ
淇園〔近江水口〕 化九42ウ	曉花〔出羽〕 化九36ウ 化九37才	化二30ウ	化一17才 化二11ウ 化九38才
牛一〔伊勢一身田〕 化一6ウ	曉霞〔大隅〕 化十三12ウ	旭山〔加賀本吉〕 享三10才	化十三37ウ
九花〔近江舟木〕 享三17ウ 享三19ウ	臥山〔筑前福岡〕 化九13才	玉史〔能登馬場〕 化六23才	魚光〔丹後宮津〕 化三5ウ
九鶴〔出雲古志〕 化二26ウ 化三10ウ	曉秋〔筑前秋月〕 化四44才	玉枝〔加賀高松女〕 寛十一11才	魚国〔越後今町〕 化一16ウ 化二1ウ
久居〔越中氷見〕 化六25ウ	杏水〔肥後八代〕 化九9ウ	玉糸〔京〕 化六32ウ	化二11才
旧湖〔越中堀岡〕 化六25才	曉岱〔肥後熊本〕 化二25才 化四5才	玉視〔甲斐〕 化十三34ウ	魚辰〔京〕 化十三3才
弓月〔但馬七釜〕 化九20才	橋巴〔肥後熊本〕 化二23ウ 化四6ウ	玉芝〔肥前平戸〕 化三16才	巨水〔肥後熊本〕 化二25才 化四6ウ
及古〔相模〕 寛十一28ウ	鏡平〔甲斐藤田〕 寛十一7ウ	玉井〔伊勢稲生〕 化十三32才	魚水〔筑前〕 化四13才
求古〔筑前直方〕 化三14才 化四12才	曉浦〔伊勢山田／川崎〕 化九31才	玉屑〔播磨／京〕 享一1ウ 享一7才	居石〔紀伊高野山僧〕 化三28ウ
化九12ウ	化十三31ウ	化二3才 化二31才 化三2才	魚屑〔丹波須知〕 化十三28才
九古〔肥後小島〕 化六6才		化四41ウ 化九2才	

魚舌〔豊後高野／日田〕 化三1才

化三13才 化六6ウ 化九14才

化十三10才

巨扇〔越中魚津〕 享一15才

巨泉〔越中富山〕 寛十一13才 享一13ウ

魚村〔出雲神門知井宮〕 化二26才

化三10才

魚道〔丹後宮津〕 化三5才 化六9ウ

化九15ウ 化十三26ウ

居然〔在京／在倉敷〕 享三6才

化一21ウ 化二1ウ 化二31ウ

化三3才 化三46ウ 化四2才

化四40才

魚年〔安芸〕 化九27ウ

虚白〔越中富山〕 化二9ウ

御風〔加賀高松〕 寛十一10ウ 享一10ウ

享二12ウ 享三10才

居平〔伊勢前田〕 享二9才 享二23才

化一6才

苜嵐〔京〕 化六2ウ

拳嵐〔能登宇出津〕 化十三39才

許笠〔相模萩野〕 寛十一28ウ 化六20ウ

去鹿〔讃岐仁尾〕 化四22ウ

帰来〔筑前甘木〕 化三15才 化六8才

其楽〔京〕 化十三41ウ

箕嵐〔伯耆倉吉連〕 化三9才

其嵐〔豊前中津〕 化四13ウ 化九14才

几蘭〔京〕 化六2ウ

起龍〔京〕 化二33才 化三45才

其流〔近江堅田〕 享一9才

季柳〔丹波篠山城西〕 享一25才

化四20才

亀齡〔信濃下諏訪〕 享三13ウ

其鹿〔大隅加治木〕 化六12ウ 化九12才

化十三12ウ

金下〔京〕 化二32ウ

金花〔和泉堺〕 化二16ウ 化四23才

化六19才

金戈〔越中魚津〕 化四32ウ

銀橋〔喬〕〔京〕 享二1ウ 享三1ウ

享三21ウ 化二22才 化二2ウ

化二34才

芹溪〔近江大津〕 享三20ウ

琴斎〔京〕 化二22才 化二3才

化二32才

芹斎〔江戸〕 化三47才

琴斎〔呉学〕〔丹後宮津〕 化三5才

金葉〔京〕 化十三1ウ 化十三2ウ

化十三3ウ 化十三5才

化十三41ウ

錦子〔加賀高松〕 寛十一11才

吟思〔筑前新延〕 化二21才

琴松〔陸奥仙台〕 化十三36ウ

芹水〔京〕 寛十一1ウ 寛十一30ウ

化二33才 化三45ウ 化四40才

化六32ウ 化九43才

葦水〔越後岡野町〕 化九38ウ

化十三37ウ

芹尺〔相模〕 寛十一28才

金鼠〔大隅〕 化十三12才 化十三12ウ

金爪〔近江辻村〕 化十三40ウ

琴台〔陸奥南部〕 享三14ウ

琴桃〔近江梅津〕 寛十一16ウ

權馬〔近江大沢〕 化六30才

金馬〔京〕 化九4ウ

琴巴〔京〕 化六32才

芹坡〔京〕 化十三41ウ

吟風〔日向美々津〕 化十三15才

吟明〔尾張名古屋〕 化三29才

吟龍〔日向美々津〕 寛十一26才

享一6ウ 享二20ウ 化三20ウ

化四11ウ 化九12才 化十三14ウ

琴路〔近江普門邑〕 享一8ウ

<

空阿 享一17ウ

久喜丸〔肥後熊本〕 化九11才

草丸〔甲斐〕 化六22才 化九34ウ

矩随〔大坂〕 化二15ウ

国丸〔伊与今治〕 化九28ウ

駒房〔摂津伊丹〕 化四21才

くら〔若狭小浜〕 化十三40才

句龍〔和泉堺〕 化六19才

暮丸〔越中富山〕 享一13ウ

薫河〔肥後熊本〕 化一20ウ

化二24才 化九10ウ

君芸〔越中滑川〕 享一14ウ 享二14ウ

享三11ウ

葦戸〔肥後〕 化十三6才

薫草〔伯耆原〕 化六11ウ

け

桂阿〔京〕 化九1才

圭雨〔安芸〕 化九28才

輕黄〔能登輪島〕 化六23才 化九40ウ

慶々〔丹波梶原〕 享三8才

蛭溪〔播磨繁昌村〕 化三24才

桂月〔但馬夏梅〕 享二26ウ 化三4才

圭斎〔出羽〕 化九37才

圭山〔加賀〕 寛十一9才

桂枝〔伊賀上野〕 享二8ウ

桂之〔丹波成松〕 享二7才

桂芝〔尾張布袋〕 化十三33才

桂児〔越中能生〕 化九39ウ 化十三37ウ

繫珠庵〔出雲松江〕 享二20才

芸肇〔越中魚津〕 享一16才 享二15才

享三11ウ

圭夫〔阿波〕 寛十一26才

慶友〔肥後〕 化四6ウ

慶遊〔肥後小島〕 化四4ウ 化六6才

化十三6ウ

桂郎〔京〕 寛十一30ウ 享一2才

享一24ウ 享二1ウ 享二18才

景和〔安芸広島〕 化六14ウ

月阿〔但馬出石〕 化九19才

月庵↓鞍風〔肥前長崎〕

月鶴〔肥後佐敷〕 化九11ウ 化十三5ウ

月亀〔丹後宮津〕 化九16才

月居〔大坂〕 化二15ウ
 月橋〔京〕 化六32才
 月喬〔伊勢鼓ヶ浦〕 化十三32才
 月鈞〔尾張名古屋〕 化十三32ウ
 月圭〔遠江原川〕 寛十一24才
 月孤〔筑前博多〕 享一5ウ
 月孤〔京〕 化九2ウ
 月虎〔豊後小浦湊〕 化四13ウ
 月江〔浪花〕 化九30ウ
 月舎〔甲斐加賀美〕 寛十一7ウ
 月樵〔武蔵熊谷〕 寛十一6才
 月章〔安芸〕 化九27ウ
 月船〔下総〕 寛十一7才
 月巢〔大坂〕 化十三31才
 月叟〔在京丹後〕 化九1ウ 化九43ウ
 月村〔因幡岩井〕 化三7才
 月鳥〔但馬船谷〕 享一23ウ 享二26ウ
 月底〔尾張〕 化九32才
 月波〔但馬千原〕 化三4才
 月波〔但馬二方郡〕 化四19才 化九20ウ
 化十三25才
 月波〔但馬和田山〕 化十三25才
 月峰〔京〕 寛十一1才 寛十一31才
 享一2ウ 享一24才 享二1ウ
 享三1才 享三22才 化一1才
 化一23才 化二1才 化二34才
 化三2才 化四1ウ 化四40才
 化六1才 化六33ウ 化九1才
 化九3才 化九44才 化十三1才
 化十三2ウ 化十三4才

化十三5才
 月里〔伯耆浜大谷〕 化三9才
 巻玉〔伊予今治〕 寛十一26才
 硯斎〔下総結城〕 化二13才 化三32才
 化九35ウ 化十三35ウ
 献之〔丹波成松〕 享二7才
 玄之〔丹波八上〕 化三47才
 元盛〔浪花〕 享一22才
 見方〔越中富山〕 化六26ウ
 玄留〔豊前畑村〕 化九14才
 乙
 五寅〔大坂〕 化二16ウ
 耕雲〔但馬畠山〕 化十三25ウ
 岡艾〔肥前島原〕 化六4ウ
 交婦〔越後与板〕 享一19才
 光器〔伯耆車尾〕 化四18ウ
 曠輝〔肥後熊本〕 化九10ウ
 後橋〔加賀金沢〕 享二13ウ
 攻玉〔能登田鶴浜〕 化一13才
 皓々〔陸奥弘前〕 化三35ウ
 口々〔上野磯部〕 化六23才 化九35ウ
 弘三〔丹波篠山城西〕 化四20才
 紅枝〔近江薩摩〕 化三41ウ
 好之〔因幡鳥取〕 化十三21ウ
 孔昭〔丹後田辺〕 化九16ウ
 江水〔相模猿ヶ島五柏園連〕 享一20才
 化一7才
 江翠〔越前〕 化一9ウ 化一10ウ

紅水〔相模五柏連〕 化二13才
 広水〔上野伊勢崎〕 化十三36才
 虹夕〔肥後熊本〕 化二24才 化三19ウ
 化四5ウ
 紅碩〔上野伊勢崎〕 化十三36才
 幸内〔上野小泉〕 化三36ウ
 蛤台〔肥後〕 化十三5ウ
 江南〔丹後岩屋〕 化十三26ウ
 孔阜〔伊勢玉垣〕 寛十一18ウ 享一21才
 鴻歩〔肥後熊本〕 化二25才
 岡眠〔丹波篠山城西〕 化四20才
 高野人〔紀伊高野山僧〕 化三28ウ
 後楽〔京〕 寛十一1才 寛十一30才
 享一1ウ 享二19才
 香蘭〔伊勢上野〕 化六19ウ
 五雲〔能登武部〕 寛十一14才
 呉雲〔伯耆倉吉連〕 化三8ウ
 五英〔陸奥弘前〕 化三35ウ
 胡園〔信濃今岡〕 寛十一5才
 古猿〔近江大津〕 化十三41才
 梧園〔淡路〕 化一18ウ
 湖音〔近江万木〕 化二3ウ
 古音〔備中笠岡〕 化四17ウ
 壺外〔出雲大社〕 化六12才
 古角〔加賀高松〕 寛十一11才
 虎角〔越前〕 化一10才 化一10ウ
 五岳〔薩摩可付木〕 化四11ウ
 湖眼〔伯耆大谷〕 化三9才
 五雁〔但馬船谷〕 寛十一20ウ 享一23ウ
 五〔吾〕 含〔但馬船谷〕 享二5ウ

享二26ウ 享三8才 化一11ウ
 化二28ウ
 后菊〔播磨姫路〕 享一24才
 五牛〔南山城朝暮庵連〕 寛十一26ウ
 享一24才
 古居〔因幡岩井〕 化三7才
 五橋〔能登三階〕 享二27ウ
 五郷〔加賀金沢〕 化一12才
 五禽〔越中能生〕 化九39才
 五禽〔越後〕 化十三37ウ
 黒樹〔京〕 寛十一2才
 国方〔安芸広島〕 化六15才
 国雄〔京〕 化一2ウ 化一23才
 化二2才 化二31ウ 化三46才
 化四1ウ 化四40ウ 化六3才
 化六32ウ 化十三2才
 化十三3才 化十三4才
 化十三42ウ
 国雄〔尾張〕 化九2才 化九32才
 古桂〔周防白松〕 化一18才 化二19ウ
 化三22才
 壺溪〔肥後〕 化四3ウ
 五卿〔加賀高松〕 寛十一11才
 五溪〔因幡鳥取〕 化二27才
 五溪〔南山城〕 化二30ウ
 呉桂〔南山城朝暮庵連〕 寛十一27才
 湖月〔但馬夏梅〕 享二2才 享二27才
 湖月〔京〕 化一22才
 湖月〔近江堅田〕 化三43才
 湖月〔近江大溝〕 化六30ウ

孤月〔因幡若桜〕 化十三24ウ	呉人〔越中魚津〕 化四32才	湖中〔常陸水戸〕 享一20ウ	五芳〔京〕 寛十一1ウ 寛十一31才
梧月〔近江大溝〕 化一5才	吾人〔近江湖東大塚〕 化十三45ウ	五調〔摂津兵庫〕 享三7才 化一3才	享一2ウ 享一24才 化十三1ウ
古硯〔長門赤間関〕 化三21ウ	鼓吹〔但馬網場村〕 寛十一20ウ	吾長〔出羽秋田〕 享一7ウ	化十三4ウ
五現〔相模河原口〕 寛十一29才	古吹〔出雲馬木〕 化三12才	五趙〔摂津兵庫〕 化三28才	五蓬〔備中倉敷〕 化三23才 化六13才
五湖〔越中滑川〕 化一16才 化二11才	湖水〔伯耆三崎〕 化三8才 化四18才	梧鳥〔伊賀上野〕 化四18ウ 化六19才	化九28ウ
午后〔備後福山〕 化九28ウ	化六11才 化九23才	吾鳥〔肥前〕 化四11才	五ト〔相模五柏園連〕 化一7才
湖〔胡〕江〔安芸真良〕 寛十一25才	虎睡〔肥前長崎〕 化九4ウ	呉潮〔丹波水上〕 化十三28ウ	孤丸〔丹後宮津〕 化九16才
享一6ウ	湖翠〔出羽大塚〕 化九37才 化九37ウ	国花〔越中富山〕 享一14ウ	吾丸〔江戸〕 化二13ウ
古光〔京〕 寛十一2ウ	孤睡〔因幡鳥取〕 化十三21ウ	湖滴〔長門赤間関〕 寛十一25才	五明〔出羽秋田〕 寛十一23ウ
古光〔河内生駒桒〕 享一21ウ	己醉〔長門下関〕 化十三12才	湫轍〔京〕 化三45才	悟明〔越後与板〕 化九38才 化十三37才
古光〔河内交野郡津〕 化三28才	壺青〔筑前直方〕 化三14才 化四12ウ	古塘〔京〕 享一24才 享二19才	古遊〔丹波野村〕 享三8才
化六1才 化六18ウ 化十三31ウ	己青〔筑前直方〕 化九12ウ	享三1才 享三22才 化一23才	故友〔近江堅田〕 享一9才
古江〔安芸広島〕 化六15才	五青〔相模〕 寛十一28才	化二33ウ 化三2才	虎雄〔越後柏崎〕 享一18ウ
古斎〔信濃飯田〕 化六22ウ	梧井〔肥後熊本〕 化四4才 化六5ウ	古洞〔越中富山〕 化二34ウ	吾友〔肥前長崎〕 享一3ウ 享二17才
胡山〔越中井波〕 化四42才	化九11才	古涛〔肥前平戸〕 化九8ウ	享三5才 化一20ウ 化二22ウ
孤山〔越中魚津〕 化一15ウ 化二20才	孤石〔肥前諫早〕 寛十一21ウ 享一5ウ	古桃〔讃岐仁尾〕 化十三16ウ	化三16ウ 化四8ウ 化六3ウ
化三38才 化四31才 化六24ウ	化一2才 化一19ウ 化九8ウ	虎洞〔越前丸丘〕 寛十一15ウ	化九4ウ
化九39才	化十三7才	虎洞〔肥後〕 化四6才	吾友〔出雲古志〕 化二26ウ 化三10ウ
湖山〔肥前長崎〕 寛十一21才	湖夕〔近江舟木〕 享三19ウ 化一6才	湖東〔石見浮根〕 化四14ウ	五由〔安芸中村〕 化四17才
午山〔加賀金沢〕 享二13才	化三42才	古同〔伊勢安部〕 享二23才	五友〔陸奥津軽〕 化三35ウ 化九36才
呉山〔越中富山〕 寛十一13ウ 享一13ウ	壺石〔加賀高松〕 寛十一10ウ	五道〔尾張安井〕 化二14才 化四24才	呉洋〔越後柏崎〕 享一18才 化三37ウ
乎之閑〔甲斐僧〕 化三36ウ	五雪〔筑前直方〕 寛十一22ウ 化三14ウ	湖南〔加賀金沢〕 化二8才	五葉〔加賀金沢〕 化四43ウ
古且〔加賀金沢〕 享三9ウ	化四12才	虎白〔京〕 寛十一30才	固来〔加賀金沢〕 享三10ウ 化十三39ウ
戸雀〔筑前博多〕 化六7才	呉雪〔相模〕 寛十一29才	壺伯〔信濃飯田〕 享三13ウ	五来〔申斎〕〔近江大津〕 享三1才
吾雀〔大坂〕 化一3才 化六16才	壺仙〔越中高岡〕 寛十一12ウ	壺半〔上野浅原〕 化二12才	享三20ウ 化一4ウ 化二6才
湖舟〔京〕 化二32ウ	五先〔越後五智〕 享一17才	己百〔加賀本吉〕 享三10才	化三43ウ 化四39才 化六31才
孤松〔備前香登〕 化九28ウ 化十三20才	呉川〔越前丸岡〕 享二10ウ 享二11ウ	古瓢〔丹波須知〕 化十三28才	呉来〔摂津兵庫〕 享二3才 享三7才
孤松 化十三4ウ	五巢〔伊賀上野〕 享二8ウ	古風〔越後梶屋敷〕 寛十一3才	吾来〔筑前博多〕 寛十一23才 享一5ウ
孤松〔因幡若桜〕 化十三24ウ	五草〔播磨〕 享三6ウ	湖風〔尾張名古屋〕 化二14才	梧来〔安芸〕 化九27ウ
午心〔江戸〕 寛十一6才	壺大〔阿波〕 化二17才 化四23才	吾風〔石見浜原〕 化十三20才	古嵐〔越後〕 享一16ウ

古嵐〔周防小郡〕 化三22才
 五嵐〔長門豊浦山下〕 化一18ウ
 呉律〔丹後宮津〕 化十三26ウ
 湖流〔讃岐大野原〕 享二5才
 湖流〔因幡鳥取〕 化十三21ウ
 五粒〔近江堅田〕 化二6ウ 化三43才
 化六30ウ
 五粒〔伊予土居／近井郷〕 化二17ウ
 化三26才
 五粒〔因幡鹿野〕 化六10ウ
 呉柳〔但馬七味郡〕 化十三25ウ
 五柳〔但馬平野〕 享一23才 享二5才
 五柳子〔信濃南原僧〕 化四25ウ
 古梁〔周防小郡〕 化二19ウ 化三22才
 化四14ウ 化六15ウ
 古蓼〔越前丸岡〕 寛十一15ウ 享二10ウ
 享二11ウ 化四35ウ 化四37才
 壺両〔日向美々津〕 化十三14ウ
 五陵〔越中八尾〕 化四33才
 五嶺〔肥後川尻〕 化四7ウ
 古林〔越後〕 享一16ウ
 孤林〔越中吉久〕 化四30才
 珊瑚〔肥後〕 化四7才
 鼓瀧〔摂津滝山〕 化三28才
 梧桐〔丹波大山篠山城西〕 化四20才
 化九15才 化十三28才 化十三29才
 五郎〔筑前宗方〕 化九13ウ
 五鹿〔安芸広島〕 化一1ウ 化一18才
 五鹿〔肥前平戸〕 化三15ウ 化四11才
 権己〔伊勢松坂〕 化六19ウ

さ

今志〔因幡若桜〕 化十三24才
 斎己〔肥前諫早〕 化十三8才
 斎我〔肥前神代〕 享一3ウ
 彩雅〔陸奥末松山〕 化十三36ウ
 在貫〔京〕 寛十一1才 寛十一30ウ
 享一25才 享二18ウ 享三1ウ
 享三23才 化一1ウ 化一23才
 化二33ウ 化三1ウ 化三46ウ
 化四2ウ 化四41ウ 化六34才
 才枝〔上野伊勢崎〕 化十三36才
 在中〔山城宇治〕 化二30ウ 化四44ウ
 葉朝↓内海〔越中高岡〕
 左一〔陸奥安達〕 享二26ウ
 柴籬〔安芸西条〕 化十三45才
 左延〔摂津小池村〕 享一22ウ
 佐保国〔阿波〕 化三27才
 左涯〔伊勢山田〕 化九31才
 左琴〔越後高田〕 寛十一3ウ 享一17ウ
 化一16ウ 化二11ウ 化六24才
 化九38才
 朔宇〔上野宮崎〕 寛十一6才
 昨非〔丹後次津〕 化六10才
 沙月〔但馬夏梅〕 享二26ウ 化三4才
 紗言〔江戸〕 寛十一6才 享一20ウ
 砂香〔京〕 享二18ウ
 左雀〔尾張名古屋〕 化二14才
 瑳雀〔近江太田〕 享一8ウ 化一6才

砂上〔近江水口〕 化三41才
 砂石〔肥後〕 化四6才
 左城〔安芸西条〕 化十三45才
 砂俗〔京〕 化六32才
 幸彦〔近江堅田〕 化六31才
 幸丸〔加賀金沢〕 享一11才
 薩〔周防白松女〕 享二22才
 差庭〔能登輪島〕 化九40ウ
 砂童〔吾齊／黄鳥庵〕〔肥後熊本〕
 化三1才 化三19才 化四7ウ
 化九10才
 沙麦〔越中小林〕 享一14ウ 享二14ウ
 享三11ウ 化一16才 化二10才
 砂文〔近江万木〕 化一5ウ 化二3ウ
 化三42才
 沙牧〔筑前直方〕 享三4才 化二21才
 化三14ウ 化十三11才
 沙明〔筑後久留米〕 化四11ウ 化九14才
 化十三10ウ
 左来〔淡路三津浦〕 化十三17ウ
 左林〔越後梶屋敷〕 寛十一3才
 三峨〔肥後〕 化四5ウ
 三岳〔三河吉田〕 化十三33ウ
 化十三34才
 三机〔信濃上田〕 享三12ウ
 三京↓年緒〔加賀金沢〕
 三壺〔越中魚津〕 享一14ウ
 三好〔在京西美濃多良〕 化三47ウ
 三好〔摂津池田〕 化四20ウ
 三考〔肥後〕 化四6ウ

三孝〔丹後宮津〕 化六9ウ
 三枝〔越中富山〕 化一13ウ 化一14ウ
 三四坊〔大坂〕 化十三31才
 山菜〔若狭成出〕 化四37ウ
 三秋〔越中氷見〕 化六25ウ
 三省〔肥前長崎〕 化二22ウ 化三16ウ
 化四8才
 三省〔丹後宮津〕 化三5才
 三笑〔肥後佐敷〕 化九11ウ
 三千丈〔出雲下古志〕 化三10ウ
 化四15ウ
 杉桑〔尾張名古屋〕 化二14ウ
 三朝〔京洛北修学院〕 化三47ウ
 三豆〔陸奥南部五戸〕 化三32ウ
 化四25才 化十三37才
 山和〔上野沼田〕 享二26才 化三36ウ
 山巴〔丹後宮津〕 化三5ウ
 山嘯〔武蔵〕 化二13ウ
 三峰〔加賀高松〕 寛十一11才
 三峰〔肥後八代〕 化九9ウ
 散木〔肥後天草〕 化四7ウ
 三夜〔尾張名古屋〕 化二14ウ
 三夜〔京〕 化十三41ウ
 三葉〔筑前飯塚〕 享三4才
 山螺〔筑前秋月〕 化四44才
 三籟〔因幡岩井／鳥取〕 化三7ウ
 化九22才
 山離〔豊後高田〕 化二20才

し

市隠〔越後与板〕 享一19才
市隠〔因幡岩井〕 化三7ウ
司蚓〔但馬出石〕 化九19ウ
枝鳥〔丹後石川林〕 化四19ウ 化六9ウ
紫雲〔石見矢上〕 化十三20才
詞英〔肥前諫早〕 化一20才 化十三7才
紫英〔近江日野〕 化三41才 化四38才
化六29ウ
糸英〔丹後加悦〕 化三6ウ 化十三27才
子英〔陸奥鰺ヶ沢〕 化三33才
紫燕〔信濃三明〕 寛十一5ウ
芝艶〔加賀高松女〕 寛十一10ウ
しほ女〔出雲稗原〕 化三12才
紫雄里〔加賀扇町屋〕 化十三35才
子賀〔陸奥鰺ヶ沢〕 化三32ウ
二鶴〔近江太田〕 寛十一16才 享一8ウ
享二9ウ 享三17ウ
二鶴〔大坂〕 化十三30ウ
子鶴〔阿波徳島〕 化二17才
市冠〔長門赤間関〕 寛十一25才
志完〔伊勢上野／稲生〕 化九31才
化十三32才
芝及〔出雲下古志〕 化三10ウ 化四15ウ
枝鳩〔伯耆石井〕 化六11ウ
士虬〔上野惣社〕 化九35ウ
二九〔肥前長崎〕 化六4才
市橋〔筑前〕 化四12才

此教〔上野榛名禁・新波〕 化六23ウ
化九35才 化十三36才
芝曉〔備後三原〕 化三23ウ 化九28ウ
市曉〔筑後久留米〕 化九13ウ
芝玉〔肥後天草女〕 化三2ウ
化三19才
之斤〔越後今町〕 享一18才 化二11才
之斤〔京〕 化九3ウ
支芹〔京〕 化十三42才
史喙〔越中石動〕 化九38ウ
支吟〔伊勢津〕 化九31ウ
竺仙〔但馬手辺〕 化九20ウ 化十三25ウ
軸磨〔肥後熊本〕 化十三6才
士勲〔豊前小倉〕 化二20才 化三17ウ
化三18ウ
此君〔伊勢津〕 享三15ウ
四溪〔伊勢山田〕 享一21才 享二9才
享三16ウ 化二15ウ 化三28ウ
子兮〔近江堅田〕 化三43才
志桂〔信濃南原〕 化四25ウ
紫溪〔肥前長崎〕 化三16ウ
紫溪〔近江堅田〕 化四45才 化六30ウ
此溪〔肥前長崎〕 化九4ウ 化九6才
二慶〔越中八尾〕 化四33才
二桂〔丹波大山〕 化四20才
指月〔長門赤間関〕 寛十一24ウ
指月〔出羽〕 化九36ウ
しげり〔上野桐生〕 化十三36才
子謙〔阿波徳島〕 化二17ウ
四軒〔筑前福岡〕 化四13才

支硯〔肥後八代〕 化九9才
志原〔京在備後福山〕 化二18ウ
此原〔筑前直方〕 寛十一22ウ 享三4才
化二20ウ 化三13ウ 化四1才
化四12才
士言〔肥前長崎〕 化二22ウ
扈言〔越前敦賀〕 寛十一14ウ
之言〔肥後砂取〕 化四7才
志耕〔信濃南原〕 化一8ウ
志鴻〔肥前長崎〕 享一3ウ
之鴻〔越後〕 享一16才
枝江〔長門赤間関〕 化三21才
士口〔肥前長崎〕 化三16才
子甲〔陸奥南部五戸〕 化四25才
子孝〔陸奥仙台〕 化四25才
思考〔伯耆米子〕 化十三21才
而后〔尾張〕 化九32才
二江〔伊予今治〕 化十三15ウ
支元〔小簀庵〕〔武蔵青梅〕 寛十一6才
子坤〔備前岡山〕 享二5才 化三22ウ
市山〔伊勢〕 享三16ウ
支三〔陸奥津軽〕 享三15才
至三〔因幡岩井／鳥取〕 化三7ウ
化九22ウ
支山〔越中四方〕 化三38ウ
芝山〔京〕 化六31ウ 化九2才
扈詞〔筑前博多〕 享一5ウ 化六6ウ
化九13才
士芝〔備後三原〕 化三23ウ
獅丸〔近江舟木〕 享三17ウ 享三19ウ

化一5ウ 化二4ウ 化二5ウ
化三41ウ 化四38ウ 化六30ウ
雌鵲〔因幡鳥取〕 化十三22才
枝雀〔丹波須知〕 化十三28才
時習〔周防祝島〕 享二4ウ
時習〔肥前諫早〕 享三4ウ 化十三8才
士俊〔摂津池田〕 享一22ウ
泗上〔越中富山〕 化三37ウ 化六26ウ
之上〔讃岐小豆島〕 化六17才
似咲〔加賀〕 寛十一9才
二松〔在京陸奥二本松〕 化三44才
化四40ウ
自笑〔丹波海老谷〕 化六8ウ
贅晋〔加賀〕 寛十一8ウ
志津女〔出雲稗原〕 化四16才
指翠〔越後梶屋敷〕 寛十一3才
享一16ウ
祇水〔相模〕 寛十一28才
紫翠〔出雲久村〕 化三11ウ
泗水〔越中井波〕 化四42ウ
似水〔陸奥二本松〕 享二26才
二翠〔伯耆宇野浦〕 化三8ウ
贅青〔加賀金沢〕 寛十一12才 享三9才
市正〔大坂〕 化四21ウ
紫石〔越後高田〕 寛十一3ウ
紫石〔近江八幡〕 化六29ウ
子碩〔越中富山〕 化四27才
二尺〔越中富山〕 化一14才 化二10才
化三38才
子仙〔加賀〕 寛十一8才 寛十一12ウ

枝川〔加賀金沢〕 享二13ウ 享三10ウ
 紫川〔越中富山〕 享一14才
 芝洗〔加賀高松〕 享一10ウ
 四川〔出雲大社〕 化十三20ウ
 二扇〔筑前姪浜〕 寛十一23才
 二扇〔越中富山〕 化二35才
 二扇〔肥後熊本〕 化三19ウ 化四6ウ
 二川〔越後妻有／仙田〕 化九38ウ
 化十三37才
 似藻〔丹後田辺〕 化二29ウ 化三6ウ
 士竹〔大坂〕 化十三31才
 此柱〔筑前吉木〕 化二21ウ 化三14ウ
 子丑〔越中富山〕 寛十一13才 享一13ウ
 子邇〔南山城朝暮庵連〕 寛十一26ウ
 四暢〔但馬浜坂〕 化三4才 化九20才
 二蝶〔丹後加悦〕 化二29ウ 化十三27才
 二蝶〔伊勢稲生〕 化十三32才
 十壺〔京〕 化六2才 化六32ウ
 化九1ウ 化九3ウ 化九44才
 化十三1才 化十三3才
 化十三5才
 十枝〔加賀〕 寛十一8才
 十手〔但馬網場村〕 寛十一20才
 享一23ウ
 詩笛〔肥前諫早〕 享三5才 化一20才
 扨当〔近江堅田〕 化二7才 化三43才
 二桃〔肥前平戸〕 化三16才
 士得〔伊賀上野〕 化四23ウ
 自徳〔信濃上諏訪〕 寛十一5ウ
 豕白〔加賀高松〕 寛十一10ウ

枝白〔越中八尾〕 化四33ウ
 紫陌〔上野〕 化六23ウ
 至白〔因幡若桜女〕 化九22ウ
 化十三24才
 事白〔周防上関〕 化六15ウ 化九25才
 化十三12才
 扨万〔越後梶屋敷〕 寛十一3才
 享一17才
 之楓〔能登鷺川〕 享二27ウ 化九40ウ
 之風〔南山城宇治〕 化四44ウ 化六31ウ
 市峰〔筑前朝倉〕 寛十一23才
 芝峰〔讃岐〕 享二22ウ 化六16ウ
 士芳〔越中富山〕 化四27ウ
 至峰〔加賀粟崎〕 化四34ウ
 詩舫〔下総結城〕 化四19才
 尔芳〔越後荒井〕 享二15ウ
 二峰〔京〕 化十三41ウ
 史朴〔越中井波〕 化四42ウ
 芝下〔大坂〕 化四21ウ
 旨梓〔但馬出石〕 化九19才
 史明〔近江大津〕 享三20ウ
 史溟〔越中魚津〕 享一15ウ
 志明〔越中魚津〕 化四32才
 士明〔近江日野〕 化六29ウ 化十三4ウ
 化十三40ウ
 自明〔加賀高松〕 寛十一10才 享一10才
 享二12才 享三8ウ 化一13才
 化二8ウ 化三39ウ 化四34才
 化六28才 化九40ウ 化十三39ウ
 車丸〔丹波須知〕 化十三28才

邪丸〔加賀高松〕 寛十一11才
 金琴〔丹後後野〕 化三6ウ 化四19才
 若翁〔浪花〕 享一21ウ
 雀子〔出雲大社〕 化四15才 化六12才
 雀笑〔肥後〕 化四8才
 若水〔越後梶屋敷〕 寛十一3才
 享一16ウ 化一17才
 若夢〔京〕 化九3才
 若葉〔周防櫛浜〕 化十三11ウ
 且古〔加賀金沢〕 化二8ウ
 斜山〔京〕 化六31ウ
 且志〔丹後宮津〕 化三5才 化九16才
 捨席〔遠江原川〕 寛十一24才
 車大〔暮柳舎〕〔加賀金沢〕 寛十一4才
 寛十一11ウ 享一10ウ 享三8ウ
 化一12ウ 化二8ウ 化三40才
 化六28才
 舍童〔尾張名古屋〕 化二14才
 洒布〔越中富山〕 化四27ウ
 車夫〔肥後熊本小島〕 化四4才
 化四5才 化六6才 化九10才
 化十三6才 化十三6ウ
 車方〔加賀金沢〕 享二13才
 車鳴〔京〕 化十三42才
 舍雄〔加賀高松〕 寛十一10ウ
 斜葉〔肥後熊本〕 化四6才 化六5ウ
 化九10ウ
 車用〔因幡鳥取〕 化九22才
 舍来〔陸奥八戸〕 享三15才
 車来〔肥後熊本〕 化三20才

舍六〔京〕 寛十一30才
 車隣〔上野伊勢崎〕 化十三36才
 車露〔近江下田〕 化十三40才
 しう〔志宇〕〔近江平松女〕 化一4才
 化三序1ウ 化三41才
 子由〔越中富山〕 化四28才
 子猷〔越中富山〕 化四28才
 紫西〔伊勢上野〕 化六19ウ 化九30ウ
 化十三32才
 二有〔大坂〕 化二16ウ
 秋烏〔肥後熊本〕 化三20才 化四5ウ
 終屋〔周防上関〕 化十三11ウ
 秋画〔肥後熊本〕 化二23ウ
 重塊〔備後福山〕 化三23才
 重塊〔近江田井〕 化四38才 化六30才
 化九42才
 秋栞〔丹波梶原〕 化九15才
 十牛〔但馬網場〕 享二5ウ
 秋拳〔三河〕 化六20ウ
 秋月〔周防小郡〕 化九25才
 秋湖〔摂津兵庫〕 享三7才
 秋侯〔加賀〕 化一13才
 秋向〔但馬網場村〕 寛十一20ウ
 秋香〔陸奥杉田駅〕 享三15才
 秋郊〔千種庵〕〔肥後熊本〕 化四3ウ
 化六6才 化九11才
 重厚〔近江義仲寺〕 寛十一16ウ
 重行〔甲斐〕 化六22才 化九34才
 周再〔越中魚津〕 享一15ウ
 蝨山〔伊勢津〕 寛十一17才

秀山〔越後山室村〕 化九38ウ
秋守〔近江日枝僧〕 享三22才
化一2ウ

秋守〔江戸上野〕 化二13ウ
十廿〔加賀〕 寛十一7ウ 寛十一10才
享一12才

秋水〔京〕 寛十一29ウ 享二17ウ
化二31才

修然〔筑後久留米〕 享三3才 化一19ウ
化二20ウ

周泰〔越中氷見〕 化六26才

周泰〔京〕 化十三5才

周台〔越中魚津〕 寛十一13才 享一16才
享二15才 享三12才 化一15ウ

化三38ウ 化六24ウ 化九39才

秀台〔越中氷見〕 化四30才

廿男〔大阪〕 享二2ウ

宗値〔讃岐仁尾〕 化九29才

周馬〔加賀〕 寛十一12才

習風〔伯耆米子〕 化十三21才

醜文〔越中島〕 化十三38才

嵩平〔近江走井〕 化九1ウ 化九3ウ
化九42ウ

秀邦〔越中氷見〕 化六25ウ

秋峰〔越後四ッ谷〕 化九38才

岫丸〔箕溪〕〔肥後熊本〕 享二21ウ
化一21才 化二25ウ 化三20才

化四4才 化四7才 化六5ウ

襲明〔豊後久留米〕 化十三11才

十邑〔豊前小倉〕 化一19才 化三12ウ

秀里〔浪花〕 享三7ウ

萩里〔越後梶屋敷〕 寛十一3ウ
享一16ウ

萩里〔肥後八代萩原〕 化四5ウ
化六5ウ 化九9ウ

秋里〔石見池田〕 化六12ウ 化九24ウ
化十三20才

周路〔阿波〕 寛十一26才

十六〔安芸〕 化九27ウ

周和〔出羽〕 化九37ウ

寿榮〔伯耆熊鷹〕 化六11ウ

朱鶴〔但馬出石〕 化九19ウ

寿杏〔相模猿ヶ島〕 寛十一29ウ
萩泉〔肥後〕 化四3ウ

守口〔因幡岩井〕 化三7ウ

守山〔三河新城〕 化二15才

寿仙〔越中八尾〕 化四33ウ

守中〔因幡岩井〕 化三7ウ

十鼠〔若狭神子浦〕 化四37ウ

樹徳〔越中放生津〕 化四30ウ

守白〔越後上十日町〕 化六24才

樹風〔越中氷見〕 化六25ウ

朱錫〔三河〕 化六20ウ

寿卜〔若狭北前川〕 享一9ウ 化二7才
化三40才 化四37才 化六28ウ

如友〔越中放生津〕 化四30ウ

酒樂〔丹波海老谷〕 化六9才

樹嵐〔越中氷見〕 化四29ウ

朱鹿〔越中魚津〕 化四31ウ

春衣〔近江高島〕 化四39才

峻英〔豊後臼杵〕 化六2ウ 化六6ウ

春可〔安芸広島〕 化六15才

春河〔肥前諫早〕 享三5才 化一20才

春峨〔阿波〕 享三1ウ 享三7ウ

春海〔越中氷見〕 化六26才

春輝〔加賀本吉〕 享三10才 化四34ウ
化六27ウ

春蟻〔江戸〕 化三31ウ 化六21才

化九34ウ

春喬〔肥前島原〕 寛十一22才 化一19ウ
化九8才

春喬〔肥前神代〕 享一4才 化三15ウ
化六5才 化十三7ウ

春喬〔肥前長崎〕 化四8ウ

春紫〔暁山軒〕〔伯耆米子〕 化三8才
化十三5ウ

春曉〔肥後〕 化十三5ウ

春湖〔伊勢山田〕 化九31才

春湖〔丹後大島〕 化十三26ウ

準虎〔下総結城〕 化十三35ウ

春紅〔加賀粟崎〕 化四34ウ

春江〔越後高田〕 享一17ウ

春江〔筑前吉田〕 化四12ウ 化六7才

春耕〔讃岐引田〕 化十三16ウ

春郷〔周防岐波・白松〕 享一6ウ
享二4ウ 享二21ウ 化一18才

春山〔美作倉敷〕 寛十一26才

春山〔京北山〕 化一22才 化三44ウ

春枝〔京〕 享三22ウ

春思〔大坂〕 化一3才 化二15ウ
化六18ウ 化九30才

春思〔阿波〕 化三27ウ

春車〔伊勢玉垣〕 化十三31ウ

春抄〔丹波氷上〕 化十三29才

春人〔相模小田原〕 享三15ウ

春人〔摂津尼崎〕 化三27ウ 化四22才
化六18才

春草〔京〕 化二2ウ

笋村〔伊勢鼓ヶ浦〕 化十三32才

春台〔伊予今治〕 化十三15ウ

春潮〔越中氷見〕 化四29才

春潮〔丹後大島〕 化九18ウ

春坡〔豊後高田桂川〕 享三5ウ
化二20才 化三13才

春波〔大隅加治木〕 化九12才
化十三12ウ

洵美〔肥前長崎〕 寛十一20ウ 享一3才
享二17才 享二21ウ 享三5ウ

化二22ウ 化三16才

春平〔安芸広島〕 化六14ウ

春蒲〔出雲神門知井宮〕 化二26才
化三10才

春歩〔越後今町〕 化十三37ウ

潤甫〔但馬芝〕 化九20才

春峰〔越中魚津〕 享一15才

春峰〔京〕 化三45ウ 化四40ウ

春也〔京〕 寛十一1ウ 寛十一30ウ

春夜〔呂吟〕〔京〕 化二31才

春雄〔近江八幡〕 化九41才

春来〔阿波〕 化三27才

春来〔浪花〕 化九30才

しゅ〜じょ

春里〔肥前諫早〕 化十三7才	松丘〔越中福岡〕 化一15ウ	丈水〔相模猿ヶ島五柏園連〕	除芥〔信濃飯田〕 享三13ウ
春漣〔京〕 化九1ウ	敵裘〔肥後熊本〕 化一20ウ 化二25ウ	寛十一28才 寛十一29ウ	如駭〔因幡鳥取〕 化九22才
春芦〔肥前諫早〕 享三4ウ 化四8才	化三19ウ 化四7才	享一20才 化一8才 化二13才	如学〔周防祝島〕 享二4才
化六4才 化十三8才	松居〔丹後宮津〕 化十三26ウ	松雫〔近江大溝〕 化三42ウ	如休〔美作江見〕 化十三25才
春和〔越中氷見〕 化六25ウ	松居〔但馬〕 化十三29才	松駐〔越後山谷〕 享三12才	如玉〔長門赤間関〕 化三21才
如乙〔越中魚津〕 化四32ウ	昇魚〔松茂〕〔越後魚沼〕 化一17才	松調〔相模上依知五柏園連〕	如琴〔丹後加悦〕 化四19ウ
耳洋〔越中富山〕 化二9ウ 化三38才	昇魚〔越後山谷〕 化六24才	寛十一28才 寛十一29才 化一7才	二翼〔越中放生津〕 化四30ウ
化六26ウ	松寓〔安房〕 化三32才	化二13才	飾哺〔南山城鷺坂山〕 化二30ウ
蕉雨〔信濃飯田〕 享三13才 化一9才	蕉吟〔尾張名古屋〕 化二14ウ	松斗〔加賀〕 寛十一12才	如慶〔肥前長崎〕 化二22ウ
化二11ウ 化四26才 化六22ウ	松月〔摂津兵庫〕 化九29ウ	松涛〔肥前長崎〕 化二23才 化三17ウ	如蕙〔肥前長崎〕 化六4才
松雨〔肥後〕 化四6才	松月庵〔大坂〕 化二16才 化四21才	化三18ウ	如圭〔近江大久保〕 化十三40ウ
松雨〔安芸広島藩内甘露井連〕	松月庵〔阿波〕 化三27ウ	松美〔丹波篠山〕 化十三27ウ	如弦〔越中富山〕 享一14才
化六14才	尚古〔但馬芝〕 化六10才 化九20才	松風〔近江愛知川〕 化四38才	如岡〔越中富山〕 享三11才 化二9才
松宇〔安芸広島〕 化六14ウ	松香〔越中魚津〕 享一15才	笑歩〔讃岐仁尾〕 化二35ウ 化三26ウ	化三37ウ 化四26ウ
正鳥〔若狭佐古〕 化六29才	松江〔常陸〕 化九35才	章甫〔但馬七釜〕 化九20ウ	如岡〔三河新城〕 化二15才 化三29才
丈雲〔越後出雲崎〕 享一18ウ	丈江〔相模猿ヶ島〕 享一20才	松峰〔伊勢津〕 享三16才	如行〔近江薩摩〕 化三41ウ
松屋〔京〕 化二32才 化三1ウ	嘯谷〔時雨庵〕〔武蔵青梅〕 享二16ウ	松邦〔豊後日田〕 享一6才	如行〔因幡鹿野〕 化六10ウ
化三46才	化二13ウ	松茂↓昇魚〔越後〕	恕交〔肥前長崎〕 化四8ウ 化六3ウ
祥禾〔肥前長崎〕 寛十一21才 享一3ウ	蕭谷〔丹後弓木〕 化二29ウ 化三6才	松茂〔越前丸丘〕 寛十一15才	如蒿〔近江薩摩〕 化三41才
享三5ウ 化一20ウ 化二23才	丈砂〔伯耆福原〕 化六11ウ	松夢〔安房江見〕 化一8才	化十三40ウ
化三17才 化三17ウ 化六4才	松斎〔加賀金沢〕 享一11ウ 化一12才	松蘿〔安芸竹原〕 享一6ウ	如春〔肥後熊本〕 化九10ウ
化九4ウ 化十三8才	商齋〔加賀〕 化九40才	松蘿〔羅〕〔近江日野〕 享三17才	如松〔肥前長崎〕 化三16才 化四8ウ
松下〔近江西湖僧〕 化二4才	鐘山〔肥前島原〕 化三17才	化一4才 化二6ウ 化三41才	化四9才
松下〔長門赤間関〕 化三21ウ	松山〔遠江上庄内〕 化九32ウ	化四38才 化六29ウ 化九41ウ	叙人〔信濃飯田〕 化六22才
松花〔越中氷見〕 化四29才	常山〔陸奥八戸〕 享三14ウ	松羅〔近江旭里〕 寛十一16ウ	徐水〔陸奥伊達〕 化九35ウ
省我〔伊勢山田〕 化九31才	松子〔出雲神門知井宮〕 化三10才	松陵〔肥前長崎〕 化三17才	如翠〔甲斐〕 化十三34才
杖下〔京〕 化二32ウ 化三45ウ	正二〔相模猿ヶ島五柏園連〕 享一20才	松林〔下総左原〕 化十三35ウ	徐生〔越中魚津〕 化四31才 化六24ウ
松角〔肥後熊本〕 化三19ウ	化一8才 化二13才	升六〔大坂〕 化二1才 化二16ウ	化九39才
松輝〔加賀本吉〕 享二12ウ	松人〔大坂〕 化四22才	曙雲〔常陸〕 化三32ウ	如雪〔甲斐〕 化九34ウ
常戲〔美作高下〕 化三23ウ	松翠〔越中氷見鞍川〕 化四43才	徐英〔尾張〕 化九32才	

如雪〔因幡若桜〕 化十三24才
曙川〔筑前直方／小竹〕 化十三13ウ
化四12ウ 化六8才 化九13才
如泉〔越中富山〕 享一14才
汝川〔肥前神代〕 化六4ウ
如霜〔肥後熊本〕 化二24才
如竹〔越後高田〕 寛十一3ウ
如竹〔因幡岩井〕 享一23ウ 化二28才
化三6ウ
如竹〔出雲久村〕 化三11ウ
如竹↓蟻道〔三河新城〕
恕亭〔但馬船谷〕 享二5ウ
曙堂〔対馬〕 化四13ウ 化四14才
如白〔丹後岩屋〕 化二29ウ
如柏〔越中富山〕 化四28才 化九39ウ
如髪〔陸奥会津〕 化九36才 化十三36ウ
徐風〔肥後小島〕 化六6ウ
恕風〔肥後熊本〕 化三20才 化四4才
化四5才 化六5才 化九3才
化九10才 化十三6才
除風〔陸奥鰺ヶ沢〕 化三33才
如風〔京華頂僧〕 寛十一2才
寛十一30才
如風〔信濃善光寺〕 寛十一5才
如風〔伊賀上野〕 寛十一18才
如風〔近江湖東〕 化三41ウ
絮風〔筑前姪浜〕 寛十一23才
如芳〔越中氷見〕 化六26才
如璞〔筑前飯塚〕 享三3ウ
如毛〔信濃上田〕 化二11ウ

恕裕〔山城宇治〕 化一4才 化二30才
化三1ウ 化三43ウ 化四1才
徐来〔周防〕 享二22才
徐来〔伯耆日吉津〕 化三9才 化四18ウ
汝蘭〔信濃上穂〕 化一8ウ
如蘭〔越後荒井〕 寛十一3ウ 享一17ウ
享二15才 享二27才 享三12才
化一16ウ
如蘭〔因幡鳥取〕 化二27才
如蘭〔能登宇出津〕 化十三39才
如覧〔越中富山〕 化二9ウ
如六〔丹波〕 享一23才
如龍〔越中海老江〕 化四30才 化六25才
如流〔越中八尾〕 化四33ウ
史来〔陸奥津軽〕 享三15才
子来〔大和〕 享三7才
子来〔加賀栗崎〕 化四34ウ
泗来〔讃岐引田〕 化十三16ウ
時来〔越後熊塚〕 享一18才
自來〔浪花〕 寛十一19ウ 享一21ウ
子蘭〔越中滑川〕 享一14ウ 享二14ウ
芝蘭〔周防上関〕 享二4才
芝蘭〔摂津兵庫〕 化六18ウ 化九29ウ
士龍〔播磨室津〕 化一17ウ
似柳〔沓岐渡良〕 化二21ウ
二龍〔越中富山〕 化四28才
児龍〔安芸広島藩内甘露井連〕
化六14才
子良〔伊勢津〕 寛十一17才 寛十一18ウ
子諒〔近江森〕 化三42才

四老〔近江草津〕 寛十一16ウ 享一8ウ
枝露〔近江堅田〕 化二7才
晋阿〔淡路三津浦〕 化十三17ウ
尋河〔丹波大山〕 化四19ウ
昏涯〔但馬出石〕 化九19ウ
津画〔肥前諫早〕 化十三7才
真葛〔在京越中高岡／関野〕 化二33才
化三38ウ 化四28ウ
真貫〔甲斐〕 化十三34ウ
真菅〔京〕 化四2才 化四41ウ
化六3才 化六34才 化九1才
化九3才 化十三1ウ 化十三2ウ
化十三4才
真恒〔甲斐〕 化九34才
申斎↓五来〔近江大津〕
晋子 化四序1才
蜷州〔近江水口〕 化一4才 化二6ウ
化三41才 化四38才 化六29才
化九42ウ 化十三40才
振々〔越前丸丘〕 寛十一15才 化四35ウ
化四36ウ
壬辰〔肥後熊本〕 化四6ウ 化六5ウ
化十三6ウ
深水〔越中富山〕 化二35才
真澄 化十三36ウ
真洞〔甲斐浅原〕 寛十一7才
晨風〔越前丸丘〕 寛十一15才
新風〔伯耆寺内〕 化四18才
辰風〔筑前磯光〕 化十三11ウ
仁里〔豊後日田〕 享二21ウ

振鷺〔肥前島原〕 化十三7ウ
す
錐一〔越中富山〕 寛十一13才
睡雨〔伊勢津〕 享二23才
翠月〔伯耆所子〕 化三9才
翠梧〔播磨三木〕 化十三18才
推叩〔近江大津〕 享三20ウ
水砂〔相模萩野〕 化六20ウ
推已〔伊勢松坂〕 寛十一18ウ
瑞芝〔之〕〔筑前山鹿〕 享三3ウ
化三13才 化十三11才
翠実〔丹波〕 寛十一25ウ
翠箒〔京〕 化九1ウ 化十三1ウ
翠杖〔伯耆〕 化六12才
瑞水〔筑前飯塚〕 享三3ウ
随波〔近江日野〕 化六29ウ
瑞馬〔浪花〕 寛十一序一ウ 寛十一19才
醉夫〔京〕 化二2才 化二32ウ
化三45才
翠甫〔越後徳田〕 化四26才
随和〔常陸平カタ〕 化九34ウ
芻龍〔伊勢寺方〕 寛十一18ウ
寸草〔播磨姫路〕 享一24才 享三6ウ
寸草〔能登芹川〕 享二12才 享二27ウ
寸苗〔出雲大社〕 化四15才 化六12才
寸龍〔出雲大社〕 化六12才

せ

正阿〔肥前〕 化二23才 化四10才
 濟河〔加賀松任〕 享二14才
 清花〔信濃下和田〕 享二16ウ
 井霞〔丹後加悦〕 化九16ウ 化十三27才
 生雅〔相模〕 寛十一28ウ
 青峨〔京〕 享三2才 享三22ウ
 井角〔美作倉鋪〕 化一11才
 静菴〔甲斐〕 化九34ウ
 世器〔越中魚津〕 享一15ウ 化四32才
 青岐〔淡路〕 享三7ウ
 清月〔但馬網場村〕 寛十一20ウ
 享一23ウ
 青湖〔丹後宮津〕 化三5ウ 化十三27才
 声戸〔能登宇出津〕 化十三39才
 井齊〔越中氷見〕 化四28ウ
 青史〔阿波徳島〕 化二17ウ
 青枝〔備後福山〕 化三23才
 青芝〔大坂〕 化二16ウ
 青芝〔若狭向笠〕 化六29才
 青而〔丹波梶原〕 化九15ウ
 青条〔因幡鹿野〕 化六10ウ
 青城〔淡路〕 化九29ウ
 青城〔豊前山国〕 化十三10ウ
 清泉〔越後井ノ岡〕 享一18ウ
 青川〔伊勢雲出〕 享二23ウ
 青岨〔肥後熊本〕 化二24才
 清卒〔上野惣社〕 享三14才

井中館〔加賀金沢〕 化六27ウ
 倩貞〔越中魚津〕 享一15ウ
 世徳〔在信濃虫倉〕 享二17才 享三13才
 静巴〔肥後熊本〕 化二25才
 成坡〔丹後宮津〕 化九16才
 青馬〔丹後宮津〕 化三4ウ 化十三26ウ
 成美〔加賀在越中〕 化一16才 化二11才
 井美〔筑前博多〕 化三14ウ
 井眉〔大坂〕 化六15ウ
 晴晃〔但馬村岡／田中〕 寛十一20ウ
 享一23ウ 享二5才
 菁夫〔越中魚津〕 享一15才
 星譜〔大坂〕 化十三30才
 青楓〔近江大溝〕 化二3ウ 化三42ウ
 井甫〔肥前平戸〕 化一20ウ 化三15ウ
 化四10才
 青蒲〔上野大原〕 寛十一6ウ 享一7ウ
 享三13ウ 化一8才 化二12才
 清茂〔丹波中山〕 享三8才
 成雄〔京〕 化六3才
 晴嵐〔讃岐姫浜〕 化一18ウ
 晴嵐〔播磨鹿間〕 化二18ウ
 青柳〔若狭氣山〕 化四37ウ 化六29才
 青梁〔在坂薩摩〕 化六18ウ
 青鱗〔肥前平戸〕 化三16才
 是丸〔上野山之神〕 化二12才
 夕可〔京〕 享一25才
 錫我〔越中魚津〕 化四32才
 尺艾〔浪花〕 寛十一19才
 尺菊〔肥後〕 化十三6ウ

尺見〔加賀森下〕 化四43ウ
 尺樹〔下野栃木〕 寛十一7才
 石翠〔越後与板〕 享一19才
 夕水〔加賀金沢〕 化六27ウ
 石叢〔加賀金沢〕 享三8ウ
 石池〔筑前博多〕 化九13才
 石中庵↓一萍〔筑前直方〕
 石鼎〔肥前島原〕 化十三7ウ
 赤斧〔能登田鶴浜〕 化一13才
 赤鳳〔越中富山〕 化二35才
 碩茂〔能登宇出津〕 寛十一14才
 享一12才 享一12ウ 享二27才
 化六23才
 石毛〔播磨魚崎〕 化二18ウ 化三24才
 石哉〔京〕 化六33才
 碩遊〔伯耆三崎〕 化三8才 化四18才
 化六10ウ
 尺嵐〔肥後熊本〕 化三19ウ 化四5ウ
 石亮〔越中〕 化一15才
 石鹿〔近江大津〕 化九2才 化九42ウ
 化十三41才
 節雨〔安芸南方〕 享一7才
 雪橋〔加賀金沢〕 化四34才
 雪橋〔大隅〕 化十三12才 化十三12ウ
 石溪〔越前〕 化一9ウ 化二10ウ
 雪兄〔安房磯村〕 化三32才
 雪江〔河内〕 寛十一19才
 雪江〔陸奥津軽〕 化三36才
 雪貢〔加賀金沢〕 享一11才 化十三39ウ
 雪香〔肥前諫早〕 享一5ウ 享三4ウ

雪沙〔尾張名古屋〕 化二14ウ
 雪才〔武蔵青梅〕 寛十一6才
 節之〔肆〕〔若狭生倉〕 化二7ウ
 化三40ウ 化四37ウ 化六29才
 雪枝〔肥後熊本〕 化九10ウ
 雪川〔武蔵青梅〕 寛十一6才
 雪泉〔肥後八代〕 化九9ウ
 雪窓〔伯耆日原〕 化六11ウ
 雪頂〔筑前甘木〕 化六8才
 雪弟〔安房磯村〕 化三32才
 雪洞〔山城宇治〕 化二30才
 荃来〔丹波上林〕 化九15才
 千阿房〔坊〕〔美濃〕 寛十一24才
 享二16才
 千阿〔京〕 享一2ウ 化六1ウ
 千影〔近江三井寺〕 享三20才
 化一4ウ 化二6ウ 化三43ウ
 化四39才 化六31才 化九41ウ
 千瓜〔能登武部〕 寛十一14才
 川画〔相模五柏園連〕 化一7ウ
 川雅〔相模〕 寛十一28ウ
 宣雅〔京〕 化三1ウ
 仙艾〔阿波徳島〕 化二17ウ
 千崖〔京〕 化二34才 化三46ウ
 化四1ウ 化四45才 化六17ウ
 化六34才 化九6才 化九20ウ
 化九23才 化九44ウ 化十三2才
 化十三5才 化十三18才
 化十三34才 化十三42ウ
 化十三43才

千家〔伯耆米子〕 化三9ウ
 仙景〔近江舟木〕 化六30才
 浅掲〔因幡若桜〕 化九23才 化十三24才
 浅見〔肥前〕 化二23才
 泉古〔越後増田〕 享一18才
 羨乎〔筑後志津里／久留米〕 享二20ウ
 享三3才 化二20ウ 化三15ウ
 千好〔若狭遠敷高塚村〕 享三16ウ
 化一11才 化二7才 化三40ウ
 化六28ウ
 千甲〔肥後〕 化四6才 化十三6ウ
 宣谷〔丹後宮津〕 化三4ウ
 泉左〔筑前竹丸〕 化三14ウ 化六8才
 化九12ウ
 先之〔近江堅田〕 享一9才
 僊芝〔京〕 化六33才 化九3ウ
 洗耳〔越中〕 享一13才
 洗耳〔讃岐仁尾〕 化三27才
 仙耳〔出羽〕 化九37才
 扇暑〔浪花〕 化九30才
 仙丈〔信濃片倉〕 寛十一5ウ
 線水〔相模五柏園連〕 化一7ウ
 浅生〔浪花〕 享一22才
 仙草〔越前角鹿・敦賀〕 化一11才
 化二7ウ
 仙草〔若狭敦賀〕 化三40ウ
 専和〔肥後川尻〕 化四7才
 千波〔肥前諫早〕 化一20才
 川布〔遠江久喜賀浦〕 享二3ウ
 川布〔備中倉敷〕 享三6才

仙斧〔肥後熊本〕 化四6才 化六5ウ
 化九10才 化十三6才
 川風〔武蔵〕 享三14才
 扇風〔出雲大社〕 化三9ウ 化四15才
 化十三20ウ
 仙風〔出羽森岡〕 化六2才 化六23ウ
 千明〔風羅堂〕〔播磨〕 化二2ウ
 化二18ウ
 千来〔肥前諫早〕 化一19ウ
 仙李〔筑後志津里〕 享二20才
 仙李〔近江八幡〕 化九41才
 仙梨〔長門赤間関〕 寛十一24ウ
 化二19ウ 化三21ウ
 千里〔越中氷見〕 化六26才
 泉立〔京〕 享二25ウ 化三2ウ
 化三45才
 扇立〔上野松井田〕 化九35才
 扇柳〔出羽〕 化九37ウ
 扇流〔因幡鳥取〕 化十三21ウ
 泉柳〔京〕 化十三41ウ
 素羽〔加賀金沢暮柳舎連〕 享三8ウ
 化一12ウ 化二8才 化三39ウ
 化六28才
 叢〔信濃善光寺〕 化十三45才
 草隠〔備後田房〕 化一17ウ
 桑雨〔豊前小倉〕 化三12ウ
 走鳥〔肥前諫早〕 化十三7才

双鳥〔筑後久留米／志津里〕 享二3ウ
 享二20ウ 享三3才 化二20ウ
 化三15才
 霜屋〔加賀金沢〕 化二8才 化三39ウ
 巢化〔豊後杵築〕 化十三45才
 宗賀〔京〕 化四41ウ
 桑我〔肥前諫早〕 化十三7才
 蒼虬〔京〕 寛十一序1ウ 寛十一1才
 享一序1才 享一1才 享一16ウ
 享一19ウ 享一25ウ 享二1才
 享二5ウ 享二7ウ 享二19才
 享二28才 享二28ウ 享三1才
 享三23才 化一1才 化一14才
 化一23ウ 化二序1才 化二1才
 化二34ウ 化三1才 化三47才
 化四序1ウ 化四1才 化四17才
 化四41ウ 化六序1ウ 化六1才
 化六34ウ 化九1才 化九3才
 化九5ウ 化九16ウ 化九20ウ
 化九33才 化九44ウ 化十三序1ウ
 化十三1才 化十三2ウ
 化十三25ウ 化十三33ウ
 化十三43才
 桑居〔京〕 化十三42才
 蒼玉〔加賀高松〕 寛十一11才
 草均〔加賀金沢〕 享二13才
 倉経〔伊賀名張〕 享二9才
 搜古〔丹後宮津〕 化三5ウ
 双梧〔丹後宮津〕 化九16才
 草稿〔丹後田辺〕 化三6ウ

蒼芝〔加賀金沢〕 享三10ウ
 宗樹〔京〕 化六34才
 宋真〔因幡鳥取〕 化十三21ウ
 草翠〔安芸〕 化九26ウ
 蒼翠〔肥前島原〕 化十三7ウ
 漱石〔丹後石川〕 化三6ウ
 漱石〔肥後佐敷〕 化九11ウ 化十三5ウ
 霜操〔讃岐観音寺／姫浜〕 化六17才
 化九29才
 双蛇〔安芸広島〕 化六15才 化九25ウ
 化九27ウ
 霜苔〔越中富山〕 化十三38ウ
 草台〔伯耆米子〕 化十三20ウ
 草虫〔京〕 享二1才
 宗徳〔讃岐仁尾〕 寛十一25ウ 化二35ウ
 化三26ウ 化四22ウ 化六18才
 化十三16才
 双南〔京〕 寛十一1ウ 寛十一30ウ
 享一2才 享一25才 享二1ウ
 享二18才 享三21ウ 化一22ウ
 化九4才 化九44才 化十三1ウ
 化十三3ウ 化十三41ウ
 双眉〔越後柏崎〕 化九37ウ
 双芙〔豊後日田〕 化九14ウ
 双鳧〔丹波成松〕 享二7才
 草斧〔肥後小島〕 化四5才 化六6才
 草風〔越中放生津〕 化四30才 化九39ウ
 争茂〔信濃上田〕 享三12ウ
 草夢〔筑後久留米〕 化九13ウ
 宋也〔京〕 化一2才 化一23才
 化四41ウ 化六2ウ 化六33ウ

ぞう〜たい

蔵六〔備後尾道〕 化十三19ウ
草龍〔信濃諏訪〕 享十三3ウ
宋和〔京〕 享一2才 享一24ウ
楚雲〔備後み調〕 寛十一23ウ
素英〔阿波徳島〕 化二17ウ
素英〔常陸平カタ〕 化九34ウ
素艶〔近江日野〕 享一9ウ 享三17才
化一4才
楚涯〔肥前平戸〕 化二23才
楚艾〔肥前諫早〕 享一5才 享三5才
素艾〔丹後石川〕 化二29才
素鶴〔大坂〕 化二15ウ
素鶴〔備後三原〕 化十三19ウ
素岳〔近江長浜〕 化九41ウ
素頑〔京〕 化一23ウ 化二34才
化六34才 化九44ウ
素雁〔近江万木〕 化三42才 化四39才
素玩〔江戸〕 化十三35才
楚崎〔加賀〕 寛十一9才
素橋〔伊予今治〕 化十三15ウ
素曉〔肥後熊本〕 化九11才
素琴〔越後水尾〕 化四26ウ
速雄〔安芸〕 化九28才
素溪〔越中富山〕 化二9ウ
素兮〔越中井波〕 化四42才
素月〔安房磯村〕 化三31ウ
素更〔越前丸岡〕 享二10ウ 享二11ウ
化一9ウ 化一11才 化四35ウ
化四36ウ 化六28ウ
素后〔加賀〕 寛十一12才

素蛤〔但馬八鹿〕 享二5才
素光〔豊後日田〕 化四13ウ
素耕〔近江田井〕 化九42才
楚江〔越中高岡〕 寛十一12ウ
楚嵩〔伯耆倉吉連〕 化三8ウ
鼠紅〔筑前博多〕 享一5ウ
素士〔筑前博多〕 化六7才
楚室〔上野大原〕 寛十一6ウ
楚雀〔近江舟木〕 享二9ウ
蘇十〔肥前長崎〕 化二22ウ 化三17ウ
化三18ウ
祖淳〔大阪〕 享二2ウ
素純〔陸奥津軽／弘前〕 化三33才
化三35ウ
素章〔京〕 化十三4ウ
素人〔肥前長崎〕 寛十一21才 享一3才
素人〔近江舟木〕 享三序1ウ 享三17ウ
享三20才 化一6才 化二4ウ
化二5ウ 化三41ウ 化六1才
素石〔肥後熊本〕 化二25才
素僊〔越中富山〕 化四27ウ
素川〔肥後八代〕 化九9ウ
素大〔出羽秋田〕 寛十一23ウ
素竹〔丹後岩屋〕 化二29才
粗長〔陸奥〕 化九36才
素笛〔近江舟木〕 享三19ウ
曾登〔相模藤沢駅〕 寛十一29ウ
享一20才
素童〔京〕 化九2才 化十三3才
鼠梅〔京〕 化二2才 化二31ウ

素帆〔若狭小川浦〕 化六29才
祖風〔越中富山〕 化三38才
素甫〔越中富山〕 化四28才
素眠〔近江大溝〕 化十三41才
蘇明〔播磨魚崎〕 化二18才 化三24才
化四17ウ 化六13才
岨邑〔肥後熊本〕 化二24ウ 化三19ウ
化四5ウ
素友〔加賀〕 寛十一8ウ 寛十一12ウ
素遊〔肥前大村〕 化二22才
曾由〔越中堀岡〕 化四30才
曾融〔越中堀岡〕 化六25才
素六〔越中富山〕 化二9才
素立〔飛騨八賀〕 化三36ウ
素律〔近江彦根〕 化十三40才
楚流〔安房磯村〕 化二13才 化三31ウ
化四11才
祖流〔伊賀神戸〕 寛十一18ウ
素柳〔丹後岩屋〕 化三6ウ
素隆〔伊勢神戸〕 化四23才
祖柳〔越中八尾〕 化四33才
素涼〔越前〕 化一10才 化二11才
素涼〔陸奥津軽〕 化三36才
素良〔備後三原〕 化三23ウ
素鱗〔丹後宮津〕 化三5ウ
素林〔京〕 化四2ウ
素朗〔加賀金沢槐庵連〕 化一12ウ
素朗〔伊予今治〕 化十三15ウ
齟老〔近江日野〕 化一4才
村之〔因幡鳥取〕 化九20ウ 化九21ウ

化十三23ウ
巽明〔越後五智〕 享一17才
樽雄〔大坂〕 化十三30ウ
た
岱雨〔備後福山〕 化六13ウ
泰峨〔山城宇治〕 化一3ウ 化二30才
化三43ウ 化四44ウ
大峨〔肥前長崎〕 化二23才 化三17ウ
化三18ウ
内海〔讃岐小豆島〕 化六17才
内海〔葉朝〕〔越中高岡〕 化三38ウ
化四28ウ 化九39才
大壺〔因幡岩井／鳥取〕 化三7ウ
化九22ウ
太皐〔肥前平戸〕 化三16才
大琺〔越後長岡〕 化一17才
対山〔加賀金沢〕 寛十一9才 享一11才
黛山〔丹波野村〕 享二6ウ
泰山〔因幡岩井〕 化三7才
太史〔越後長岡〕 享二15ウ
大耳〔因幡鳥取〕 化二27才
台秋〔丹波笹山〕 化九15才
大蘇〔尾張名古屋安井〕 化二14才
化四23ウ 化四24才
大素〔因幡岩井〕 化三7ウ
大啄〔因幡鳥取〕 享三8ウ 化一11ウ
化二27ウ
岱鳥〔肥前大村〕 化二22才

大調〔因幡岩井〕 化三7才
 岱美〔京〕 化十三42才
 大眉〔伯耆米子〕 化十三21才
 大蕪〔因幡鳥取／岩井〕 享三8才
 化二27ウ 化三8才 化六10ウ
 化六35ウ 化九22ウ
 大方〔因幡鳥取〕 化十三22才
 太〔大〕翼〔越中魚津〕 寛十一12ウ
 享一16才 享二15才 享三11ウ
 化一15ウ 化三38ウ 化四31才
 化九39才
 岱李〔京〕 享二1才 享二27ウ
 享三1ウ 享三21才 化一2才
 化一23ウ 化二2ウ 化二33ウ
 化三1才 化三46ウ 化四1ウ
 化四41才 化六2ウ 化六33ウ
 化九1才 化九3ウ 化九43ウ
 化十三1ウ 化十三3才
 化十三4才
 大梁〔下総結城〕 化十三35ウ
 太呂〔越中富山〕 化二34ウ
 岱呂〔三河岡崎〕 享三15ウ
 岱呂〔甲斐〕 化十三34ウ
 大魯〔大阪〕 享二2ウ
 大麓〔淡路湊〕 化十三17ウ
 駝岳〔浪花〕 享一2ウ 享一22ウ
 たき女〔筑前直方〕 化三14才
 沢雲〔越前僧〕 寛十一16才
 卓丈〔加賀金沢〕 享三9才
 沢雉〔陸奥伊達〕 享二26ウ

卓堂〔陸奥南部山田〕 化十三37才
 竹彦〔京〕 化十三3ウ
 竹麿〔肥前〕 化三19才
 竹麿〔因幡鳥取〕 化九22才
 朶水〔陸奥八戸〕 享三14ウ
 他石〔加賀金沢〕 享二13ウ 化二8ウ
 多陀寸〔尾張琵琶島〕 化十三33ウ
 たみ〔安芸竹原〕 化六15才
 多実〔丹波上林〕 化十三27ウ
 打羊〔越後与板〕 享一19ウ
 兌籟〔因幡鳥取〕 化九22才 化十三23ウ
 化十三43才
 他力〔伊勢津〕 化四23ウ
 単鶴〔伊賀上野〕 寛十一18才 享一21ウ
 享二8ウ
 潭月〔肥後熊本〕 享二17才 化九10才
 化十三6才
 丹志〔筑前新延〕 化二21才 化六8才
 丹扈〔伊予三島〕 化三26ウ
 湛水〔越後〕 享二16才
 丹泉〔肥後熊本〕 化二23ウ 化四7才
 探泉〔越後小国〕 化三37才
 丹柱〔越前丸岡〕 享二10ウ 享二11才
 化一9ウ 化一10ウ
 丹頂〔大坂〕 化六18ウ 化九30才
 丹房〔越中〕 享一14才

ち

遅逸〔能登川尻〕 寛十一13ウ
 千賀雄〔白鷗居〕〔近江新庄／在津輕〕
 化二序1ウ 化二1才 化二4ウ
 化三33才 化三35ウ
 竹葦〔讃岐目貫〕 化二25ウ
 竹宇〔大坂〕 化二16才
 竹鶯〔播磨姫路〕 化二18才
 竹奥〔伊勢津〕 享三16才
 竹下〔京〕 寛十一29ウ
 竹雅〔越中魚津〕 化四32才
 竹壺〔肥後八代〕 化九9才
 竹姿〔能登宇出津〕 寛十一14才
 享一12才 享一12ウ
 竹至〔伊勢津〕 化四23ウ
 竹二〔上野藤岡〕 享三14才
 竹室〔因幡鳥取〕 化十三22才
 竹寿伊〔加賀金沢〕 化六27才
 竹人〔肥前〕 化三18ウ
 竹有〔尾張名古屋〕 享一21才 化二15才
 竹有 享二1才
 竹里〔常陸〕 化三32ウ
 竹良〔越後高田〕 享一17才
 竹老〔越中氷見〕 化六26才
 池月〔出雲稗原〕 化三12才 化四16才
 雉郷〔安芸広島〕 化六15才
 遅春〔摂津池田〕 寛十一20才 享一22ウ
 化二16ウ 化四20ウ

知井〔肥前諫早〕 享三4ウ
 知石〔近江太田〕 寛十一16才 享一8ウ
 享二9ウ
 知碩〔越中魚津〕 享一15ウ
 知夕〔越後与板〕 享一19才
 知足〔信濃南原〕 化一8ウ 化四25ウ
 知大〔京〕 化三45ウ 化四41ウ
 遅竹〔浪花〕 享一22才
 茶隠〔備後三原〕 化十三19ウ
 茶筵〔三河吉田〕 化九32ウ
 茶夕〔肥後〕 化四6才
 知友〔肥前長崎〕 寛十一21才
 仲麟〔伯耆三崎〕 化四18才
 樗陰〔加賀〕 寛十一8ウ 寛十一9才
 享一12才
 長庵〔大隅加治木〕 化九12才
 化十三12ウ
 朝雨〔越後山谷〕 享三12才
 彫雲〔備後福山〕 化三23才
 朝可〔筑前博多〕 化二21才 化三14ウ
 潮花〔丹後宮津〕 化九16才
 長賀〔上野磯部〕 化九35ウ
 釣淇〔但馬豊岡〕 化一11ウ
 鳥休〔越中富山〕 化六26ウ
 鳥紅〔越中魚津〕 化四31ウ
 腸谷〔下総結城〕 化六21ウ
 朝左〔信濃坂本〕 寛十一5ウ 享一8才
 享二25ウ
 長斎〔浪花〕 寛十一19ウ 享二19ウ
 化一3才

ちょ〜とぅ

寵山〔近江野田〕 化一5才 化三42才

化四38ウ 化六30才 化九42ウ

朝四〔肥後菊池／熊本〕 享二21ウ

化一20ウ 化二24才 化九10ウ

徽州〔伯耆大谷〕 化四17ウ 化六11才

化九24才

鳥隼〔越中魚津〕 化四31ウ

長昌〔出羽〕 化九36ウ

朝人〔丹波〕 享一23才

鳥翠〔伊勢大塚〕 寛十一17才

寛十一19才

澄水〔出雲上古志〕 化三10ウ 化四16才

蝶睡〔能登輪島〕 化九40ウ

朝水〔伊勢稻生〕 化十三32才

潮水〔甲斐〕 化十三34才

潮翠〔出羽米沢〕 化十三37才

鳥石〔陸奥安達〕 化二12ウ 化三36才

鳥茂〔越後長岡〕 享一20才

鳥幽〔京〕 享二2才 享二2ウ

化一22才

重陽〔尾張布袋〕 化十三33才

直人〔越前〕 化一10才

儲史〔飛騨高山〕 化四26才 化六2ウ

化六22ウ 化九3ウ 化十三38才

溜水〔出雲古志〕 化三11才

樗南〔肥前長崎〕 享一3才

樗風〔相模五柏園連〕 化一7才

千代道〔京〕 享二1ウ 享三2ウ

化一2才 化一22才 化二31ウ

化三2ウ 化三45ウ 化四2ウ

化四40ウ 化六3才 化六32才

化九44才

猪来〔伊賀上野〕 化三29才 化四18ウ

化六19才

椿口〔筑前〕 化四12ウ

椿斎〔越中富山〕 化六26ウ 化九39ウ

椿堂〔伊勢山田〕 化九31才

枕流〔丹後石川〕 化二29才

椿笠〔肥後佐敷〕 化九11ウ

つ

椎己〔伊勢松坂〕 享二23ウ

月丸〔因幡鳥取〕 化十三22才

つる女〔日向美々津〕 化九12才

化十三14ウ

て

汀雨〔肥後佐敷〕 化九12才 化十三5ウ

貞雅〔南山城高木〕 化一3ウ

定雅〔武蔵二合半〕 享一20ウ

丁江〔大坂〕 化二16才

貞志〔越中魚津〕 化四31ウ

鼎二〔丹後岩滝〕 化三6才

鼎々〔越中〕 化一15才

汀波〔若狭谷田部〕 寛十一26才

享一9ウ

汀波〔丹波〕 化六8ウ

庭白〔備後福山〕 寛十一23ウ

停立〔尾張布袋〕 化十三33才

笛賀〔丹後宮津〕 化三5才

イ松〔伊勢津〕 享二23才 享三16才

化三28ウ

笛人〔伊賀上野〕 化九31ウ

鉄舟〔筑後恵和村〕 化三15才

哲水〔越前〕 化四36才 化四37才

田禾〔安芸／京〕 寛十一28才 享二19才

享二23ウ 享二28才 享二28ウ

享三1才 享三17ウ 享三22ウ

化一13ウ 化一23ウ 化二2ウ

化二4ウ 化二34ウ

天外〔肥前長崎〕 化三17ウ 化三18ウ

化六3ウ 化九4ウ

田鶴守〔甲斐小原〕 化六21ウ

天桂〔丹後石川〕 化二29才

田胡〔越中富山〕 化四27ウ

天山〔肥後熊本〕 化一21才

田日〔播磨鹿間〕 化二18ウ

田日〔大坂鰯松〕 化四22才

田実〔播磨鹿間〕 化六13才 化九29ウ

沾宵〔伯耆〕 化二28ウ

沾雪〔応響舎〕〔伯耆大谷〕 化四序1ウ

沾草〔伯耆佐田〕 化六11ウ

沾萩〔伯耆久古〕 化四18才 化六11才

田美〔近江音羽〕 享三20才 化一5才

化二4才 化三42才 化九1才

化九41ウ 化十三41才

天籟〔在京筑後〕 化二33ウ 化三47才

天籟〔大坂〕 化十三30才

沾浪〔伯耆川崎〕 化六11才 化九24ウ

と

杜庵〔備後三原〕 化三23ウ

斗一〔越中富山〕 享一14ウ 化一15才

桃阿〔安房〕 化四25才

東阿弥〔浪花〕 享三21才 化二16才

桃宇〔長門赤間関〕 化三21ウ

東英〔映〕〔越中富山〕 化一15才

化二9才 化四27才

稲測〔近江鴨〕 化一5ウ 化六30ウ

化九41ウ

桃塙〔越中魚津〕 化四32ウ

桃屋〔越中魚津〕 享二15才 享三12才

稻花〔信濃諏訪〕 享一8才

桃下〔播磨明石〕 享三6ウ 化一17才

化二18才

桃化〔加賀〕 寛十一8才 寛十一9才

寛十一10才 享一11ウ

東花〔越中八尾〕 化四33ウ 化六26才

桃窠〔京〕 化十三42才

島芽〔讃岐小豆島〕 化六17ウ

桃涯〔因幡若桜〕 化十三24才

東閣〔尾張〕 化九32才

桃丘〔因幡鳥取〕 化一11ウ 化二27才

灯居〔下野栃木〕 寛十一6ウ

東居〔安房〕 化四25才

桐居〔三河〕 化六20ウ

陶居〔京〕 化十三1ウ 化十三42才
 藤曲〔筑前直方〕 化三13ウ
 投巾〔筑前〕 化四12ウ
 桐君〔丹後宮津〕 化三4ウ
 桃溪〔越中眼日山僧〕 享二14ウ
 桃扇〔肥前諫早〕 享三4ウ
 東敬〔越中魚津〕 化四31才
 桐圭〔安芸広島藩内甘露井連〕
 化六14才
 桃蹊〔美作江見〕 化十三24ウ
 桃月〔丹後田辺〕 化十三26才
 頭言〔尾張布袋〕 化十三33才
 冬曠〔出雲母里〕 化九24ウ
 棹江〔加賀金沢〕 享二12ウ 化一12才
 化三39才 化九40才
 桃江〔京〕 化三45才 化六32才
 東臯〔越中魚津〕 寛十一13才 享一16才
 東郊〔加賀松任〕 享二14才
 陶三〔翠美斎〕〔丹波大山〕 享二5ウ
 塘芝〔加賀松任〕 享二14才
 桃止〔越後与板〕 享一19才
 東子〔京〕 化三46才
 東指〔対馬〕 化四14才
 桃之〔越後大崎〕 化四26ウ
 桃之〔丹後田辺〕 化十三26才
 冬日〔大隅〕 化十三12ウ
 桃十〔丹後宮津〕 化三6才
 棠丈〔筑前〕 化四12才
 冬色〔大坂尼〕 化十三30ウ
 桃人〔肥前諫早〕 化九8ウ

桃醉〔近江堅田浮御堂〕 寛十一27ウ
 享一1ウ 享一9ウ
 洞水〔加賀金沢〕 享二13ウ
 東翠〔備後尾道〕 化十三19ウ
 桐栖〔摂津兵庫〕 享三7才 化一3ウ
 掉雪〔京〕 寛十一2ウ
 桃切〔能登宇出津〕 化十三39才
 桐川〔近江舟木〕 享三18才 享三19ウ
 化一6才 化二5ウ
 桃仙〔肥前島原土黒〕 寛十一22才
 享一4才 享二21才 化一19ウ
 桃仙〔陸奥津軽弘前〕 化一8ウ
 化三32ウ 化六23ウ
 冬扇〔肥後〕 化四5ウ
 桃零〔筑前直方〕 化三13ウ 化四2才
 化九12ウ
 桃台〔越中小林〕 化二10ウ
 冬柱〔淡路松帆〕 化十三17才
 東亭〔丹波大山篠山城西〕 享二5ウ
 化四20ウ
 東貞〔播磨明石〕 享一24才 享三6ウ
 洞々〔越前丸丘〕 寛十一15ウ
 洞々〔丹波梶原〕 寛十一25ウ 享二7才
 東洞〔相模荻野〕 化三29ウ 化四24ウ
 化六21才
 桃堂〔淡路江井〕 化十三17才
 稲巴〔越中富山〕 化二9才
 冬梅〔伊勢神戸〕 化九30ウ
 東眉〔丹波大山篠山城西〕 化四20才
 化九14ウ 化十三28才

桃夫〔越中八尾〕 化四33ウ
 桐屏〔三河和泉〕 化六20才
 桃甫〔備後田房〕 化二19才 化三23ウ
 化六13ウ 化九28ウ 化十三19ウ
 桐甫〔信濃飯田〕 化六22ウ
 東圃〔但馬芝〕 化九20才
 東畝〔越中魚津〕 化十三38ウ
 桃卜〔但馬七釜〕 化九20ウ
 桐卜〔越中富山〕 化二35才
 涛明〔肥前佐賀〕 享一4才
 東門〔浪花〕 享一22才
 東也〔丹後石川〕 化二28ウ
 桃葉〔下野栃木〕 寛十一6ウ
 桃葉〔大坂堂島女〕 化四21才
 東陽〔尾張〕 化四24才
 東陽〔京〕 化九2ウ
 冬蘿〔羅〕〔長門下関／赤間関〕
 享二4ウ 化一18才 化二19ウ
 化三20ウ 化四14ウ 化九25才
 東籬〔伊勢神戸〕 享一21才
 東籬〔陸奥一ノ関〕 享三15才
 桃里〔讃岐姫浜〕 寛十一25ウ 享二5才
 享三7ウ 化一18ウ 化二17才
 化六15ウ 化九29才
 洞李〔越中富山〕 化二34ウ
 桃李〔京〕 化三3才 化三46ウ
 登鯉〔薩摩都城〕 化三20ウ
 東里〔伊予川ノ江〕 化四22才
 東流〔陸奥安達〕 化二12ウ

稲梁〔加賀栗崎〕 化三40才 化四34ウ
 東嶺〔丹後宮津〕 化十三27才
 桃林〔若狭相田〕 化二7ウ
 桃林〔加賀鶴来〕 化六28才 化九40才
 桃林〔伊勢山田〕 化九31才
 東廬〔出雲上古志〕 化二26ウ 化三10ウ
 化四15ウ
 吐雲〔阿波〕 化三27ウ
 吐雲〔大坂〕 化十三30ウ
 都〔兔〕園〔加賀高松／本吉〕
 享一10才 享二12ウ 享三10才
 化二8ウ
 杜屋〔伊勢〕 享二23ウ
 亨〔とほる〕〔京〕 寛十一1才
 寛十一30ウ 享一1ウ 享一25ウ
 享三22才 化一21ウ 化二32才
 亨〔越中魚津〕 化十三38ウ
 兎角〔京〕 化三46才
 兎丸〔対馬〕 化四14才
 ととき〔播磨鹿間女〕 化二18ウ
 斗牛〔肥後天草才津〕 化四7ウ
 土虬〔上野惣社〕 享三14才
 兎郷〔丹後宮津〕 化三6才
 都橋〔伊予今治〕 化十三16才
 兎曉〔筑前秋月〕 化四44才
 得禾〔丹波〕 享一23才
 斗九賀〔斗久我／斗九我〕〔京〕
 寛十一1才 寛十一30才
 享三21ウ 化一22ウ 化九2ウ
 徳水〔美作倉敷〕 化十三25才

どく〜なん

独醒〔美作江見〕 化十三24ウ
 徳々〔京〕 化一22ウ
 徳野〔京〕 享二18才 化一22ウ
 独楽僧〔若狭向笠〕 享一10才
 徳隣〔肥前長崎〕 化六3ウ
 篤老〔安芸広島〕 化六15才 化九25才
 化九45ウ 化十三20才
 吐月〔但馬網場村〕 寛十一20ウ
 享一23ウ 享二5才
 杜月〔加賀金沢〕 享三9ウ
 兎原〔丹波大山〕 化四19ウ
 戸口〔南山城朝暮庵連〕 寛十一26ウ
 杜臯〔越後与板〕 享一18ウ
 斗口〔伊勢白子鼓ヶ浦〕 化九31ウ
 化十三32才
 杜高〔丹波大山〕 化九14ウ 化十三28ウ
 化十三29才
 杜谷〔上野吾妻横尾〕 寛十一6ウ
 とさを〔越後高田〕 享一17才
 兎三〔加賀金沢〕 寛十一12才 享一11才
 登山〔浪花〕 化九30ウ
 都山〔越中〕 化一14ウ
 都史〔越中富山〕 寛十一13才
 土芝〔備後三原〕 化一17ウ
 としを〔俊雄〕〔越中富山〕 化一14才
 化一14ウ 化二9ウ
 敏彦〔安芸広島〕 化六15才
 杜若〔出雲古志町〕 化二26ウ 化三11才
 化四16才
 都雀〔京〕 寛十一2才

渡舟〔出雲古志〕 化三11才
 吐洲〔豊後臼杵〕 化九14ウ
 杜秀〔越中井波〕 化四42才
 都水〔近江八幡〕 享三17才
 都水〔出雲稗原〕 化三12才 化四16才
 都翠〔対馬〕 化四14才
 吐成〔京〕 化一22才 化三46才
 兎夕〔相模五柏園連〕 化一7ウ
 斗雪〔京〕 寛十一2ウ 享二17ウ
 化一2才 化二2才 化二31才
 化三2ウ 化三44ウ 化四3才
 化四39ウ 化六1ウ 化六31ウ
 化九4才
 吐屑〔豊前中津〕 化十三10ウ
 都川〔越中富山〕 化二35才
 兎扇〔日向網島〕 化十三15才
 杜走〔越後高田〕 化一16ウ
 都巽〔肥前諫早〕 寛十一21ウ
 訥斉〔越中井波〕 化四42才
 凸山〔加賀〕 寛十一8才
 独歩〔近江森〕 化二4才
 杜堂〔尾張名古屋〕 化十三32ウ
 関南〔相模〕 寛十一28ウ
 斗入〔京〕 寛十一31ウ 享一1才
 兎文〔加賀金沢〕 享二27才 享三8ウ
 化四34才 化六27才 化九40才
 杜圃〔越中戸出〕 化四43才
 と美〔大坂女〕 化四21ウ
 土也〔大和五条〕 化一3ウ
 都遊〔越後高田〕 化九38才

兎遊〔因幡若桜女〕 化十三24才
 度来〔越中富山〕 享一14才
 土卵〔京〕 寛十一31才 享一24ウ
 享三23才
 都立〔越中観雅堂〕 化四33才
 吐龍〔肥前土黒〕 寛十一22ウ 享二21才
 吐龍〔越中富山〕 享一14才
 登龍〔肥前長崎〕 化三17才
 渡〔度〕柳〔越前丸岡〕 寛十一15ウ
 享二10才 享二11才 化一9ウ
 化一10ウ
 杜蓼〔京〕 化十三2ウ 化十三4ウ
 化十三5才 化十三42ウ
 杜陵〔肥前長崎〕 寛十一21ウ 享一3才
 杜陵〔備後福山〕 享三6才
 杜陵〔近江大津〕 享三20ウ
 都良〔越後与板〕 享一18ウ
 度了〔越中魚津〕 化四32ウ
 杜隣〔京〕 寛十一1ウ 寛十一30ウ
 とろ庵 化四序1才
 鈍車〔加賀金沢〕 化六27才
 吞曇〔丹波須知〕 化十三28才
 吞鳥〔陸奥津軽〕 化三36才
 吞波〔相模〕 寛十一29才
 吞馬〔陸奥〕 化九36才
 吞龍〔近江和尔〕 化九41ウ

な

ななくに〔越後今町〕 化三37才

何丸〔信濃吉田〕 化十三38才
 奈良布〔丹波成松〕 享二7才
 南栄〔京〕 寛十一2才
 南花〔但馬出石〕 化九19才
 南霞〔周防上関〕 化十三12才
 南柯 化十三45才
 南岳〔京〕 化二32ウ 化三45ウ
 南岳〔伯耆米子〕 化十三21才
 南宮〔陸奥仙台〕 化十三36ウ
 南交〔越中滑川〕 化二10ウ
 南交〔筑前直方〕 化三13ウ
 南江〔伊勢山田〕 享三16ウ
 南岡〔淡路〕 化九29ウ
 南枝〔越中氷見〕 化四29才
 南士〔越中氷見〕 化六25才
 南之〔讃岐宇辰〕 化十三16才
 南樹〔丹波氷上〕 化十三29才
 南礎〔筑前博多〕 化十三11才
 南美〔豊後日田〕 享二4才 化一19才
 化二20才 化九14才
 南謨〔相模五柏園連釈〕 寛十一28ウ
 寛十一29才 化一7才 化二13才
 南溟〔豊後臼杵〕 化九14ウ 化十三10才
 南溟〔因幡鳥取〕 化十三21ウ
 化十三22ウ
 南梁〔肥後八代〕 化九9才
 南嶺〔因幡〕 化十三22ウ
 南路〔備後尾道〕 化十三19ウ

に

鳩人〔近江舟木〕 化一6才 化三47才

化六30才

如是〔越中富山〕 化四27ウ

女仏〔越中氷見〕 化四29才 化六25才

忍雪〔近江辻村〕 化十三40ウ

任風〔筑前博多〕 享一5ウ

ぬ

ぬい〔肥前諫早〕 享一5才

ね

年緒〔三京〕〔加賀金沢／高松〕

寛十一10ウ 享三9才 化二8才

化三39ウ 化四34才 化六27才

化九40才 化十三39ウ

年風〔加賀金沢〕 化四43ウ

の

能岳〔摂津伊丹〕 化四22才

能守〔京〕 化九43才

のぶ〔越中魚津女〕 享一15才

化四32ウ

のぼる〔京〕 享三3才 享三22ウ

のぼる〔越後山谷〕 化九38才

は

梅隠〔薩摩鹿児島〕 化十三15才

梅園〔近江坂田〕 化十三40ウ

梅翁〔近江平塚〕 化十三40ウ

梅下〔越中富山〕 化四28才

梅價〔京〕 化六2才 化六33才

化九2ウ 化九3ウ 化九44ウ

化十三1才 化十三2ウ

化十三4才 化十三42才

梅芽〔肥前平戸〕 化三16才

梅涯〔京〕 化六33才

梅間〔尾張名古屋〕 化一6ウ 化二13ウ

梅居〔丹後河守〕 寛十一25ウ

梅曉〔周防白松〕 享二22才

梅旭〔越後荒井〕 享三12才

梅旭〔播磨三木〕 化十三18才

化十三18ウ

梅景〔加賀金沢〕 享二13才

梅兮〔大坂〕 化二16才

梅兮〔阿波〕 化三27ウ

梅溪〔安芸広島藩内甘露井連〕

化六14才

梅溪〔肥後熊本〕 化九10才

梅月〔豊後杵築〕 寛十一25ウ

梅月〔出雲神門知井宮〕 化三10ウ

梅江〔肥前諫早〕 享三4ウ 化四8才

化六4才 化十三7ウ

梅江〔信濃飯田〕 化六22才

梅香〔信濃伊奈〕 化一9才

梅公〔越中八尾〕 化四33才

梅山〔安芸中村〕 化四16ウ

梅之〔近江太田〕 享二9ウ 享三17才

梅士〔丹後宮津〕 化六9ウ 化九15ウ

梅枝〔肥前諫早〕 享三4ウ

梅枝〔日向美々津〕 化十三15才

梅枝〔因幡若桜女〕 化十三24才

貝士〔丹波須知〕 化十三28才

梅二〔近江〕 化一5ウ

梅二〔京〕 化六33ウ

梅秀〔淡路草加〕 化十三17才

梅笑〔陸奥南部〕 化一8才

梅笑〔丹波梅迫〕 化九15才

梅勝〔讃岐小豆島〕 化六17才

梅雪〔上野惣社〕 享三14才

梅川〔伯耆倉吉連〕 化三8ウ

梅仙〔長門赤間関〕 化三21ウ

梅仙〔安芸広島〕 化四16ウ

梅仙〔越中海老江〕 化四30才 化六25才

梅泉〔越後岡野町〕 化九38ウ

化十三37ウ

梅村〔因幡鳥取〕 化六10ウ 化九21ウ

梅調〔肥前田代〕 化九8ウ

梅笛〔京〕 享二2才 享二17ウ

享三2才 享三21ウ 化一2ウ

化二2才 化三3才

梅洞〔伯耆〕 化六11才

梅堂〔三河〕 化六20ウ

梅堂〔讃岐丸亀〕 化九29才

買風〔浪花〕 享三7ウ 化一3才

梅仏〔安芸広島〕 化三22ウ

梅布留〔信濃伊奈〕 享二17才 享三13才

梅甫〔越中井波〕 化四42ウ

梅豊〔相模鎌倉〕 寛十一29才

梅眠〔陸奥八戸〕 享三14ウ

梅眠〔越中氷見〕 化四29ウ

買羊〔京〕 化四3才

梅羊〔播磨広峰〕 化十三19才

梅理〔安芸〕 化九28才

梅里〔浪花〕 化九30ウ

梅路〔肥前諫早〕 享一5才 享二21ウ

享三5才 化三15ウ 化九8ウ

化十三7才

梅路〔越後高田〕 化九38才

梅露〔伊勢津女〕 化一6ウ 化六19才

梅廬〔播磨北条〕 寛十一26才

化二18才 化三24才 化九29ウ

梅廬〔加賀金沢〕 化六27才

梅楼〔伊勢津〕 化九31ウ

馬印〔京／在肥前長崎〕 寛十一2才

寛十一31才 享一2才 享一24ウ

享二2才 享三1才 享三22ウ

化一1ウ 化一14才 化一23ウ

化二2ウ 化二34才 化三17ウ

化三19才 化四9才

馬園〔越中井波〕 化四42才

巴久〔丹後石川〕 化二29才 化三6才

波弓〔越中福光〕 化四43才

巴橋〔相模室田〕 寛十一29ウ

はき〜はっ

破巾〔能登黒島〕 寛十一 2ウ
 寛十一 14ウ 享一 2才
 馬琴〔丹後加悦〕 化四 19ウ
 柏雨〔京〕 化六 33才
 麦栄〔近江堅田〕 享一 9才
 白燕〔上野惣社〕 享三 14才
 白珂〔陸奥青森外ヶ浜〕 化九 36才
 化十三 36ウ
 白花〔肥前島原〕 享一 3ウ
 百凡〔能登宇出津〕 寛十一 14才
 柏居〔信濃飯田〕 化四 25ウ
 白駒〔丹波上林〕 化九 15才
 白狐〔加賀高松〕 寛十一 11ウ
 麦斎〔加賀金沢〕 享二 13ウ
 白志〔筑前芦江〕 化三 14ウ
 白糸〔京女〕 化九 2才 化九 4才
 化九 44才 化十三 2才 化十三 3才
 化十三 4ウ 化十三 42才
 百之〔周防白松〕 化一 18才 化二 19才
 化三 22才
 白二〔加賀金沢〕 享二 13才 化六 27ウ
 柏二〔下総左原〕 化十三 35ウ
 百爾〔越中滑川〕 享二 14ウ
 百児〔肥後熊本〕 化三 19才 化四 3ウ
 麦二〔信濃上田〕 享三 12ウ
 麦二〔近江藁園〕 化一 5ウ
 百樹〔周防上関〕 享二 4才
 麦種〔近江太田〕 享二 9ウ
 柏舟〔伊賀上野〕 化二 34ウ
 白嘯〔丹後大島〕 化九 18ウ

百嘯〔京〕 化四 40才
 百丈〔出雲神在〕 化二 26ウ 化三 11ウ
 化四 16ウ
 白人〔京山崎〕 享三 22ウ
 柏翠〔近江八幡〕 寛十一 24才 享一 2才
 享一 9才 享二 10才 享二 22ウ
 享三 2ウ 享三 17才 化一 4ウ
 化二 6ウ 化三 41ウ 化四 38ウ
 化九 41才
 百翠〔伊予今治〕 化十三 15ウ
 百生〔越中魚津〕 享一 15才
 白雪〔丹後田辺〕 化二 2ウ 化二 29ウ
 白扇〔肥後熊本〕 化二 24才
 伯先〔信濃伊奈〕 化三 37才
 百川〔上野相生〕 寛十一 6才
 白黛〔京〕 化一 1ウ 化六 1ウ
 化六 34才
 柏台〔尾張布袋〕 化十三 32ウ
 白沢園↓有秀〔出雲大社〕
 莫端〔陸奥〕 享二 26才
 百痴 享三 17ウ
 白兔〔信濃高遠〕 享一 8才
 白斗〔上野大原〕 寛十一 6才
 麦杜〔能登能登部〕 寛十一 14ウ
 百堂〔浪花〕 享一 22才
 莫道〔常陸水戸〕 享一 20ウ
 薄年〔越中富山〕 享一 13ウ
 麦飯〔讃岐引田〕 化十三 16ウ
 白飛〔肥後川尻／小島〕 化四 7ウ
 化六 6才

百風〔加賀金沢〕 享二 13ウ 享三 9ウ
 化四 43ウ
 麦風〔加賀高松〕 享一 10ウ
 白文〔近江彦根〕 化六 29ウ
 百哺〔京〕 化二 1才 化四 2才
 化十三 4才
 白芳〔筑前直方〕 化三 14才
 柏茂〔能登宇出津〕 寛十一 13ウ
 享一 12才 享一 12ウ
 百茂〔因幡鳥取〕 化十三 23ウ
 白雄〔越中富山〕 化四 28才
 白雄〔越中放生津〕 化四 30ウ
 百由〔丹後宮津〕 化九 15ウ
 麦由〔阿波徳島〕 化二 17才
 白路〔丹波大山〕 化九 14ウ 化十三 28ウ
 化十三 29ウ
 白朗〔京〕 化二 32ウ 化三 45才
 百禄〔越中四方〕 化六 24ウ
 巴圭〔美濃関〕 化九 33才
 芭光〔越中八尾〕 化四 32ウ
 馬紅〔加賀金沢〕 化四 34才 化六 27才
 巴山〔肥前島原〕 化九 8才
 はじめ〔尾張名古屋〕 化二 14ウ
 波自免〔筑前飯塚〕 享三 4才
 波雀〔越中八尾〕 化四 33ウ
 馬州〔洲〕〔山城宇治／東都_{宇治}〕
 化一 4才 化二 30才 化三 43ウ
 化四 1才 化四 44ウ
 巴丈〔越後高田〕 寛十一 3ウ
 馬笑〔河内高田〕 化十三 31ウ

馬城〔越中富山〕 化一 14才 化一 14ウ
 化二 9ウ 化四 27才
 把翠〔加賀高松〕 享一 10ウ
 巴水〔京花頂僧〕 化九 43才
 巴水〔在京豊後〕 化九 44才
 巴静〔京〕 化二 31ウ
 波静〔越後小国〕 享三 12才
 玻井〔獅々窟〕〔能登黒島〕 寛十一 14才
 享一 13才 享二 12才 化一 13ウ
 化二 9才 化三 39才 化四 35才
 馬成〔相模猿ヶ島〕 享一 20才
 馬井〔加賀金沢〕 化六 28才
 馬嘶〔出雲大社〕 化十三 20ウ
 芭尺〔可月堂〕〔丹後山田〕 化三 4ウ
 化六 9ウ
 巴積〔越後荒井〕 享一 17ウ
 巴石〔加賀〕 化九 40才
 馬雪〔丹後宮津〕 化三 5才
 巴船〔越中福光〕 化四 43才
 馬曹〔加賀金沢〕 享一 11ウ
 馬太〔越中氷見〕 化四 30才
 叭介〔常陸〕 化六 21ウ
 白芹〔江戸〕 化十三 35才
 八子才〔十花〕〔越中氷見〕 化四 30才
 八湖〔能登宇出津〕 寛十一 13ウ
 享一 12ウ
 八山〔能登田鶴浜〕 享二 12才
 末子〔近江佐川〕 寛十一 17才 享一 8ウ
 享二 10才
 八仙〔京〕 享二 2才 享二 17ウ

享三2才 享三21ウ 化一1ウ
 八千里〔河内富田林〕 享一22ウ
 波涛〔出雲神門知井宮〕 化二26才
 化三10才 化四15ウ
 巴涛〔江戸〕 化九34ウ
 馬当〔近江堅田〕 化九42才 化十三4ウ
 化十三41才
 馬禿〔浪花〕 化九30ウ
 鳩の屋↓文常〔近江堅田〕
 波入〔越後増田〕 享一18才
 波弼〔肥後〕 化四3ウ
 巴明〔丹後宮津〕 化十三27ウ
 巴友〔肥後〕 化四6才
 馬遊〔京〕 化三44ウ 化四3才
 化四40才 化六1ウ 化六32ウ
 芭雷〔但馬網場村〕 寛十一20ウ
 馬卵〔安芸三壘〕 化九28才
 巴流〔丹波須知〕 化十三27ウ
 馬柳〔丹後宮津〕 化三5才
 馬龍〔京〕 化九43才
 巴良〔越中魚津〕 化四31才
 馬亮〔越中魚津〕 享一15ウ
 馬良〔丹後宮津〕 化三5ウ 化九15ウ
 化九16ウ 化十三27ウ
 馬蓼〔京〕 享一2才 享一24ウ
 享二2才 享二27ウ 享三1ウ
 享三21ウ
 馬蓼〔肥前長崎〕 化四8ウ 化四9才
 馬陵〔因幡鹿野〕 化六10才 化九22ウ
 万岳〔加賀金沢〕 化十三35才

判丘〔播磨姫路〕 化二18才
 凡旧〔近江太田／藁園〕 享三17才
 化一5ウ
 万休〔出羽宮内〕 化九36ウ 化九37才
 半桓〔和泉堺〕 享二3才
 万頃〔讃岐仁尾〕 化六17才 化九29才
 半古〔信濃上田〕 享三12ウ 化一9才
 万戸〔肥前伊福〕 享二20ウ
 半哉〔越中魚津〕 享一15才
 班車〔近江八幡〕 化九41才
 蟠松〔伊賀名張〕 享二9才
 凡丈〔在加賀金沢〕 享三9ウ
 万水〔長門赤間関〕 享一6ウ
 晚翠〔筑前直方〕 化三14才 化四12ウ
 万井〔月影館〕〔長門赤間関〕
 寛十一25才 享一6才
 万栖〔京〕 化六2ウ 化六32ウ
 化九43ウ
 晚成〔能登宇出津〕 化十三39才
 半素〔相模猿ヶ島〕 寛十一28才
 寛十一29ウ
 凡仲〔京〕 化二32才 化三2才
 化三45ウ
 凡鳥〔因幡鹿野〕 化六10才
 半兔〔因幡鳥取〕 化十三23ウ
 凡馬〔筑前博多〕 化六6ウ
 斑鳧〔陸奥南部五戸〕 化四25才
 万夫〔肥前島原／多比良〕 寛十一21ウ
 寛十一22ウ 享二21才
 万府〔長門下関〕 化一18才

帆風〔播磨〕 享一24才
 半夢〔武蔵東武〕 享三14才
 半来〔京〕 化一22ウ
 万籟〔丹後宮津〕 化六9ウ 化九15ウ
 化九16ウ 化十三27ウ
 万良〔越中富山〕 享一14才
 半輪〔浪花〕 享一22才
 帆路〔若狭高浜〕 享一9ウ
 盤露〔肥前長崎〕 寛十一21才 享一3才
 万和〔大和／大坂〕 寛十一20才
 化四22才
 ひ
 美鶴〔伯耆米子〕 化十三21才
 美岳〔播磨三木〕 化十三18才
 飛鳩〔出雲神門知井宮〕 化二26才
 化三10才
 尾鏡〔陸奥鯉ヶ沢〕 化三33才
 美敬〔甲斐古市場〕 寛十一7才
 美言〔石見福光〕 化四14ウ
 美乎〔筑後久留米〕 化一19ウ
 微山〔肥前大村〕 化二22才 化三17才
 眉山〔相模関口〕 寛十一28才
 寛十一29才
 美山〔近江堅田〕 化二7才 化三43才
 眉秀〔越中魚津〕 化四31ウ 化六24ウ
 美瑞〔丹波〕 享一23才
 飛声〔越前丸丘〕 寛十一14ウ
 寛十一15才

枇青〔越前丸岡〕 享二10ウ 享二11才
 化四35ウ 化四36才
 飛川〔近江彦根〕 化十三40才
 秀丸〔肥後佐敷〕 化九11ウ 化十三6才
 ひとし〔摂津池田〕 化二16才 化三28才
 比斗坊↓其友〔陸奥弘前〕
 飛文〔因幡鳥取／岩井〕 化二27ウ
 化三7ウ 化九22ウ
 弥芳〔丹後河守〕 化九18ウ 化十三26ウ
 百池〔京〕 寛十一1ウ 寛十一30ウ
 享一1才 享二1ウ 享二19才
 享三1才 享三21才 化一3才
 化一21ウ 化二3才 化二34才
 化三2ウ 化三46ウ 化四3才
 化四40才 化六2ウ 化六33ウ
 化九2ウ 化九4才 化九43才
 化十三2才 化十三3ウ
 化十三4才 化十三41ウ
 百磨〔丸〕〔關之謝〕〔京〕 享一1ウ
 享一24ウ 享二2ウ 享二18ウ
 享二27ウ 享三1ウ 化一2ウ
 化一23才 化二2才 化二32才
 化三2才 化三46才 化四2才
 化四41才 化六33ウ 化九2ウ
 化九43ウ 化十三3ウ
 化十三42ウ
 弥雄〔老岐勝本〕 化二21ウ
 瓢介〔大坂堂島〕 化二16才 化四21才
 氷几〔浪花〕 享一22才
 瓢風〔筑前博多〕 享一6才 化六7才
 化九13才

飛良〔大坂〕 化一3才 化二15ウ
比良〔摂津伊丹〕 化三28才 化四21才
眉両〔京〕 化六31ウ

ふ

風化〔江戸〕 享一20ウ
風香〔越中富山〕 化六26ウ
風歌〔筑後久留米〕 化十三11才
楓師〔京〕 享二2ウ 享二18才
風子〔信濃下伊奈林〕 寛十一5ウ
享二26才 化四25ウ 化九34才
化十三38才
風之〔日向美々津〕 化十三15才
楓二〔出羽最上〕 化十三37才
風尚〔讃岐宇辰〕 化十三16才
風蕉〔尾張玉野〕 化十三33ウ
風知〔出雲日御崎〕 寛十一26才
風朝〔讃岐宇辰〕 化十三16才
風馬〔讃岐仁尾〕 化四22ウ
風唄〔越中氷見鞍川〕 化四30ウ
楓里〔筑前直方〕 化三14才 化四12ウ
布館〔筑前甘木〕 寛十一26ウ
芙九〔洛〕 化六33才 化九序1ウ
化九1才 化九43才 化十三1才
蕪巾〔近江大溝〕 化九1才 化十三41才
ふく〔讃岐小豆島〕 化六17ウ
撫月〔備後福山〕 化四17才
不言〔肥前長崎〕 化二22ウ
無好〔筑前秋月〕 化四44才

美山〔長門赤間関〕 化三21才
巫山〔近江八幡〕 化九41ウ
不残〔尾張布袋〕 化十三33才
不如〔筑前信人〕 化二21才
普昌〔甲斐戸田〕 寛十一7ウ
撫松〔但馬出石〕 化九19ウ
蕪状〔阿波〕 化三27ウ
賦水〔肥後熊本〕 化二24ウ 化四7才
布席〔陸奥箱館〕 化九36才
布雪〔京〕 享二2ウ 享二18才
享三2ウ 享三21才 化一2ウ
化一23ウ 化二2才 化二33才
化三1ウ 化四3才 化四40才
化六1ウ 化六32ウ 化九3才
化九44才 化十三1ウ
化十三2ウ 化十三4ウ
化十三5才 化十三42ウ
不説〔因幡岩井〕 化三7才 化九21ウ
武節〔丹後宮津〕 化三5ウ 化四19ウ
撫節〔筑前芦江〕 化三14ウ
富扇〔加賀高松〕 化三39ウ
不染〔京洛西〕 化三47ウ 化四40ウ
不占〔周防小郡／白松〕 化四14ウ
化九24ウ 化十三11ウ
不全〔越中氷見〕 化四29才
撫泉〔越中富山〕 享一14才
扶草〔越後与板〕 享一19才
仏角〔越前僧〕 化四36才
仏斎〔齊〕〔乙道〕〔京〕 寛十一1才
寛十一30才 享一2ウ 享一25才

享二19才 享三1ウ 享三21才
化一2ウ 化一22才 化二1ウ
化二33才 化三1ウ 化三46ウ
化四2才 化四40ウ 化六33才
化九4才
物成〔甲斐落合〕 寛十一7才
仏平〔陸奥八戸〕 享三15才
不得〔近江麻生〕 化四38ウ 化六29ウ
不然〔近江海津〕 享三20才
ふもと〔備後布野〕 寛十一23ウ
富門〔伯耆米子〕 化四18才
芙蓉〔越後高田〕 化九38才
芙蓉〔伊勢津〕 化十三31ウ
不蘭〔南山城〕 化二30ウ
武陵〔丹波大山篠山城西〕 寛十一25ウ
享一23才 享二5ウ 享三8才
化一1才 化二30才 化三3ウ
化四20ウ 化六9才 化九14ウ
化十三28ウ 化十三29才
蕪領〔筑前博多〕 化九13才
蕪良〔丹後田辺〕 化十三26才
古彦〔讃岐丸亀〕 化九29才
文英〔肥前平戸〕 化二23ウ 化四11才
文花〔信濃塩名田〕 享三13才
文花〔筑前直方〕 化三14才
文華〔出羽〕 化九36ウ
文化〔筑前〕 化四12才
文可〔越中井波〕 化四42ウ
文角〔筑後久留米／志津里〕 享二20ウ
享三3才 化一19ウ 化二20ウ

化三15ウ 化四11ウ 化六8ウ
化九14才
文完〔周防白松〕 享二22才
文器〔越中水橋〕 享二14ウ 化四30才
化六24ウ 化九40才 化十三38才
文淇〔加賀金沢〕 化六27才
文橋〔長門豊浦山下〕 化一18ウ
文橋〔肥後熊本〕 化三20才
文暁〔肥後八代〕 化九9才
文景〔越中魚津〕 寛十一13才 享一15才
享二15才 享三12才 化一15ウ
化三38ウ 化四31才
文溪〔加賀金沢〕 寛十一9才 享三9才
化三39ウ 化四43ウ
文献〔肥後佐敷〕 化九11ウ
文晃〔越後五智〕 享一17才
文行〔加賀高松〕 寛十一11才
文光〔肥後〕 化四7ウ
文虹〔伯耆法勝寺〕 化四18才
文蒿〔越中福光〕 化四43才
豊郷〔浪花〕 化九30才
文郷〔播磨三木〕 化十三18才
聞香庵〔筑前秋月〕 化四44才
文山〔近江高崎〕 享三20才
文士〔肥前三宝〕 享二20ウ
文枝〔洛〕 化九3才
文洲〔陸奥弘前〕 化三35ウ
文洲〔州〕〔肥前諫早〕 化九9才
化十三7才
文丈〔相模五柏園連〕 化一8才

文常〔鳩の屋〕〔近江堅田〕 享一9才
 化一5才 化二1才 化二5ウ
 化三43才 化四1才 化四45才
 化六序1ウ 化六31才 化九42才
 化十三1才 化十三41才
 文水〔越中八尾〕 化四33才
 汶水〔丹後田辺〕 化十三26才
 文石〔陸奥津軽〕 享二26才 化一8ウ
 化二12ウ 化三32ウ
 文節〔出雲芦渡〕 化二26ウ 化三11才
 文川〔甲斐〕 化六21ウ
 文草〔加賀金沢〕 享三9ウ
 文章↓瓠落〔美作高下〕
 文苔〔加賀金沢〕 享三9ウ
 文地〔信濃善光寺〕 寛十一5才
 文兆〔陸奥八戸〕 享三14ウ
 文兆〔信濃善光寺〕 化一8ウ
 文頂〔大坂〕 化一3才 化二15ウ
 文鳥〔越中高岡〕 化四28ウ
 文亭〔阿波〕 化一18ウ 化二17才
 文的〔相模五柏園連〕 化一7ウ
 文塘〔肥前諫早〕 寛十一21ウ 享一5ウ
 享二21才 享三5才 化一20才
 化二22ウ 化六4ウ
 文和〔信濃飯田〕 享三13才
 分風〔肥前長崎〕 享三5才
 文鳳〔丹波龜山〕 化六9才
 文雄〔佐渡〕 享二16才 化九40ウ
 文蘿〔越前丸岡〕 享二10才 享二11ウ
 化一9ウ 化一11才 化四36才

文里〔備中笠岡〕 享二4ウ
 文路〔能登田鶴浜〕 化一13才
 汶弄〔越中井波〕 化四42ウ
 へ
 米花〔播磨三木〕 化十三18才
 平砂〔因幡鹿野〕 化六10ウ
 平斎〔尾張名古屋〕 化十三32ウ
 米子〔京〕 享二18ウ
 平水〔越後柏崎〕 享一18才 享三12ウ
 化一17才 化二11才 化三37ウ
 化六24才 化九37ウ
 平晴〔越中魚津〕 化四31ウ
 米虫〔肥前大村〕 化二22才 化三17才
 平亭〔丹波〕 享一23才
 米負〔丹後宮津〕 化三5才
 米億〔安芸〕 化九28才
 碧山〔越中富山〕 化一15才
 碧泉〔肥後菊池／熊本〕 享二21ウ
 化一21才 化二24才
 勉文〔加賀〕 寛十一10才
 ほ
 浦安〔日々庵〕〔出雲大社〕 化二27才
 化三9ウ 化四15才 化六12才
 化九24ウ 化十三20ウ
 甫一〔近江日野〕 化十三40ウ

豊衣〔伯耆梶原〕 化三9才
 蓬宇〔河内生駒〕 享一21ウ
 芳菓〔越中魚津〕 寛十一13才
 峰貫〔安芸広島〕 化四16ウ
 方居〔甲斐府中〕 享二2才 享二16ウ
 享三14才 化六21ウ
 方居〔肥前諫早〕 化十三7ウ
 豊曉〔越中氷見〕 化四29才
 蚌玉〔近江石部〕 寛十一16才
 峰琴〔丹波成松〕 享二7才
 鳳兮〔但馬大養父〕 化四19才 化九19才
 化十三25ウ
 方壺〔淡路湊〕 化十三17ウ
 鳳五〔加賀高松〕 寛十一11ウ
 方行〔但馬浜坂〕 化二28ウ 化三4才
 蓬皐〔近江大津〕 享三20才 化一4ウ
 化二6才
 方穀〔越後今町〕 化十三37ウ
 方斎〔飛騨益田〕 化十三38才
 茂斎〔洛〕 化九1ウ
 蓬山〔越中富山〕 享三11才 化二9才
 方三〔越中富山〕 化三37ウ
 芳志〔之〕〔近江八幡〕 寛十一17才
 享一8ウ 享二10才 享二22ウ
 享三17才 化一4ウ 化二3才
 化二6ウ 化三3才 化三41ウ
 化四45才 化六29ウ 化九41才
 蓬室〔山城淀〕 化三44才
 方舟〔筑後久留米〕 化三15ウ
 鳳章〔越中富山〕 化四27才

法松〔肥後佐敷〕 化九11ウ
 鳳吹〔丹後宮津〕 化三5ウ 化九15ウ
 報世〔周防名田島〕 享二22ウ
 方静〔陸奥安達〕 化二12ウ
 蓬尺〔信濃下和田〕 享二16ウ
 峰雪〔越後塩沢小松沢〕 化四26ウ
 豊草〔肥前島原〕 享二20ウ
 宝鼎〔大坂〕 化十三30ウ
 豊浦〔安芸広島〕 化四16ウ
 峰輔〔河内星田〕 化十三31才
 蜂友〔浪花〕 寛十一19ウ
 蜂友〔阿波〕 化三27ウ
 芳笠〔肥前諫早〕 享三4ウ 化四8才
 化六4ウ
 茂良〔京〕 化二31ウ 化三2ウ
 化三44ウ 化四2ウ 化四41才
 化六33ウ 化九43ウ
 芳林〔近江日野〕 享三16ウ
 方朗〔筑後久留米〕 化二20ウ 化三15才
 鳳郎〔安芸広島藩内甘露井連〕
 化六14ウ
 浦詠〔筑前姪浜〕 寛十一23才 化四13才
 化六7ウ
 保貫〔近江彦根〕 化十三40才
 保牛〔丹後岩屋〕 化二29才
 卜雅〔加賀高松〕 寛十一11才
 木芽〔三河吉田〕 化十三33ウ
 朴介〔肥前〕 享一4才
 木海 化二34才 化三24才 化十三1才

ほく〜むく

北雁〔加賀僧／在京〕 寛十一10才
 化二34才
 牧牛〔伯耆大谷〕 化二28ウ 化四17ウ
 木槿〔伊勢津〕 享三16才
 北笠〔京〕 享一1ウ
 木溪〔京山科〕 化三3才 化三44才
 木鷄〔因幡若桜〕 化十三24才
 北原〔越中魚津〕 享一16才
 卜古〔陸奥〕 化九36才
 朴哉〔上野大原〕 化九35才
 朴斎〔陸奥三春〕 化十三36才
 北山〔能登輪島〕 享二27才
 北枝 化九45ウ
 牧之〔加賀高松〕 寛十一10ウ
 牧之〔越後塩沢〕 化六24才
 北舟〔加賀高松〕 享一10才
 朴所〔伊勢前田〕 享二9才 享二23ウ
 享三16ウ
 卜笑〔丹波海老谷〕 化六9才
 墨樵〔尾張〕 化九32才
 木常〔三河〕 化六20才
 卜仁〔讃岐仁尾〕 化四22ウ
 濮水〔近江薩摩〕 化三41ウ
 木曾〔肥後熊本女〕 化一21才
 北台〔加賀高松〕 寛十一8ウ
 寛十一9ウ 寛十一10才
 享一11ウ 化三39ウ 化四34ウ
 墨沖〔京〕 化二31ウ
 北亭〔大坂〕 化九30ウ 化十三30ウ
 木貞〔京〕 寛十一2ウ 化二3才

化二31ウ
 牧笛〔肥後〕 化四3ウ
 木天〔尾張〕 化九32才
 木徒〔但馬大屋〕 化三4才
 北馬〔近江万木〕 化六30才 化九42才
 北溟〔陸奥南部宮古〕 化一8ウ
 化二12ウ 化四25才 化六24才
 卜友〔京〕 化四41ウ
 北洋〔若狭成出〕 化二7ウ 化三40ウ
 化四37ウ 化六28ウ
 木容〔近江途中〕 化一5ウ
 北嶺〔近江万木〕 化二3ウ 化三42才
 化四39才
 保三〔信濃飯田〕 化四25ウ
 圃山〔加賀金沢〕 化六27ウ
 浦且〔尾張〕 化四24才
 保舟〔三河〕 化六20ウ
 圃丈〔近江舟木〕 享二9ウ 享三17ウ
 蒲丈〔肥後〕 化十三6ウ
 甫水〔加賀高松／松任〕 享一10ウ
 享二14ウ 化六28才
 保水〔出雲久村〕 化三11ウ
 浦夕〔相模猿ヶ島五柏園連〕 享一20才
 化一7ウ
 浦夕〔肥前諫早〕 化九8ウ
 甫尺〔京〕 享二1才 享二17ウ
 甫雪〔長門赤間関〕 化二19ウ 化三21才
 母節〔相模五柏園連〕 化一7才
 菩雪〔信濃諏訪〕 享二17才 享二25ウ
 蒲川〔因幡岩井〕 享一23ウ 化六10ウ

勃々〔安芸広島藩内甘露井連〕
 化六13ウ
 甫滴 化六21才
 浦唄〔相模萩野五柏園連〕 化一7才
 化六21才
 圃夫〔但馬出石〕 化九19ウ
 歩兵〔加賀金沢〕 化十三39ウ
 甫木〔筑前姪浜〕 化六7ウ
 甫六〔河内富田林〕 化一3ウ 化二17才
 甫立〔越前丸岡〕 寛十一14ウ
 寛十一16才 享二10才 享二11ウ
 享三10ウ 化一9才 化二7ウ
 化三40才 化四35ウ 化四37才
 ま
 麻刈〔上野草津〕 享一7ウ
 松丸〔京〕 化一22才
 まなひ〔尾張名古屋〕 化二14ウ
 真彦〔日向〕 化九2才 化九12才
 丸磨〔越中井波〕 化四42ウ
 丸々〔尾張名古屋〕 化二14ウ

化十三5ウ
 三丸〔越中滑川〕 化一16才 化二11才
 三都良〔信濃飯田〕 享三13ウ 化四25ウ
 三都良〔出雲神在〕 化二26ウ 化三11ウ
 化四16才
 美津留〔出羽〕 化九37才
 三津人〔阿波〕 化三27才
 未徹〔摂津口谷／池田〕 化四20ウ
 化六18才
 珉屋〔尾張〕 化四24才 化四24ウ
 眠月〔伯耆今津〕 化三9才
 民古〔淡路江井〕 化十三17才
 眠虎〔肥後熊本〕 化二25才
 眠虎〔丹波氷上〕 化十三28ウ
 眠五〔伊勢四日市〕 享一21才 享二9才
 享三16ウ 化一6ウ 化九31ウ
 眠笑〔出羽〕 化九37ウ
 眠石〔肥後熊本／山鹿／佐敷〕
 享三5ウ 化一20ウ 化二25ウ
 化三19才 化四3ウ 化六6才
 化九12才 化十三5ウ
 眠和〔加賀金沢〕 寛十一11ウ 享一10ウ
 む
 夢庵〔加賀〕 寛十一12才
 無楽〔丹後〕 化十三29才
 無禁〔近江大溝〕 化一5才 化二4才
 化三42ウ 化六30ウ
 無垢宇〔肥後〕 化十三5ウ

無三〔因幡鳥取〕 化十三22才
 無三〔江戸〕 化十三35才
 無諍〔丹後河守〕 化九18ウ
 無物〔讃岐小豆島〕 化六17才
 無有〔伊勢神戸釈〕 化三28ウ
 むら女〔信濃今岡〕 寛十一5ウ

め

鳴雄〔阿波徳島〕 化二17ウ 化三27才

も

毛丸之坊〔東武〕 化六21才
 黙雷〔豊前小倉〕 享二4才 化一19才
 化二20才 化三12ウ
 茂稚〔京〕 化九44才 化十三1ウ
 化十三34才 化十三42ウ
 化十三43才

や

夜外〔近江八幡〕 化九41才
 夜桂〔肥前大村〕 化二22才
 野雀〔尾張安井〕 化二14才
 野春〔越中氷見〕 化四29ウ
 野青〔加賀埴田〕 享二12才
 野泉〔播磨明石〕 化二18才
 野梅〔肥後八代〕 享三5ウ 化九9才
 野楊〔丹波亀山〕 化六9才 化十三27ウ

夜来〔大坂〕 化二16ウ
 野柳〔加賀高松女〕 寛十一10ウ
 也蓼〔上野小暮〕 享一8才 享三13ウ
 化二12才

ゆ

唯我〔因幡鳥取〕 化二27ウ 化二28才
 遊宇〔但馬女〕 化十三25ウ
 雄測〔陸奥仙台〕 享一7ウ 享二16才
 幽雅〔備前岡山〕 寛十一26ウ 享三6ウ
 化二18ウ 化六13才
 幽雅〔京〕 享二1ウ
 由己〔越後柏崎〕 享一18ウ
 遊龜〔播磨明石〕 化一17才 化二18才
 又呼〔近江大津〕 寛十一16ウ 享三20ウ
 猶古〔京〕 化二32才
 遊虎〔肥後八代〕 化九9才
 有栲〔信濃坂本〕 享一8才
 有簗〔豊後日田〕 享三5ウ 化一19才
 化二20才 化三13才 化四13ウ
 化六6ウ 化九14才
 友国〔浪花〕 享一跋26ウ
 有山〔河内船橋〕 寛十一19才
 遊山〔摂津多田〕 享一22ウ
 右之〔近江高島〕 享一9ウ
 友志〔出雲古志〕 化二26ウ
 雄雌〔加賀〕 寛十一11ウ
 雄之〔遠江久喜賀浦〕 享二3ウ
 享三15ウ

友之〔肥前長崎〕 化三16ウ
 祐之〔伊勢白子上野〕 化四23才
 祐之〔越中氷見〕 化四28ウ
 祐之〔伊勢津〕 化六19ウ
 右枝〔越中富山〕 化四27ウ
 友樹〔加賀金沢槐庵連〕 享三9才
 化一12ウ 化二8才 化六27ウ
 有秀〔白沢園〕〔出雲大社〕 化三9ウ
 化四15才 化六12才 化十三20ウ
 祐昌〔近江義仲寺〕 寛十一16ウ
 有常〔近江堅田〕 化三43才
 有人〔京〕 化一2才
 由水〔因幡鳥取〕 化二27ウ
 雄生〔甲斐浅原〕 寛十一7才
 右竹〔肥後八代〕 化九9ウ
 幽貞〔肥前平戸〕 化二23才
 有斐〔甲斐〕 化六21ウ 化九33才
 化九34才 化十三34ウ
 有美〔常陸帆津倉〕 化十三35ウ
 有風〔出雲大社〕 化三9ウ 化四15才
 右文〔伊賀上野〕 享二8ウ
 友甫〔越前丸岡〕 寛十一15ウ 享二10ウ
 享二11ウ 化一9ウ 化一10ウ
 化四35ウ 化四36ウ 化六28ウ
 熊峰〔越中滑川〕 化二11才
 有邦〔京〕 化二32ウ
 遊方〔加賀本吉〕 享三10才
 有無〔肥前平戸〕 化二23ウ 化六5才
 耽夢〔越後与板〕 享一19才
 友雄〔筑前木屋瀬〕 享二20才

有友〔常陸笠間〕 享三15才
 悠々〔皐月庵〕〔武蔵谷野〕 化二13ウ
 化三29ウ
 有洛〔京〕 化二32才
 幽蘭〔伊勢白子上野〕 化四23才
 有栗〔伊勢相可〕 享二23才
 有龍〔越前丸丘〕 寛十一15ウ
 有隣〔豊前中津〕 寛十一22ウ
 有隣〔肥前〕 寛十一22才
 有隣〔讃岐仁尾〕 化四22ウ
 有隣〔越中放生津〕 化四30ウ
 袖蓮〔但馬豊岡〕 化一11ウ
 友鹿〔近江堅田鳩組〕 化一5才
 化二6才 化三42ウ 化四45才
 化六30ウ
 遊鹿〔肥前諫早〕 化四8ウ
 雄鹿〔讃岐丸龜〕 化九29才
 雪雄〔槐庵〕〔加賀金沢／京〕
 享一2ウ 享一12才 享二14才
 享三9ウ 化一13才 化二8才
 化三39才 化四43ウ 化六2才
 化六34ウ 化九1才 化九44ウ
 化十三1才 化十三2ウ
 化十三4才 化十三5才
 化十三42ウ
 雪丸〔河内星田〕 化十三31才
 雪みち〔越中氷見〕 化四29才
 百合丸〔安芸広島藩内甘露井連〕
 化六14才

よ

窈窕〔越中魚津〕 化一15ウ 化三38才
庸々〔長門赤間関〕 化三21ウ
よし香〔常陸〕 化九35才
よし輔〔大坂〕 化二35ウ
良彦〔よしひこ〕〔肥前島原〕 化六4ウ
化九8才
与竹〔越後梶屋敷〕 寛十一3才
享一16ウ
米彦〔よね彦〕〔大坂堂島〕 寛十一19ウ
享二序1ウ 享二3才 化二16才
化四21才 化六18ウ 化九30才
よの女〔出雲稗原〕 化三12才 化四16才

ら

来居〔伊勢久居〕 化十三32ウ
来止〔加賀高松〕 寛十一10才
耒耜〔河内生駒桮〕 享一21ウ 化三28才
雷師〔因幡岩井／鳥取〕 化三7才
化九22ウ 化十三22ウ
来二〔陸奥八戸〕 享三14ウ
来車〔近江三谷〕 化四38ウ 化九42才
化十三4ウ
籟丈〔越中井波〕 化四42才
来誰〔越中富山〕 化二9才
嵐水〔伯耆米子〕 化十三21才
来夕〔武蔵青梅〕 化十三35才

頼木〔播磨姫路〕 享三6ウ 化三24才
来明〔越後長岡〕 享二15ウ
楽鷲〔若狭神子浦〕 化四37ウ
蘿月〔丹波〕 享一23才
羅城〔尾張名古屋〕 寛十一1ウ
享一1ウ 享一21才
羅石〔京〕 化三47ウ
羅道〔伊勢津〕 化二15ウ
羅堂〔伯耆米子〕 化十三21才
羅風〔長門赤間関／下関〕 寛十一25才
享一6ウ 享二4ウ 化一18ウ
化二20才 化三20ウ 化四14才
化九25才
羅風〔因幡鳥取〕 化十三22才
羅木〔丹後日間浦／湊〕 化一11ウ
化二29ウ
嵐外〔甲斐甲府〕 寛十一7ウ
享三14ウ
鸞厓〔但馬出石〕 化九19ウ
嵐儀〔筑後久留米〕 享二4才
蘭玉〔伯耆川岡〕 化三9才 化四18ウ
蘭啓〔伊勢津〕 享三16才
蘭兮〔伊勢安部〕 享二23才
嵐月〔伯耆猪小路〕 化六11ウ
蘭戸〔肥後熊本〕 化四4才 化四7才
化六5ウ 化九10ウ
嵐梧〔筑前直方〕 化九12ウ
蘭阜〔上野桐生〕 享二16ウ
蘭阜〔加賀大聖寺〕 化四34ウ
蘭更 享一序1才 享二跋28才

化二序1才 化六序1才
化九跋45ウ
蘭交〔伯耆倉吉連〕 化三8ウ
蘭谷〔肥前土黒〕 享二21才
蘭山〔伊勢久居〕 化十三32ウ
嵐枝〔能登黒島〕 寛十一14才
蘭史〔加賀金沢〕 寛十一10才 享一11ウ
享三9才 化三39才
蘭之〔近江八幡〕 化一4ウ 化三41ウ
蘭芷〔子恭〕〔安芸広島藩内甘露井連〕
化六14才
蘭士〔越中四方〕 化六24ウ
蘭子〔肥後八代〕 化九9ウ
蘭二〔信濃飯田〕 享三13才
嵐二〔加賀金沢〕 化四43ウ
嵐二〔筑前磯光〕 化九12ウ 化十三11ウ
蘭之謝↓百丸〔京〕
嵐洲〔因幡鳥取〕 化二27才
藍洲〔三河新城〕 化四24ウ
蘭舟〔讃岐和田浜〕 化六17才
嵐丈〔越中富山〕 享三11才 化一14才
化一14ウ 化二10才 化三38才 化
四26ウ 化六26ウ
蘭吹〔加賀金沢〕 寛十一8ウ
寛十一12才 享一11才 享三9ウ
化一12才 化二8才 化三39ウ
化六27才
藍水〔淡路三津浦〕 化十三17ウ
嵐夕〔安芸〕 化九27ウ
蘭雫〔肥後熊本〕 化三19ウ 化四5ウ

嵐眺〔加賀金沢〕 化十三39ウ
嵐堂〔加賀金沢〕 享三9才 化四34才
蘭堂〔伊勢津〕 享三16才
蘭堂〔加賀高松〕 化三39ウ
蘭那〔周防白松〕 享二22才
鸞尾〔近江舟木〕 享三17ウ 享三19ウ
化一6才 化三47才
藍尾〔但馬浜坂〕 化三4才 化九20才
化十三25才
蘭阜〔越中〕 享一13才
蘭阜〔加賀金沢〕 享三8ウ
蘭風〔越中八尾〕 化四33ウ
蘭甫〔越後柏崎〕 享一18ウ
蘭圃〔伊勢津〕 化六19才
卵鳴〔因幡鳥取〕 化九22才
蘭友〔因幡岩井〕 化三7才
蘭陵〔越中氷見／富山〕 化四29才
化九39ウ
蘭路〔加賀高松〕 享一10才

り

李下〔槐庵〕〔加賀金沢〕 寛十一8才
寛十一12ウ
李下〔因幡若桜〕 化十三24才
里花〔加賀金沢〕 化四34才
里鶴〔伊勢神戸〕 寛十一18ウ 化六19才
里鶴〔淡路草加〕 化十三17才
俚橘〔筑前姪浜〕 寛十一23才
李杏〔摂津池田〕 寛十一20才 享二3才

化二16ウ 化三28才 化四20ウ
 里喬〔浪花〕 享一22ウ 享二2ウ
 里教〔伊予今治〕 化十三15ウ
 李暁〔肥前〕 化一19ウ
 里暁〔長門赤間関〕 寛十一24ウ
 里暁〔日向美々津〕 化十三15才
 里旭〔相模五柏園連〕 化一8才
 理玉〔伊勢津古川〕 寛十一18才
 享二9才 享二23才 享三15ウ
 六一〔陸奥〕 享一26才
 六英〔若狭成出〕 化二7ウ 化三40ウ
 陸海〔加賀本吉〕 享二12ウ 享三10才
 六寄〔越中富山〕 化二35才
 六居〔因幡鳥取〕 化九22才
 六元〔相模五柏園連〕 化一7ウ
 六合〔丹波梶原〕 化九15才
 六子〔伯耆宇野浦〕 化三8才
 陸二〔越後与板〕 享一18ウ
 六車〔尾張名古屋〕 化二14才
 六川〔筑前秋月〕 化四44才
 六轡〔在京信濃上田〕 化三44才
 化六34才
 六明〔加賀金沢〕 享二13才 享三10ウ
 六里〔丹波成松〕 享二7才
 六列〔越中富山〕 化九39ウ
 李薰〔肥前平戸〕 享三5才 化二23ウ
 化三16才 化四10才 化四11才
 化六5才
 李蹊〔溪〕〔肥後熊本〕 化四3ウ
 化六5ウ 化九11才

李溪〔能登田鶴浜〕 寛十一14ウ
 化一13才
 李溪〔加賀本吉〕 享二12ウ
 李溪〔肥前長崎〕 化三16ウ 化六4才
 李溪〔洛〕 化六32才
 李兮〔若狭小浜〕 化二7才 化三40ウ
 化四37才
 里桂〔備中倉敷〕 享三6才
 里月〔伯耆浜大谷〕 化四18才 化六11才
 李謙〔因幡鳥取〕 化九22才 化十三23ウ
 李郷〔出雲古志〕 化二26才 化三11才
 化四16才
 李三〔信濃飯田〕 享三13才
 里山〔浪花〕 享三7ウ
 里山〔越中富山〕 化二10才
 里山〔紅石斎〕 化二35ウ
 鯉三〔丹波篠山城西〕 化四20才
 李山〔備中笠岡〕 化四17ウ
 履視〔讃岐高松／在京〕 化二3才
 化二17才 化三2ウ 化三44才
 化九3ウ 化九43才
 李之〔能登田鶴浜〕 享二12才 化一13才
 里雀〔丹波梅迫〕 化九15才
 李州〔丹後山田〕 化二29ウ
 里修〔越中高岡〕 化四28ウ
 鯉丈〔老岐勝本〕 化二21ウ
 里信〔出雲大社〕 化十三20ウ
 里人〔丹後宮津〕 化三5才
 里水〔長門赤間関〕 寛十一25才
 李翠〔上野築瀬〕 化九35才

里晴〔越前丸丘〕 寛十一15才
 寛十一15ウ 享二10才 享二11ウ
 化一9才 化一10ウ 化四35ウ
 化四36ウ
 李青〔能登三階〕 化十三39才
 里石〔出雲二部〕 化三11ウ
 里夕〔長門赤間関〕 化三21才
 里夕〔陸奥鰺ヶ沢〕 化三33才
 梨雪〔石見矢上〕 化十三20才
 里川〔陸奥津輕広崎〕 寛十一24才
 享一7ウ 享二16才 享三15才
 化一8ウ 化二12ウ 化三32ウ
 化九36才
 里川〔加賀高松〕 享一10才
 里川〔越前敦賀〕 化十三45ウ
 里仙〔丹後次津〕 化六10才
 鯉川〔信濃飯田〕 化六22才
 里泰〔越後小国〕 化三37才
 里竹〔越後目来田〕 寛十一3才
 享一20才 享三12才 化四26ウ
 籬鳥〔近江新庄〕 化二4才
 李朝〔備後福山〕 享一7才 享二4ウ
 化二19才 化三23才 化六13ウ
 化九28ウ
 李蝶〔南山城〕 化二31才
 李長〔淡路草加〕 化十三17才
 梨鳥〔加賀〕 享一11ウ
 里朝〔伊勢寺方〕 寛十一18ウ 享二23才
 享三15ウ 化一6ウ
 里蝶〔出雲神門知井宮〕 化二25ウ

化三9ウ
 里頂〔尾張布袋〕 化十三33才
 栗人〔伊勢津〕 享三16才
 立翠〔筑前博多〕 享一5ウ
 栗朝〔越中魚津〕 享一15才
 立丁〔安芸広島〕 化六14ウ
 栗堂〔播磨姫路〕 享三6ウ
 栗葉〔肥後熊本〕 化二24ウ 化四4才
 化四5才
 立嶺〔越中魚津〕 享一15ウ
 利貞〔肥前島原土黒〕 寛十一22ウ
 享二21才 化六4ウ
 李亭〔越中氷見〕 化四29ウ
 里笛〔丹後石川〕 化二29才 化三6ウ
 鯉登〔近江堅田〕 享一9才
 鯉登〔伊予土居〕 化二18才
 李凍〔摂津池田〕 寛十一20才
 鯉年〔肥後熊本〕 化九10ウ
 利帆〔肥前神代〕 享一3ウ
 李夫〔越中八尾〕 化四32ウ
 里風〔信濃林〕 享二26才
 李風〔讃岐引田〕 化十三16ウ
 里芳〔備中倉敷〕 享三6才 化一17ウ
 籬蜂〔大坂〕 化十三30ウ
 李明〔備後福山〕 化四17才
 鯉有〔越中富山〕 化二10才 化三38才
 籬邑〔近江堅田〕 享一9才 化一5才
 化二1ウ 化二6才 化三42ウ
 化四1ウ 化四38ウ
 里友〔大坂〕 化四21ウ

里幽〔肥前長崎〕 化六3ウ
 鷗友〔美作江見〕 化十三24ウ
 柳雨〔筑後志津里〕 享二20才
 柳雨〔肥後佐敷〕 化九11ウ
 龍雨〔日向美々津〕 化四11ウ
 化十三14ウ
 龍淵〔尾張〕 寛十一24才
 流霞〔近江大津〕 享三20ウ 化一4ウ
 柳化〔信濃飯田〕 化六22才
 柳化〔淡路三津浦〕 化十三17ウ
 笠岳〔播磨酒見北条〕 寛十一26才
 柳居〔越後仙石〕 化四26才
 龍居〔加賀金沢〕 化四34才
 龍玉〔越前〕 寛十一15才
 流蜚〔肥後熊本〕 化二25才
 柳澁〔若狭神子浦〕 化三40ウ 化四37ウ
 柳後〔安芸〕 化九28才
 柳紅〔武蔵〕 化二13ウ
 柳左〔筑前直方／小竹〕 化三13ウ
 化四12才 化六8才 化九13ウ
 化十三11才
 柳枝〔信濃林村〕 寛十一5ウ
 柳枝〔出雲馬木〕 化三12才
 柳糸〔近江堅田〕 享一9才
 柳子〔陸奥弘前〕 化三35ウ
 柳子〔越中氷見女〕 化四29ウ
 柳士〔越中氷見〕 化六25ウ
 柳之〔周防湯上〕 化十三11ウ
 龍至〔越前丸岡〕 寛十一15ウ 享二10ウ
 享二11ウ 化一10才 化一11才

化四36才 化四37才
 柳絮〔丹後宮津〕 化九15ウ 化十三26ウ
 龍水〔日向美々津〕 化十三15才
 龍石〔因幡河内〕 化六10才
 流泉〔筑前姪浜〕 化六7ウ
 柳莊〔信濃善光寺〕 寛十一5才
 柳零〔丹後岩屋〕 化二29ウ
 龍堆〔但馬芝〕 化六10才 化九20才
 柳台〔越中魚津〕 化四31ウ
 龍池〔出雲神門知井宮〕 化二26才
 化三10才 化四15ウ
 柳汀〔能登黒島〕 享二12才
 柳尾〔越中井波〕 化四42ウ
 柳圃〔筑前姪浜〕 化六7才
 笠甫〔江戸〕 化九34ウ
 慮一〔阿波小松島〕 化十三17才
 李葉〔伯耆三崎女〕 化九23才
 蓼雨〔肥後熊本〕 化二24ウ 化三19ウ
 化四6才
 蓼花〔伊勢津〕 享三16才
 涼花〔伊勢津〕 化一6ウ
 良寛〔筑後久留米〕 化六8ウ
 梁月〔越中魚津〕 化六24ウ
 良交〔近江石部〕 寛十一16才
 良子〔因幡鳥取〕 化十三22才
 良水〔南山城寺田〕 化一21ウ
 化二31才 化四39ウ
 涼対〔加賀金沢〕 享一11才 享二13ウ
 亮張〔周防樺野〕 化二19才
 涼眉〔筑前直方〕 化三13ウ 化四12ウ

涼風〔筑前元岳〕 化六7ウ
 梁明〔越中滑川〕 享一14ウ 享二14ウ
 緑娥〔京〕 化二2才
 緑川〔肥後熊本〕 化三20才 化四4ウ
 化四7才
 鯉里〔越中富山〕 化四27才
 李流〔周防白松〕 享二22才
 里柳〔長門赤間関〕 化三21ウ
 林阿〔安芸西条〕 化十三45ウ
 憐霞〔長門赤間関／下関〕 化二19ウ
 化三21ウ 化六15ウ
 恪花〔陸奥安達〕 化三36才
 林鳩〔京〕 享二18ウ 享三22才
 臨郷〔陸奥津輕〕 化三36才
 林湖〔加賀松任〕 享二14才
 臨江〔石見〕 化四14ウ
 林雪〔相模〕 寛十一28ウ
 鱗也〔丹後宮津〕 化九16才

れ

厲揭〔安芸南方〕 寛十一25才 享一7才
 梨松〔加賀金沢〕 寛十一8ウ
 寛十一12才 享一11ウ 化一12才
 澧波〔肥前諫早〕 享三4才 化四8ウ
 化六4ウ 化十三8才
 驪影〔越後今町〕 享一18才 享三2才
 化一2才 化一16ウ
 連蛾〔但馬幾野〕 化三4才
 輦玉〔相模萩野五柏園連〕 化一7才
 化六21才
 蓮儕坊〔京〕 化三46才
 連山〔近江野田〕 化四38ウ
 連之〔肥後熊本〕 化二24ウ 化四5ウ
 蓮和〔京〕 寛十一30才
 ろ
 魯隱〔大坂〕 寛十一19ウ 享二19ウ
 弄月〔但馬出石〕 化九19才
 籠山〔近江高崎〕 享三20才
 娘斧〔日向高鍋〕 化十三15才
 魯雲〔京〕 化一22ウ 化二32ウ
 魯雲〔因幡鳥取〕 化十三22才
 魯測〔京〕 化三45才 化四40ウ
 魯央〔肥前神代〕 享一3ウ
 芦花〔越中魚津〕 化四31ウ
 芦涯〔京〕 寛十一2才 寛十一31才
 享一1才 享一24ウ 享二19才
 享二27ウ 享三1ウ 享三22ウ
 化一1才 化一23才 化二1ウ
 化二33ウ 化三1ウ 化三45才
 化四2才 化四41才 化六33才
 化九44才 化十三3才
 芦角〔京〕 享二1才
 芦角〔肥前諫早〕 享三4才
 芦郭〔備後福山〕 享一7才
 路郭〔尾張琵琶島〕 化十三33ウ
 芦雁〔甲斐〕 化六21ウ
 露橘〔出羽〕 化九36ウ

ろき〜わし

路丘〔周防白松〕 享二22才
 路九〔讃岐小豆島〕 化六17才
 鷺橋〔但馬豊岡〕 化一11ウ 化二28ウ
 路喬〔肥前長崎〕 化三47才
 芦眺〔肥後〕 化六6才
 勒居〔但馬浜坂〕 化九20才 化十三25才
 鹿古〔舌〕〔京〕 寛十一1才
 寛十一31才 享一1才 享一24ウ
 鹿古〔園亭〕〔加賀〕 化三40才
 鹿楓〔摂津池田〕 寛十一20才 享一22ウ
 鹿野〔尾張名古屋安井〕 化二14才
 化六20才
 路月〔越中富山〕 化一13ウ 化一14ウ
 化二10才 化三38才 化四27才
 芦月〔筑後久留米〕 化一19才 化二20ウ
 化三15才 化三15ウ 化四11ウ
 化六8ウ 化九13ウ
 化十三序1ウ 化十三10ウ
 炉月〔和泉堺〕 化二16ウ
 路江〔越前丸丘〕 寛十一15才
 寛十一15ウ
 魯編〔丹波水上〕 享二27才 化一11ウ
 化二30才 化三3ウ 化四20ウ
 化六2才 化六9才
 露好〔肥後熊本〕 化二25才 化三20才
 露光〔出雲下古志〕 化二26才 化三10ウ
 化四15ウ
 芦江〔肥前長崎〕 化三16ウ
 芦江〔豊前宇佐〕 化十三10ウ
 芦柴〔近江市子〕 化十三40才

魯山〔越中魚津〕 寛十一12ウ 享一15ウ
 享二15才 享三11ウ 化一15ウ
 化三38ウ 化四31才
 魯山〔出雲古志〕 化三11才 化四16才
 魯二〔筑前姪浜〕 化三13才
 路若〔長門赤間関〕 寛十一24ウ
 芦舟〔出雲古志〕 化三11才
 芦舟〔越中高岡〕 化四28ウ
 芦舟〔讃岐引田〕 化十三16ウ
 芦洲〔越後荒井〕 享一17ウ
 芦洲〔越中滑川〕 化二11才
 芦洲〔近江八幡〕 化九41才
 鷺洲〔肥前神代〕 化六4ウ
 鷺洲〔伊勢山田〕 化九31才
 露洲〔播磨三木〕 化十三18才
 魯秋〔河内星田〕 化十三31才
 呂十〔越中富山〕 寛十一13ウ
 呂戎〔加賀金沢〕 享三9ウ
 魯諄〔磨淳〕〔丹後宮津〕 化三4ウ
 化六9ウ 化九16才
 路松〔筑前姪浜〕 化六7ウ
 櫓睡〔筑前姪浜〕 寛十一23才 享一6才
 芦錐〔伯耆倉吉連〕 化三8ウ
 呂吹〔信濃善光寺〕 化六22ウ
 芦尺〔相模五柏園連〕 化一8才
 魯石〔能登黒島〕 化一13ウ
 露石〔播磨明石〕 化一17ウ
 芦石〔肥後八代〕 化九9ウ
 鷺雪〔備前美作倉敷〕 化十三20才
 化十三25才

鷺雪〔江戸〕 化十三35才
 魯仙〔因幡鳥取〕 化二27ウ
 炉扇〔肥前諫早〕 享三4才 化四8才
 化十三7ウ
 路釜〔越後梶屋敷〕 寛十一3才
 享一16才
 魯扇〔越中富山〕 化四28才
 芦川〔伊予今治〕 化十三16才
 路太〔越中井波〕 化四42才
 路宅〔安芸広島〕 化六14ウ 化九25ウ
 化九27ウ
 駟丹〔京〕 寛十一1ウ 寛十一30ウ
 享一1ウ 享一25ウ 享二18ウ
 享三22才 化一21ウ 化二3才
 露竹〔出雲久村〕 化三11ウ
 呂竹〔出雲大社〕 化三9ウ 化六12才
 呂竹〔加賀〕 化九40ウ
 魯竹〔京〕 化三45才 化六32才
 化十三41ウ
 路虫〔京〕 化三3才
 芦蝶〔京〕 寛十一31ウ 享一2才
 享一25才
 魯長〔南山城野尻〕 寛十一27ウ
 化四39ウ
 魯長〔越中富山〕 化四27才
 魯鳥〔越中富山〕 化一13ウ 化一14才
 化二9ウ 化三38才
 芦鳥〔浪花〕 化九30ウ
 路鳥〔出雲大社〕 化十三20ウ
 鱸亭〔尾張宮〕 化十三32ウ

芦笛〔安芸広島藩内甘露井連〕
 化六14才
 芦笛〔丹後加悦〕 化十三27才
 芦堂〔和泉堺〕 化一3ウ
 魯童〔加賀金沢〕 寛十一8ウ 享一11才
 享三10ウ 化一12才
 呂柏〔肥前神代〕 享一3ウ
 鷺白〔上野雲嶺〕 享一7ウ
 鷺白〔上野草津〕 化六23ウ
 鷺泊〔白〕〔近江万木〕 化二1才
 化二3ウ 化三2才 化三42才
 化四38ウ 化六30才 化九42才
 鷺八〔丹後宮津〕 化三4ウ 化六9才
 呂風〔丹後宮津〕 化十三27才
 路甫〔越中〕 化一15才
 路方〔越中富山〕 化四27ウ
 路丸〔相模五柏園連〕 化一7才
 露磨〔出雲大社〕 化四15才 化六12ウ
 鷺満〔伊賀上野〕 享二8ウ
 鱸由〔信濃善光寺〕 寛十一5才
 露遊〔陸奥安達〕 化九35ウ
 魯洋〔能登〕 享一12ウ
 魯々〔筑前姪浜〕 享三3ウ 化一19才
 化二21才 化四13才 化六7才

わ

和月〔伯耆米子〕 化三9ウ 化四18ウ
 和秀〔伊賀上野〕 享二8ウ
 和秀〔近江途中〕 化一5ウ

わす〜わり

和吹〔遠江久喜賀浦〕 享二 20ウ
 享二 3ウ
 和吹〔遠江植松〕 化九 32ウ
 和水〔三河矢作〕 化三 29才
 和水〔越中八尾〕 化四 33才
 和夕〔近江太田〕 享二 9ウ
 和選〔加賀高松〕 享一 10才
 和田栖〔摂津兵庫〕 享二 3才
 和竹〔周防小郡〕 化三 22才
 和道〔周防白松／岐波〕 享二 4ウ
 享二 22才 享三 5ウ 化一 18才
 化二 19ウ 化三 22ウ 化九 24ウ
 化十三 11ウ
 和風〔周防小郡樵野〕 化二 19才
 化三 22才
 和風〔出雲古志〕 化三 11才
 和木〔周防小郡〕 化三 22才 化九 25才
 和由〔長門赤間関〕 寛十一 24ウ
 和尤〔安芸〕 化九 27ウ
 和友〔肥後熊本〕 化九 10ウ
 和楽〔三河和泉〕 化六 20才
 和良〔京〕 享二 1才 享二 27ウ

付表一 各年本の編成

※本冊の底本による

※連句の発句を除く・延数

23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	番
文化十三	文化九	文化六	文化四	文化三	文化二	文化元	享和三	享和二	享和元	寛政十一	年次
子年表 亥年一順 戌年一順 なし	未年一順 なし	なし	一順	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	標題
芦月	芙九	文常	沾雪	志宇	千賀雄	葦笠	素人	米彦	可董	瑞馬	序文
十壺 金菜 杜蓼 文常	怨風 燕巾 蕪九	素人 蒼虬	怨裕 蒼虬	阿年 蒼虬	乙都留 蒼虬	武陵 蒼虬	葦笠 蒼虬	岱李 蒼虬	百池 蒼虬	蒼虬 鹿古	卷頭連句
千屋	蒼虬	蒼虬	蒼虬	蒼虬	蒼虬	蒼虬	蒼虬	蒼虬	蒼虬	蒼虬	
8	27	36	36	38	46	36	38	30	32	32	
区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	区別せず	参列者
47	47	37	46	48	36	25	24	30	28	33	奉納発句・連句
489	484	478	597	603	504	327	319	334	356	327	
13	11	4	8	5	4	4	2	5	5	9	
なし	篤老	大蕪	なし	なし	なし	なし	なし	田禾	友国	なし	跋文
菊舎太兵衛	勝田 善助	勝田 善助	勝田 善助	勝田 善助	勝田 善助 勝田喜右衛門	勝田 善助 勝田喜右衛門	勝田 善助 勝田喜右衛門	勝田喜右衛門	勝田喜右衛門	勝田喜右衛門	刊行書肆
菊舎三世 其篤「蕉門俳諧書林」。	「芭蕉堂書林」。連句の短句を一字下げしない。		「芭蕉堂書林」。「遅来」有。	「追加」有。	「延着」有。		桃林堂。 橘栄堂。	「遅来」有。「月の会」を収載。	卷末句に蒼虬、以下文化九刊まで同。合綴本に「まつり見」有（本文編参照）。	芭蕉堂蔵版。連句の短句は一字下げ、以下同（文化九刊を除く）。地域毎に奉納俳諧、卷末に京の連中発句を配置、以下同。	備考

付表Ⅱ 各年・国別諸国奉納者数 ※本冊の底本による

計	化13	化9	化6	化4	化3	化2	化1	享3	享2	享1	寛11	地域
106	12	12	3	6	30	9	5	15	10	3	1	陸奥
22	3	15	1							1	2	出羽
3											3	下野
58	6	11	5		2	7	1	9	2	6	9	上野
12	1	4	1		2			2		2		常陸
13	1			3	7	1	1					安房
15	7	1	1	2	2	1					1	下総
35	5	3	2		3	6	1	2	3	4	6	江戸・武蔵
76			7	4	1	5	23	1	1	8	26	相模
36	11	7	1		1			2	1		13	甲斐
15		2						3	4	2	4	遠江
28	2	5	10	1	2	5		2	1			三河
63	19	11	1	5	2	19	1			3	2	尾張
101	4	3	13	11	4	4	11	20	10	7	14	信濃
3		1							1	1		佐渡
6	3		1	1	1							飛騨
5		1			1				1	1	1	美濃
168	9	17	6	8	8	8	12	11	11	58	20	越後
423	14	19	43	150	22	41	31	14	16	56	17	越中
79	7	5	5	2	3	2	10	5	11	11	18	能登
293	10	11	28	26	17	19	1	44	39	37	61	加賀
72	1		2	15	1	2	19	1	13		18	越前
58	2		11	14	12	10	1	1		6	1	若狭
123	15	17	13	9	6	3	8	19	16	4	13	伊勢
28		1	2	5	1	1			10	4	4	伊賀
357	25	35	37	26	52	44	43	40	15	21	19	近江
621	47	54	63	51	68	84	61	46	55	42	50	京・南山城
10	1			1			1	3	2	1	1	大和
23	6		1		2	1	1	2	1	5	4	河内
173	17	16	11	23	7	23	8	12	13	25	18	浪花・大坂・摂津
8			2	1		2	1		1	1		和泉
4					3		1					紀伊
22	15	1			1		2	1		1	1	淡路
49	8	2	3	1	5	12	5	6	0	5	2	播磨
105	25	15	10	14	6	3	2	5	15	7	3	丹波
131	26	24	12	7	40	20	1				1	丹後
91	11	30	2	2	9	3	5	1	12	8	8	但馬
116	39	22	10	1	23	14	2	2		3		因幡
78	10	6	20	16	24	2						伯耆
123	7	2	9	28	51	24			1		1	出雲
12					1	7	3	1				壱岐
12	4	1	2	3	2							石見
17	8		1		4	1	2				1	美作
8	2	1	1		1			1	1		1	備前
17		1	1	3	2		2	6	1		1	備中
50	8	5	4	5	11	3	4	3	1	3	3	備後
84	5	21	29	8	2	2	2	1	2	8	4	安芸
62	8	6	2	3	12	6	5	1	18	1		周防
57	3	3	1	2	19	6	5		2	3	13	長門
36	2			1	12	13	1	1	2	1	3	阿波
60	13	7	15	6	7	5		1	4		2	讃岐
22	12	1		3	2	3					1	伊予
161	7	20	30	32	30	11	3		2	12	14	筑前
57	7	7	4	3	11	7	5	4	9			筑後
30	4	9		3	7	2	2		1		2	豊前
33	5	2	3	3	5	4	3	3	2	2	1	豊後
281	25	24	32	22	40	29	18	23	15	28	25	肥前
235	23	54	21	62	24	35	9	3	4			肥後
21	12	3		2	1				1	1	1	日向
4	1		1	1	1							薩摩
11	7	3	1									大隅
7				7								対馬
5029	525	521	484	602	613	509	322	317	330	392	414	計
	51	47	48	46	54	44	41	38	42	38	45	国数

(注1)「行脚」「雲水」などの地域未詳の者は省く。(注2)同年の複数句の入集者は、重複して算入しない。

改訂『花供養』所蔵翻刻一覧

二〇二二年四月九日現在

凡例

一 略記号は次の通りである。

愛知県大	愛知県立大学附属図書館
時雨	秋田県立秋田図書館時雨庵文庫
石川歴博	石川県立歴史博物館大鋸コレクション
糸井	京都府舞鶴市郷土資料館糸井文庫
岩見	弘前市立弘前図書館岩見文庫
頼原	京都大学文学部図書館頼原文庫
燕々	岡山市立図書館燕々文庫
河野美	今治市河野美術館
雲英	早稲田大学附属図書館雲英末雄文庫
月明	石川県立図書館月明文庫
櫻井	立命館大学アート・リサーチセンター 櫻井武次郎文庫
下垣内	尾道大学附属図書館下垣内和人文庫
関口	長野県立長野図書館関口文庫
高岡図	高岡市立高岡図書館
竹冷	東京大学附属図書館竹冷文庫
中島杏	富山県小矢部市立礪中図書館
白鹿	兵庫県西宮市笹部桜コレクション―白鹿記念酒造博物館寄託―
堀家	京都府城陽市歴史民俗資料館マイクロ
武蔵	武蔵野大学附属図書館旧前田利治蔵
森	大阪市立大学附属図書館森文庫
山崎	大阪府立大学学術情報センター（旧大阪府立女子大学附属図書館蔵） 山崎文庫
山田	大阪府立大学学術情報センター（旧大阪府立女子大学附属図書館蔵） 山田文庫
麗沢	麗沢大学附属図書館田中文庫
綿屋	天理大学附属天理図書館綿屋文庫

〈翻福〉『福井県古俳書大観』七。全冊翻刻に限る。
 〈翻Ⅰ〉『花供養』翻刻集成Ⅰ
 〈翻Ⅱ〉『花供養』翻刻集成Ⅱ

一 ※記号は、目録などに記載はあるが、所在確認のできないもの
 一 写本は原則として記さない

参考文献

櫻井武次郎「花供養所蔵先リスト」（大阪俳文学研究会「会報」38号）
 『国書総目録』
 『古典籍総合目録』
 国文学研究資料館古典籍データベース
 各図書館・文庫目録及びデータベース

年次	主催	所蔵先	翻刻	備考
1	天明六	關吏	綿屋・糸井・白鹿・柿衛・国会・愛知県大・※芭蕉堂	〔翻福〕・〔翻Ⅰ〕
2	七	關吏	綿屋・※芭蕉堂・愛知県大・中島杏文庫	〔翻福〕・〔翻Ⅰ〕
3	寛政元	關吏	綿屋・※芭蕉堂・櫻井	〔翻Ⅰ〕
4	二	關吏	月明（二部）・愛知県大・河野美・※芭蕉堂・雲英	〔翻福〕・〔翻Ⅰ〕
5	三	關吏	綿屋・月明・芭蕉翁記念・※芭蕉堂・松宇・堀家（袋付）・松本節子	〔翻福〕・〔翻Ⅰ〕
6	四	關吏	月明・※芭蕉堂・柿衛・奈良文庫・堀家・河野美（二冊）	〔翻Ⅰ〕
7	五	關吏	綿屋・月明・白鹿・河野美・武蔵・※芭蕉堂・雲英・下垣内	〔翻Ⅰ〕
8	六	關吏	綿屋・月明・武蔵・白鹿・※芭蕉堂・蝸牛廬文庫・小林孔・雲英・堀家（袋付）・竹内千代子・二松学舎大	〔翻Ⅰ〕
9	七	關吏	綿屋・柿衛・白鹿・戸谷半之助（一茶全集）・燕々・※芭蕉堂	〔翻Ⅰ〕
10	八	關吏	綿屋・月明（二部）・柿衛・白鹿・武蔵・高岡図・愛媛県図・須賀川市図・奈良文庫・燕々・※芭蕉堂・雲英・下垣内・某家	〔翻Ⅰ〕
11	九	關吏	武蔵・※芭蕉堂・小林孔・雲英	〔翻Ⅰ〕
12	十	關吏	月明（二部）・柿衛・※芭蕉堂・燕々	〔翻福〕・〔翻Ⅰ〕
13	十一	蒼虬	綿屋・白鹿・竹冷・国会・穎原・岩見（合本）・糸魚川市歴資・糸魚川歴資木村	〔翻福〕・〔翻Ⅱ〕
14	享和元	蒼虬	綿屋・柿衛・月明・武蔵・岩見（合本）・関口（二冊）・櫻井・小林孔（「まつり見」合綴）	〔翻Ⅱ〕
15	二	蒼虬	柿衛・山崎・岩見（合本）・台湾大（ビブリア42）	〔翻福〕・〔翻Ⅱ〕
16	三	蒼虬	綿屋・岩見（合本）・久留米図	〔翻Ⅱ〕
17	文化元	蒼虬	綿屋・奈良文庫・久留米図・雲英・高井悠子	〔翻福〕・〔翻Ⅱ〕
18	二	蒼虬	綿屋・月明・高岡図・久留米図	〔翻Ⅱ〕
19	三	蒼虬	綿屋・糸井・岩見（合本）	〔翻福〕・〔翻Ⅱ〕
20	四	蒼虬	月明・高岡図・※芭蕉堂・奈良文庫・聖心女子大・大内初夫・竹冷	〔翻Ⅱ〕
21	六	蒼虬	石川歴博・燕々・蝸牛廬文庫・吉田耕一（近世芸備俳諧年表）・武蔵	〔翻Ⅱ〕
22	九	蒼虬	綿屋・月明・糸井・白鹿・学習院大・岩見（合本）・石川歴博・竹内千代子	〔翻Ⅱ〕
23	十三	蒼虬	月明・竹冷・白鹿・武蔵・愛知県大・岩見（合本）・学習院大・麗沢・石川歴博	〔翻Ⅱ〕
			〔備考〕文化八年興行を合併	
			〔備考〕文化一一、一二年興行を合併	

24	文政十一	蒼虬	白鹿・武蔵・時雨（二部）・玉川大・麗沢
25	天保元	蒼虬	綿屋・月明（二部）・竹冷・白鹿・石川歴博・芭蕉翁記念・ ※芭蕉堂・愛知芸大・愛知県大
26	三	千屋	月明・糸井・武蔵・石川歴博・立教大・下垣内・※芭蕉堂・ 雲英・山田
27	四	蒼虬	綿屋・月明・糸井・芭蕉翁記念・※芭蕉堂・徳島県図・燕々・ 下垣内・愛知芸大・愛知教大・九州大・麗沢・長崎県図芦塚・ 白鹿（二部）
28	五	蒼虬	月明・白鹿（二部）・芭蕉翁記念・※芭蕉堂・山田・古宅家・ 神戸大
29	天保十	朝陽	月明・白鹿・武蔵・※芭蕉堂・某家（国文研マイクロ）
30	十一	朝陽	白鹿・立教（袋付）・九州大・大内初夫
31	十二	九起	立教・山崎・櫻井 【備考】刊年無記載・九華序
32	十三	九起	綿屋・糸井・白鹿・八戸市図・八戸市図百仙洞・九州大・ 山田・※芭蕉堂・蝸牛廬文庫
33	十四	九起	綿屋・月明（袋付）・大阪府図・芭蕉翁記念・立教大・武蔵・ 山田・奈良文庫・燕々・中島杏・※芭蕉堂・山本唯一・下垣内・ 正宗文庫・富山県図 【備考】芭蕉百五十回忌（二冊）
34	弘化元	九起	月明・武蔵・国会・下垣内・※芭蕉堂・雲英
35	二	九起	月明・白鹿・武蔵（二部）・※芭蕉堂・高岡図・九大・櫻井・ 燕々
36	三	九起	月明・白鹿（三部）・燕々・国文研・愛知県大・九州大・ ※芭蕉堂・竹内千代子 【備考】
37	四	九起	芭蕉翁記念・愛知県大・京大谷村・須賀川市図矢部・小林孔・ 大内初夫 【備考】
38	嘉永二	九起	白鹿・立教大・九州大・※芭蕉堂・村野（国書総目） 【備考】嘉永元年興行も入集
39	三	九起	芭蕉翁記念・立教大・宮城県立小西文庫・奈良大
40	六	公成	月明・柿衛・芭蕉翁記念・岩見（合本）・三康・国会・立教大・ 青森県図工藤（二部）・燕々・須賀川市図矢部・森・小林孔・ 下垣内
41	安政元	公成	月明・柿衛・石川歴博・立教大・下垣内・古宅家・櫻井・奈良大・ 三康
42	三	公成	白鹿・中島杏・山本唯一・櫻井（欠損有）・内山（国書総目）・ 三康・奈良大・富山県図
43	四	公成	三康・内山（国書総目）・奈良大（袋付）
44	五	公成	月明・白鹿・柿衛・芭蕉翁記念・下垣内・立教大・松本節子・ 櫻井（欠損有）・内山（国書総目）・九州大・奈良大（袋付）
45	六	公成	月明・柿衛・三康・鈴木勝忠・雲英・奈良大（袋付）
46	万延元	公成	綿屋・柿衛・白鹿・※芭蕉堂・静岡大原・櫻井（二部）・ 内山（国書総目） 【備考】
47	文久元	公成	月明・柿衛・白鹿・三康・※芭蕉堂・九州大・奈良大
48	二	公成	綿屋・芭蕉翁記念・柿衛・白鹿・九州大・櫻井
49	三	公成	糸井・芭蕉翁記念・三康・燕々・櫻井（欠損有）
50	元治元	公成	芭蕉翁記念・三康・小林孔・櫻井（欠損有）
51	慶応元	公成	月明・芭蕉翁記念・須賀川市図矢部・早稲田大（俳海四〇）・ 櫻井・奈良大（袋付）
52	二	公成	綿屋・白鹿・石川歴博・芭蕉翁記念・岡山市図・龍大宮・ 三康・※芭蕉堂
53	三	公成	綿屋・月明・白鹿・芭蕉翁記念・三康・名古屋市鶴舞中央図・ 東海女短大関山文庫・燕々・櫻井・東海学園名古屋哲誠
54	明治三	良大	綿屋・白鹿・芭蕉翁記念・三康・櫻井 【備考】明治二年興行、同三年刊

付記

- 一 本稿は、京都俳諧研究会の成果の一部である。研究メンバーは、竹内千代子、松本節子、小林 孔、高井悠子、金子貴昭、赤間 亮（敬称略）。
- 一 科学研究費助成事業・基盤研究（C）「近世後期京都の芭蕉顕彰俳諧の研究」（課題番号 20K00353）の成果の一部である。
- 一 立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」共同研究課題「花供養と芭蕉顕彰俳諧の研究」（代表・竹内千代子）の一部である。なお、成果の一部はWEB公開中である。
<https://www.arc.ritsumeikai.jp/archive01/theater/html/hanakuyo/index.html>

『花供養』翻刻集成Ⅱ

——蒼虬の時代(1) 寛政十一年～文化十三年——

発行日 令和五年二月二〇日

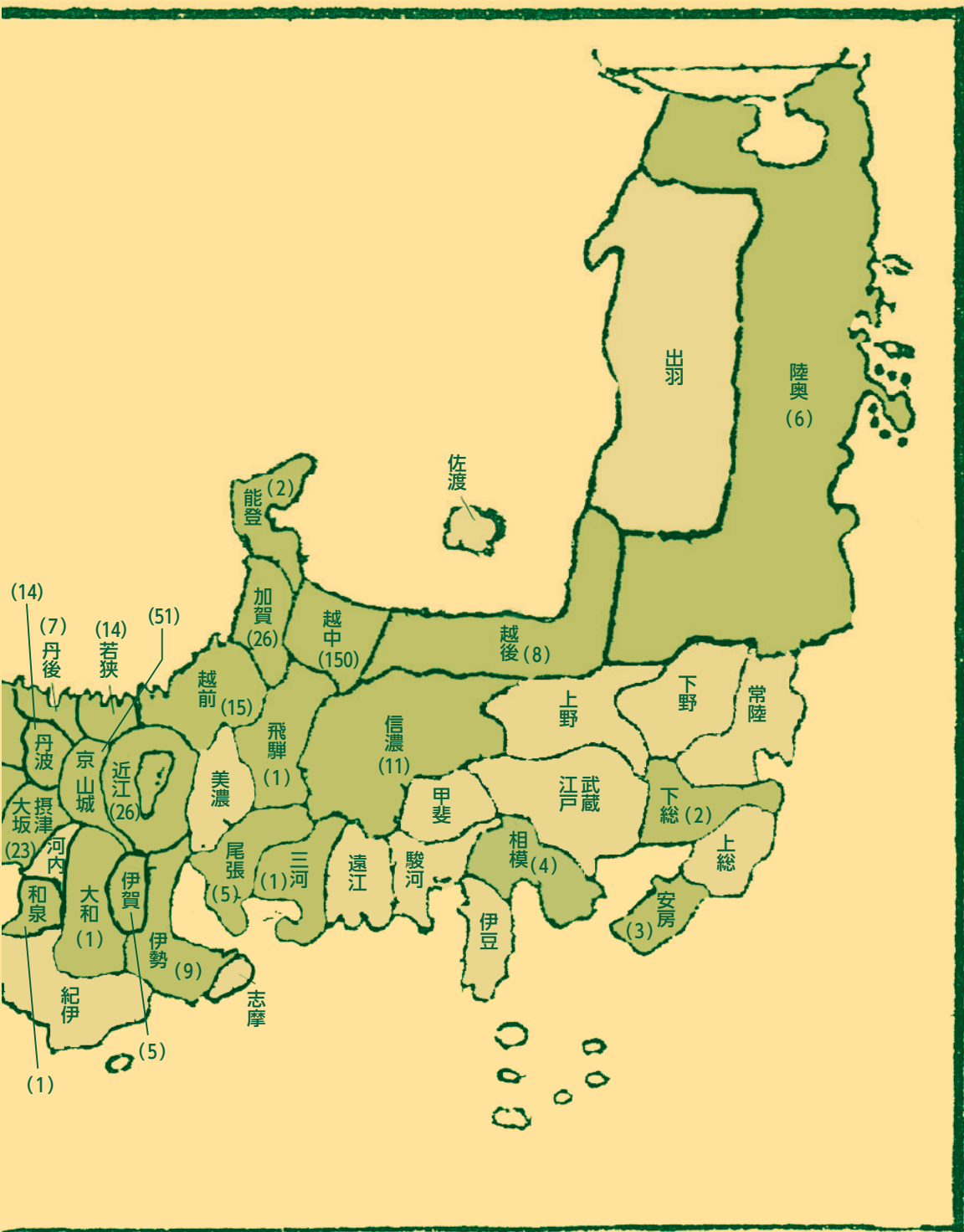
編・著 立命館大学(非)講師
竹内 千代子

印刷 株式会社 昭英社

〒六〇〇八二二九

京都市下京区五条通河原町西入本塩竈町五五八

電話 〇七五―三五一―一八一



文化四年蒼虬主催『花供養』より

■入集

□未入集